

西ノ上遺跡(2)

西ノ上遺跡(2)

八ッ場ダム建設工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書第64集

八ッ場ダム建設工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書第64集

二〇一九

国土交通省  
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

2019

国土交通省  
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



# 西ノ上遺跡(2)

八ッ場ダム建設工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書第64集

2019

国 土 交 通 省  
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



# 序

八ッ場ダムは、首都圏の利水、治水を主な目的として吾妻川の中流に建設される多目的ダムです。ダム建設に伴う発掘調査は平成6年度から始まり、本年で25年目を迎えることとなります。四半世紀に及ぼうとする調査研究の積み重ねによって、この地を拓き、地域を発展させてきた先人の営みが、徐々に明らかになってきています。

本書は長野原町大字川原湯にありました西ノ上遺跡の平成27年度から29年度にかけての発掘調査に関する調査報告書であります。この地域に特徴的な遺構である天明三年浅間山噴火に伴う泥流下の畑と、この地域では比較的珍しい、縄文時代晩期末から弥生時代前期の土器を伴う土坑などが中心です。

この遺跡につきましては、平成14年度に遺跡北部を発掘調査しており、平成17年度にその成果を報告しておりますが、今回の調査を併せると、度重なる自然災害に立ち向かって郷土を発展させ続けた先人たちの力強い営みが、まさに眼前に浮かび上がって参ります。

郷土の歴史研究に、またこれからの地域発展のために、本書をご活用いただければ幸いに思います。

また、発掘調査から報告書刊行に至るまで、多大なるご理解とご協力をいただきました、国土交通省関東地方整備局八ッ場ダム工事事務所、群馬県教育委員会、長野原町教育委員会をはじめとする関係機関、さらに、地元の皆様に心から感謝を申し上げ、序といたします。

平成31年2月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団  
理事長 中野三智男






# 例 言

- 1 本書は、八ッ場ダム建設工事に伴う西ノ上遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書の第2冊である。  
第1冊は国土交通省・財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2004「財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第349集・八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第4集 久々戸遺跡(2)・中棚Ⅱ遺跡(2)・西ノ上遺跡・上郷A遺跡」として刊行されている。
- 2 遺跡の名称および所在地  
西ノ上遺跡(にしの上 えいせき) 群馬県吾妻郡長野原町大字川原湯字西ノ上329ほか
- 3 事業主体 国土交通省
- 4 調査主体 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 5 発掘調査の期間・組織  
平成27年度 期間 平成27年10月1日～12月31日 面積 8,633㎡  
担当 主任調査研究員 藤井義徳・小野 隆  
平成28年度 期間 平成29年3月1日～3月31日 面積 8,002㎡(表土掘削のみ)  
担当 八ッ場ダム調査事務所調査資料部長 齊藤利昭  
平成29年度 期間 平成29年4月1日～6月30日・平成30年1月9日～1月17日 面積 13,372㎡  
担当 主任調査研究員 唐沢友之・石田 真・宮下 寛 調査研究員 山本直哉 専門調査役 小野和之
- 6 整理等作業の期間・担当者  
期間 平成30年4月1日～5月31日 専門調査役 石坂 茂 同4月1日～7月31日 専門調査役 洞口正史
- 7 平成30年度整理等作業の組織  
整理担当 石坂 茂・洞口正史 金属製品保存処理 専門員 板垣泰之・専門調査役 関 邦一
- 8 本報告書作成関係者  
報告書編集 専門調査役 洞口正史  
報告書執筆 第2章第6節・第3章第2節 石坂 茂 第2章第7節第2項 竹原弘展((株)パレオラボ)  
その他 洞口正史  
遺物観察 縄文・弥生土器 石坂 茂 石器・石製品 資料2課長 津島秀章  
土師器・須恵器 専門調査役 佐藤元彦 中・近世陶磁器 専門調査役 大西雅広  
金属器・金属製品 専門員 板垣泰之  
遺物写真撮影 縄文・弥生土器 石坂 茂 石器・石製品 津島秀章 中・近世陶磁器 大西雅広  
金属器・金属製品 板垣泰之
- 9 調査・分析委託等  
埋蔵文化財遺跡掘削工事(平成27・28・29年度)  
歴史の杜・吉澤建設・南波建設 吾妻地区埋蔵文化財遺跡掘削工事経常共同企業体  
遺構測量 平成27・29年度 株式会社測研 一部縄文土器実測 (株)シン技術コンサル
- 10 資料保管等  
本発掘調査の出土遺物のうち、本書に掲載したものおよび調査図面、写真等の資料は、群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。

## 11 謝辞

本報告書作成にあたり、下記の諸機関、諸氏にご指導、ご協力をいただいた。記して感謝の意を表す。  
国土交通省関東地方整備局八ッ場ダム工事事務所 群馬県教育委員会 長野原町教育委員会 川原湯区

# 凡 例

- 1 本書で使用する測量図の座標は、日本測地系による。図上の方位は座標北を示す。
- 2 遺構図および遺物図の縮尺は基本的に下記によるが、広域にわたる畑や長大な溝等を対象とする事が多いため、紙幅の範囲内で、遺構の形状を最も把握しやすいと思われる縮率を選択した。各図幅には縮尺を注記するとともに、縮尺を示すスケールを付した。また、遺物図と遺物写真は基本的に同縮尺としたが、対象の形状により異なる場合がある。また、遺構写真および遺物細部の拡大写真等は任意縮尺である。  
遺構図 対象発掘区全体図 1：1500 発掘区内部分図 1：200 / 1：250 同詳細図 1：80 / 1：100  
個別遺構図 1：60 同詳細図 1：20  
遺物図 石鏃・錢貨等 1：1 石匙・石核・砥石・刀子・釘等 1：2  
中型石器・土器片等 1：3 土器・大型石器等 1：4 大型土器等 1：6 / 1：8
- 3 遺物写真の番号は、遺物実測図および遺構図中の遺物番号と一致するが、写真のみを掲載し、出土位置の記載や実測図掲載を行っていない遺物もある。
- 4 一覧表中の計測値は、それが推定値あるいは残存部の実測値である場合には( )を付した。
- 5 土層、土器の色調はともに「新版標準土色帳」を基準色として慣用名を使用することとしているが、必ずしも統一されていない。
- 6 図に使用したスクリーントーンは以下を示す。  
 攪乱  焼土  炭・炭化物
- 7 本書で使用した地形図は下記の通りである。  
国土地理院 1：200,000地勢図「長野」 1：50,000地形図「草津」 1：25,000地形図「長野原」

# 目 次

序		第6節 第4面の調査	112
例言		第1項 第4面の概要	112
凡例		第2項 掘立柱建物とピット状遺構	113
目次		第3項 土坑	115
挿図目次		第4項 遺構外の出土遺物	137
表目次		第7節 自然科学分析報告	148
写真図版目次			
第1章 西ノ上遺跡の発掘調査	1	第3章 調査のまとめ	151
第1節 発掘調査に至る経過	1	第1節 天明泥流下畑の調査	151
第2節 発掘調査の経過	1	第2節 縄文時代末葉～弥生時代前期の土坑群 について	156
第3節 地理的・歴史的環境	2	写真図版	
第4節 発掘調査の対象と方法	7	報告書抄録	
第1項 発掘調査の対象及び方法	7	奥付	
第2項 発掘区とグリッド	9		
第3項 基本土層と調査面	11		
第2章 調査された遺構と遺物	16		
第1節 概要	16		
第2節 第1面の調査	16		
第1項 第1面の概要	16		
第2項 復旧坑	16		
第3項 1号炭窯	27		
第3節 第2面の調査	29		
第1項 第2面の概要	29		
第2項 畑	31		
第3項 平坦面	73		
第4項 ヤックラ・2号炭窯	77		
第5項 道・溝・石垣	84		
第4節 第3面の調査	97		
第1項 第3面の概要	97		
第2項 畑	97		
第3項 土坑	98		
第4項 焼土	100		
第5項 第1～3面出土遺物	102		
第5節 第1～3面遺構一覧表・遺物観察表	104		



# 挿図目次

第1図	西ノ上遺跡位置図(国土地理院1/200,000地勢図「長野」使用)・・・2	第63図	第2面	第10区画畑西部部分図1・・・63
第2図	西ノ上遺跡と周辺の遺跡(国土地理院1/25,000地形図「長野原」使用)・・・3	第64図	第2面	第10区画畑西部部分図2・・・64
第3図	西ノ上遺跡周辺の地形と調査区・・・6	第65図	第2面	第10区画畑中部・・・65
第4図	西ノ上遺跡調査グリッド配置模式図・・・7	第66図	第2面	第10区画5号畑断面図・・・66
第5図	西ノ上遺跡発掘調査時の調査区・・・8	第67図	第2面	第10区画畑中部部分図1・・・67
第6図	西ノ上遺跡の土層図・高低図採取位置図・・・9	第68図	第2面	第10区画畑中部部分図2・・・68
第7図	天明泥流下面高低図1・・・10	第69図	第2面	第10区画畑東部・・・69
第8図	天明泥流下面高低図2・・・11	第70図	第2面	第10区画畑東部部分図1・・・69
第9図	調査区の土層堆積状況1・・・12	第71図	第2面	第11区画畑・・・70
第10図	調査区の土層堆積状況2・・・13	第72図	第2面	第11区画畑部分図1・・・71
第11図	調査区の土層堆積状況3・・・14	第73図	第2面	第12区画畑・・・72
第12図	標準土層模式図・・・15	第74図	第2面	平坦面位置図・・・73
第13図	第1面遺構位置図・・・17	第75図	第2面	平坦面1・・・74
第14図	復旧坑位置図・・・18	第76図	第2面	平坦面2・・・75
第15図	1号・2号復旧坑群・・・19	第77図	第2面	平坦面3・・・76
第16図	1号・2号復旧坑群断面図・高低図・・・20	第78図	第2面	ヤックラ・炭窯位置図・・・77
第17図	3号・4号復旧坑群・・・21	第79図	第2面	1号・2号ヤックラ・1号ヤックラ断面図・・・78
第18図	4号復旧坑群平面図・高低図・・・22	第80図	第2面	3号・4号ヤックラ・・・78
第19図	5号・6号復旧坑群・・・23	第81図	第2面	5号ヤックラ・・・79
第20図	5号・6号復旧坑群断面図・高低図・・・24	第82図	第2面	6号ヤックラ・・・79
第21図	7号・8号・9号復旧坑群・・・25	第83図	第2面	7号ヤックラ・・・80
第22図	7号・8号復旧坑群断面図・高低図・・・26	第84図	第2面	7号ヤックラ出土遺物1・・・80
第23図	1号炭窯・・・28	第85図	第2面	7号ヤックラ出土遺物2・・・81
第24図	第2面	第86図	第2面	8号・9号ヤックラ・・・81
第25図	第2面	第87図	第2面	10号ヤックラ・・・82
第26図	第2面	第88図	第2面	2号炭窯・・・83
第27図	第2面	第89図	第2面	道・溝・石垣位置図・・・84
第28図	第2面	第90図	第2面	1号・2号道・・・85
第29図	第2面	第91図	第2面	3号道・9号道・・・86
第30図	第2面	第92図	第2面	3号道部分図1・9号道・・・87
第31図	第2面	第93図	第2面	3号道部分図2・・・87
第32図	第2面	第94図	第2面	3号道部分図3・・・88
第33図	第2面	第95図	第2面	1号溝・1号石垣・・・89
第34図	第2面	第96図	第2面	4号道・・・89
第35図	第2面	第97図	第2面	5号道・・・90
第36図	第2面	第98図	第2面	2号石垣・・・91
第37図	第2面	第99図	第2面	6号道・3号石垣・1号溝状遺構・・・92
第38図	第2面	第100図	第2面	7号道・・・93
第39図	第2面	第101図	第2面	8号道・・・94
第40図	第2面	第102図	第2面	10号・11号道・・・95
第41図	第2面	第103図	第2面	12号道・・・96
第42図	第2面	第104図	第3面	遺構位置図・・・97
第43図	第2面	第105図	第3面	部分図1 畑・・・98
第44図	第2面	第106図	第3面	土坑1・・・99
第45図	第2面	第107図	第3面	土坑2・・・100
第46図	第2面	第108図	第3面	部分図2 焼土・・・101
第47図	第2面	第109図	第3面	焼土・・・101
第48図	第2面	第110図	第1～3面	出土遺物1・・・102
第49図	第2面	第111図	第1～3面	出土遺物2・・・103
第50図	第2面	第112図	第4面	遺構位置図・・・112
第51図	第2面	第113図	第4面	1号掘立柱建物・・・113
第52図	第2面	第114図	第4面	2号掘立柱建物・・・114
第53図	第2面	第115図	第4面	部分図1 ビット・・・115
第54図	第2面	第116図	第4面	ビット・・・116
第55図	第2面	第117図	第4面	部分図2 土坑1・・・118
第56図	第2面	第118図	第4面	部分図3 土坑2・・・119
第57図	第2面	第119図	第4面	部分図4 土坑3・・・119
第58図	第2面	第120図	第4面	土坑1・・・120
第59図	第2面	第121図	第4面	土坑2・・・121
第60図	第2面	第122図	第4面	土坑3・・・122
第61図	第2面	第123図	第4面	土坑4・・・123
第62図	第2面	第124図	第4面	土坑5・・・124
		第125図	第4面	土坑6・・・125

第126図	第4面 土坑7	126
第127図	土坑出土遺物1〔1・8・12・14・17・25号土坑〕	130
第128図	土坑出土遺物2〔20・23・31～33・35～38・45・49・52・63号土坑〕	131
第129図	土坑出土遺物3〔63・64・74・78・81・82号土坑〕	133
第130図	遺構外出土遺物1	139
第131図	遺構外出土遺物2	141

第132図	遺構外出土遺物3	142
第133図	黒曜石産地分布図(東日本)	148
第134図	黒曜石山地推定判別図(1)	150
第135図	黒曜石山地推定判別図(2)	150
第136図	壬申地券地引絵図 西ノ上・西ノ下部分抜粋	152
第137図	西ノ上遺跡天明泥流下畑と壬申絵図番付けの対比想定	153

## 表目次

第1表	西ノ上遺跡周辺遺跡一覧	4
第2表	第1面 復旧坑1	104
第3表	第1面 復旧坑2	105
第4表	第1面 復旧坑3	106
第5表	第1面 復旧坑4	107
第6表	第1面 1号炭窯	107
第7表	第2面 畑	108
第8表	第2面 平坦面	108
第9表	第2面 2号炭窯	108
第10表	第2面 溝	108
第11表	第2面 石垣	108
第12表	第2面 ヤックラ	109
第13表	第2面 道	109
第14表	第2面 溝状遺構	109
第15表	第3面 畑	109
第16表	第3面 土坑	109
第17表	第3面 焼土	109
第18表	陶磁器観察表	110
第19表	石製品観察表	111
第20表	金属製品観察表	111

第21表	第4面 掘立柱建物	115
第22表	第4面 ビット	117
第23表	第4面 土坑1	127
第24表	第4面 土坑2	128
第25表	土坑出土遺物観察表1	134
第26表	土坑出土遺物観察表2	135
第27表	土坑出土遺物観察表3	136
第28表	遺構外出土遺物観察表1	143
第29表	遺構外出土遺物観察表2	144
第30表	遺構外出土遺物観察表3	145
第31表	縄文・弥生土器の胎土分類1	145
第32表	縄文・弥生土器の胎土分類2	146
第33表	遺構外出土剥片石材別数・重量一覧	146
第34表	土坑出土土器数量一覧(縄文時代)	147
第35表	遺構外出土土器数量一覧(縄文時代)	147
第36表	分析対象の黒曜石製剥片類一覧	148
第37表	東日本黒曜石産地の判別群	149
第38表	測定値および産地推定結果	150
第39表	壬申絵図と貞享検地帳の畑記載対比	154
第40表	壬申絵図記載畑と天明泥流下畑の面積対比	155

## 写真目次

PL. 1	1 遺跡遠景 平成27年度調査(5～9号復旧坑群) 北から
	2 遺跡遠景 平成27年度調査 北から
	3 遺跡遠景 平成27年度調査 南から
	4 基本的な土壌堆積 南から
PL. 2	1 1号～4号復旧坑群 西から
	2 1号～4号復旧坑群 上が南
PL. 3	1 1号・2号復旧坑群 東から
	2 1号復旧坑群北部 南から
	3 1号復旧坑群北部 西から
	4 1号復旧坑群南部断ち割り状況 北から
	5 1号復旧坑群南部断面 西から
PL. 4	1 2号・3号復旧坑群北部 南西から
	2 2号・3号復旧坑群北部 西から
	3 2号・3号復旧坑群南部 西から
	4 3号復旧坑群北部 南から
	5 2号～4号復旧坑群南部 南東から
	6 2号～4号復旧坑群南部 東から
	7 4号復旧坑群 東から
	8 5号・6号復旧坑群 南から
PL. 5	1 7号～9号復旧坑群と第3区画畑南部 上が東
	2 5号・8号復旧坑群 東から
	3 5号復旧坑群と畑 東から
	4 5号・6号復旧坑群と畑 西から
	5 5号～8号復旧坑群 南から
PL. 6	1 8号復旧坑群と畑 西から
	2 7号復旧坑群東端部断面 北から
	3 7号復旧坑群断面 西から
	4 8号復旧坑群断面 西から
	5 1号炭窯 東から
	6 1号炭窯 西から
	7 1号炭窯煙道部 東から
	8 1号炭窯底部 西から

PL. 7	1 第2面 平成29年度調査 上が北
	2 第1～3・8・9区画畑 西から
	3 第1・2区画畑 2号道 北から
	4 第2区画畑東部 南東から
	5 第3区画1号～3号畑 北東から
PL. 8	1 第3区画4号畑以西 北東から
	2 第3区画4号畑以西 東から
	3 第3区画5号畑以東・第4・5区画 西から
	4 第3区画6号・7号畑 北から
	5 第3区画4号～6号畑・第9区画畑 東から
	6 第3区画7号畑 北から
	7 第3区画7号・8号畑・第9区画 北から
	8 第3区画3号畑断面 西から
PL. 9	1 第3区画4号畑断面 東から
	2 第3-第10区画間断面 北から
	3 第3区画8号畑断面 北から
	4 第3区画8号畑断面Aライン 東から
	5 第3区画8号畑断面B 東から
	6 第3区画8号畑断面C 東から
	7 第3区画8号畑断面D 東から
	8 第3区画8号畑断面E 西から
PL. 10	1 第3区画8号畑F・G断面調査状況 北から
	2 第3区画8号畑断面F 西から
	3 第3区画8号畑断面G 西から
	4 第3～第7区画畑 北から
	5 第3～第7区画畑 南から
	6 第4区画畑 北から
PL. 11	1 第4区画畑・第5区画畑西部 上が北
	2 第5区画畑東部 1号石垣・1号溝
PL. 12	1 第5区画畑東部 北東から
	2 第5区画畑東部 東から
	3 第5区画畑断面A 東から

	4 第6区画畑断面A 西から		6 1号溝・1号石垣 南西から
	5 第6区画畑断面B 西から		7 1号溝・1号石垣 西から
	6 第6区画畑断面C 西から	PL.22	1 2号炭窯 北から
	7 第6区画畑断面D 西から		2 2号炭窯上部 西から
PL.13	8 第7区画畑北部 南東から		3 2号炭窯煙道部拡大 西から
	1 第7区画1号畑 南西から		4 2号炭窯 北から
	2 第7区画1号畑断面 南西から		5 第3面畑 北から
	3 第7区画2号畑 北から	PL.23	1 第3面畑 北から
	4 第7区画2号畑 南西から		2 第3面畑 南東から
	5 第7区画2号畑断面 南から		3 第3面畑 東から
	6 第7区画3号・4号畑 北から		4 第3面畑断面 南東から
	7 第8・9区画畑 東から		5 3号土坑 南から
	8 第9区画畑と第3区画畑 北から		6 3号土坑断面 南から
PL.14	1 第9区画3号畑 北東から		7 4号土坑 南から
	2 第9区画4号畑 北西から		8 4号土坑断面 南から
	3 第10区画1～3号畑 上が南	PL.24	1 6号土坑 南から
	4 第10区画1号畑 北から		2 6号土坑断面 南から
	5 第10区画1～3号畑 南東から		3 55号土坑 北から
	6 第10区画3号畑 南東から		4 55号土坑断面 東から
	7 第10区画3号畑 南から		5 59号土坑 北から
PL.15	1 第10区画5号畑 南東から		6 59号土坑断面 南から
	2 第10区画5号畑 南から		7 65号土坑 南から
	3 第10区画5号畑 南東から		8 65号土坑断面 北から
	4 第10区画1号畑断面 西から	PL.25	1 66号土坑 南東から
	5 第10区画2号畑断面 西から		2 66号土坑断面 南西から
PL.16	1 第10区画5号畑断面 西から		3 67号土坑 北から
	2 第11区画畑 西から		4 67号土坑断面 南から
	3 第11区画畑断面 西から		5 69号土坑 北から
	4 第12区画畑 東から		6 69号土坑断面 北西から
	5 5号平坦面 南から		7 85号土坑 北から
	6 6号平坦面 南から		8 85号土坑断面 北から
	7 8号平坦面 南から	PL.26	1 91号土坑 北から
	8 9号平坦面 南から		2 91号土坑断面 北から
PL.17	1 10号平坦面 北東から		3 92号土坑 西から
	2 10号平坦面 北西から		4 92号土坑断面 東から
	3 12号平坦面 北から		5 94号土坑 西から
	4 1号ヤックラ 北から		6 94号土坑断面 東から
	5 1号ヤックラ断面 西から	PL.27	1 1号焼土断面 南から
	6 3号・4号ヤックラ 西から		2 1号焼土除去後 南から
	7 3号ヤックラ 西から		3 2号焼土断面 南から
	8 4号ヤックラ 西から		4 2号焼土除去後 東から
PL.18	1 7号ヤックラ上面 北から		5 3号焼土 北から
	2 7号ヤックラ下面 北から		6 3号焼土断面 西から
	3 7号ヤックラ断面調査状況 北から		7 4号焼土西部 北から
	4 7号ヤックラ断面 西から		8 4号焼土東部 西から
	5 7号ヤックラ出土遺物		9 4号焼土断面 東から
PL.19	1 1号道 東から		10 5号焼土 北から
	2 1号道 北から		11 5号焼土断面 西から
	3 2号道 東から		12 6号焼土 北から
	4 1号～3号道 西から		13 6号焼土断面 北から
	5 4号道 北から		14 7号焼土 北から
	6 5号道 北東から		15 7号焼土断面 西から
	7 5号道 南から	PL.28	1 8号焼土 北から
PL.20	1 5号道断面A 北から		2 8号焼土断面 西から
	2 5号道断面B 北から		3 第1～3面出土遺物
	3 6号道・3号石垣 北から	PL.29	1 1号掘立柱建物P1 東から
	4 6号道・3号石垣 東から		2 1号掘立柱建物P1断面 南西から
	5 3号石垣 北から		3 1号掘立柱建物P2 東から
	6 7号道 北から		4 1号掘立柱建物P2断面 南西から
	7 8号道 北から		5 1号掘立柱建物P3 南から
	8 8号道 南から		6 1号掘立柱建物P3断面 南から
PL.21	1 10号道 西から		7 1号掘立柱建物P4 南から
	2 11号道 北から		8 1号掘立柱建物P4断面 南から
	3 12号道 東から		9 1号ピット 東から
	4 12号道断面 西から		10 1号ピット断面 東から
	5 1号溝・1号石垣 南西から		11 6号ピット 西から

	12	6号ピット断面	西から		6	31号土坑	西から
	13	7号ピット	東から		7	31号土坑断面	西から
	14	7号ピット断面	東から		8	32号土坑	南から
PL.30	1	8号ピット断面	西から	PL.38	1	33号土坑	西から
	2	9号ピット	南から		2	33号土坑断面	南から
	3	10号ピット	南から		3	33号土坑遺物出土状況	南から
	4	10号ピット断面	南から		4	34号土坑	西から
	5	11号ピット	南から		5	35号土坑	北から
	6	11号ピット断面	南から		6	35号土坑断面	北から
	7	33号ピット断面	南西から		7	36号土坑	西から
	8	1区番号不明ピット	南から		8	36号土坑断面	北から
	9	1号土坑	南から	PL.39	1	37号土坑	西から
	10	1号土坑断面	北から		2	37号土坑断面	南から
PL.31	1	2号土坑	南から		3	38号土坑	西から
	2	2号土坑断面	南から		4	38号土坑断面	南から
	3	5号土坑断面	南から		5	39号土坑	西から
	4	7号土坑	南から		6	39号土坑断面	南から
	5	7号土坑断面	南から		7	40号土坑	東から
	6	8号土坑	東から		8	40号土坑断面	西から
	7	8号土坑断面	東から	PL.40	1	41号土坑	西から
	8	8号土坑遺物出土状況	西から		2	41号土坑断面	西から
PL.32	1	9号土坑	北から		3	42号土坑	西から
	2	9号土坑断面	東から		4	42号土坑断面	西から
	3	10号土坑	西から		5	43号土坑	西から
	4	10号土坑断面	南から		6	43号土坑断面	西から
	5	11号土坑	南から		7	44号土坑	南西から
	6	11号土坑断面	南から		8	45号土坑	南から
	7	12号土坑	南西から	PL.41	1	45号土坑断面	南西から
	8	12号土坑断面	南西から		2	46号土坑	南から
PL.33	1	13号土坑	東から		3	47号土坑	南から
	2	13号土坑断面	南西から		4	47号土坑断面	南西から
	3	14号土坑	東から		5	48号土坑	東から
	4	14号土坑断面	東から		6	48号土坑断面	南から
	5	14号土坑遺物出土状況	東から		7	49号土坑	南西から
	6	15号土坑	南から		8	49号土坑断面	南から
	7	15号土坑断面	西から	PL.42	1	50号土坑	南から
	8	16号土坑	南から		2	50号土坑断面	西から
PL.34	1	16号土坑断面	南西から		3	51号土坑	西から
	2	17号土坑	南から		4	51号土坑断面	東から
	3	17号土坑断面	南から		5	52号土坑	南から
	4	18号土坑	西から		6	52号土坑断面	南から
	5	18号土坑断面	西から		7	53号土坑	南から
	6	19号土坑	南から		8	53号土坑断面	南から
	7	19号土坑断面	南から	PL.43	1	54号土坑	南から
	8	20号土坑	西から		2	54号土坑断面	南から
PL.35	1	20号土坑断面	南から		3	56号土坑	東から
	2	21号土坑	南から		4	57号土坑	西から
	3	21号土坑断面	南から		5	56・57号土坑断面	東から
	4	22号土坑	南から		6	58号土坑	西から
	5	22号土坑断面	南から		7	58号土坑断面	西から
	6	23号土坑	西から		8	60号土坑	南から
	7	23号土坑断面	南から	PL.44	1	60号土坑断面	南から
	8	24号土坑	南から		2	61号土坑	北から
PL.36	1	24号土坑断面	南から		3	61号土坑断面	東北から
	2	25号土坑	西から		4	62号土坑	北から
	3	25号土坑断面	西から		5	62号土坑断面	東から
	4	25号土坑遺物出土状況	西から		6	63号土坑	南から
	5	26号土坑	西から		7	63号土坑断面	南東から
	6	26号土坑断面	東から		8	63号土坑遺物出土状況	南から
	7	27号土坑	北から	PL.45	1	63号土坑遺物出土状況	南から
	8	27号土坑断面	東から		2	64号土坑	西から
PL.37	1	28号土坑	北から		3	64号土坑断面	北から
	2	28号土坑断面	南から		4	64号土坑遺物出土状況	東から
	3	29号土坑	西から		5	68号土坑	南西から
	4	30号土坑	西から		6	68号土坑断面	南西から
	5	30号土坑断面	南から		7	70号土坑	南から

	8	70号土坑断面	南から	PL.49	1	82号土坑断面	西から
PL.46	1	71号土坑	北から		2	83号土坑	西から
	2	71号土坑断面	南西から		3	83号土坑断面	北から
	3	71号土坑鏝出土状況	西から		4	84号土坑	西から
	4	72号土坑	東から		5	84号土坑断面	南から
	5	72号土坑断面	西から		6	86号土坑	北から
	6	73号土坑	南西から		7	86号土坑断面	西から
	7	73号土坑断面	南から		8	87号土坑	北から
	8	74号土坑	西から	PL.50	1	87号土坑断面	西から
PL.47	1	74号土坑断面	西から		2	88号土坑	北から
	2	75号土坑	西から		3	88号土坑断面	西から
	3	75号土坑断面	西から		4	89号土坑	北から
	4	76号土坑	西から		5	89号土坑断面	北から
	5	76号土坑断面	西から		6	90号土坑	北から
	6	77号土坑	西から		7	90号土坑断面	北から
	7	77号土坑断面	西から		8	93号土坑	東から
	8	78号土坑	西から	PL.51	1	93号土坑断面	東から
PL.48	1	78号土坑断面	西から		2	95号土坑	北から
	2	79号土坑	西から		3	95号土坑断面	東から
	3	79号土坑断面	西から		4	土坑出土遺物 1	
	4	80号土坑	西から	PL.52	1	土坑出土遺物 2	
	5	80号土坑断面	西から	PL.53	1	土坑出土遺物 3	
	6	81号土坑	西から	PL.54	1	遺構外出土遺物 1	
	7	81号土坑断面	西から	PL.55	1	遺構外出土遺物 2	
	8	82号土坑	西から				

# 第1章 西ノ上遺跡の発掘調査

## 第1節 発掘調査に至る経過

八ッ場ダムは、洪水調節、流水機能の正常な維持、都市用水の新たな確保並びに発電を目的とする多目的ダムとして、吾妻川中流の群馬県吾妻郡長野原町大字川原畑字八ッ場および大字川原湯字金花山に建設されている。昭和24年に利根川改修改定計画の一環として立案され、昭和27年には建設準備のための調査が着手されたが、紆余曲折を経て本格的な着工は平成4年を待つことになる。

ダム建設地域内のうち、長野原町内の文化財に関しては、町教育委員会が昭和61年から文化財総合調査計画を策定し、自然環境や民俗、石造文化財、古文書、昔話等の調査を行うとともに、埋蔵文化財の詳細分布調査も行った。

八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財調査は、平成6年3月18日に建設省関東地方建設局長と群馬県教育委員会教育長との間で締結された「八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の実施に関する協定書」により計画が決定し、建設省関東地方建設局長を委託者とし、群馬県教育委員会教育長を受託者とする発掘調査受委託契約が締結されて、以後発掘調査が実施されることとなる。この協定は現在まで4回の変更を行いつつ、継続されている。

西ノ上遺跡は 群馬県吾妻郡長野原町大字川原湯字西ノ上329ほかに所在する。本調査は八ッ場ダム建設工事に伴う水没地区内埋蔵文化財の記録保存調査であり、平成27年度から平成29年度にかけて公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が行った。総対象面積は22,005㎡である。

なお、平成14年度に今回発掘区の北に接する部分において千歳橋下部工事事業に伴う発掘調査が行われ、今回の調査で見発された天明三年浅間山噴火に伴う泥流(以下天明泥流)と連続する遺構が調査されている。

## 第2節 発掘調査の経過

平成27年度発掘は調査担当者2名により、10月1日から開始された。発掘開始時点では埋蔵文化財包蔵地としての範囲が確定しない部分があったため、北東部の1区と命名した部分から着手し、遺構確認調査の進展によって順次南東部の2区から南西部の3区へと発掘を進めた。東部では天明泥流下の畑、道、石垣や平坦面、ヤックラ及び炭窯の残痕を確認した。西南部はより高位の段丘面に当たり、天明泥流が相対的に薄いためであろう、復旧坑群の掘削による耕地再建が図られた状況が広く認められた。ここではさらに下面においても畑や縄文時代のものを含む土坑、ピット群を発掘している。

平成28年度発掘は4月から5月にかけて及び翌年1月の2回に分けて行った。春期の発掘は担当者2名によって、前年発掘区に引き続く3区の残部分と遺跡北西部にあたる4区の調査を行った。3区では復旧坑群や天明泥流下面の畑、道が発掘され、4区では天明泥流下面の畑が広く見いだされ、平坦面、「ヤックラ」などが発掘された。遺跡北東部の5区でもトレンチ発掘により天明泥流下の畑を確認した。

平成29年1月には、調査担当者3名により、発掘区北西部の6区を対象に発掘を行った。4区西部に連続する部分ではヤックラを、遺跡西端では天明泥流以後に築かれた炭窯を発掘したほか、3区西側の尾根上で遺構確認調査を行い、本遺跡の発掘を終了した。

### 調査日誌抄

平成27年

- 10月1日 調査開始 発掘区の設定 伐採
- 10月7日 1区表土掘削 天明泥流下遺構確認
- 10月13日 1区泥流下畑調査
- 10月20日 1区天明泥流下面全景空撮
- 10月21日 1区泥流下面畑以下トレンチ
- 10月27日 1区3面土坑等調査開始
- 10月30日 1区3面以下のトレンチ調査
- 11月5日 2区天明泥流下面空撮
- 11月6日 2区泥流下畑・ヤックラ断ち割り  
3区表土掘削
- 11月13日 2区復旧坑群調査
- 11月20日 3区復旧坑群・天明泥流下面空撮
- 11月24日 2・3区泥流下畑断ち割り
- 12月2日 2・3区泥流下畑断ち割り

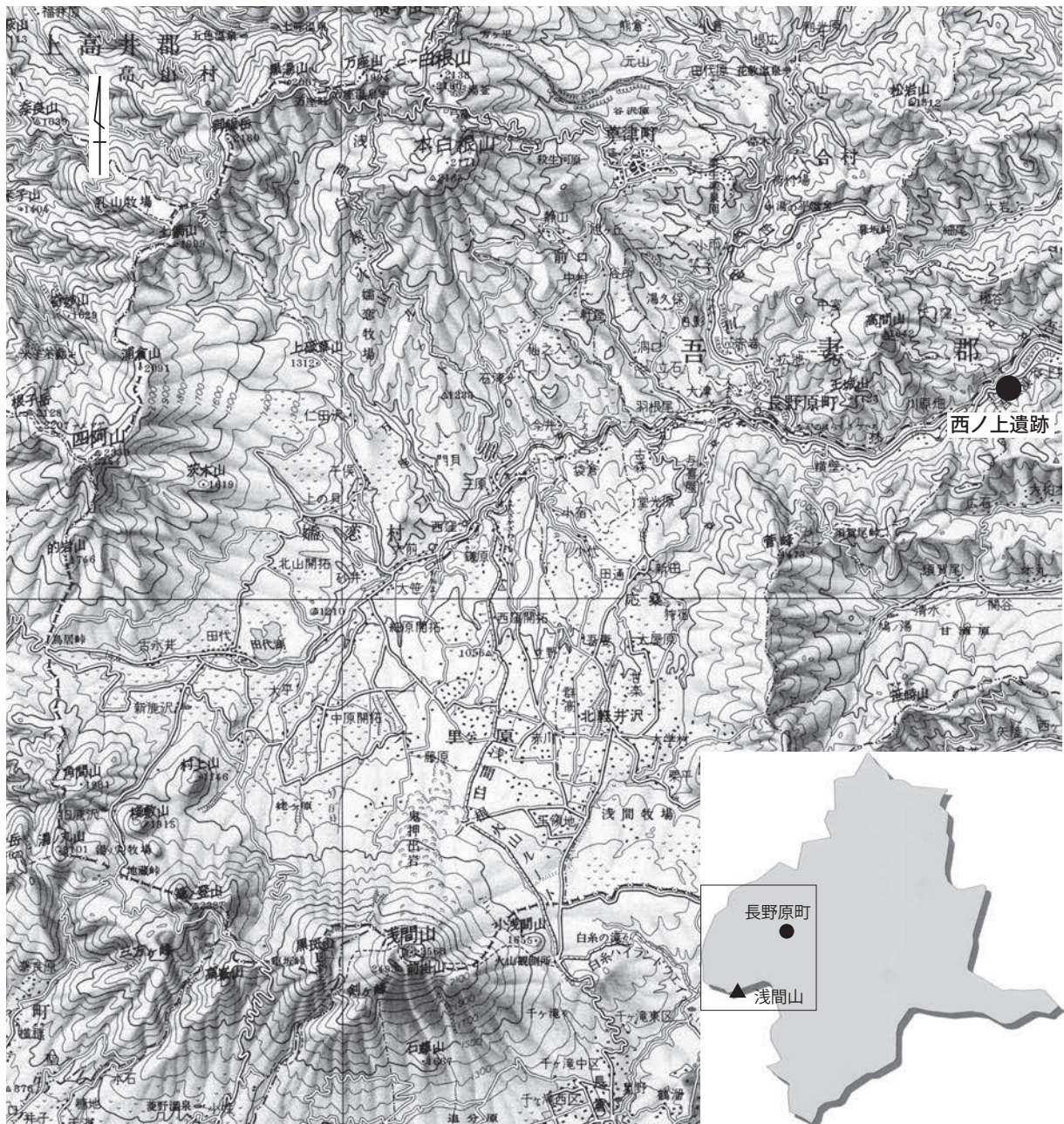
## 第1章 西ノ上遺跡の発掘調査

12月10日 2・3区復旧坑群・天明泥流下面空撮  
 12月16日 2・3区3面以下土坑等調査  
 3区3面畑調査  
 12月18日 2・3区3面土坑群等空撮  
 12月28日 調査終了  
 平成28年  
 4月3日 辞令交付  
 4月4日 調査現場確認  
 4月7日 測量打ち合わせ  
 4月10日 表土掘削開始  
 天明泥流下面遺構確認  
 4月12日 4区 天明泥流下畑調査  
 3区 復旧坑群調査  
 4月19日 5区 試掘トレンチ調査  
 4月20日 3・4区全景写真空撮  
 4月21日 4区 泥流下畑以下トレンチ調査  
 4月27日 3区 泥流下面以下の遺構確認  
 5月8日 3区 土坑・ピット等調査  
 4区 ヤックラ断ち割り  
 5月11日 3・4区3面精査 土坑等調査

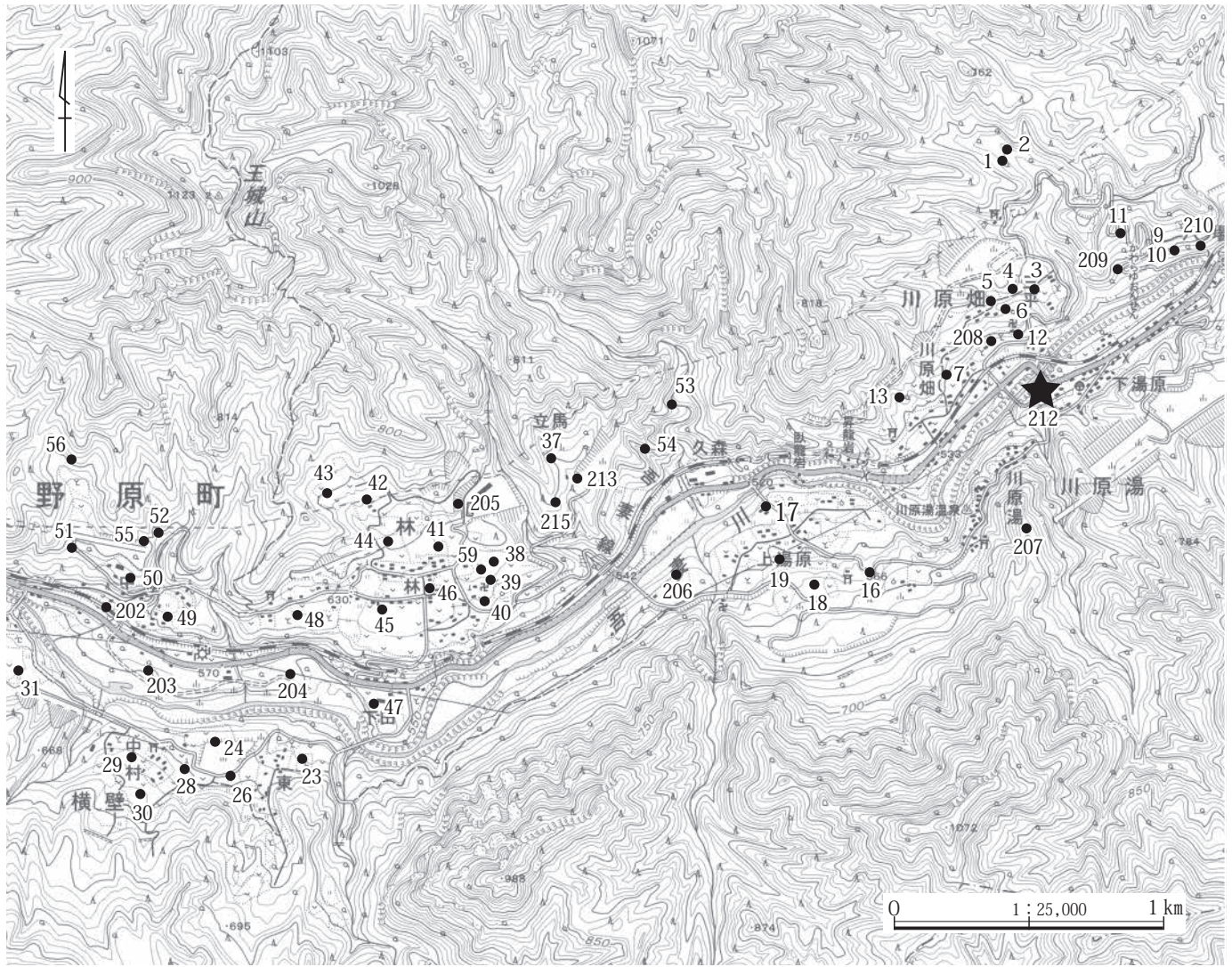
5月24日 現場資材撤収  
 5月25日 3・4区埋め戻し開始  
 5月29日 5区埋め戻し  
 5月30日 現場事務所撤去  
 平成29年  
 1月9日 6区調査開始 トレンチ掘削開始  
 1月12日 炭窯・ヤックラ調査開始  
 1月18日 炭窯掘り方調査  
 資材撤収 調査終了

## 第3節 地理的・歴史的環境

西ノ上遺跡は群馬県吾妻郡長野原町大字川原湯字西ノ上にある。長野原町は群馬県の北西部、吾妻郡の南西隅に位置し、吾妻郡草津町、嬭恋村、中之条町、東吾妻町



第1図 西ノ上遺跡位置図 (国土地理院1:200,000地勢図「長野」使用)



第2図 西ノ上遺跡と周辺の遺跡(国土地理院1:25,000地形図「長野原」使用)

及び高崎市と境を接し、長野県境にもあたっていて、同県北佐久郡軽井沢町と接する。那須火山帯と富士火山帯の接点近くにあるため、周囲には火山が多く、北西の草津白根山、本白根山、南西の浅間山はともに現在も活発な活動を見せている。

町の北部を吾妻川が東流する。吾妻川は長野県境の鳥井峠付近に源を発し、東流して渋川市で利根川と合流する全長76.2kmの一級河川で、町の中央付近では川幅がやや広がるが、東隣の東吾妻町にかけては第三紀層を刻んで、急峻な渓谷地形となる。「関東の耶馬溪」とも呼ばれ、国の名勝にも指定されている吾妻渓谷である。

吾妻川両岸には、4段の河岸段丘面が形成されている。西ノ上遺跡は長野原町の北東に位置し、吾妻川右岸の中位段丘上に立地する。標高約520～545mの北向きの傾斜面地であり、遺跡地内には小さな段丘が形成されてい

て、東西に延びる2面の狭い平坦面上に遺構が分布する。北辺は吾妻川に落ちる比高30mほどの段丘崖により画される。遺跡の西は大沢、東は打越沢に区切られ、南は急傾斜の尾根が連なっている。

周辺の遺跡および本遺跡にかかわる歴史的環境の詳細については、既刊のハツ場ダム関連各遺跡の調査報告に詳しいため、各時代の主要遺跡を第2図及び第1表に掲げ、概要を述べるに留める。旧石器時代遺跡は未確認であるが、縄文時代の遺跡は比較的濃密な分布を示し、草創期から晩期に至る各時期の遺跡が認められている。縄文時代草創期、早期の遺跡は吾妻川左岸で認められる。石畑岩陰、楡木Ⅱ遺跡では表裏縄文など草創期の土器片が出土しており、石畑岩陰は大規模な岩陰遺跡として、今後の本調査の成果が期待される。早期では楡木Ⅱ遺跡、立馬Ⅱ遺跡などで撚糸文、押型文、多縄文系土器がみら



第1章 西ノ上遺跡の発掘調査

第1表 西ノ上遺跡周辺遺跡一覧

町遺跡番号	大字	遺跡名	時代	報告書等
1	川原畑	温井Ⅰ遺跡	縄文・平安	
2	川原畑	温井Ⅱ遺跡	縄文	
3	川原畑	三平Ⅰ遺跡	縄文・弥生・平安	群埋文303集2003、401集2007
4	川原畑	三平Ⅱ遺跡	縄文・平安	群埋文401集2007
5	川原畑	上ノ平Ⅰ遺跡	縄文・弥生・平安・中世・近世・現代	群埋文440集2008
6	川原畑	上ノ平Ⅱ遺跡	縄文・平安	
7	川原畑	西宮遺跡	縄文・近世	
9	川原畑	石畑Ⅰ岩陰	縄文	
10	川原畑	石畑Ⅱ岩陰	不明	
11	川原畑	二社平岩陰	不明	群埋文303集2003
12	川原畑	三ツ堂岩陰	不明	
13	川原畑	西宮岩陰	不明	
16	川原湯	川原湯中原Ⅰ遺跡	縄文	
17	川原湯	石川原遺跡	縄文・平安・近世・近代・現代	群埋文640集207
18	川原湯	川原湯中原Ⅱ遺跡	平安	
19	川原湯	川原湯中原Ⅲ遺跡	縄文・平安	
23	横壁	横壁勝沼遺跡	縄文・弥生・平安・中世・近世	群埋文303集2003
24	横壁	横壁中村遺跡	縄文・弥生・平安・中世	群埋文319集2003、355集2005、368集2006、381集2006、406集2007、436集2008、439集2008、488集2010、492集2010、526集2012、559集2013、587集2014
26	横壁	山根Ⅰ遺跡	縄文・平安	長野原町「長野原町誌」1976
28	横壁	山根Ⅱ遺跡	平安・近世	
29	横壁	山根Ⅲ遺跡	縄文・弥生・平安・近世	群埋文303集2003、429集2008
30	横壁	山根Ⅳ遺跡	縄文・平安	
31	横壁	西久保Ⅰ遺跡	縄文・弥生・平安・中世・近世	群埋文303集2003
37	林	立馬Ⅰ遺跡	縄文・弥生・平安・中世・近世	群埋文388集2006
38	林	東原Ⅰ遺跡	縄文・弥生・平安・中世・近世	長野原町教委「町内遺跡Ⅵ・Ⅶ」2006・2007、群埋文502集2010
39	林	東原Ⅱ遺跡	縄文・平安・中世・近世	群埋文502集2010
40	林	東原Ⅲ遺跡	縄文・平安・中世・近世	長野原町教委「町内遺跡Ⅳ・Ⅶ」2004・2007、群埋文502集2010
41	林	上原Ⅰ遺跡	縄文・弥生・古墳・平安・中世・近世	群埋文303集2003、長野原町教委「町内遺跡Ⅶ・ⅩⅡ・ⅩⅢ」2007・2013
42	林	上原Ⅱ遺跡	縄文	長野原町教委「町内遺跡Ⅶ・ⅩⅡ」2007・2013、群埋文429集2008
43	林	上原Ⅲ遺跡	縄文	長野原町教委「町内遺跡Ⅶ・ⅩⅡ」2007・2013
44	林	上原Ⅳ遺跡	縄文・近世	長野原町教委「町内遺跡Ⅲ・Ⅶ・Ⅸ・ⅩⅢ」2003・2007・2010・2013、群埋文429集2008、549集2012
45	林	林中原Ⅰ遺跡	縄文・弥生・平安・中世・近世	長野原町教委「町内遺跡Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ・Ⅷ・Ⅹ・ⅩⅠ」2003・2004・2005・2006・2007・2009・2011、「林中原Ⅰ遺跡Ⅳ」2010、群埋文586集2014
46	林	林中原Ⅱ遺跡	縄文・弥生・平安・中世・近世	長野原町教委「町内遺跡Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ・Ⅷ・Ⅹ」2004・2005・2006・2007・2009・2011、群埋文617集2016
47	林	下田遺跡	平安・近世	群埋文303集2003
48	林	林宮原遺跡	縄文・古墳・平安	長野原町教委「町内遺跡Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅶ・Ⅷ・Ⅸ」2003・2004・2005・2007・2009・2010、「林宮原遺跡Ⅱ」2004、「林宮原遺跡Ⅷ」2011、群埋文604集2016
49	林	中棚Ⅰ遺跡	縄文・平安	長野原町教委「町内遺跡Ⅶ・ⅩⅡ」2007・2013
50	林	楡木Ⅰ遺跡	縄文・平安	群埋文549集2012
51	林	楡木Ⅱ遺跡	縄文・平安・中世・近世	長野原町教委「町内遺跡Ⅰ」2002、群埋文432集2008、458集2009
52	林	二反沢遺跡	縄文・古墳・中世・近世	群埋文379集2006
53	林	久森沢Ⅰ岩陰群	不明	
54	林	久森沢Ⅱ岩陰	不明	
55	林	滝沢観音岩陰	不明	
56	林	蜂ツ沢岩陰	縄文	
59	林	林の御塚	近世	吾妻教育會事務所「吾妻郡誌」1906、群埋文303集2003
202	林	楡木Ⅲ遺跡	縄文・弥生・平安・中世	群埋文303集2003
203	林	中棚Ⅱ遺跡	縄文・弥生・近世	群埋文319集2003、群埋文349集2004
204	林	下原遺跡	縄文・弥生・古墳・中世・近世	群埋文319集2003、群埋文389集2007
205	林	花畑遺跡	縄文・平安	群埋文303集2003
206	川原湯	川原湯勝沼遺跡	縄文・平安・近世	群埋文303集2003、356集2005、462集2009、466集2009
207	川原湯	金花山砦跡	中世	
208	川原畑	東宮遺跡	縄文・近世	長野原町教委「町内遺跡Ⅰ」2002、群埋文303集2003、514集2011、536集2012
209	川原畑	二社平遺跡	縄文・平安・近世	群埋文303集2003
210	川原畑	石畑遺跡	縄文・弥生・近世	群埋文303集2003
212	川原湯	西ノ上遺跡	近世	群埋文349集2004 651集2019（本書）
213	林	立馬Ⅱ遺跡	縄文・弥生・平安・近世	群埋文375集2006
215	林	立馬Ⅲ遺跡	縄文・弥生・平安	群埋文457集2009

れる。また、近年調査された居家以岩陰遺跡では埋葬人骨も発見されている。前期では立馬Ⅰ・Ⅱ遺跡、三平Ⅰ遺跡、林中原Ⅰ・Ⅱ遺跡などで前半期の遺構、遺物がみられるが、後半期の調査例は林中原Ⅰ遺跡で竪穴建物が、三平Ⅰ・Ⅱ遺跡や川原湯勝沼遺跡などで土坑が見つかったもの、前期に比して少なくなる。中期に至ると、吾妻川を挟んで対峙するように立地する長野原一本松遺跡、横壁中村遺跡など、多数の竪穴建物や列石などで構成される大集落が営まれる。林中原Ⅱ遺跡も中期後半から後期にかけての大集落である。後期後半以後になると遺跡数は激減する。横壁中村遺跡では集落が継続するものの、他では晩期に至るまで、遺構・遺物ともに少数例にとどまる。本遺跡で確認された晩期後半の遺構・遺物は、この地域では今まで知られておらず、貴重な資料となった。

弥生時代の遺跡も引き続き乏しく、遺構としては川原湯勝沼遺跡、尾坂遺跡の再葬墓、立馬Ⅰ遺跡の合わせ口甕棺墓、向原遺跡の土坑など、弥生時代前期から中期前葉の墓がみられるのみである。横壁中村遺跡、長野原一本松遺跡では弥生土器の出土がみられ、弥生時代前期、中期前半の土器破片が散在的に認められるものの、居住にかかわる遺構は見つっていない。弥生時代中期後半から古墳時代、奈良時代も遺跡は希薄で、古墳は認められず、上原Ⅰ遺跡で古墳時代前期のS字状口縁台付甕を伴う竪穴建物、上原Ⅳ遺跡、下原遺跡、林宮原遺跡で後期の竪穴建物がわずかに見ついている程度である。

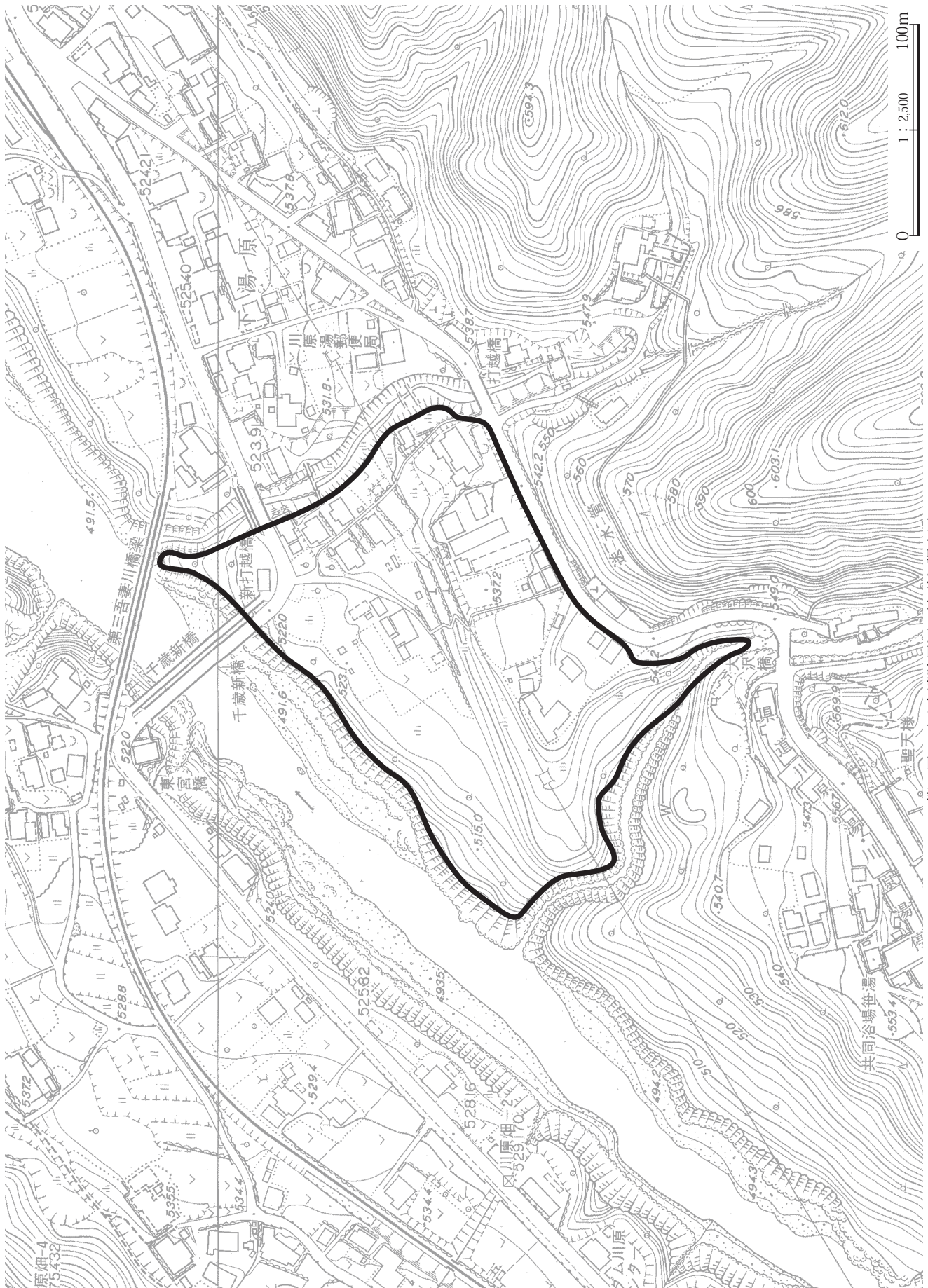
集落が再びそれとして認められるようになるのは、平安時代になってからのことである。上ノ平Ⅰ遺跡、三平Ⅰ・Ⅱ遺跡、二社平遺跡、川原湯勝沼遺跡、横壁勝沼遺跡、横壁中村遺跡、西久保Ⅰ遺跡、山根Ⅲ遺跡、石川原遺跡等々がある。中でも楡木Ⅱ遺跡、上ノ平Ⅰ遺跡でそれぞれ30棟以上の竪穴建物が調査されていて、一定規模の集落が営まれたことがわかる。時期的にはどの遺跡においても9世紀後半から10世紀を中心としており、湧水をよりどころに営まれるのが一般的傾向のようである。上原Ⅲ遺跡や三平Ⅰ遺跡では鍛冶遺構も見つかり、集落内に鍛冶工房があったことがわかる。上ノ平Ⅰ遺跡における炭化種実では、住居内からオオムギ・コムギやアワが多出し、イネはわずかしか見られないことから、イネ以外に主食穀物を求めた集落であったものと考えられ

た。また、陥穴の多くもこの時期に比定されていて、居住域と一体となって機能していたものとされる。中央小学校敷地内からは良い造りの瓦塔が出土しており、集落内寺院の存在も示唆される。

中世の遺跡としては城館跡がよく知られている。金山砦跡、柳沢城跡、長野原城跡、丸岩城跡、羽根尾城跡や林城跡が交通の要衝に設けられた。川原湯温泉の起源が建久四(1193)年の源頼朝による三原巻狩りに際しての発見であったとの伝承も忘れてはならない。横壁中村遺跡でも石垣を伴う館跡が調査されていて、柳沢城との関連が考えられている。三平Ⅰ・Ⅱ遺跡、東原Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡、林中原Ⅰ遺跡、林宮原遺跡、下原遺跡、二反沢遺跡、楡木Ⅱ遺跡、尾坂遺跡などでは掘立柱建物や土坑、畑が調査されている。また、二反沢遺跡では羽口や鉄滓など製鉄関連遺跡も検出されている。墓坑の中でも、宋銭のみを出土し、人骨の残りが非常に悪い墓坑は中世にさかのぼる可能性が指摘されている。

近世を代表するのは天明三(1783)年浅間山噴火に伴う火山堆積物に埋もれた遺跡である。吾妻川の段丘面中位、下位は広くこれに覆われていて、被災遺跡は枚挙にいとまない。本遺跡においても、緩斜面部には天明泥流下の畑遺構が認められた。この地域の天明泥流下畑の主要作物は麻であろうと考えられている。また、これ以前の洪水災害で埋没した畑遺構の調査例も増えていて、本遺跡でも年代決定はできないものの、天明泥流下畑の耕土下から部分的ではあるが畑遺構が見いだされている。また、当遺跡では見つからなかったが、当時の姿をほうふつとさせる屋敷跡が東宮遺跡、西宮遺跡、下田遺跡、楡木Ⅰ遺跡、尾坂遺跡、町遺跡、小林家屋敷跡、石川原遺跡などで調査されている。

貞享三(1686)年の川原湯村検地水帳によると、本遺跡の所在する大字川原湯には18町7反5畝16歩の農地があるが、田はなく、上畑2町8畝8歩、中畑3町6畝9歩、下畑4町9反6畝7歩、下々畑8町6反4畝22歩という構成で、必ずしも豊かな村ではない。さらに当遺跡の範囲にかかわると思われる「西ノ上」「西下」を見ると、上畑、中畑はなく、総耕地面積7反9畝29歩のうち、下畑4反1畝2歩、下々畑3反8畝27歩となっている。今回天明泥流下畑を発掘した面積は6,387.93㎡、平成14年度発掘分1,226.3㎡と合わせると7,614.23㎡、7反6畝24歩相



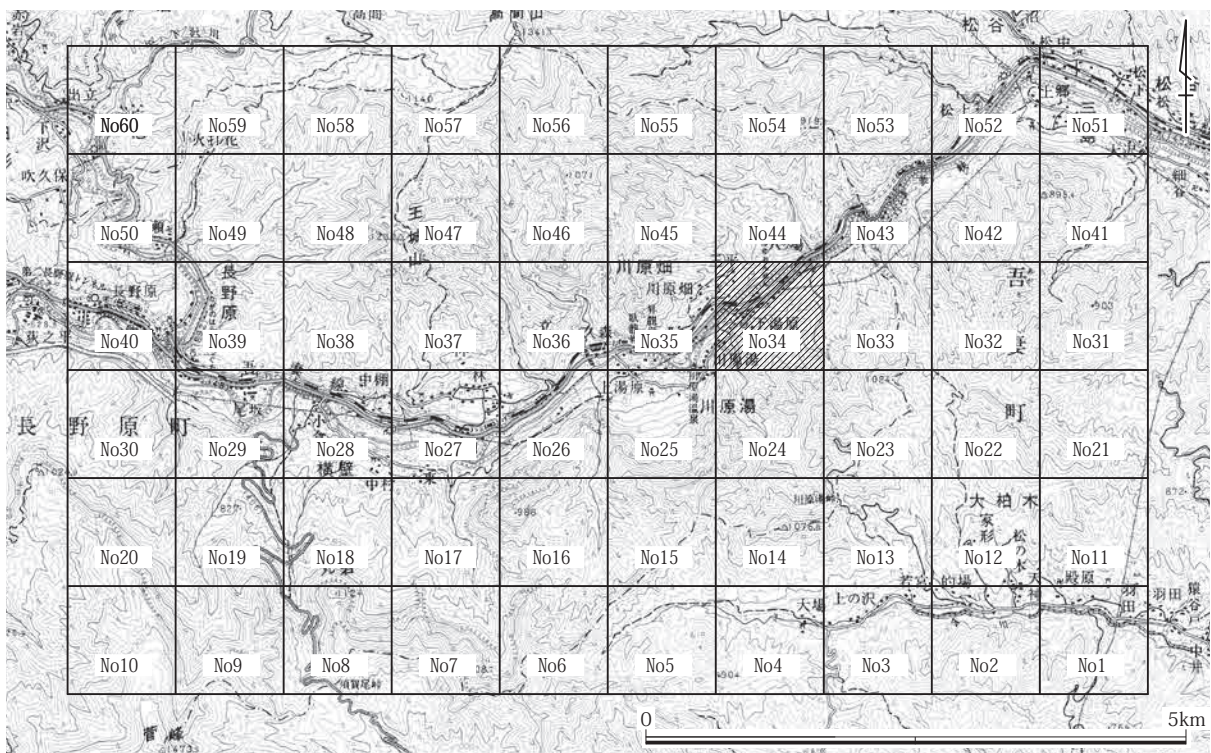
第3図 西ノ上遺跡周辺の地形と調査区

当となる。「西ノ上」「西下」の耕地96%を発掘したことになる。天明浅間山噴火については噴火・災害・復旧復興のプロセスが、八ッ場ダム地域の発掘調査成果の寄与もあって、詳細に解明されつつある。本遺跡においても、8月の大噴火に先行する小噴火がもたらした火山灰に覆われた畑を鋤き返したり、泥流災害被災後には、堆積が比較的薄い畑に溝群を掘削して復旧を図ったりするなどの活動痕跡が調査されている。

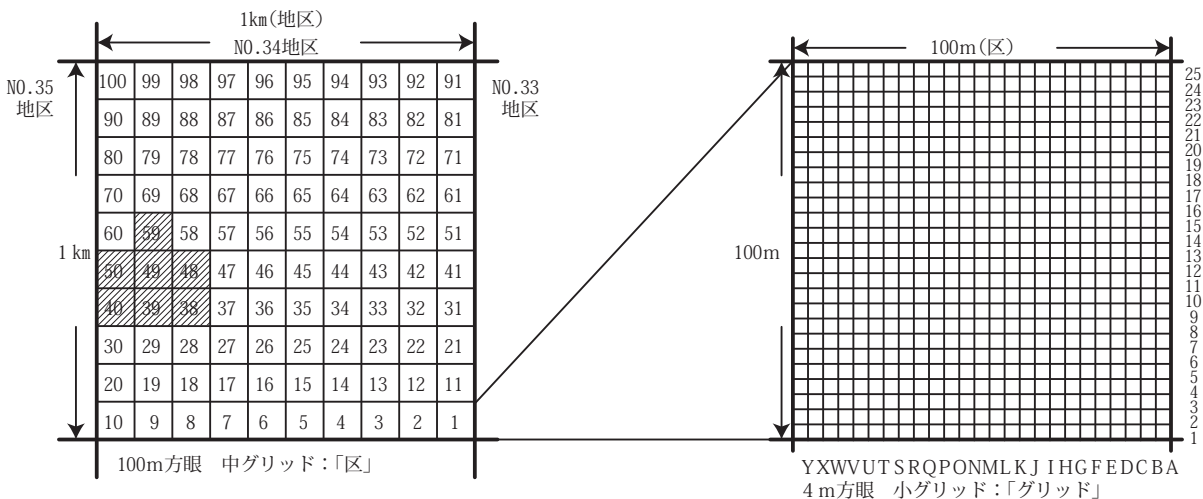
## 第4節 発掘調査の対象と方法

### 第1項 発掘調査の対象及び方法

発掘調査の対象とする埋蔵文化財の種類、年代は、「群馬県埋蔵文化財発掘調査取扱い基準」に従うが、浅間山天明泥流が堆積する地域であるため、同基準4－(1)－1)－②－ウ)により、近世に属する遺跡、特に浅間山天明泥流災害被災遺構、およびこの災害に対する復興の様相を示す「復旧坑」と呼ばれる土坑群等についても、発掘調査対象としている。調査における遺跡番号は、八ッ場



NO.34地区=西ノ上遺跡



第4図 西ノ上遺跡調査グリッド配置模式図

## 第1章 西ノ上遺跡の発掘調査

ダム建設に関わる長野原町の大字5地区(1:川原畑、2:川原湯、3:横壁、4:林、5:長野原)、東吾妻町の大字3地区(6:三島、7:大柏木、8:松谷)に番号を付し、八ッ場ダムの略号(YD)に続ける。ハイフン以下は各地区内に所在する遺跡に対して調査順に通し番号を付し、遺跡番号とする。西ノ上遺跡は「YD 2-02」である。

発掘作業は、バックホーにより、表土及び天明泥流を除去した後、ジョレンや移植ゴテを用いた発掘に移行した。土層観察に当たっては試掘溝や土層観察畦を設定した。遺物は、遺構に伴うもの以外は地点別に取り上げている。出土遺物の洗浄、注記は外部業者に委託している。

遺構測量は、測量業者委託によるデジタル測量を基本として、縮率は1/10・1/20・1/40を基準に、縮率を適宜選択して実施した。遺構写真は現場担当者により、デジタルカメラ(平成27年度:Canon EOS Kiss X5・29年度:Canon EOS 6D)と6×7版モノクロネガフィルムを使用して撮影したほか、委託業者による航空写真撮影(ラジコンヘリコプター使用)、並びにドローン使用による高

所写真撮影を行った。

整理等作業は平成30年4月1日から7月31日まで、群馬県渋川市北橘町の群馬県埋蔵文化財調査事業団本部において実施した。このうち5月31日までは職員2名、6月1日からは職員1名が報告書編集作業を担当した。

遺構については、図面の修正・編集作業後デジタル編集を行い、併せて遺構写真の選定を行った。

遺物については、出土位置の確認、接合・復元、掲載遺物の選定、写真撮影、実測、トレース及び編集作業を行うとともに、観察表の執筆を行った。なお、縄文時代遺物の一部について、実測図作成及び採拓を専門業者に委託している。

これら一連の作業後、本文執筆、レイアウト作成、全体のデジタル編集および組版を行い、印刷・製本を委託して発掘調査報告書を刊行した。

出土遺物及び図面・写真等の調査記録については、群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。



第5図 西ノ上遺跡発掘調査時の調査区

第2項 発掘区とグリッド

発掘調査に当たっての基準座標は、国家座標(2002年4月改正以前の日本測地系)に基づく平面直角座標第IX系(日本測地系)を使用し、東吾妻町大柏木付近を原点(座標値X=+58000.0、Y=-97000.0)とした1km方眼を基点として60の区画を設定し、この大グリッドを「地区」と呼ぶ。さらに、1km方眼を南東隅から100m方眼の1～100に区画し、この中グリッドを「区」とする。南東隅を1とし、東から西へ連続する10単位を南から北へ配列し、北西隅を100として完結するよう配置する。「区」の100m方眼は、さらに4m方眼で625区画に分割され、その4m方眼の小グリッドを「グリッド」と呼ぶ。なお、小グリッドの東西にはA～Yまでのアルファベットを、南北には1～25までの算用数字を用いながら、南東隅を基点としグリッドを呼称する。これに従うと西ノ上遺跡は、34地区の38～40・48～50・59区にまたがる。

先述の通り調査開始時点では埋蔵文化財包蔵地としての範囲が確定しない部分があり、その時点において埋蔵文化財包蔵地であることが確定していた北東部を1区と

命名して先行着手した。調査の進行により以後の2区から6区の発掘区名称が付され、現場採取図面、写真、遺物取り上げに際してはこの発掘区が基本単位とされている。しかし、遺構名や番号が区をまたいで通番で付けられている場合と、区ごとに新たな番号を付与している場合、あるいは遺構名称が付されていない場合とが混在していることや、発掘区界が地形や遺構内容と関係せず、同一畑面が複数区にまたがる場合などがあるため、本書での位置表示に当たっては発掘区名を用いずにグリッド表示とした。なお、遺構図や本文中の記載においては、特に混乱が予想されない場合は地区及び区の番号を略している。これに伴って遺構番号等の付け替えも行った。出土遺物、写真、図面等の注記やデータ名称については発掘時点での発掘区名称が使用されているため、発掘区名称を第5図に示し、遺構一覧表に発掘時の遺構名称を付記した。

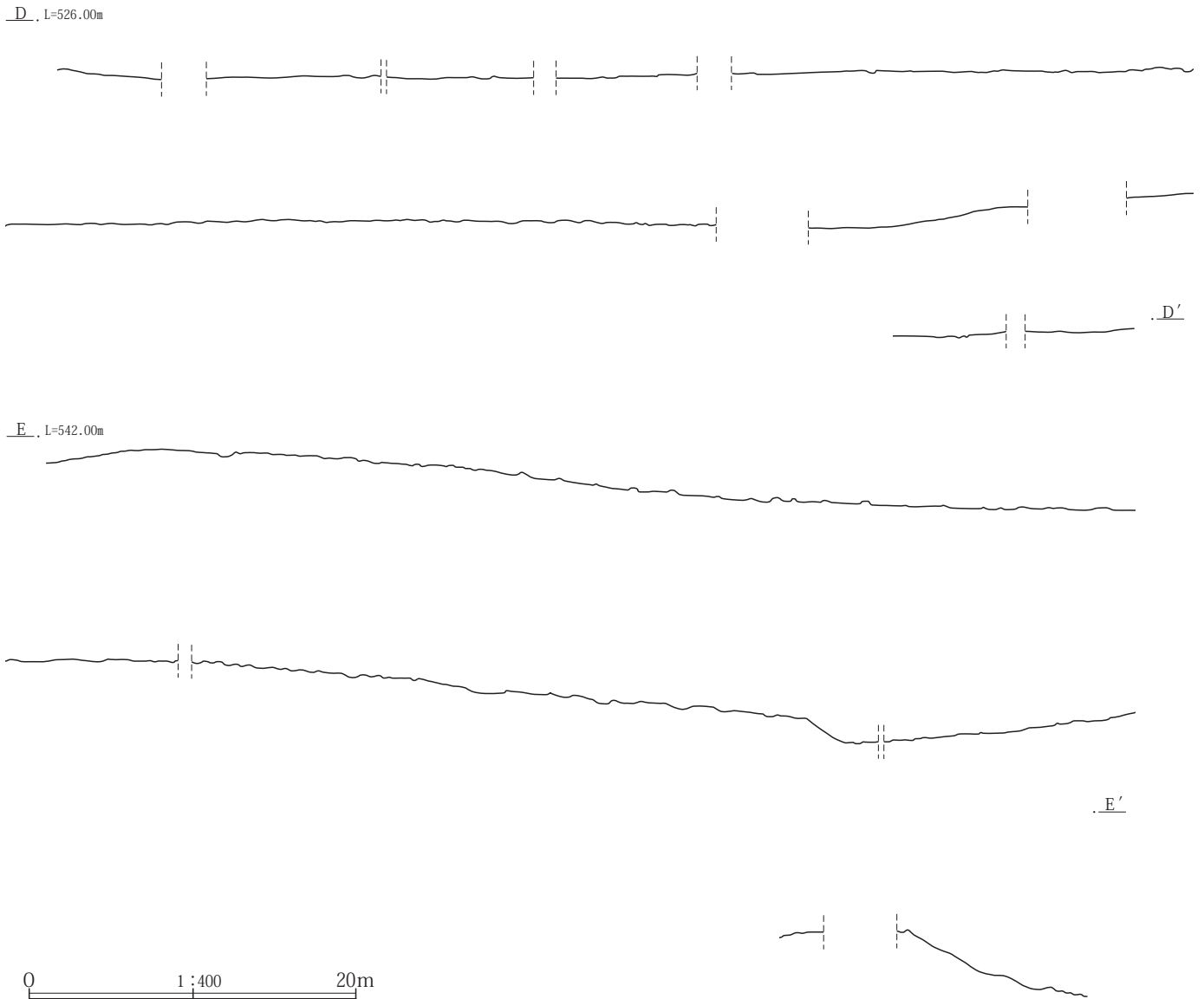
また、今回報告部分は平成14年度調査区と接するため、必要に応じてこの時の調査成果である遺構図面等を参照・掲載しつつ記載を行った。



第6図 西ノ上遺跡の土層図・高低図採取位置図



第7図 天明泥流下面高低図1



第8図 天明泥流下面高低図2

### 第3項 基本土層と調査面

この地域の地質・土壌を特徴付けるのが天明三年浅間噴火に伴う堆積物である。尾根上にある断面N～Rラインを除いて、表土直下には天明泥流が堆積する事が観察されている。平成14年度調査では、泥流が吾妻川上流から下流に向けて流下していること及び、場所により10cmから180cmまで堆積厚の差があることが報告されている。今次の調査における泥流の層厚記載を見ると、北側の下段部に設けられたLラインでは115cm、南側の上段に設けられたJラインでは35～40cmとなっている。Mラインでは上位の攪乱が激しいため、泥流厚の評価が難しいが、現地表までを見ても35cmほどである。参考に平成14

年度発掘区における堆積状況をF・G・Hラインとして示したが、これを併せてみると、下段でも吾妻川上流に当たる西側がやや薄く、東側に厚い堆積が見られること、吾妻川から南に離れるに従って薄くなることが観取される。

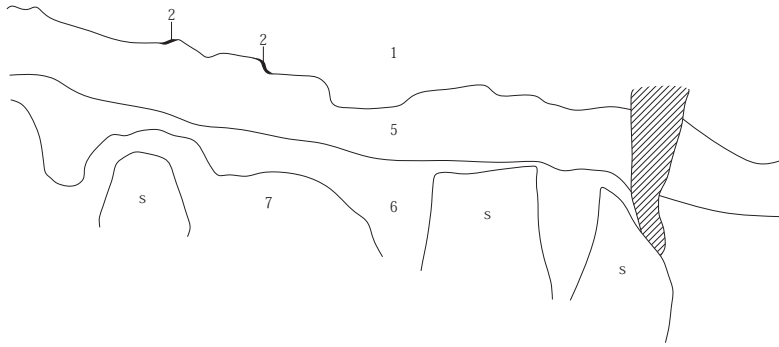
調査の実施に当たっては、現表土(I層)から上記天明泥流層(II層)までを掘削重機により一括除去し、泥流下面を露出させることを第1段階とし、発掘区第1面としてカウントしている。この面には泥流に覆われていた泥流到達直前の旧地表面と、明らかに後出の遺構である、天明泥流被災後に耕地復旧を行った痕跡である復旧坑群との2者が混在する事になるため、本報告書では天明泥流流下後の遺構を第1面として扱う。



第1章 西ノ上遺跡の発掘調査

F, L=521.40m

F'



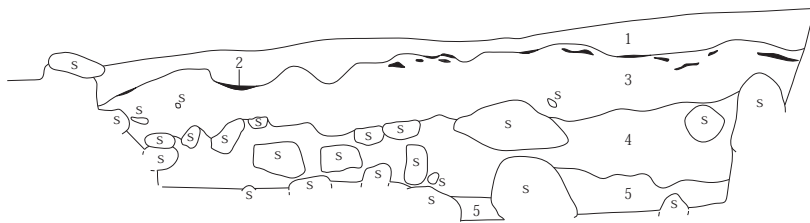
F-F'

- 1 天明泥流(層厚70～90cm)
- 2 As-A軽石(径1～2mm白色軽石。久々戸・中棚遺跡などで検出された軽石に比べ粒径がやや小さい)
- 5 灰褐色土 やや砂質。径1～5cmの亜角礫を少量含む。鉄分の沈着が若干見られる。
- 6 暗黄褐色土 砂質強い。径3～20cmの亜角礫を少量含む。炭化物を少量含む。
- 7 黄褐色土 砂質強い。径30～39cmの亜角礫をやや多く含む。

平成14年度調査報告書より転載 (図49 1号畑断面V-V')

G, L=522.90m

G'



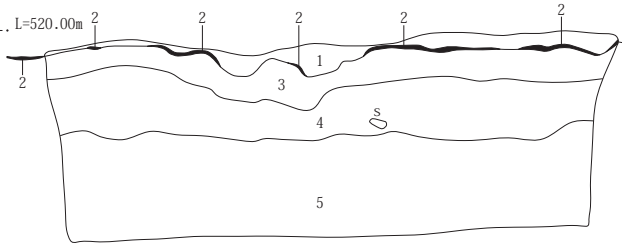
G-G'

- 1 天明泥流(層厚80cm)
- 2 As-A軽石
- 3 暗灰色土 やや粘性あり。径1～3cmの円礫を少量含む。鉄分の著しい沈着が板状に見られる。
- 4 灰褐色土 やや砂質。径3～30cmの円礫を多く含む。
- 5 暗黄褐色土 やや砂質。径5～30cmの円礫を非常に多く含む。

平成14年度調査報告書より転載 (図52 5号畑断面I-I')

H, L=520.00m

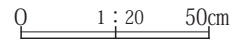
H'



H-H'

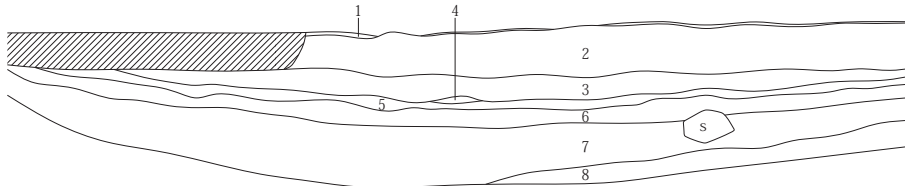
- 1 天明泥流(層厚1.6m)
- 2 As-A軽石
- 3 褐灰色土 やや砂質。鉄分の沈着が著しい。
- 4 灰褐色土 やや砂質。径1～2cmの亜角礫を少量含む。
- 5 黒褐色土 径1～5cmの亜角礫を少量含む。

平成14年度調査報告書より転載 (図59 11号畑断面U-U')



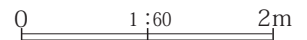
I, L=529.30m

I'

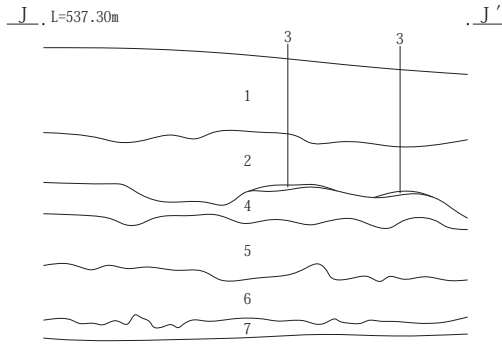


I-I'

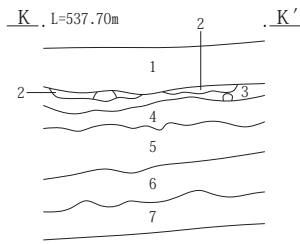
- 1 As-A軽石
- 2 暗褐色土 10YR3/4 小礫が少量混じる。締まり強く粘性あり。
- 3 黒褐色土 10YR3/2 黄褐色粒を1%含む。径5～10mmの礫を2%含む。締まり強い。
- 4 にぶい黄褐色土 10YR5/4 粗い砂層。水流の痕跡か。
- 5 黒褐色土 10YR1/3 黄褐色粒を1%含む。締まり強い。
- 6 暗褐色土 10YR3/3 径5～20mmの礫を5%含む。締まり強くやや粘性あり。
- 7 黒褐色土 10YR2/2 径5～20mmの礫を3%含む。硬く締まる。
- 8 にぶい黄褐色土 10YR4/3 締まり強く粘性あり。



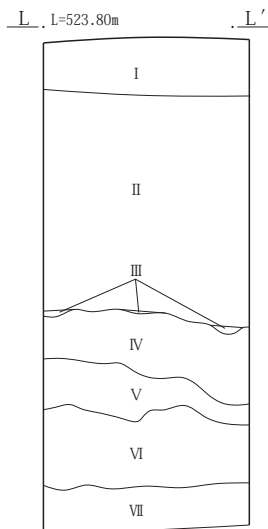
第9図 調査区の土層堆積状況 1



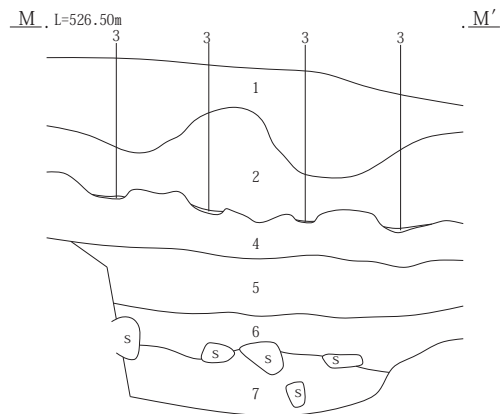
- J-J'
- 1 灰黄褐色土 10YR4/2 現代の耕作土
  - 2 暗褐色土 10YR3/3 天明泥流
  - 3 As-A軽石
  - 4 褐色土 10YR4/4 径5～10mmの礫を5%含む。山崩れか洪水起源と思われる。下層の3面畑を埋めた土で、もろく崩れやすい。
  - 5 灰黄褐色土 10YR4/2 3面畑の耕作土。径5～10mm程度の礫を3%含む。締まりやや強い。
  - 6 黒褐色土 10YR2/2 5層が少量混じる。締まりやや強く粘性あり。
  - 7 黒褐色土 10YR3/2 にぶい黄褐色土と6層の混土。締まり強くやや粘性あり。



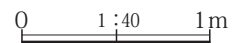
- K-K'
- 1 黒褐色土 10YR3/2 天明泥流下畑の耕作土。黄褐色粒を僅かに含む。硬く締まる。
  - 2 黒褐色土 10YR3/2 にぶい黄褐色砂粒を30%含む。締まり強い。
  - 3 黒色土 10YR1/2 黄褐色粒を僅かに含む。締まりやや強く粘性あり。
  - 4 黒褐色土 10YR2/2 径5mmの黄褐色ブロックを2%含む。5～10mm程度の礫を1%含む。締まり強い。
  - 5 黒色土 黄褐色粒を2%含む。締まり強くやや粘性あり。縄文時代遺物包含層。
  - 6 黒褐色土 10YR3/1 黄褐色粒を2%含む。締まり強い。
  - 7 黒褐色土 10YR3/2 明黄褐色土を20%、5～10mmの礫を3%含む。



- L-L'
- 1 黒褐色土 表土
  - 2 黒褐色土 天明泥流
  - 3 灰白色土 As-A軽石
  - 4 暗褐色土 若干の小礫を含む。鉄分凝集がみられる。締まりあり。
  - 5 明灰褐色土 若干の鉄分凝集がみられる。粘質土。
  - 6 黄褐色土 若干の礫を含む。締まりあり。
  - 7 明黄褐色土 若干の礫を含む。VI層に似るがやや明るい色調。締まりあり。

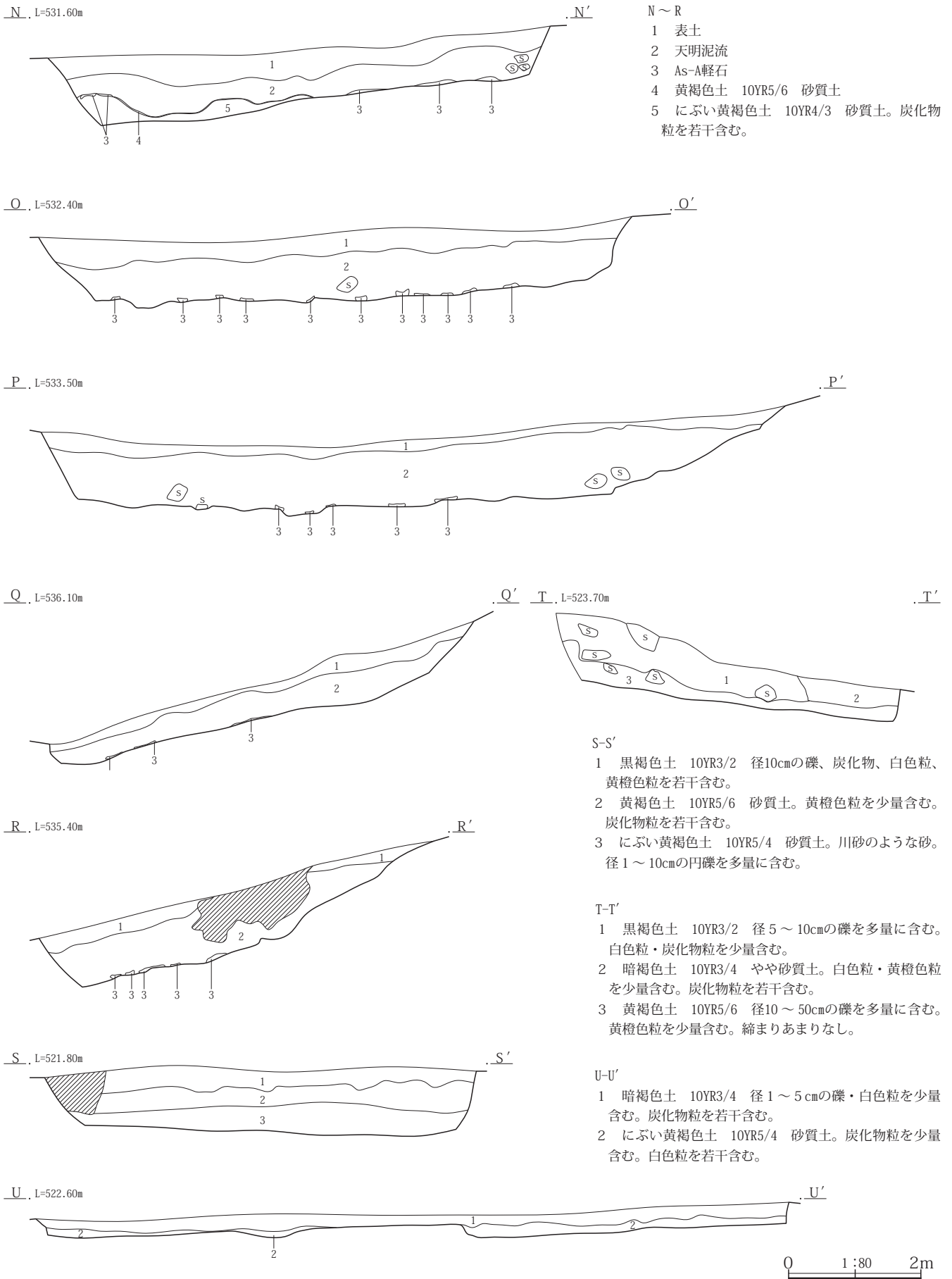


- M-M'
- 1 黒褐色土 10YR3/1 径10～80mm程度の礫を多く含む。ややもろい。現耕作土
  - 2 天明泥流
  - 3 As-A軽石
  - 4 暗褐色土 10YR3/3 径5～10mm程度の礫を少量含む。締まりあり。やや粘質。天明畑耕作土
  - 5 黒褐色土 10YR3/3 径3～8mm程度の礫を少量含む。強く締まる。やや粘質。
  - 6 暗褐色土 10YR3/3 径30～200mm程度の礫を多く含む。締まりあり。やや粘質。
  - 7 黄褐色土 10YR5/6 径10～100mm程度の礫を多く含む。締まりあり。やや粘質。



第10図 調査区の土層堆積状況2

第1章 西ノ上遺跡の発掘調査



第11図 調査区の土層堆積状況3

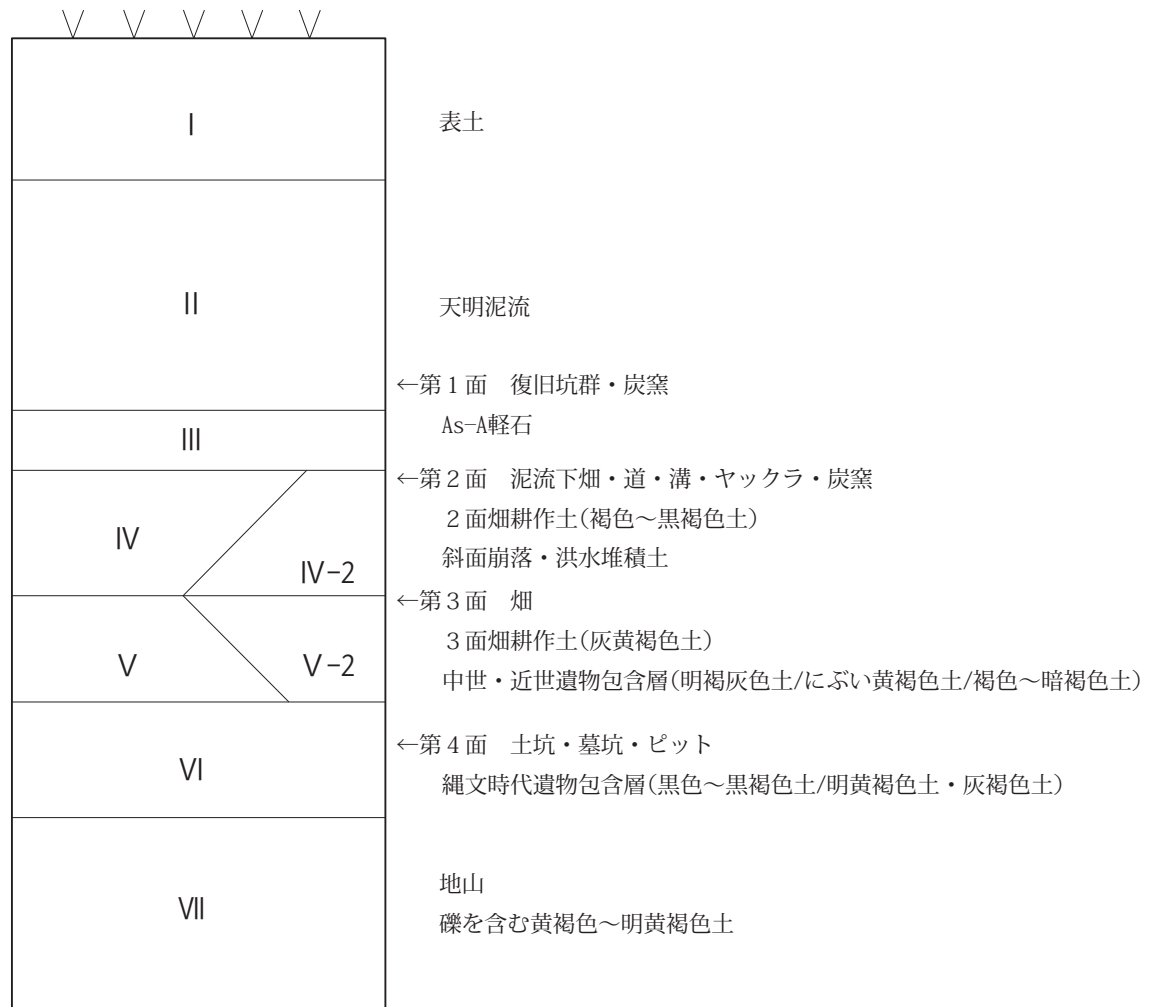
天明泥流下には白色のAs-A軽石(Ⅲ層)が堆積する。粒径1～5mm程度のものが多いが、大きなものでは径15mm前後のものもある。層厚は5mm前後であるが、畑の畝間溝内には堆積が顕著に見られる部分がある。As-A軽石下は、暗褐色から黒褐色土の畑耕作土が主体となる(Ⅳ層)。発掘区上段では礫混じりの黒褐色土や締まりの弱い褐色土で、降雨等による斜面の崩壊土と考えられる層もある(Ⅳ-2層)。下段では部分的に鉄分凝集が見られる。平成14年度調査では、畑土壌が褐灰色から灰褐色土で、グライ化や板状の強い鉄分凝集がみられること、また、畑土壌下にAs-A軽石を挟む部分があり、軽石降下と泥流の到達の間に畑の再耕作が行われたこと、また畑土壌内にごく薄い灰白色火山灰層があって、8月の大噴火以前の降灰後にも土壌堆積や耕作行動があったものと想定されている。本書では、これら天明泥流及びAs-A軽石に覆われた遺構を第2面として扱う。

第2面の畑耕作土下は、発掘区下段では黒褐色から暗

褐色土が主体となる(V層)。上段の斜面崩落土を主体とする褐色土を泥流下畑の耕土とする部分があって、この下では灰黄褐色土層が下層の畑遺構を覆っている(V-2層)。この畑を第3面の遺構とする。発掘区東部の断面図Iラインでは黒褐色土中に流水痕跡を示すにぶい黄褐色の砂層が認められている。沢に挟まれた傾斜地にあるために、斜面崩落や、洪水による堆積が繰り返されていたのであろう。出土遺物には近世の陶磁器の他、宋銭も見られるため中世から近世に相当しよう。

この下層には小礫を含む暗褐色～黒褐色土が堆積している(VI層)。下段では粘質の明黄褐色土や砂質の灰褐色土が見られる場所もあって、安定した土壌環境ではなかったかもしれない。土坑、ピットが調査されている。時期を確定しがたい物も多いが、縄文時代から弥生時代の遺物を含むものがある。これらを第4面の遺構とした。

以下は礫を含む黄褐色～暗黄褐色土が堆積する地山である。(VII層)。旧石器時代の遺物は確認されていない。



第12図 標準土層模式図

## 第2章 調査された遺構と遺物

### 第1節 概要

本書で報告する遺構は、第1面の復旧坑9群236基、炭窯1基、第2面畑12区画32面、平坦面12か所、ヤックラ12か所、道12条、溝1条、溝状遺構1条、石垣3か所、第3面の畑1区画1面、土坑13基、焼土8か所、第4面の掘立柱建物2棟、ピット状遺構23基、土坑82基である。

第1面、天明泥流上面の復旧坑は発掘区南側の上位面にのみあり、比較的泥流堆積の薄い部分を対象に行われた復旧行動の痕跡として捉えられる。狭い範囲ながら坑の長短、広狭が異なるものがある点が注目される。

第2面の天明泥流下面では発掘区のほぼ全面に畑が広がり、地形に沿って作られた道や石垣でこれが区切られる。畝幅には広狭2者があり、畑面には円形の平坦面や畝・畝間溝が認められない部分があつて、それぞれ何らかの作業痕跡を示すものと考えられる。畑の隅には開墾時や耕作中に除いた礫を集積したヤックラが作られている。先述の通り、今回報告する発掘区の北接地が平成14年度に発掘され、本報告の第2面畑に連続する畑が調査されている。この調査では耕作土とAs-A降下軽石及び火山灰の堆積状況の詳細な観察によって、降灰から泥流に埋没するまでの農作業の経過が追われている。また、畑面の一部に残された植物遺体の観察から、作物としてアワ、ヒエなどの雑穀を想定している。

1面の復旧坑、2面の畑面や耕土中、ヤックラの集石内などからは中・近世の陶磁器、石臼や塔婆などの石造物等が出土しているが、遺構に伴うものではない。

第3面の畑は上位発掘区の第2面畑耕土下で確認されたものだが、確認された範囲が狭く、2面畑と対比することは難しい。時期を判定する材料にも乏しいが、中世末から近世初期の所産と考えられる。土坑・ピットには、この時期に帰属するものと、縄文時代・弥生時代に帰属するものの両者が見られる。周辺遺跡でも確認例の乏しい、縄文時代晩期末葉～弥生時代前期の土器の出土が目を引く。

### 第2節 第1面の調査

#### 第1項 第1面の概要

ここでは浅間山天明噴火からの復興・復旧にかかる遺構として、「復旧坑」と通称される土坑群及び泥流上面に築かれた炭窯を報告する。

復旧坑は耕地などを覆った泥流等の上面から、溝状あるいは土坑状に掘削を行い、覆土下の旧表土、旧耕土を覆土上の地表面に掘り上げて新たな耕土とする一方、掘削した土坑中に覆土である泥流等の土砂を埋め込むことによって土壤改良を行った耕地復旧の痕跡である。噴火による泥流災害に限らず、厚い降灰、あるいは洪水等を原因とする土砂の被覆からの耕地復旧にあたって、広く採用された方法である。

前橋市から伊勢崎市、玉村町にかけての利根川沿いの遺跡では、天明泥流災害への対応として掘削された復旧坑が整然と、一面に広がる光景が見られる。計画的、組織的に行われた復旧事業の遺跡である。一方、本遺跡およびその周辺では、天明泥流が厚く堆積しているためであろうか、広域に渡る耕地をこの方法によって復旧するという状況は、さほど顕著には認められない。本遺跡における復旧坑の特徴も、泥流堆積が薄い、発掘区上位部に限って限定的に見られるにとどまることにある。また、比較的狭い範囲であるにもかかわらず、復旧坑の幅に広狭があるなど統一性を欠く。さらに、この地域での天明噴火被災後の耕地復旧は、被災前の地割りを踏襲して行われたことが知られていて、本遺跡においてこれが当てはまるものと見られるが、隣接畑でありながら復旧坑が見られない部分もある。

#### 第2項 復旧坑

発掘区の南部は天明泥流下面での標高532.6～542.63mほどあつて、北部より3mほど高い。泥流の堆積厚については記載がないが、北部に比すれば泥流は比較的薄かったものと思われるこの部分に、復旧坑群が見られる。

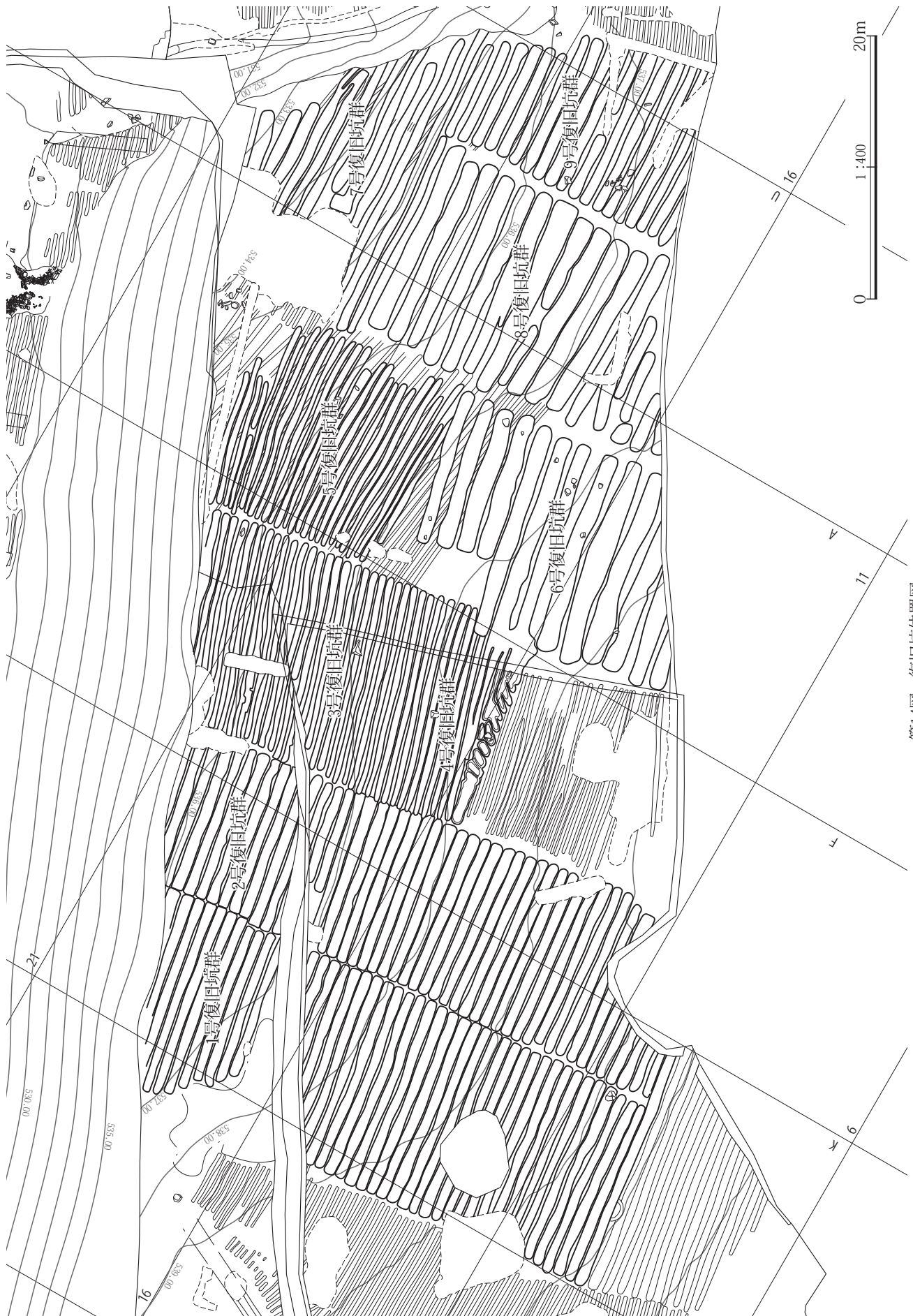
確認された西端は39区Pライン、東端は38区Tライン、南端は39区9ライン、北端は38区25ラインにある。各復旧坑は長軸を東西に置いた狭長な土坑状を呈する。これが南北に連続して一群を形成する。この復旧坑群が東西に並ぶ。西から東に向かって1号から9号復旧坑群として記載を進める。なお、後述の通り4号復旧坑群は性格を異にするものと考えている。

各復旧坑の天明泥流下面における幅には広狭があり、1号・2号及び8号・9号復旧坑群が0.8m前後であるのに対し、3号・5号復旧坑群では0.5m前後、6号・7号復旧坑群では1.3～1.4mを示している。深さ、断面形状に関する記載は乏しいが、断面形状は上部がやや開いた箱形ないし鍋形で、耕土獲得のために底部を掘り広げるなどの行為は見られない。なお、各復旧坑の計測値は第2～5表にまとめた。天明泥流下畑との関係を見ると、1号復旧坑群の西には第10区画2号畑があって、この畑の畝間溝東端は復旧坑群に切られずに完結し、か

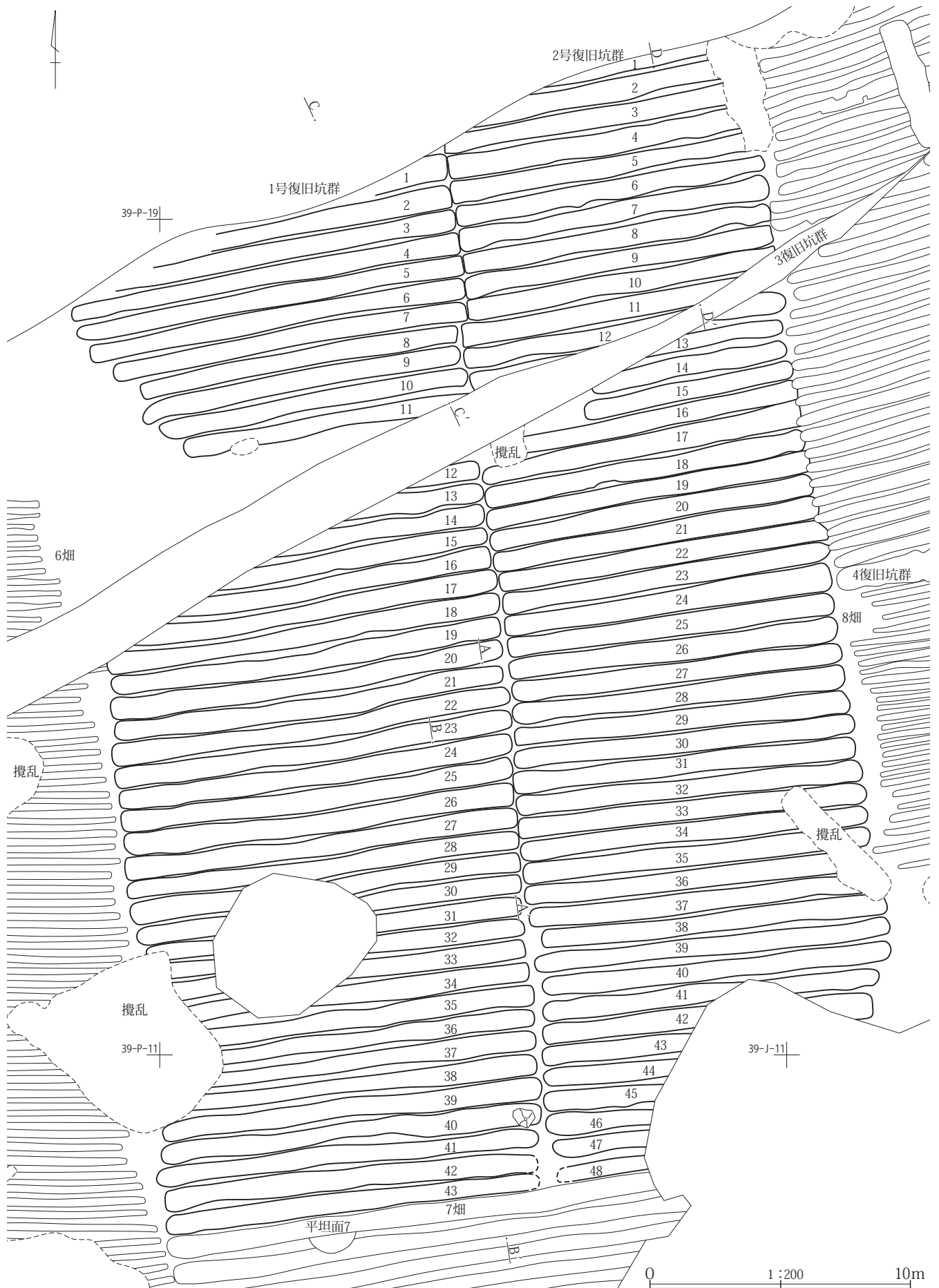
つ畝間溝の方向と復旧坑の方向がほぼ等しい。ただし、この部分の復旧坑群南辺は第10区画3号畑の北端の畝間溝と平行して接するように、1号復旧坑群と2号復旧坑群をつなぐかのような長い復旧坑が掘られるように表現されており、かつこれが平坦面7のちょうど半分ほどを切っている。10区画3号畑は西に接する同区画2号畑とは畝幅が異なっているので、復旧坑が破壊した泥流下畑とは異なる地割りを構成していたものと考えられる。こうしたことから、1号復旧坑群は第10区画畑の地割りと畝方向を踏襲しつつ形成されたものと思われる。3号復旧坑群が南にある10区画4号畑に達しないのも、4号畑が4号復旧坑群を介して以北とは異なる地割りに属していたことによるものであろう。一方、5号、7号復旧坑群部分では溝間に残った痕跡から泥流下面畑と復旧坑の方向が大きく異なることが観取される。また、同じく第10区画5号畑の上面に当たってこの畑を切っている5号復旧坑群と6号復旧坑群は、幅も、長軸方位も異なる。



第13図 第1面遺構位置図



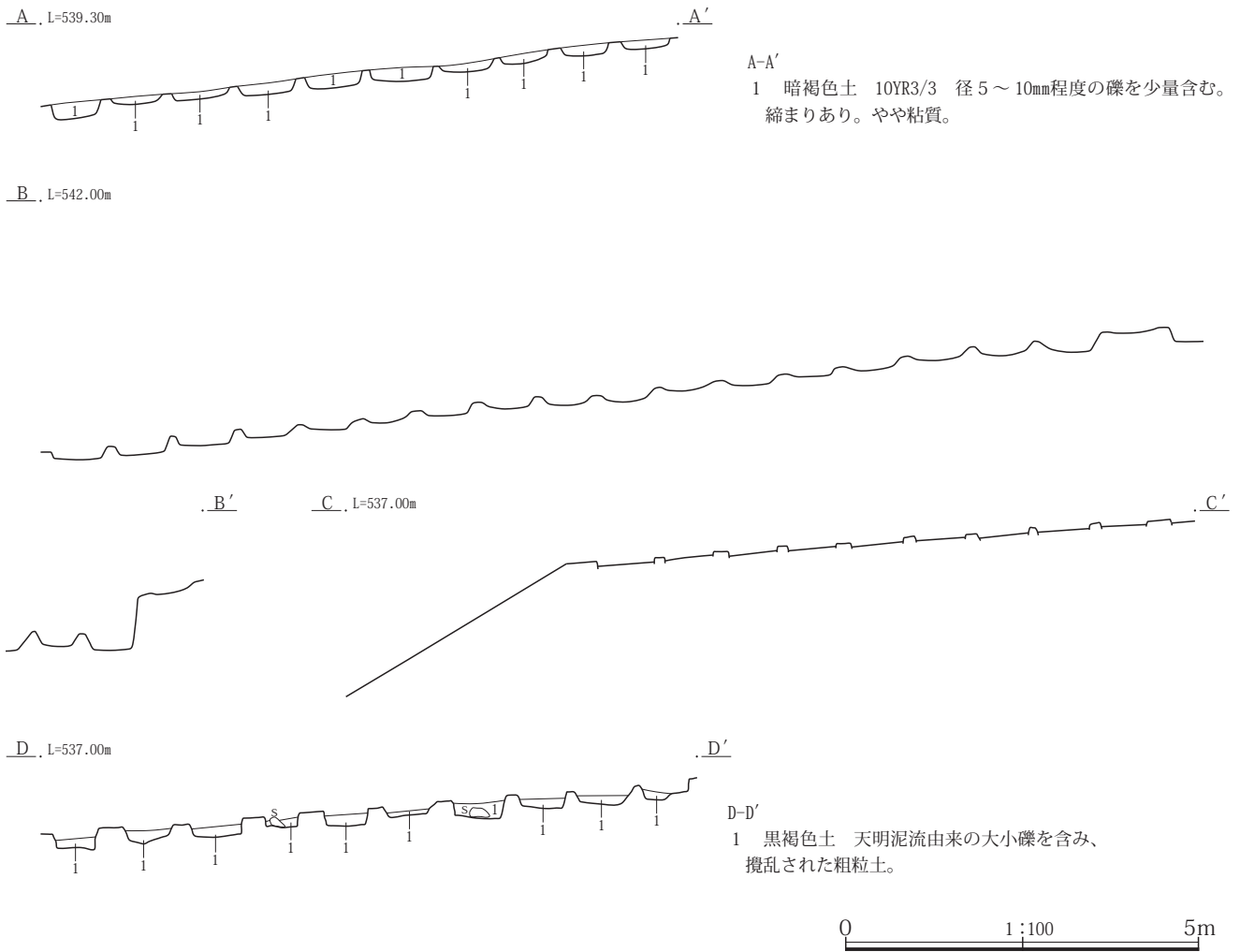
第14図 復旧坑位置図



第15図 1号・2号復旧坑群



第2章 調査された遺構と遺物



第16図 1号・2号復旧坑群断面図・高低図

ここでは泥流下地割りと復旧坑群が必ずしも一致しない。比較的狭い範囲でありながら、復旧坑のあり方には差違があり、復旧坑掘削の方法や手順、作業の単位や労働力編成に何らかの違いがあったものとも想定される。

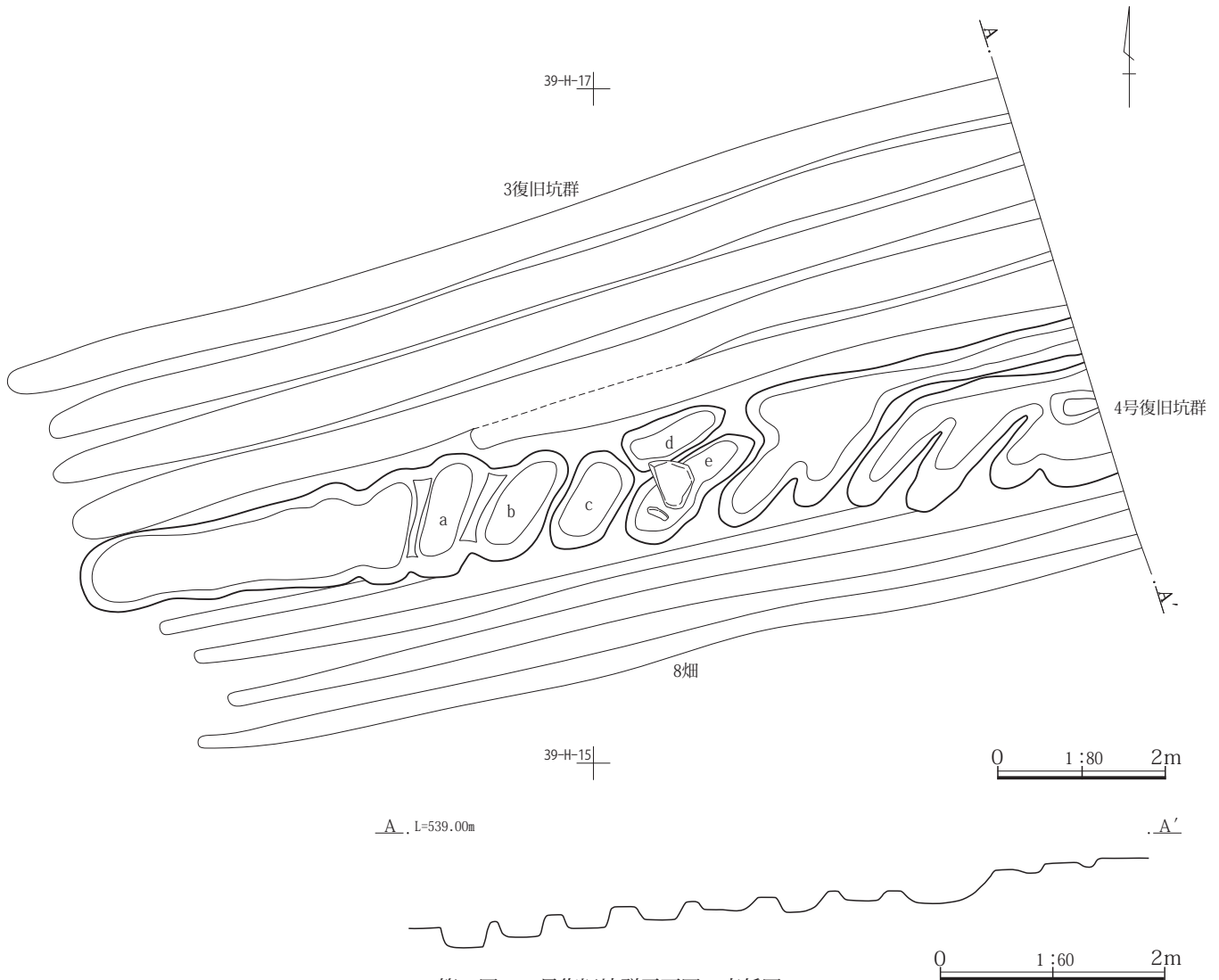
**1号復旧坑群** 39-L~P-9~23グリッドにある。平成27年度発掘区と29年度発掘区との境界が北部にあって一部明瞭さを欠くが、南北40.6m間に、長軸方位をN-79~85°-E前後とほぼ東西に置く44条の復旧坑が掘られている。東西の最大幅は15.45m。最南端の44号復旧坑は2号復旧坑群に連続し、東部が攪乱に切られて全景は不明であるが残存長は19mを越える。西辺は10区画2号畑に接するが、同畑の畝間溝はこの復旧坑群に切られずに完結する。東は2号復旧坑群と接する。1号復旧坑群の各復旧坑の東端と2号復旧坑の各復旧坑西端がほぼ接しているが、切り合わない。北辺は崖線に達して確認できなくなる。南辺は44号復旧坑で10区画3号畑と

画されることになるが、44号復旧坑は12号平坦面の北半を切る。比較的残りの良い復旧坑の平均値で、長15.45m、幅0.82mであり、想像をたくましくすれば、掘り込み上面で幅3尺(90cm)の標準形が意識されていたものかもしれない。泥流下の旧地表面から15~35cmほどの深さまで掘り込まれており、断面形状は上部がやや開いた箱形ないし鍋形で、攪乱された泥流で埋まっている。下位の畑痕跡は認められない。

**2号復旧坑群** 39-I~L-10~20グリッドにある。平成27年度発掘区と29年度発掘区との境界が北部にあるが、各復旧坑の連続性は確認されている。南北43.4m間に、長軸方位をN-82°-E前後とほぼ東西に置く48条の復旧坑が掘られている。東西の最大幅は13.6m。西辺は1号復旧坑群と接するが切り合わない。東辺は北部が3号・4号復旧坑群と接し、南部は第10区画4号畑とやや間隔を置いて接する。写真を見ると2号復旧坑群と3号



第17図 3号・4号復旧坑群



第18図 4号復旧坑群平面図・高低図

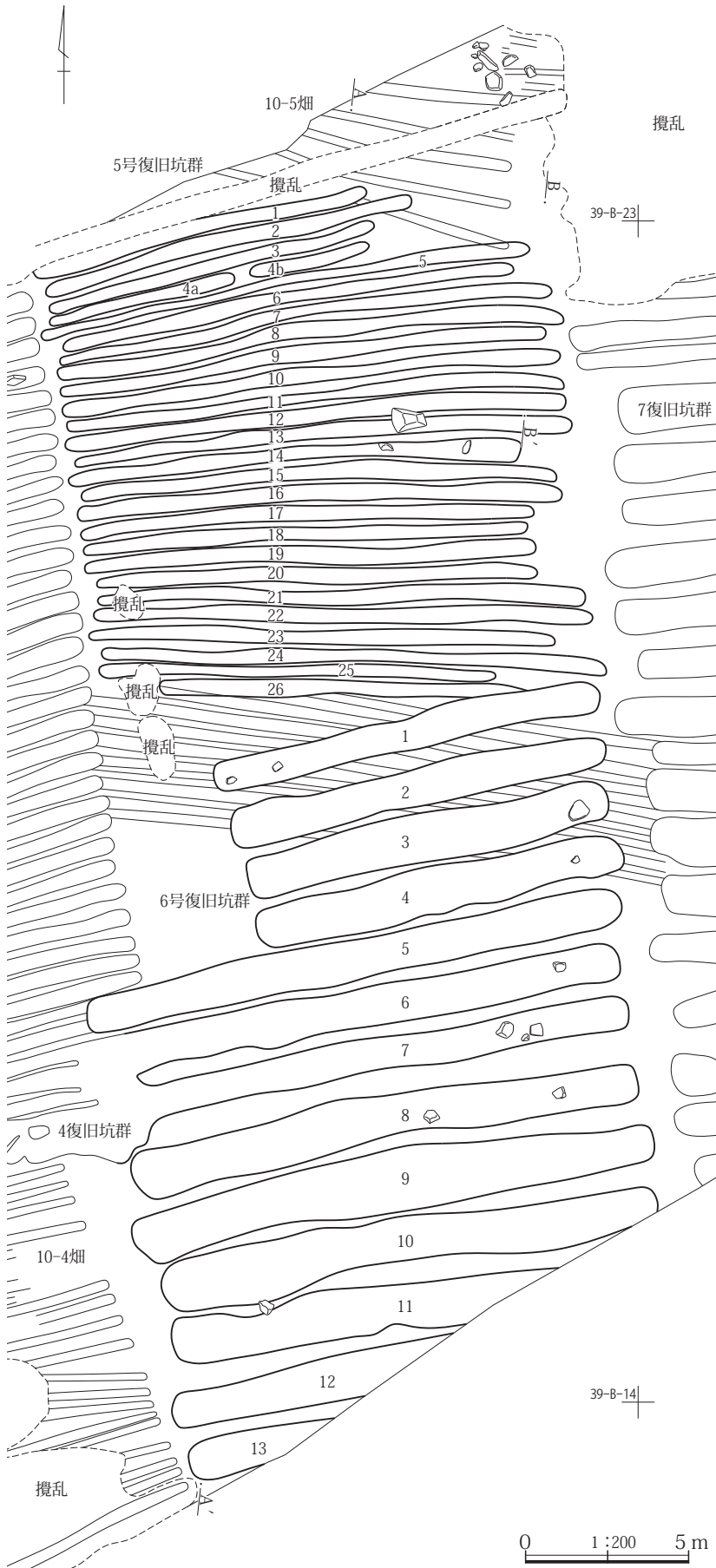
復旧坑群の間には小さな段差があって、相互の切り合いを確認することができないが、図では2号復旧坑群35号～46号復旧坑が2号復旧坑群15号～23号復旧坑を切るように表現される。南辺は過半が発掘区外となるが、西部では西から連続する1号復旧坑群44号復旧坑に画される。北辺は崖線に達して確認できなくなる。比較的残りの良い復旧坑の平均値で、長12.74m、幅0.83mを測る。泥流下の旧地表面から10～27cmほどの深さまで掘り込まれており、断面形状は上部がやや開いた浅い箱形。攪乱された泥流で埋まっている。1号復旧坑群よりやや短いものの、規模、形状、方位ともによく似ている。下位の畑痕跡は認められない。

**3号復旧坑群** 39-E～I-15～22グリッドにある。平成27年度発掘区と29年度発掘区との境界が北部にあるが、各復旧坑の連続性はほぼ確認されている。南北

23.85m間に、長軸方位をN-73°-E前後とほぼ東西に置く47条の復旧坑が掘られている。東西の最大幅は16.4m。西辺は2号復旧坑群と接し、前述の通り、35号～46号復旧坑が2号復旧坑群15号～23号復旧坑を切るとされる。東辺は北部が5号復旧坑と切り合わずに接する。南部では6号復旧坑群と接する。6号復旧坑群1号～4号復旧坑は短いためやや間隔を置くが、6号復旧坑群5号～7号復旧坑は3号復旧坑群46号、47a・b号復旧坑を切る。南辺は4号復旧坑群と接する。47号復旧坑は南端の47b復旧坑とその西半を切る47a復旧坑が重複するが、ともに4号復旧坑群とは切り合わない。北辺は崖線に達して確認できなくなる。比較的残りの良い復旧坑の平均値で、長16.4m、幅0.52mを測る。泥流下の旧地表面から11～25cmほどの深さまで掘り込まれている。断面形状は上部が開いた浅い逆台形。覆土の記載を

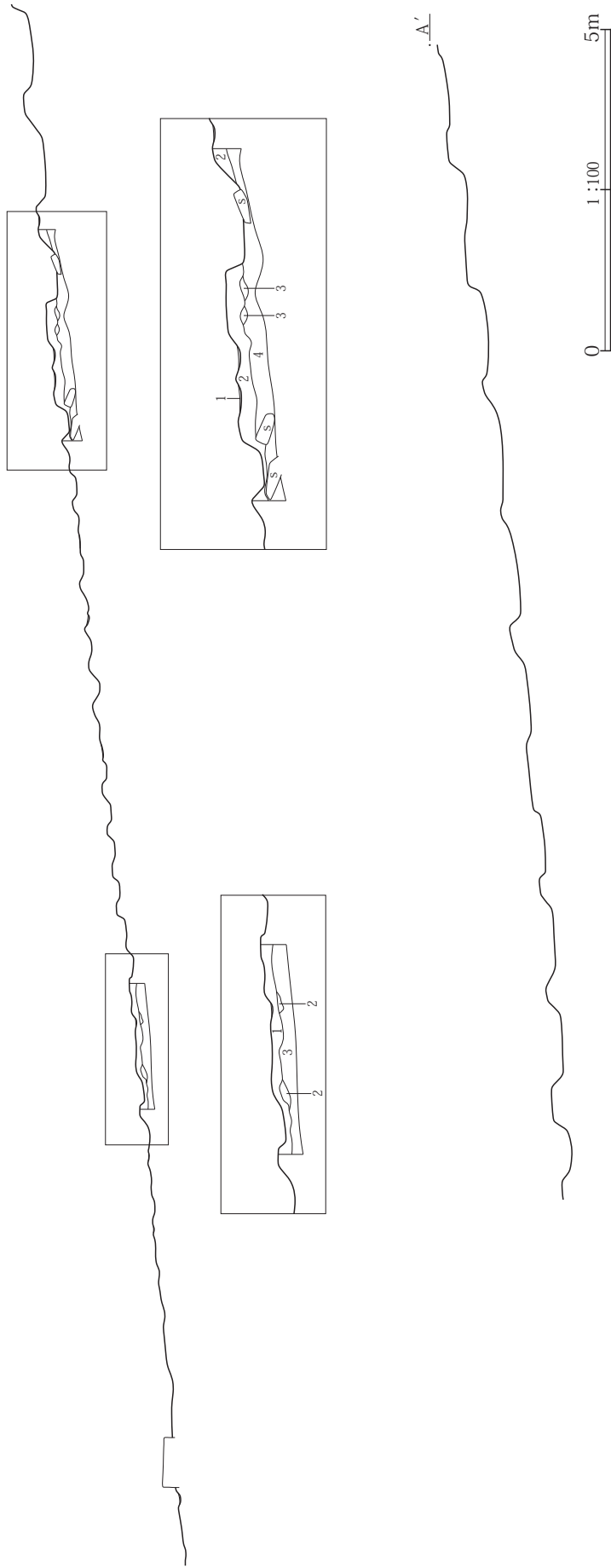
欠く。1号・2号復旧坑群とは角度が異なり、幅が狭い。上端幅2尺が意識されたものとも思われる。

**4号復旧坑群** 平成27年度発掘区2区と3区の境界にあって、3区側でのみ確認されている。39-F~I-15・16グリッドにある。他の復旧坑群とは異なり、南北方向に長軸を持つ短い土坑状凹地が東西に連続する。西部では土坑状凹地の単位がはっきりしなくなり、連続して東西に長い溝状の凹地を形成するように見える。発掘区界から西へ12.15m延びる。幅は西部の溝状部で0.88m、グリッドGライン部分で1.85mほどある。中央部の輪郭が明瞭な凹地をa~eとして計測値を示した。西は2号復旧坑群に接し、東は発掘区界に切られて以東が把握されない。北は3号復旧坑群に接する。南は10区画4号畑の最北部の畝間溝を切る。断面形や覆土に関する記録を欠くが、調査時点で復旧坑と判断されているため、天明泥流が入っていたものと思われる。編集者として調査時点での所見を尊重すべきであるが、他の復旧坑とは全く異なる形状には違和感を感じざるを得ない。10区画4号畑北端と3号復旧坑部分南端の天明泥流下地表面には4号復旧坑群を挟んで20cmほどの段差が認められる。また、4号復旧坑群東部で天明泥流下面における538.4mの等高線が大きく北にはらみだして、ここで地形変換があったことが示される。また、3号復旧坑群が10区画4号畑に及んでいないことから見て、4号復旧坑群が地境部にあったことも想定される。これらの状況と遺構の形状を併せると、4号復旧坑群は復旧坑としての機能を果たしたものではなく、地境の石列が泥流によって引きはがされ、その空隙を泥流が充填したものと考えられる事も可能だろう。復旧坑は地表切削の痕跡、石列の痕跡は圧迫・圧縮によるもので両者は全く異なるが、整理段階の所見とし



第19図 5号・6号復旧坑群

A. L=5339.90m



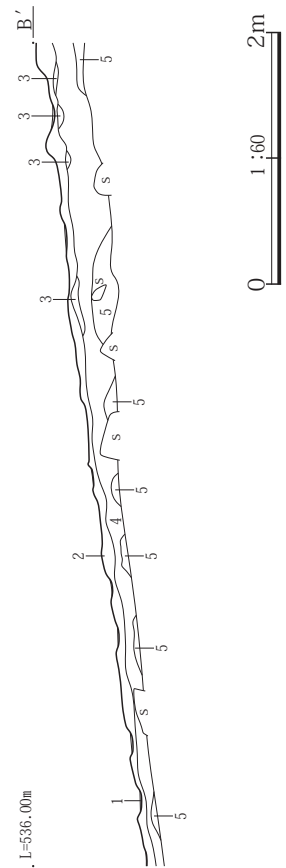
A-A'

- 1 AS-A軽石
- 2 褐色土 10YR4/4 径10～15mm程度の礫を少量含む。硬く縮まる。
- 3 黄褐色土 10YR5/6 黄色粒を微量含む。もろい。粘質。
- 4 黒褐色土 10YR3/2 径2～5mm程度の礫を少量含む。縮まりあり。やや粘性。

B-B'

- 1 AS-A軽石
- 2 にふい褐色土 10YR4/3 白色粒子を微量含む。径5～10mm程度の礫を含む。縮まりあり。やや粘質。
- 3 黄褐色土 10YR5/6 径10mm程度の礫を含む。縮まりあり。粘性あり。
- 4 暗褐色土 10YR3/3 径5～15mm程度の礫を含む。縮まりあり。やや粘質。
- 5 暗褐色土 10YR3/3 白色粒子を少量含む。ロームブロックを含む。縮まりあり。粘性あり。

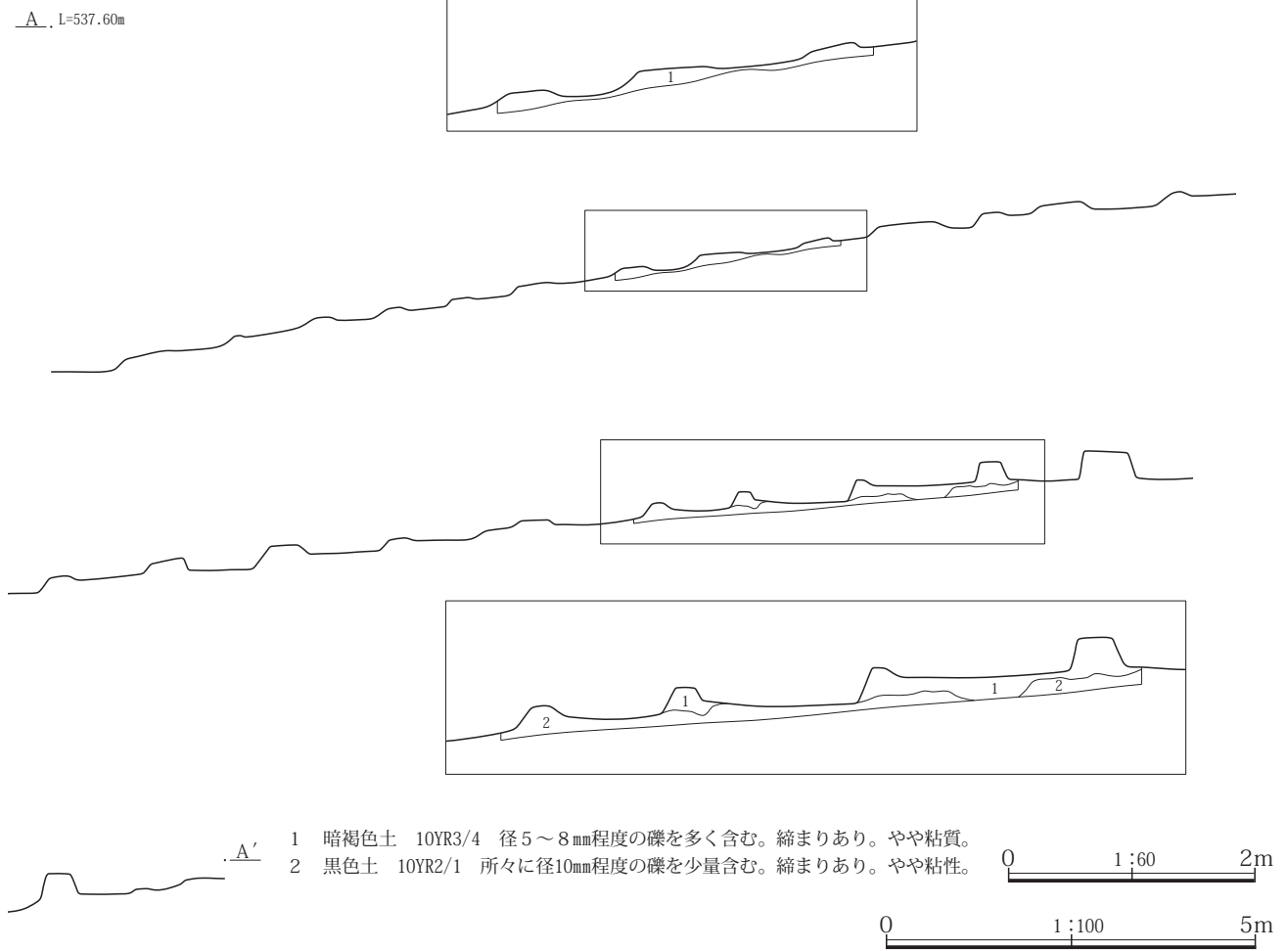
B. L=5336.00m



第20図 5号・6号復旧坑群断面図・高低図



第21図 7号・8号・9号復旧坑群



第22図 7号・8号復旧坑群断面図・高低図

て示しておく。

**5号復旧坑群** 39-B～F-19～23グリッドにある。南北15.35m間に、長軸方位をN-85°-E前後とほぼ東西に置く26条の復旧坑が掘られている。東西の最大幅は16.5m。西辺は3号復旧坑群と接するが切り合わない。東辺は不揃いで、それぞれの復旧坑に長短があり、7号・8号復旧坑群とやや間隔を置いて接する。南辺は6号復旧坑群と接するが、長軸方位が異なるため三角形の空白域ができている。北辺は攪乱されているが、攪乱の北側には復旧坑が見られず、崖線に達せずに完結するものと思われる。各復旧坑の長さは10.2～16.5m、幅0.4～0.75mで、平均0.52mは3号復旧坑群に近い。泥流下の旧地表面から6～18cmほどの深さまで掘り込まれている。断面形状は上部が開いた浅い逆台形。覆土の記載を欠く。10区画5号畑があって、復旧坑間に残された旧地表面や6号～8号復旧坑群との間でその痕跡が確認できる。畑の畝間溝方向はN-97～105°-Eで復旧坑の長軸方位と

は一致しない。復旧坑の掘削範囲、方位ともに下位の畑とは一致しない。

**6号復旧坑群** 39-A～F-13～19グリッドにある。南北22.65m間に、長軸方位をN-80°-E前後とほぼ東西に置く13条の復旧坑が掘られている。東辺が揃うが、北部4条は11.2～12mと短く、南部で計測可能な6条は15.3～16.6mと長い。東辺は8号復旧坑群とやや間隔を置いて接する。西辺は北部4条は3号復旧坑との間に3.5mほどの空白域を持つが、5号復旧坑は3号復旧坑46号復旧坑を切るように表現される。6号・7号復旧坑は西端が開放され、7号復旧坑西端は4号復旧坑群と連続するように表現される。南辺は発掘区外となる。北辺は三角形の空白域を持ちつつ、5号復旧坑群と接する。各復旧坑の幅は1.1～1.95mと幅広で、8号復旧坑群に近い。上記にならえば4～7尺の標準形が考えられることになるが、7号復旧坑群4号・6号復旧坑のように2単位が並列して掘り込まれたものかもしれない。泥流下

の旧地表面から10～30cmほどの深さまで掘り込まれているものらしい。断面形状は上部が開いた浅い逆台形ないし皿形。覆土の記載を欠く。北部に10区画5号畑があって、復旧坑間に残された旧地表面や5号・8号復旧坑群との間でその痕跡が確認できる。5号復旧坑群とは長軸方位が異なるが、やはり畑の畝間溝方向とは一致しない。

**7号復旧坑群** 38-U～39-B-22～25グリッドにある。南北12.6m間に長軸方位をN-85～90°-E前後とほぼ東西に置く10条の復旧坑が掘られている。地形の制約を受けて、南辺を下底とする台形状をなして、底辺に当たる最長の10号復旧坑の長は25.3mある。北西部が大きく攪乱されているが、南西隅の状況から見ると西辺は5号復旧坑群と切り合わずに接する。東辺は崖線で画される。南辺は8号・9号復旧坑群と接する。北辺は崖線に至る。北部の1号～3号復旧坑は幅0.95～1.2mと他に比して広い。4号復旧坑は東端でa・b2条が連続し、6号・7号復旧坑も連続しないものの7号復旧坑西端が6号復旧坑と接するように幅広になる。5号および8号～10号は幅0.75～0.83mとやや狭い。泥流下の旧地表面からの掘り込み深さは10cmほどと浅く、断面形状は上部が開いた浅い皿形。覆土の記載を欠く。10区画6号畑があって、復旧坑間に残された旧地表面でその痕跡が確認できる。畑の畝間溝方向はN-98～107°-Eで復旧坑の長軸方位とは一致しない。また、この畑は9号復旧坑群下でも確認されており、復旧坑の掘削範囲、方位ともに下位の畑とは一致しない。

**8号復旧坑群** 38-W～39-B-15～22グリッドにある。南北25.5m間に長軸方位をN-86°-E前後とほぼ東西に置く18条の復旧坑が掘られている。東西の最大幅は北辺にあたる1号復旧坑の16.55mであるが、後述の通りこの復旧坑は7号復旧坑群の一部をなすかもしれない。これを除くと8号復旧坑の16.5mが最長となる。西辺は5号・6号復旧坑群とやや間隔を置いて接し、東辺は9号復旧坑群と接する。南辺は発掘区外となるが、3号復旧坑以南の5条は4.7～7.4mと短く、長軸方位も乱れていて、遺構の性格あるいは形成形態が他とは異なる可能性がある。地境に近いことを示すものかもしれない。北辺は7号復旧坑群と接する。1号復旧坑は2号復旧坑以南と揃う長さで、9号復旧坑1号復旧坑と対応するところからこの群に属するものとしたが、幅が0.6mしか

く、以南の平均1.39mに比して狭く、どちらかといえば7号復旧坑群に近い事を見ると、この群と連続性を持つものかもしれない。9号復旧坑は中間で途切れ、10号復旧坑と重複するかのような形状を示す。16号復旧坑も西部で途切れている。14号復旧坑はN-72°-Eと他とは異なる長軸方位を示し、13号復旧坑に切られる。泥流下の旧地表面から5cm前後の深さしかない。断面形状は上部が開いた浅い皿形。覆土の記載を欠く。西端部が10区画5号畑を切るが、畑の畝間溝方向はN-97°-E前後で、復旧坑の長軸方位とは一致しない。

**9号復旧坑群** 38-S～W-17～22グリッドにある。南北19.1m間に長軸方位をN-86°-E前後とほぼ東西に置く19条の復旧坑が掘られている。北部の1号～6号復旧坑までは0.65～0.9mと短く、以南は11.45～13m以上を測る。西辺は8号復旧坑群と接し、東辺北部は崖線に達する。東辺南部は攪乱されているが、端部が確認できる7号・8号復旧坑では11区画1号畑に接するがこれを切らない。北辺は7号復旧坑群に接する。南辺は発掘区外となる。北辺とした1号復旧坑は8号復旧坑群1号復旧坑と同様に7号復旧坑に連続する可能性がある。各復旧坑の幅は0.65～1.0mで、8号復旧坑群より狭く、7号復旧坑群に近い。11号復旧坑は中間で途切れる。深さ、断面形状に関する記載が乏しいが、深さ14cmほどで断面形は浅い鍋状を呈する。覆土に関する記載はない。下位に10区画6号畑があって、復旧坑間に残された旧地表面でその痕跡が確認できる。直近の畑畝間溝方向はN-107°-Eで、復旧坑の長軸方位とは一致しない。

### 第3項 1号炭窯

40-L・M-16・17グリッドにある。標高519.5～521.1mの北西向き傾斜面を掘り込んで作られた石組みの炭窯である。焚き口を北西に、煙道を南東に持ち、主軸方位はN-30°-Wを示す。卵形の窯体に短い焚き口を設け、奥壁底部の煙道口から急傾斜で煙道を立ち上げる。焚き口から煙道先端までの全長3.24m、窯体長1.98m、窯体最大幅1.48m、煙道水平長0.6mである。焚き口、窯体、煙道ともにすべて石組みである。天井は残っておらず、覆土中にその残痕かと思われる礫が含まれる。焚き口前には斜面に沿って北へ2.2m、最大幅3.8mほどの範囲で炭化物の広がりが見られる。



第2章 調査された遺構と遺物

焚き口は卵形の頂部に設けられ、幅0.56m、長0.48mで、角礫が4段に積まれている。門石間の底面には石が敷かれる。窯体は地山を掘り割った中に角礫、亜角礫が持ち送り気味に積まれており、最大で9石が数えられる。床面から残存石頂部までは1.5mほどある。壁石は火を受けて赤化している。底面には平坦な石が敷き詰められて均平に仕上げられており、焚き口側と奥壁部の高低差はほとんどない。断面図には表現されていないが、写真資料では床面が赤化していて、中央部がやや窪んで炭化物の集中が見られる。除湿のために木炭を設置するなど

の造作がなされていた可能性がある。煙道は平板な礫を縦位で用いており、煙道口は幅10cm、高さ30cmほどである。煙道の立ち上がり角は20°で、煙道口と煙道上端までの水平距離0.6m、窯体底部と煙道上端までの高低差1.68m、煙道の延長1.84mである。

石組みで小型の窯であるところから、白炭の製造が行われた窯であったものと思われる。操業時期を示す遺物等はないが、天明泥流を切って煙道が構築されており、これ以後の所産である。



### 第3節 第2面の調査

#### 第1項 第2面の概要

本節では天明三(1783)年に起こった浅間山噴火による火山堆積物下の面で確認された遺構を扱う。天明浅間山噴火の火山活動は新暦の5月から8月のクライマックスを経て9月頃まで、およそ5か月間に及ぶ長いものであった。この間に様々なイベントが断続的に生じており、本遺跡で顕著に見られる堆積物であるAs-A軽石降下と天明泥流の到達にも時間差がある事が知られている。平成14年度調査の際には泥流到達前にAs-A軽石を畑土壤への鋤き込んだ痕跡が捉えられている。また、この時の調査では噴火活動のごく初期に噴出されたものと思われる火山灰の薄層を畑土壤中で確認していて、降灰後、軽石降下前に行われた耕作行動も把握されている。ここではこれらを併せて扱い、記載上の必要に応じてそれぞれの記

載を行うこととする。

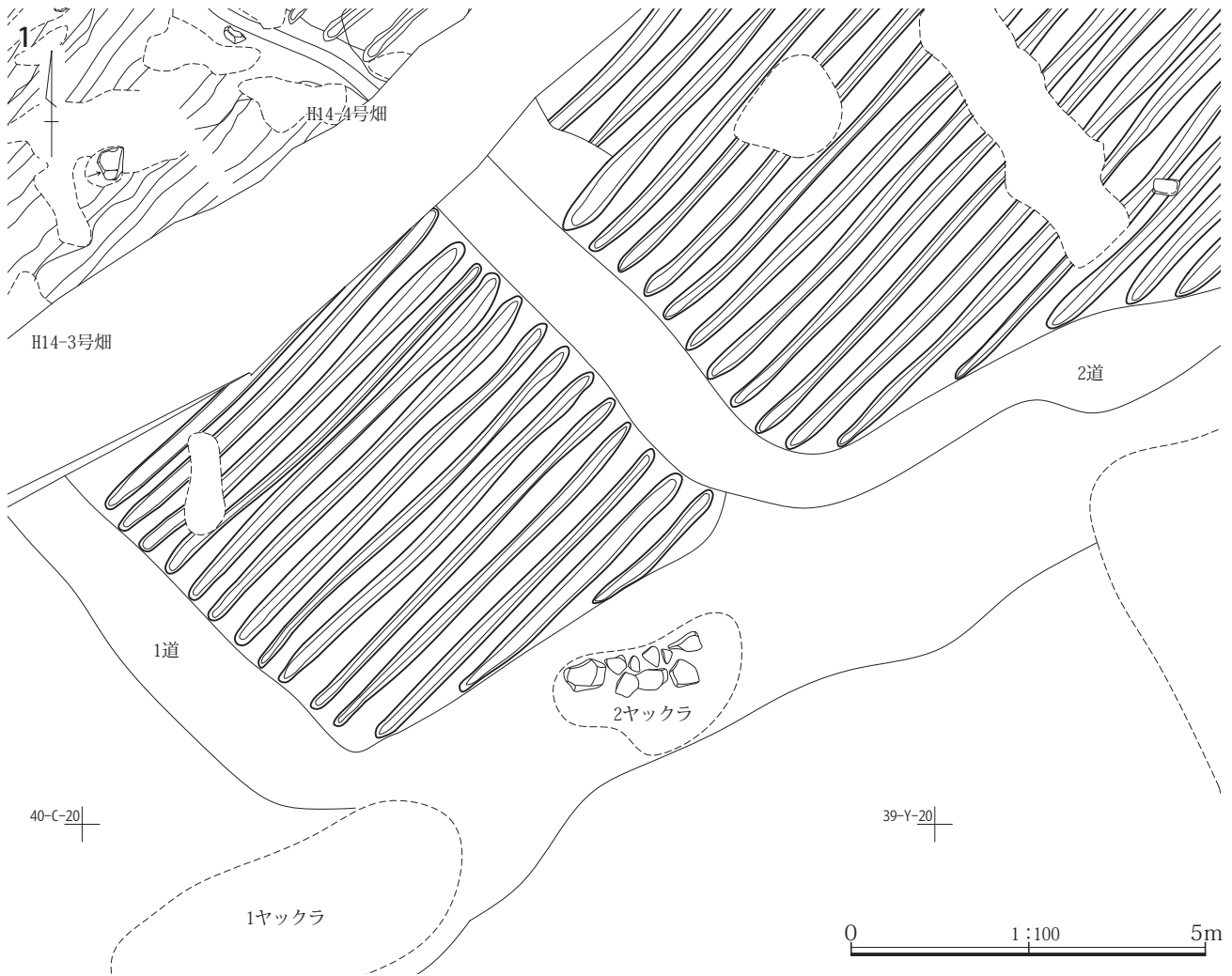
第2面はこの地域の遺跡を特徴付けるものであり、本遺跡でも主要調査遺構の多くがこの面に含まれる。発掘区の上段では前節で見た復旧坑群に攪乱された部分も少なくないものの、全体として天明泥流の流下による削剥が比較的少なく、比較的残りの良い遺構が発掘区全面に広がっている。発掘区内の緩傾斜部では、畝間溝内にAs-A軽石が堆積した状態で確認される畑が広がる。畑区画は地形に従って上下段に分かれ、また道や石垣で区切られる。畑内には所々に円形の平坦面があり、また上下段を分ける段の下部に沿って開墾時や耕作中に出た礫を集積したヤックラが点々と作られている。畑は畝間溝の間隔に広狭二種がある。発掘区南東端では炭窯の残痕が確認されている。発掘した遺構は畑11区画29面、平坦面12か所、ヤックラ10か所、道12条、石垣3か所、溝1条、炭窯1基である。畑の各区画については、1/200図を基本とし、特に注意すべき情報を有する部分および区間については適宜1/100・1/80・1/60等の図を用いて示した。



第24図 第2面 畑区画図



第25図 第2面 第1・第2区画畑



第26図 第2面 第1・第2区画畑部分図1

なお、土層断面図は1/60を基本として、分層の状況に応じて縮尺を変更している。平面図の縮尺とは必ずしも対応しない場合がある。

畑面にある「平坦面」については、畑図中に位置を示したほか、各平坦面の個別記載を別項で行い、1/60図を示した。畑を区画する道、溝、石垣等についても1/200・1/100図を基本とし、要所を1/60から1/80図で個別に記載した。畑を中心とする遺構の性格上、使用や設置の状況を示すという意味での遺構に伴う遺物は無いため、遺物については節末にまとめた。

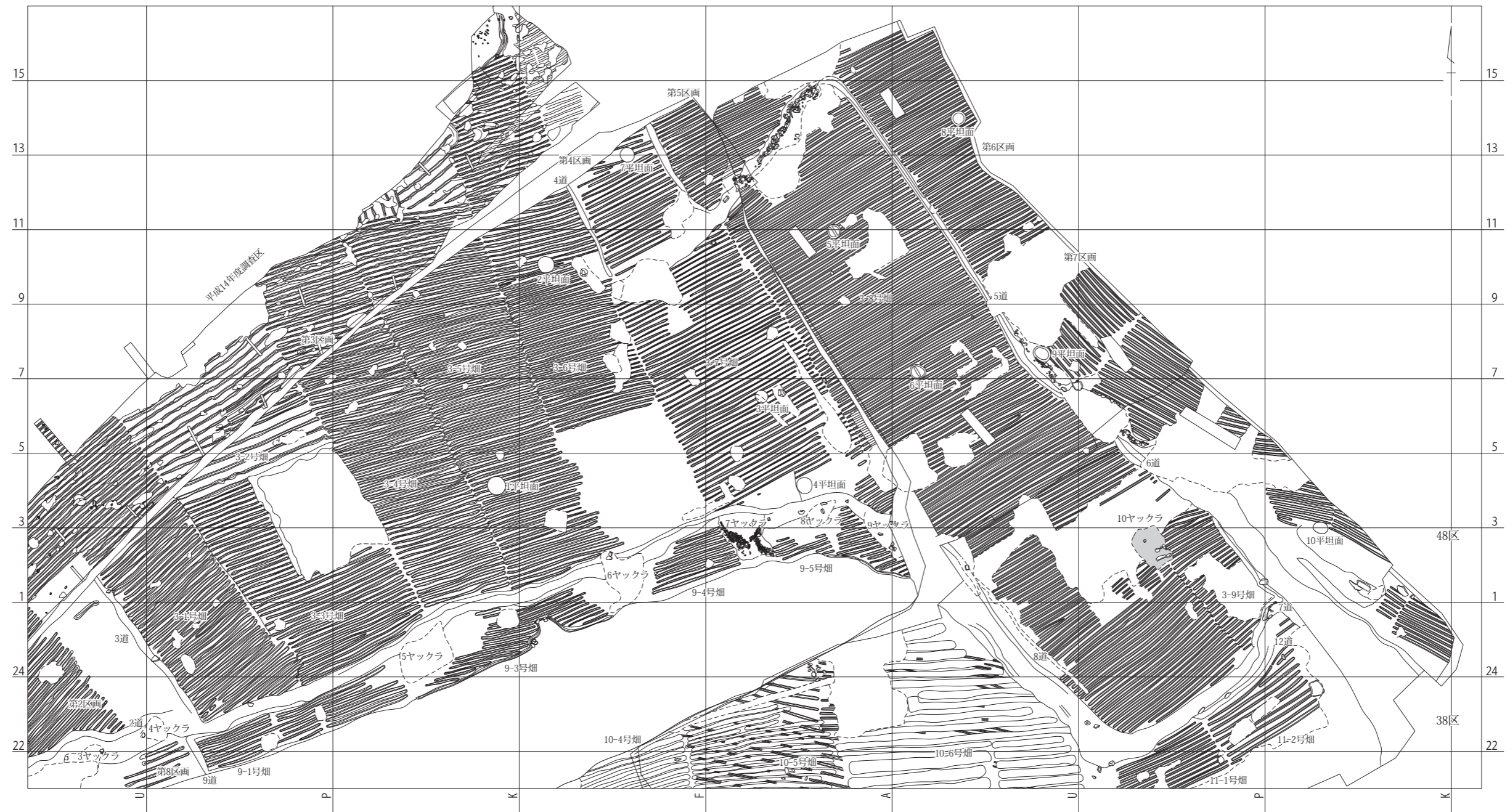
## 第2項 畑

天明泥流流下後の復旧坑に破壊された部分もあるが、緩傾斜部のほぼ全面に畑が作られていることが確認されている。畑は、畝間溝内にAs-A軽石が堆積した状態で確認される。畑は本来、作付け面である畝が主役たるべき

ではあるが、遺構としての記載は畝を盛り上げ、維持する機能を持って、脇役を演じるべき畝間溝を中心とした図が中心とならざるを得ない。畝間溝と畝間溝の間が畝であり、畝・畝間溝の繰り返しが並列して畝群を形成するという見方になる。これらの畝群は畑は地形に従った段差や道、石垣を境界として区切られる。ここではこれを「区画」とした。畝間溝が、食い違う部分はあるものの、ほぼ端部を突き合わせるように次の畝間溝と直列する場合もある。1号道、2号道に挟まれた第1区画は、区画内が同一方向に揃ったひとまとまりの畝・畝間溝群で完結する。一方第3区画は、3号・8号道と5号～7号道に囲まれた広い領域を占め、その中に、畝間溝の境界によって区分された単位がある。1号～9号畑としたが、これが耕作の基本単位となるものと思われる。本調査では第24図に示した12区画30面の畑が確認され、以下における畑の記載はこの区画を単位として行う。



第27図 第2面 第1・第2区画畑部分図2



0 1 : 500 20m

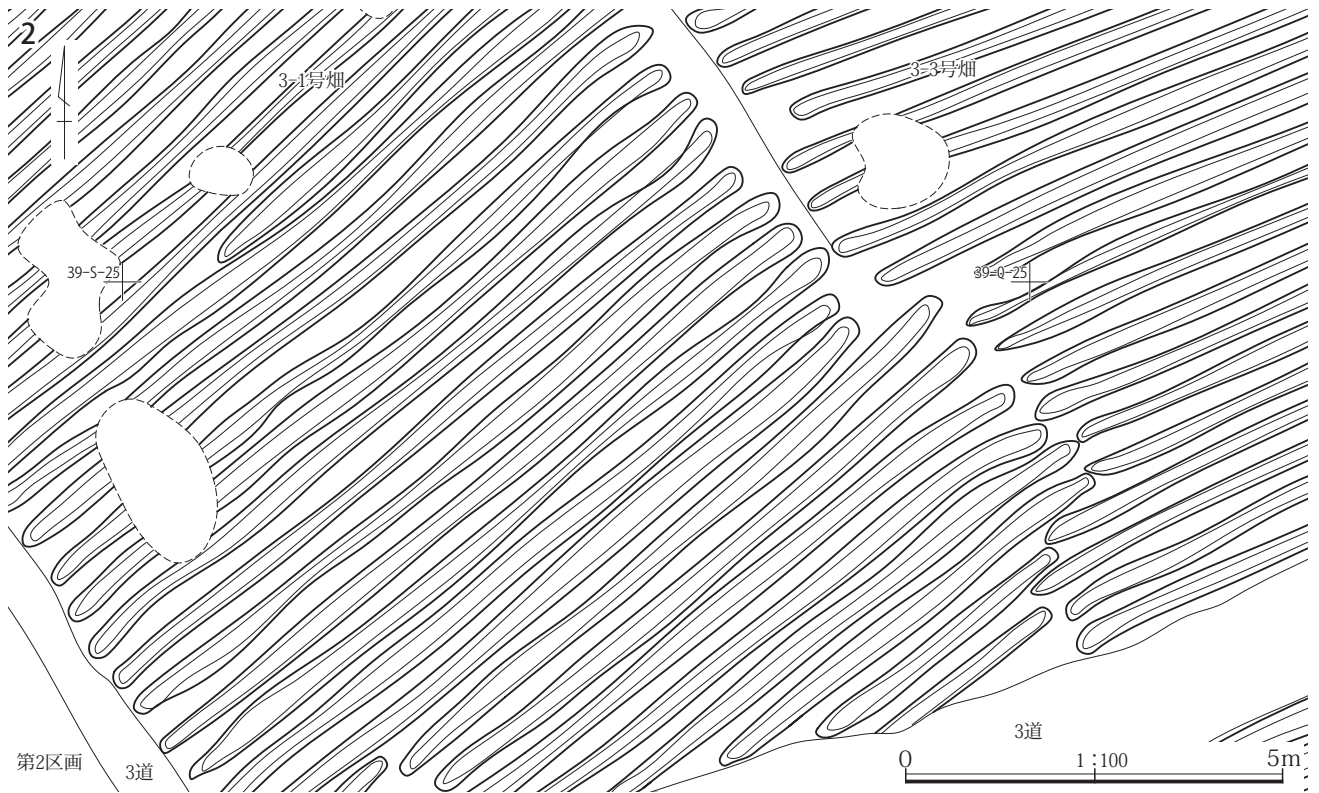
第28図 第2面 第3区画畑



第29図 第2面 第3区画1号畑

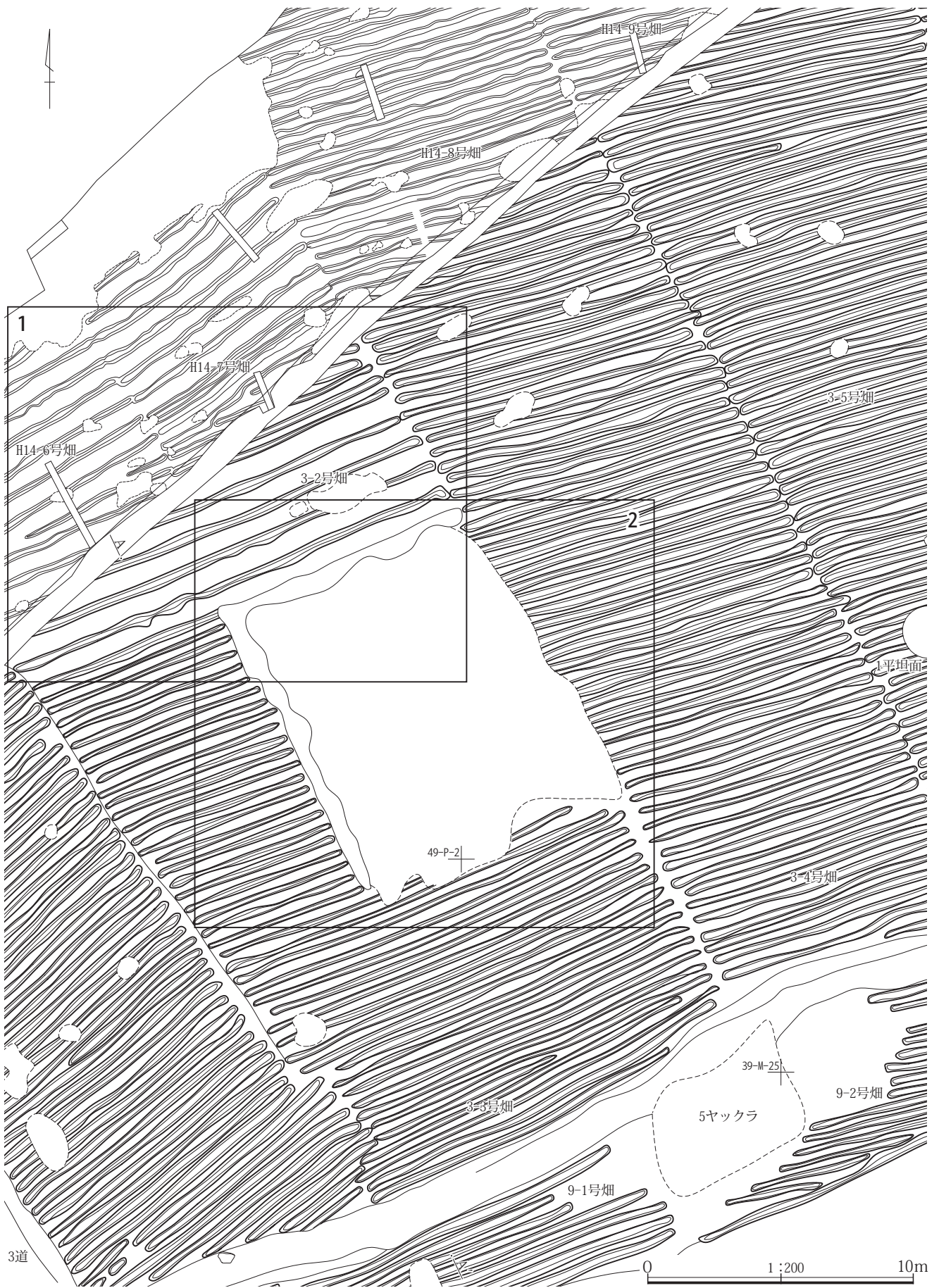


第30図 第2面 第3区画1号畑部分図1



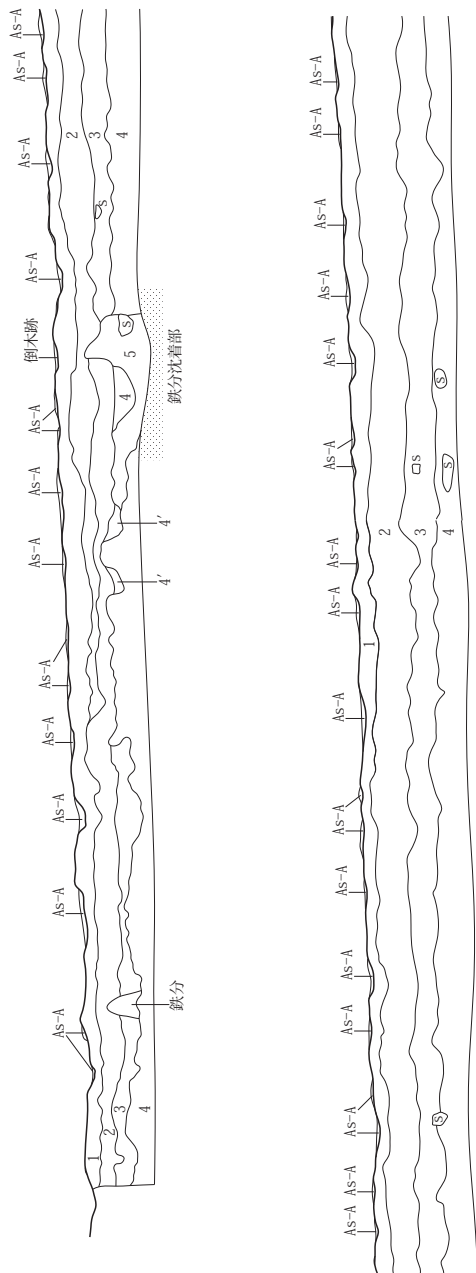
第31図 第2面 第3区画1号畑部分図2





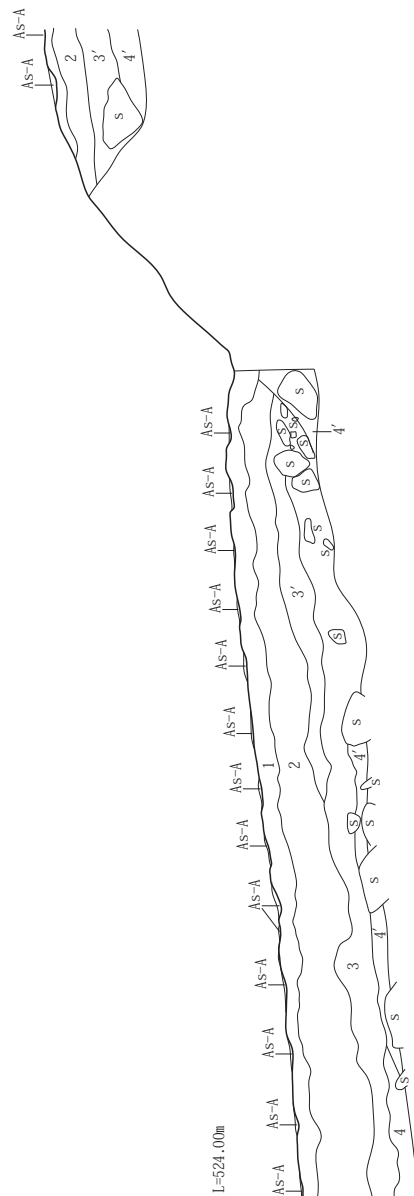
第32図 第2面 第3区画2号・3号・4号畑

A. L=524.00m

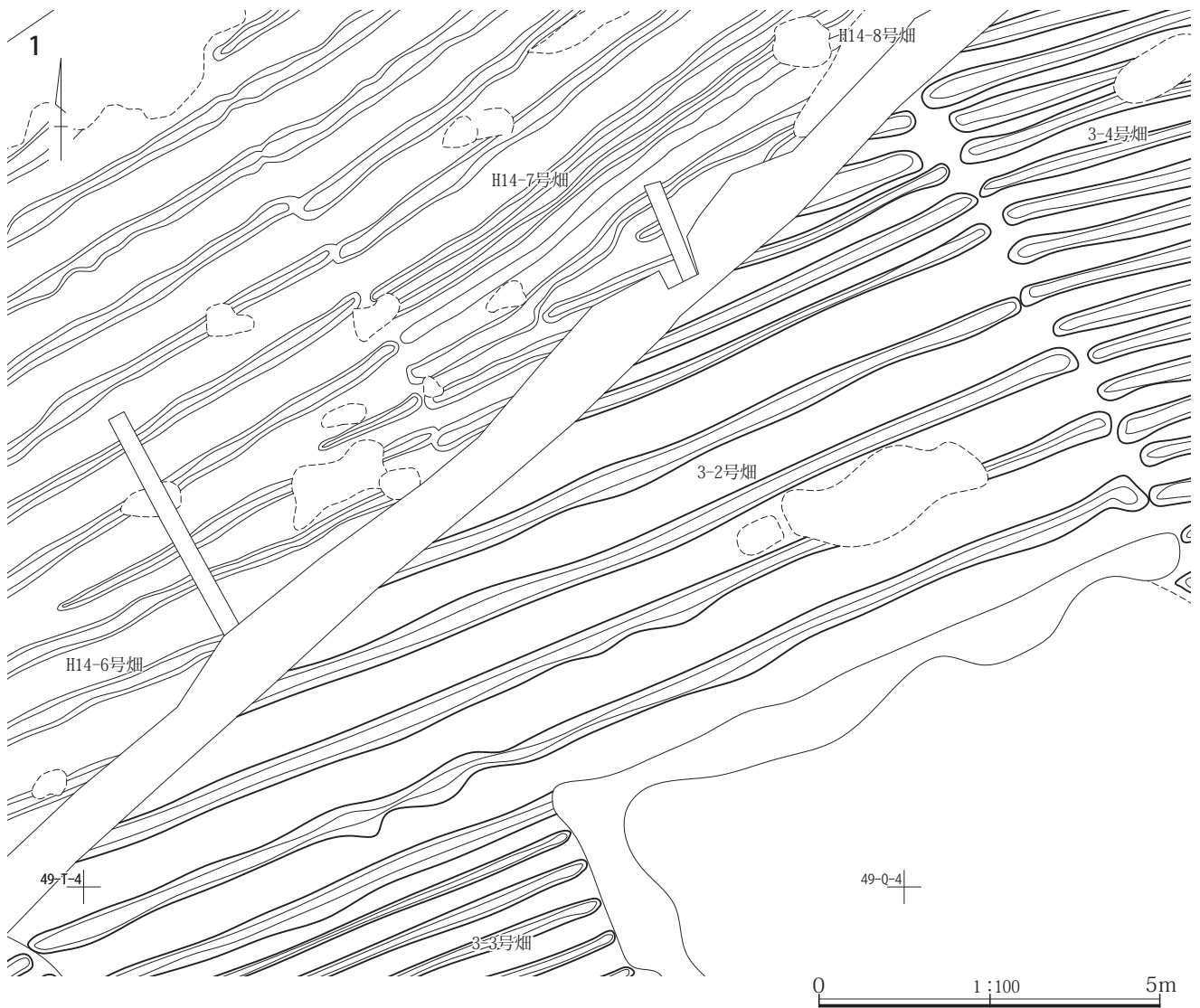


- 1 暗褐色土 7.5YR3/3 砂質。縮まり強い。天明泥流下畑耕作土。
- 2 黒褐色土 7.5YR3/2 数mmから数cmの角礫を含む。1mmほどの大きさの軽石(7.5YR5/6)を5%含む。流入土。
- 3 黒褐色土 5YR3/1 砂質。縮まり強く、粒子細かい。数mmから数cmの角礫を含む。1mmほどの大きさの軽石(7.5YR5/6)を5%含む。川側では軽石が少なく、鉄分の沈着が目立つ。
- 3' 黒褐色土 5YR3/1 砂質。縮まり強く、粒子細かい。数mmから数cmの角礫を3層より多く含む。1mmほどの大きさの軽石(7.5YR5/6)を5%含む。
- 4 褐色土 7.5YR4/3 粘質土。粘り強く、縮まり強い。どこどこに鉄分沈着が見られる。川側に向かうほど礫が少なくなる。
- 4' 褐色土 7.5YR4/3 砂質。縮まり強い。十数cmから数10cmの大型の礫を含む。土層下部に鉄分の沈着(2.5YR5/6)が見られる。
- 5 黒色土 10YR2/1 粘土質土。粘り、縮まり強い。まばらに数cmの角礫を含む。

L=526.00m A'



第33図 第2面 第3区画2号・3号畑・第9区画1号畑断面図



第34図 第2面 第3区画2号・3号・4号畑部分図1

畝・畝間溝は、地形に合わせて東西方向に延びるものが主体であるが、7号畑は南北方向を、第10区画5号・6号畑は北西-南東方向を示す。また、多くの畑は畝間溝-畝間溝の間隔が狭く、密に作られているが、第3区画2号畑は例外的に間隔が広い。平成14年度調査においても第3区画2号畑の北延長部に当たる6号畑が同様であるほか、7-1号畑、10-1・2号畑も間隔の広い畝構成を有していた。

第2区画の東部、第3区画3号畑の北東部、同6号畑の南部では、畝間溝が認められない空白域がある。2区画東部の空白域につながる平成14年度調査部分では、この部分についてAs-A軽石降下後に畝を崩したものと考えられている。今次調査の第3区画6号畑南部の空白部でもAs-A軽石降下後に耕作が行われた事を示す断面観察所

見が得られている。そうすると、これらの部分ではAs-A軽石降下時点で畑としての機能が停止していたものと考えられる。収穫が終わっていた、あるいはAs-A軽石降下という災害によって放棄せざるを得なかった等の状況が想定される。なお、第10区画畑の西部では畑遺構が確認されていないが、この部分の東端、11号道に接して11号平坦面がある事から見ると、同様の状況を想定することもできる。

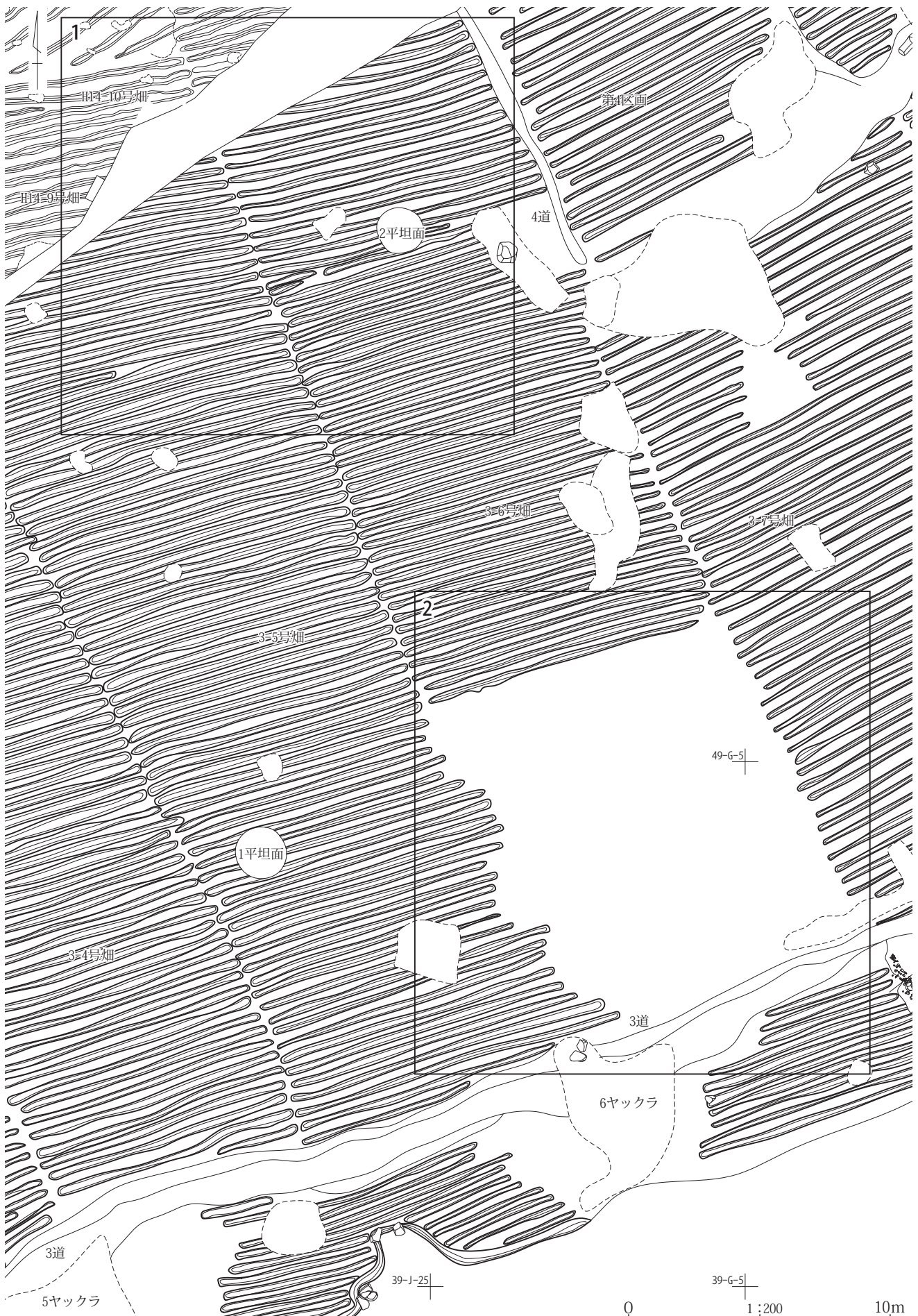
平成14年度の発掘では、畑面の一部に作物由来と想定される植物遺体の痕跡が残されていた。鉄分に置換されて印象化したものであるが、線形の葉身と円形の茎を持ち、葉鞘が茎を抱くように認められることからイネ科であることが想定されている。また、穂が確認できないこと、点播であること、分蘖痕跡が認められないことか



第35図 第2面 第3区画2号・3号・4号畑部分図2

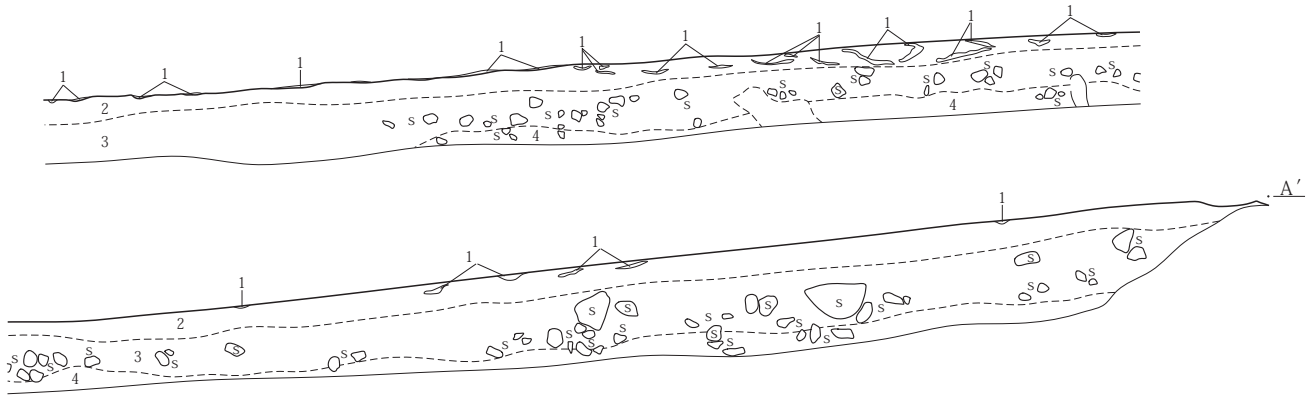
ら、アワ、ヒエが候補に挙げられている。植物痕の分布域に関する記載や、専門家による植物学的な記載、同定がなされておらず、直接的な根拠となり得たであろう植物珪酸体の分析等もなされていないため評価が困難であるが、この場合は、As-A軽石降下により、結実前の作物を放棄した事になる。一方、植物痕跡が認められた畑は、比較的狭い畝・畝間溝が密に形成された部分に当たる。ハツ場ダム地区の泥流下畑に多く認められる形状であり、文献資料や民俗例から見て大麻栽培がなされていたものと考えられることが多い。発掘調査成果から見ても、東宮遺跡などでは建物内で容器に保存された状態で

大麻種子が見つかり、また尾坂遺跡では畑土壌内の埋土にこれが含まれる。本遺跡と類似した状態で植物痕跡が確認された久々戸遺跡では、大麻との断定には至らないものの、植物組織学的な所見により双子葉類で木質構造を持つ草本であり、麻と類似した構造を持つとの所見が得られている。大麻の収穫期は梅雨明け後の7月下旬から8月初であることが多く、この場合は収穫後の大麻畑を後作のために耕作したものと考えることができる。こうしたことから、今後の調査では、同時に埋没した同一形状と判断される畑が異なる作物の栽培圃であるか否かの判断が問われたのであるが、残念ながらこれに対して



第36図 第2面 第3区画5号・6号畑

A, L=525.30m



- 1 As-A軽石
- 2 暗褐色土 7.5YR3/3 砂質。縮まり強い。畑耕作土。
- 3 黒褐色土 5YR3/1 砂質。縮まり強く粒子細かい。数mm～数cmの角礫を含む。1mmほどの大きさの明黄褐色軽石(7.5YR5/6)を5%ほど含む。
- 4 暗褐色土 7.5YR4/3 粘質土。粘り強く、縮まり強い。所々に鉄分の沈着が見られる。川側に向かうほど礫が少なくなる。

0 1:60 2m

第37図 第2面 第3区画5号畑断面図

答えうる調査成果は得られなかった。

(1)第1区画

39～40-Y～B-20～22グリッド 東辺は2号道で画され、第2区画畑が隣接する。西から南にかけて1号道が囲む。1号道以西は泥流による削剥が著しく、畑の存在を捉えられていないが、平成14年度調査においては以西でも畑痕跡の連続が見られている。南辺の1号道を挟んで南側に2号ヤックラがある。北は平成14年度調査3号畑と連続する。この畑は泥流による攪乱を受けているが、全面をAs-A軽石が覆っている状態であるのに、畝・畝間溝の高低差が少ない事が指摘されているが、今次調査範囲は、東西7.2m、南北5.8m、面積36.06㎡だが、平成14年度の3号畑を含めると東西最大長8.8m南北確認長は21.2m、合計面積129.43㎡ある。東西長は他の畑に比して狭い。畝間溝は12条がおおよそN-45°-Eを示して並び、畝間溝間の平均距離は0.48mとなる。平坦面はない。

(2)第2区画

39～40-S～A-21～1グリッド 西部に畝、畝間溝が明確な畑部分があり、東部に畝・畝間溝の記載がない空白部がある。東辺は3号道を介して第3区画1号畑と隣接する。西から南にかけて2号道が囲み、西辺は2号道を挟んで第1区画畑と隣接する。南辺東半は2号道を

挟んで第8区画畑と接する。第8区画畑西部は攪乱されていて不明瞭であるが、第2区画西端には及ばない。2号道を挟んで南辺中央南側に3号ヤックラ、東部に4号ヤックラがある。北は平成14年度発掘区と接する。畑部分は14年度4号畑に連続し、空白部は14年度調査5-3号畑に連続する。

今次調査では3号道が第3区画を囲む道として存在するため、畑部分と空白部を併せて第2区画に含めたが、3号道は平成14年度発掘区には達していない。平成14年度調査の畑区画と併せて考えると、空白部Aは隣接する第3区画1号畑と合わせて5-3号、5-4号畑と連続するものと見ることも可能である。

畑部分は39～40-U～A-21～25グリッド 東辺は空白部に接する。畝間溝の東端は完結している。西辺、南辺は2号道に画される。北は発掘区界を挟んで14年度発掘区4号畑と連続する。14年度4号畑は畝の中央が窪んでいて、両側の畝間溝からの作土掻き上げが行われていたことを示すものと判断されているものである。今次発掘区では東西長13.2m、南北長16.9m、面積149.07㎡。畝間溝は地割りに沿って長短があるが、26条がおおよそN-42°-Eを示して並び、畝間溝間の平均距離は0.65mとなる。なお、平成14年度発掘区を併せると、東西最大長18.4m、南北確認長30.4m、合計面積は390.33㎡あ



第38図 第2面 第3区画5号畑部分図1

る。平成14年度発掘区4号畑南東部に円形の平坦面があるが、今次発掘区内では平坦面は確認されていない。

空白部は39-S～X-39-22～49-1グリッドに掛けてあり、東西長6.6m、南北長19m、面積99.17㎡の範囲で遺構が確認できない部分として表現されている。北部に東西長3.2m、幅0.45mの溝状の凹みがあるのみで、畝、畝間溝等は確認されていない。東は3号道を挟んで第3区画1号畑と隣接する。西は畑部分と接するが、畑部分東端は完結しており、切り合う等の関係は認められていない。南は2号道に画され、この南に3号ヤックラがある。北は平成14年度調査5-3号畑と接する。この畑は

畝や畝間溝が認められていないが、耕土内にAs-A軽石が含まれていて、軽石降下後に畝を崩したものとされている。また、後述の第3区画6号畑でも耕土内にAs-A軽石が塊状に含まれる事が確認されている。今次調査では平面、土層断面ともに観察記載がなく判断できないが、同様の作業痕跡をとどめる畑跡である可能性がある。今次調査の空白部と14年度調査5-3号畑を合わせると、123.41㎡となる。

(3) 第3区画

38-P～49-V-38-22～49-14グリッド 発掘区下段の多くを占める大きな区画である。地形に沿って、東側



第39図 第2面 第3区画5号畑部分図2

が南に張り出してL字状の平面形を呈する。東は5号～7号道と段差によって第7区画畑と画される。西部では西辺から南辺が3号道に囲まれ、第2区画畑、第9、第10区画畑と隣接する。東部では8号道が3号畑に連続して中段斜面下を綴り、西辺と南辺を画する。北辺は西部が平成14年度発掘区に連続し、東部では4号道、1号溝を介して第4、第5区画畑と隣接する。東西最大長131.2m、南北最大長80mの範囲に、畝間溝9群と空白

部2か所が認められた。

**第3区画1号畑** 39・49-P～V-21～3グリッド 東辺は2号・3号畑と接する。南部で両畑の畝間溝が入り組むが、お互いに切り合うことはない。西辺から南辺にかけて3号道が囲む。西は第2区画の空白部と接し、南には第9区画1号畑がある。北は発掘区界を挟んで14年度発掘区5-4号畑と連続する。今次発掘区では東西長12.3m、南北長23.4m、面積247.06㎡。畝間溝は44条が





第40図 第2面 第3区画7号畑

およそN-48～52°-Eを示して並び、畝間溝間の平均距離は0.53mほどとなる。なお、平成14年度発掘区を併せると、南北確認長は37.2m、合計面積は370.87㎡ある。北の平成14年度発掘区に円形平坦面があるが、今次調査範囲には平坦面はない。

**第3区画2号畑** 49-P～T-3～8グリッド 東辺は1号畑、西辺は4号畑と接し、畝間溝端はお互いに切

り合わない。南辺は3号畑及び同畑内の空白部と接する。北は発掘区界を挟んで14年度発掘区6号畑及び7-2号畑と連続する。今次発掘区では東西最大長17.5m、南北長6.6m、面積74.42㎡。平成14年度発掘区の6号・7-1・2号畑と合わせると、213.16㎡ある。畝間溝9条がおよそN-67°-Eを示して並び、畝間溝間の平均距離は0.73mだが、14年度発掘区7-2号畑と連続する東北隅



第41図 第2面 第3区画7号畑部分図1

がやや狭く、以南は0.9mほどの幅広の畝が続く。北に接する平成14年度発掘区6号畑及び同7-1号畑もやや広い畝を持ち、6号畑では中棚Ⅱ遺跡におけるサトイモの塊茎の印象と思われる空洞を確認した畑との類似が指摘され、7-1号畑では畝上に残された小凹地を株列の痕跡としている。また、耕土中に灰白色火山灰層があって、軽石降下に先立つ旧暦6月25日の噴火による降灰が鋤き込まれたものとの判断を行っている。同7-2号畑は畝幅が狭いが、やはり株跡とみられる凹地が畝のほぼ中央にあるとされる。

**第3区画3号畑** 39・49-M～S-23～4グリッド 東辺は4号畑、西辺は1号畑と接し、畝間溝端はお互いに切り合わない。南には3号道を挟んで第9区画2号

畑、5号ヤックラがある。北は2号畑と接する。東西長6.4～15.6m、南北長22.7m、畝・畝間溝の確認できる部分の面積252.47㎡。畝間溝44条がおおよそN-66～67°-Eを示して並び、畝間溝間の平均距離は0.52mとなる。平坦面はない。

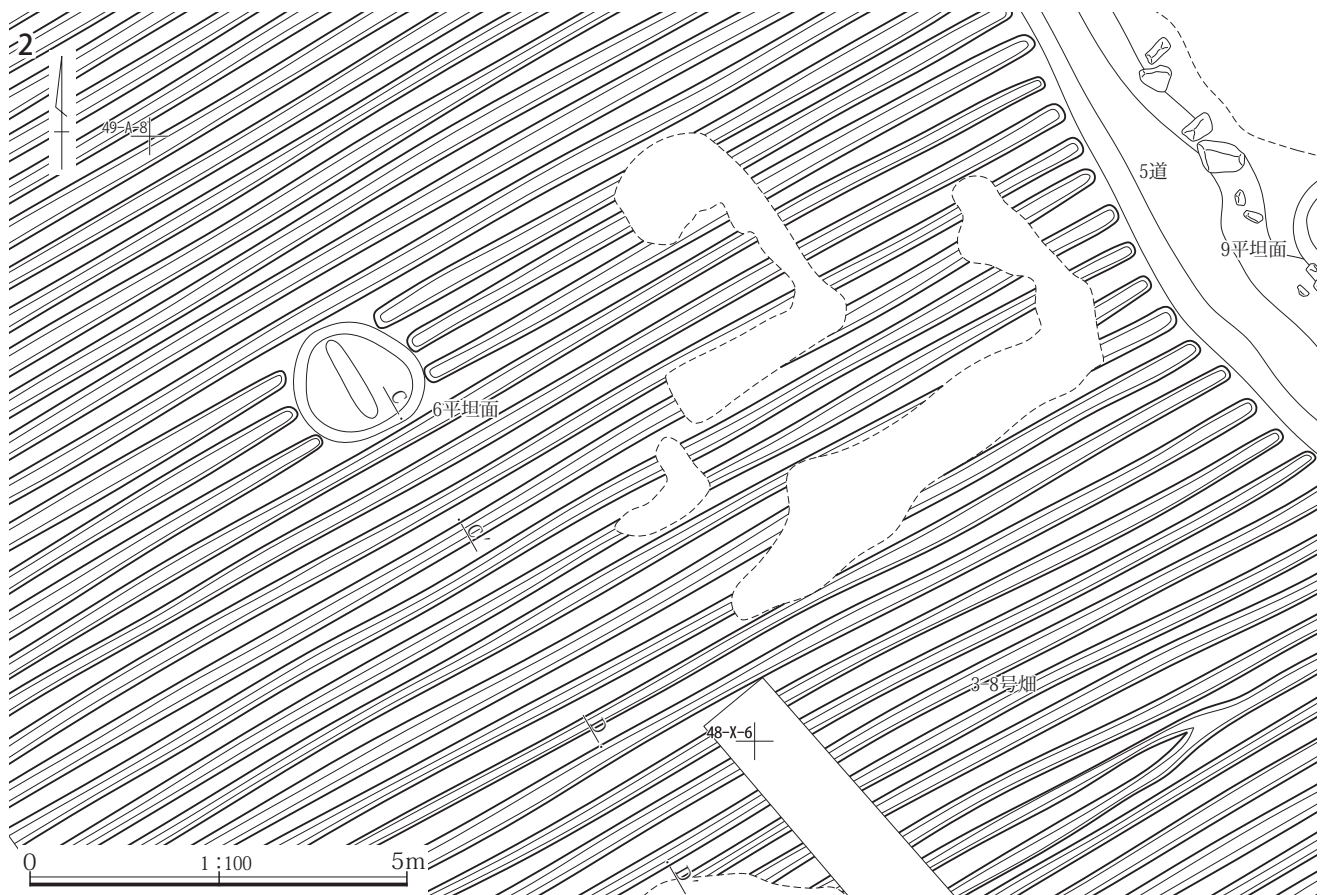
東北部には空白部がある。49-N～R-1～5グリッドに掛けて、東西長10.6m、南北長12.4mの範囲で遺構が確認できない部分として表現されている。面積は124.91㎡ある。北辺から西辺に掛けて溝が巡る。北辺は2号畑南端の畝間溝がこの溝に切られているが、西辺を見ると3号畑の畝間溝はこの溝の直前で完結していて、切り合いは生じていない。空白部の東辺は4号畑畝間溝の西端を切っており、南辺も3号畑の畝間溝を侵食する



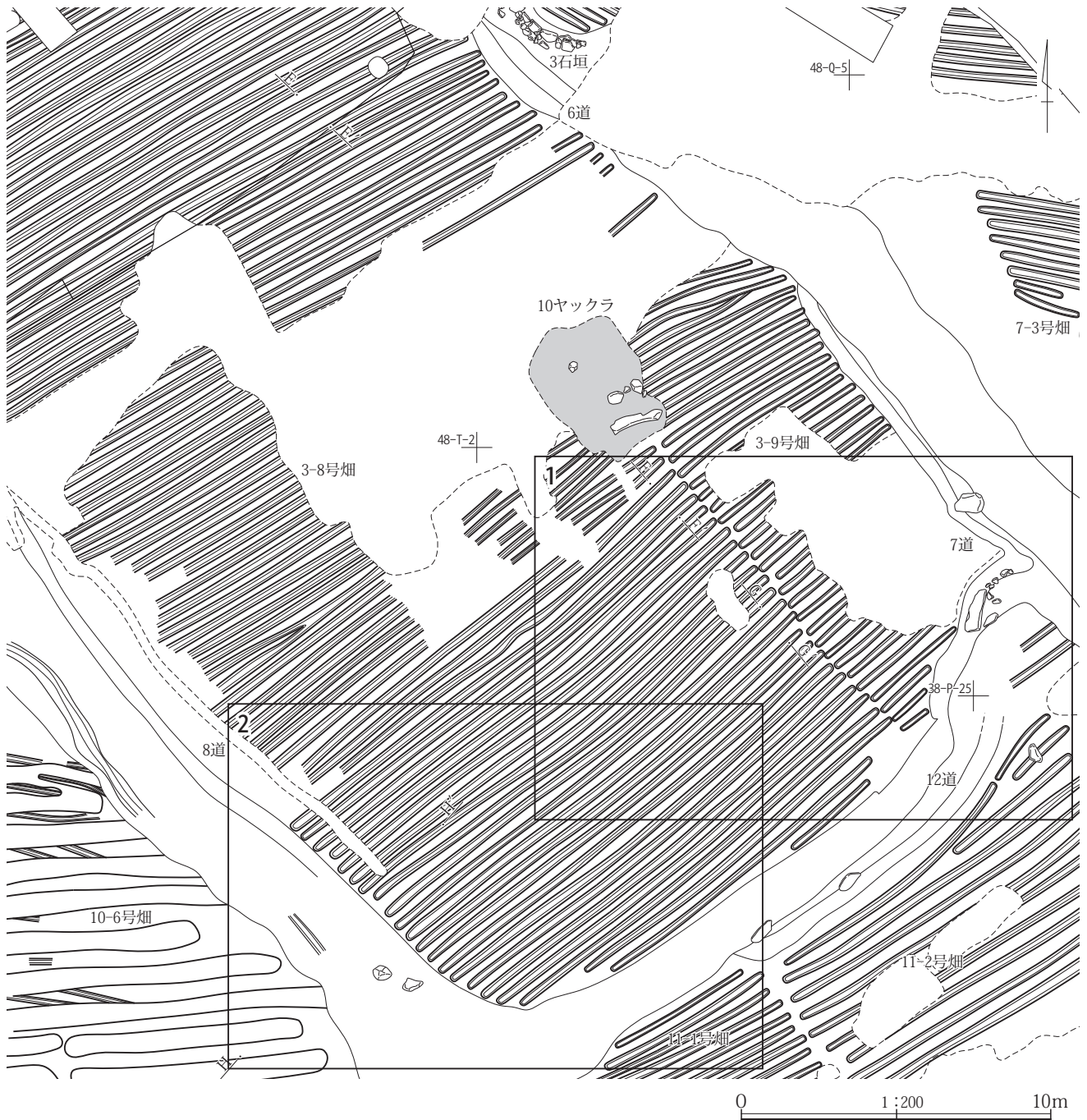
第42図 第2面 第3区画8号畑1



第43図 第2面 第3区画8号畑1部分図1



第44図 第2面 第3区画8号畑1部分図2



第45図 第2面 第3区画8号畑2・9号畑

ように切る。平成14年度調査所見を引けば、本来は独立した畑面を形成していたものが、As-A軽石降下後に西側を除く3方にやや広げながら再耕作されたと見られることもできる。

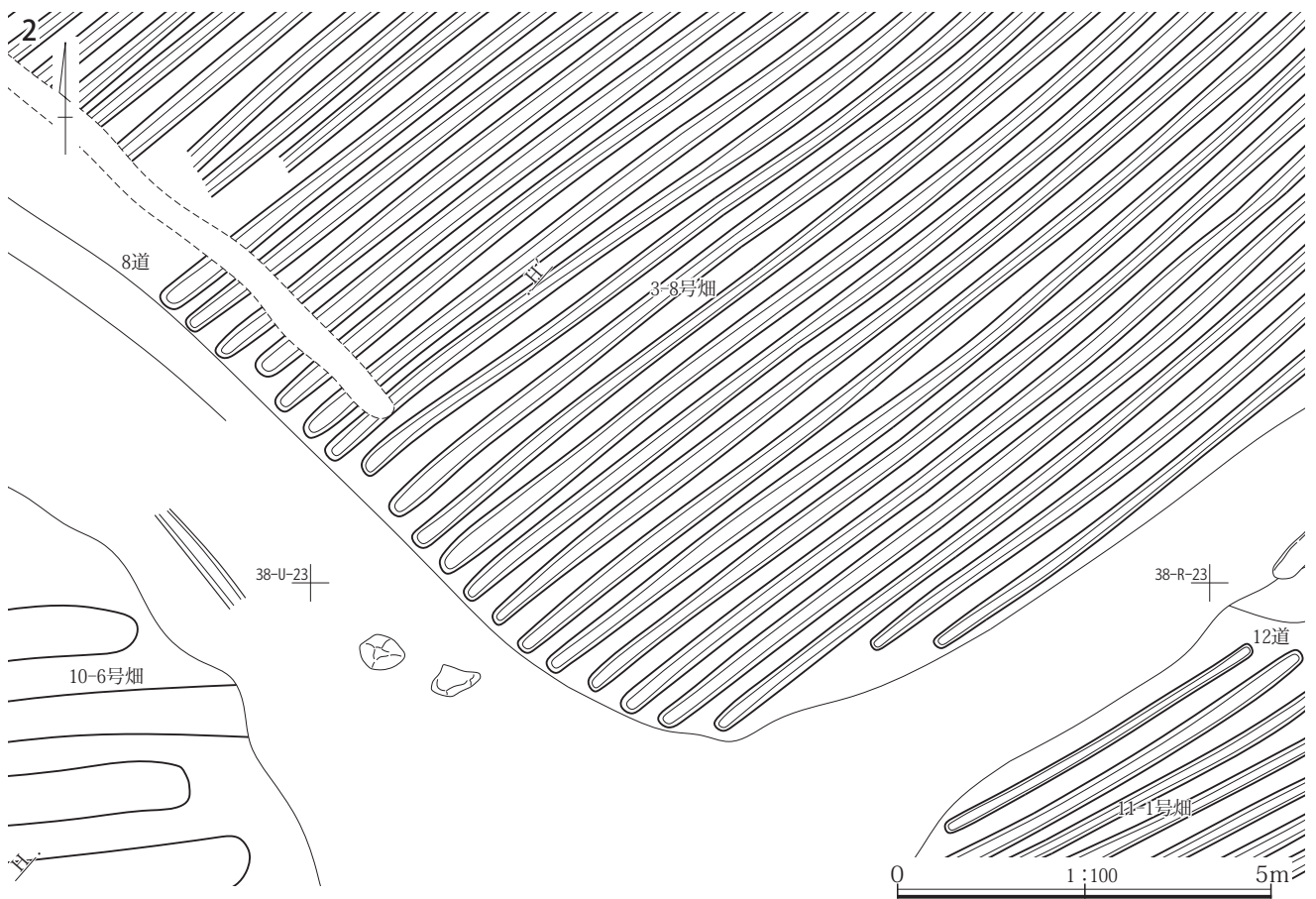
**第3区画4号畑** 39・49-K～R-25～8グリッド 東辺は5号畑と接するが切り合わない。西辺は3号畑に接し、3号畑空白部に畝間溝西端が切られるが、以南では切り合わない。南辺は3号道を挟んで、第9区画3号畑と隣接する。北は発掘区界を挟んで14年度発掘区8-2

号畑と連続するが、本畑の畝間溝間の距離がやや狭く表現されている。今次発掘区では東西11.8m、南北31.6m、面積320.97㎡。畝間溝には若干長短があるが、57条がおおよそN-71～75°-Eを示して並び、畝間溝間の平均距離は0.55mとなる。5号、6号畑と畝間溝間の距離や方向が良く揃っている。なお、平成14年度発掘区8-1号・8-2号畑を併せると、南北確認長は44.8m、面積は471.73㎡ある。平坦面はない。

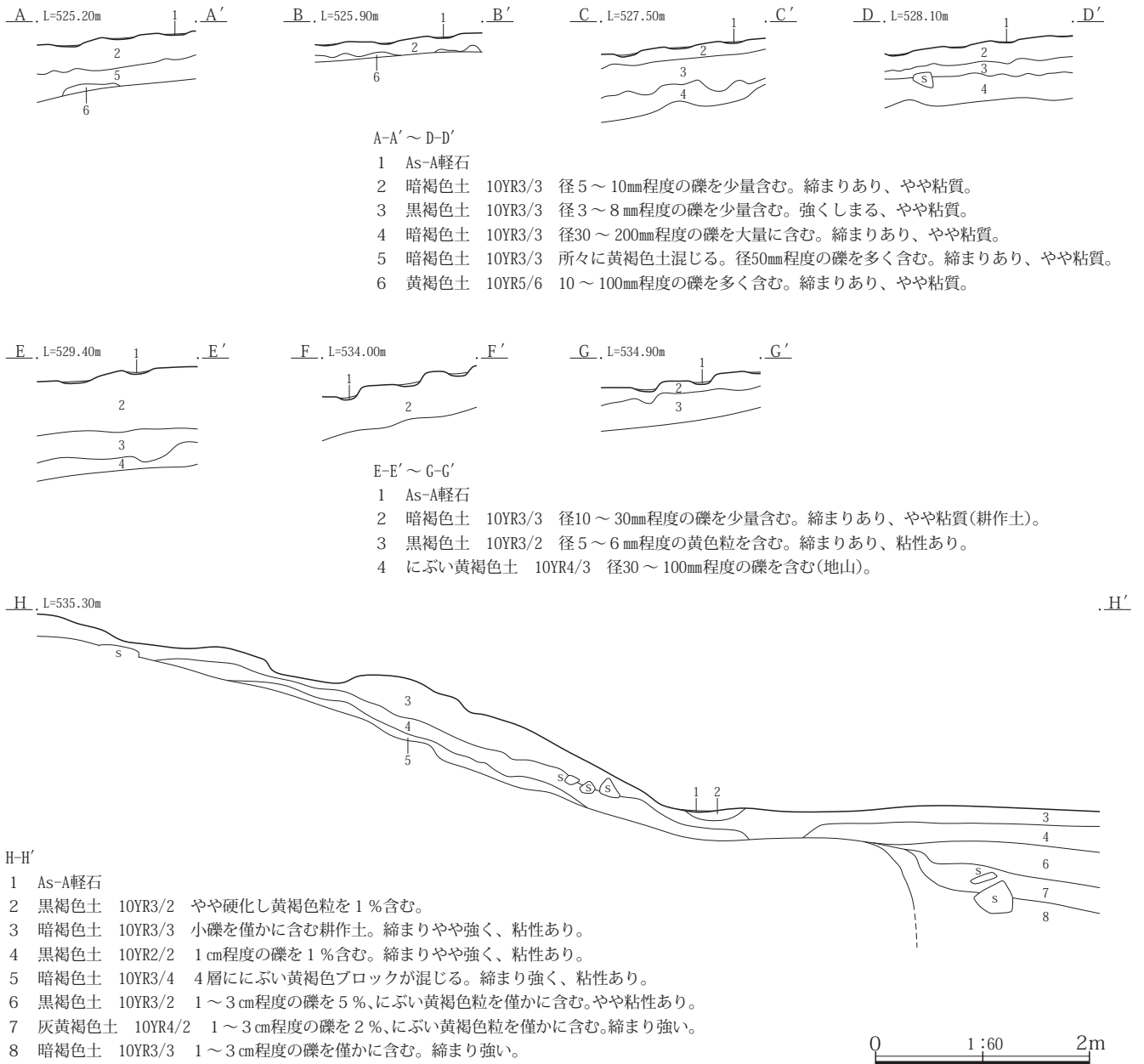
**第3区画5号畑** 49-H～O-1～10グリッド 東辺は



第46図 第2面 第3区画8号・9号畑部分図1



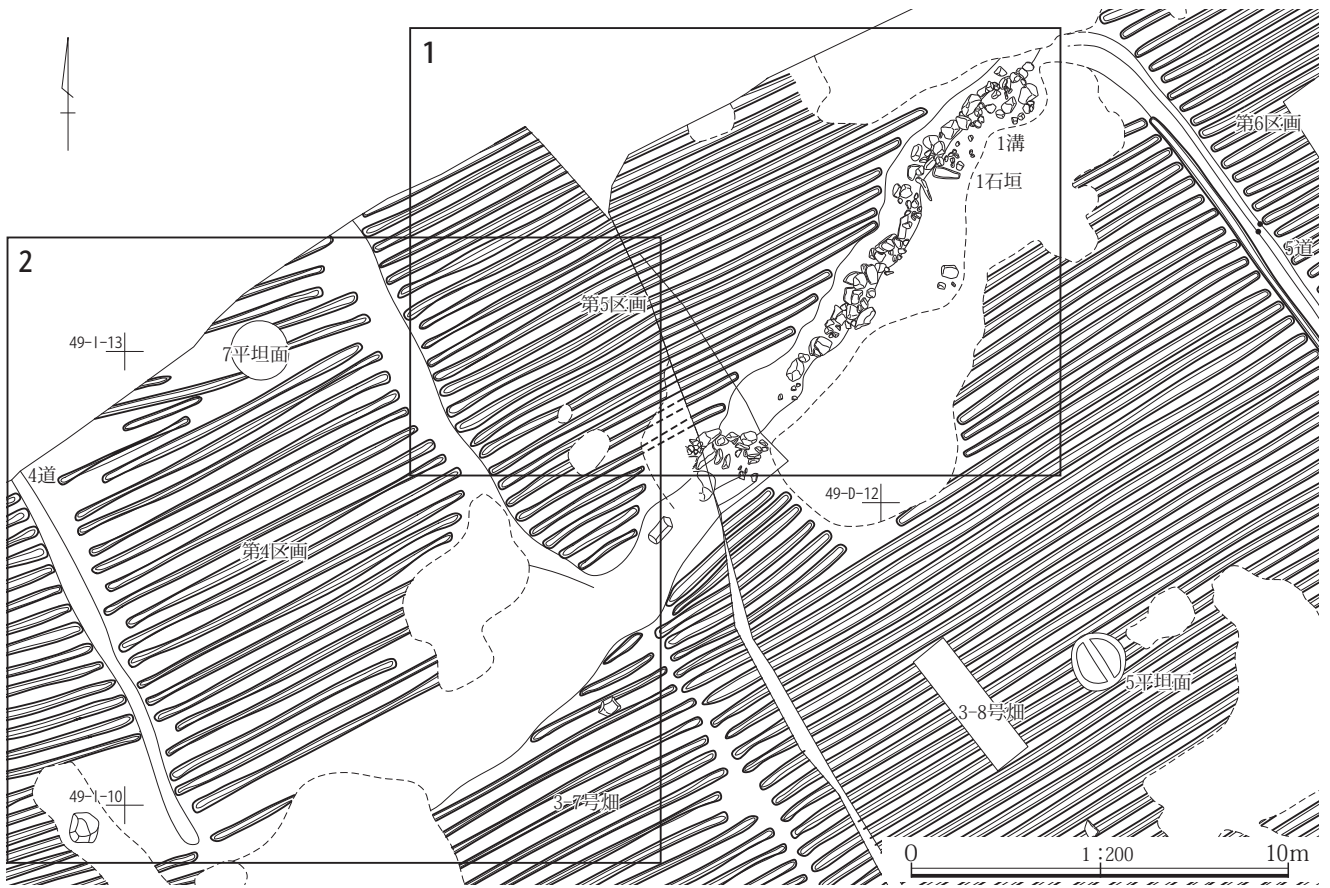
第47図 第2面 第3区画8号・9号畑部分図2



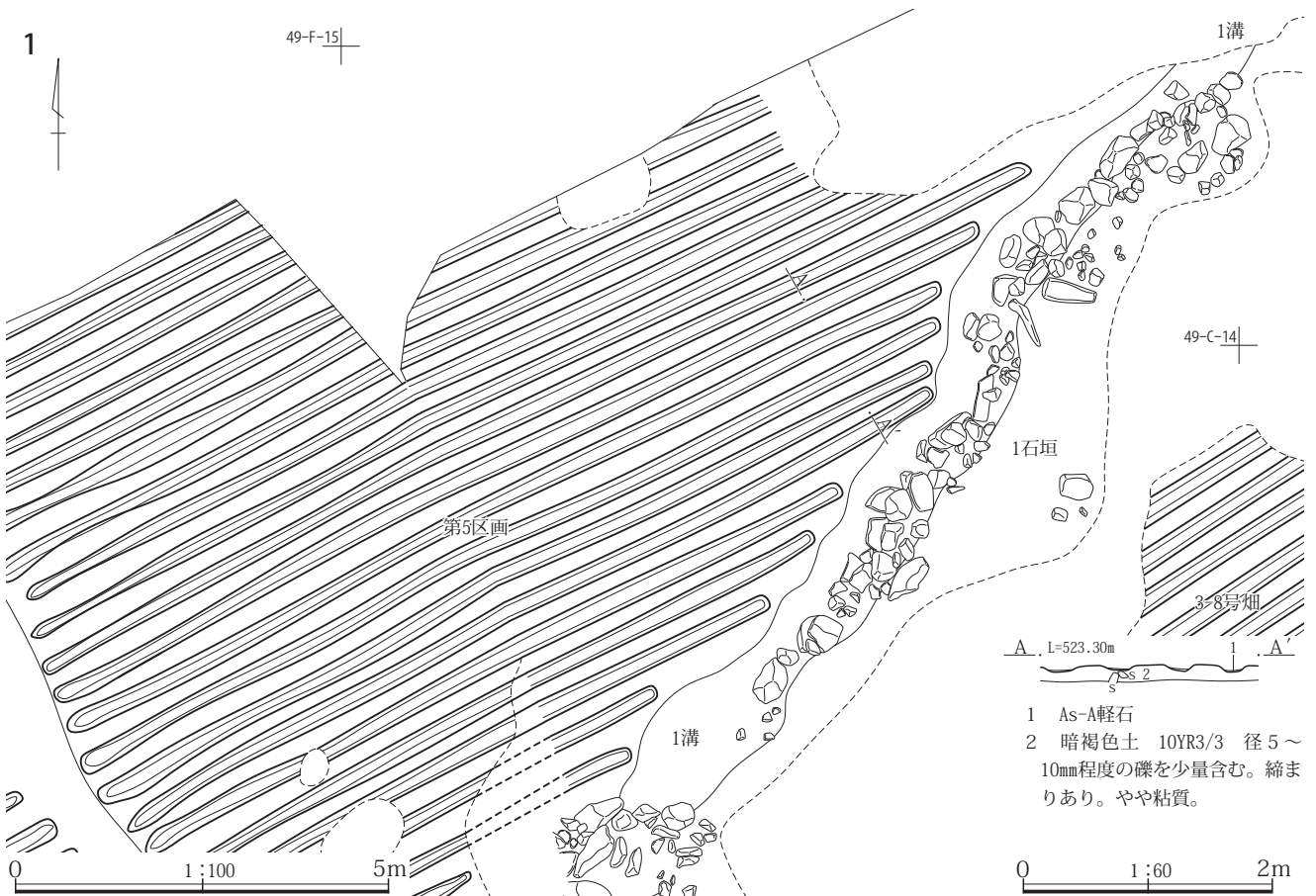
第48図 第2面 第3区画8号畑2・9号畑断面図

6号畑及びその南の空白部に接する。空白部との境界では畝間溝端部が揃わずに蛇行するが完結しており、切り合わない。西辺は4号畑と接し、畝間溝は切り合わない。南辺は3号道を挟んで第9区画3号畑、6号ヤックラと隣接する。北は発掘区界を挟んで14年度発掘区9号畑と連続する。今次調査部の畝間溝間距離のほうがやや狭く表現されているものの、本畑と14年度9号畑が連続して1面の畑を形成していたものと思われ、両者を併せて畑面全体が把握できる数少ない例となる。今次発掘区では東西長12.9m、南北長36.5m、面積404.97㎡。北に連続する平成14年度調査9号畑を併せた南北長は45.2m、面

積498.79㎡ある。畝間溝は長短があるが、70条がおおよそN-71～75°-Eを示して並び、畝間溝間の平均距離は0.52mとなる。4号、6号畑と畝間溝間の距離や方向が良く揃っている。南西部に円形の1号平坦面がある。  
**第3区画6号畑** 49-G～J-5～12グリッド 東辺北部は4号道を挟んで第4区画畑と隣接し、南部は7号畑と接しているが、双方の畝間溝端部は切り合わない。西辺は5号畑と接し、畝間溝端部はやはり切り合わない。南部には畝や畝間溝が確認できない空白部があり、3号道を挟んで第9区画4号畑が隣接する。また、3号道を挟んで5号畑との境界部に6号ヤックラ、7号畑との



第49図 第2面 第4・第5区画畑



第50図 第2面 第4・第5区画畑部分図1



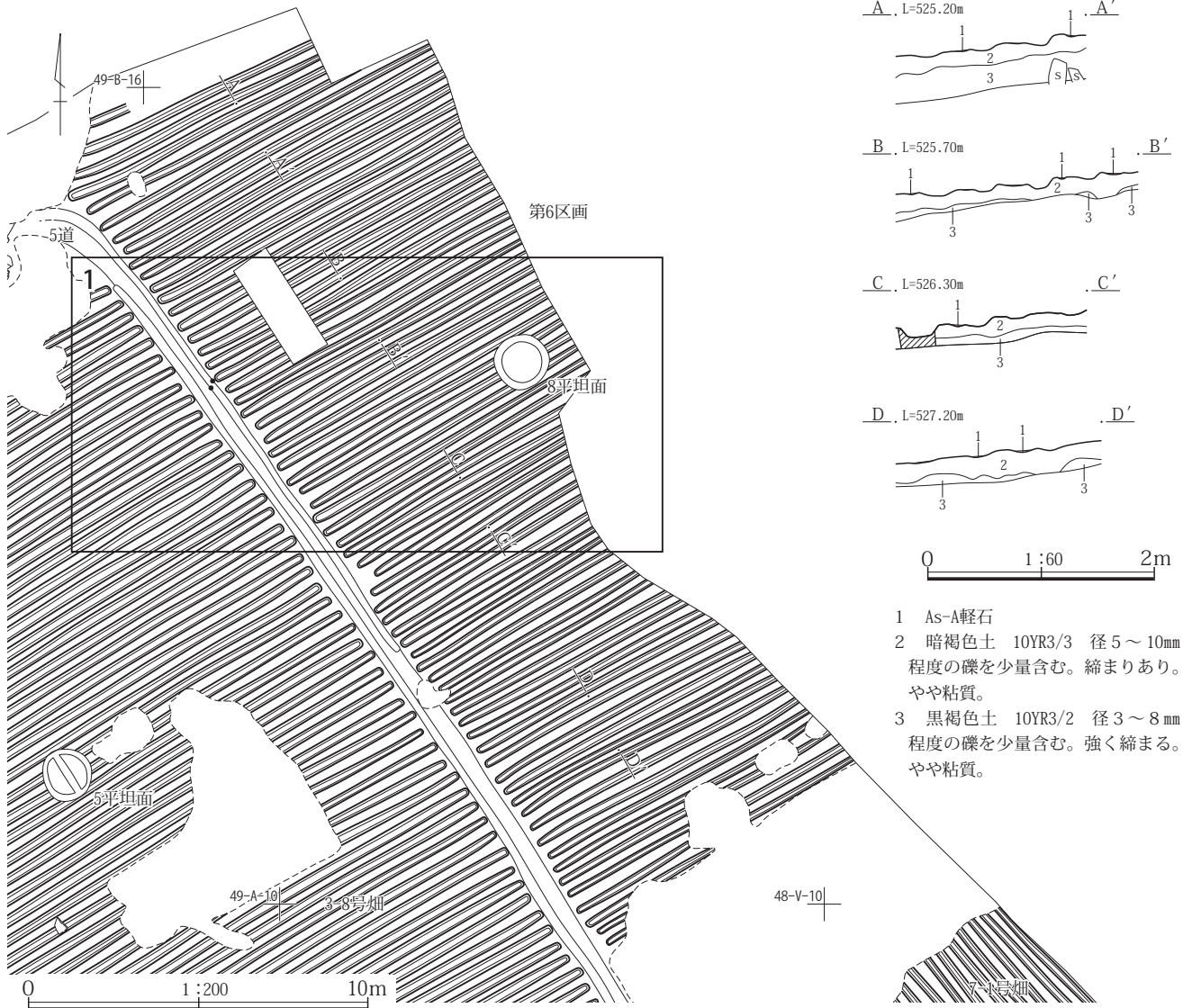


第51図 第2面 第4・第5区画畑部分図2

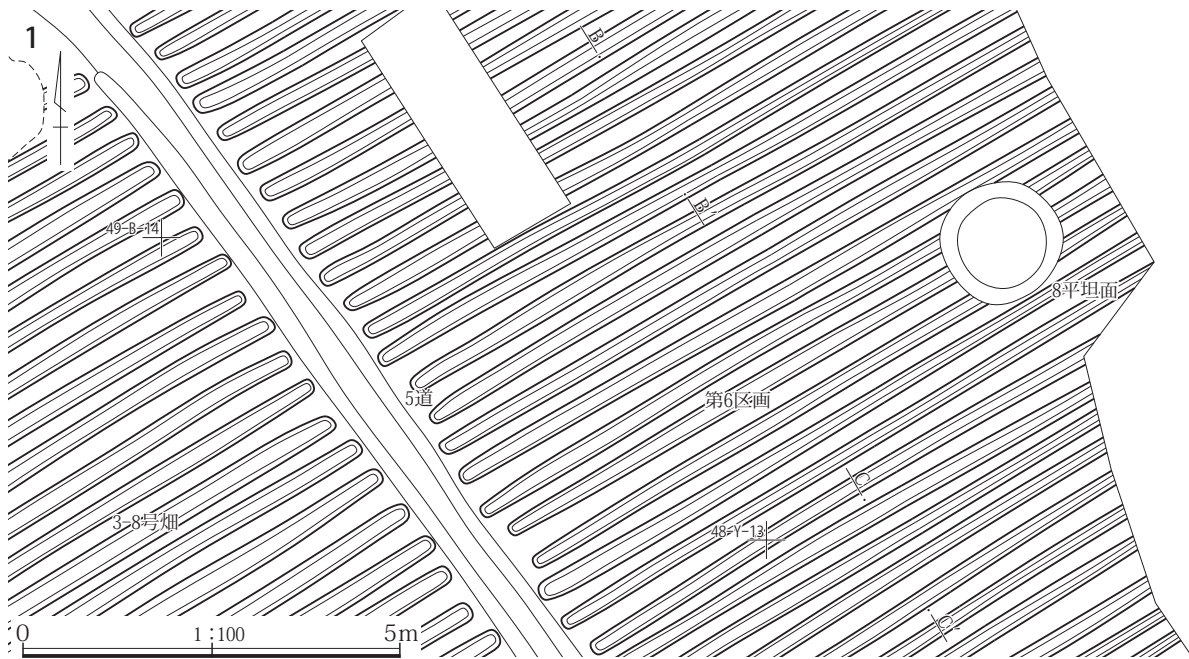
境界部に7号ヤックラがある。北にはやや広い発掘区界を挟むが、14年度発掘区11号畑と連続するものと見られる。今次発掘区では東西長11.9m、南北長24.7m、面積265.57㎡。畝間溝51条がおおよそN-73～74°-Eを示して並び、畝間溝間の平均距離は0.48mとなるが、中央北寄りに円形の2号平坦面があって、これ以北は畝間溝間隔が僅かに広がる。4号、5号畑と畝間溝間の距離や方向が良く揃っている。なお、平成14年度発掘区を併せると、南北確認長は41.2mある。

空白部は畑の南、49-F～I-2～6グリッドにある。東西長12m、南北長14.4m、面積152.85㎡ほどの範囲で、

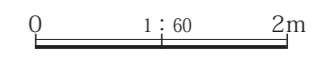
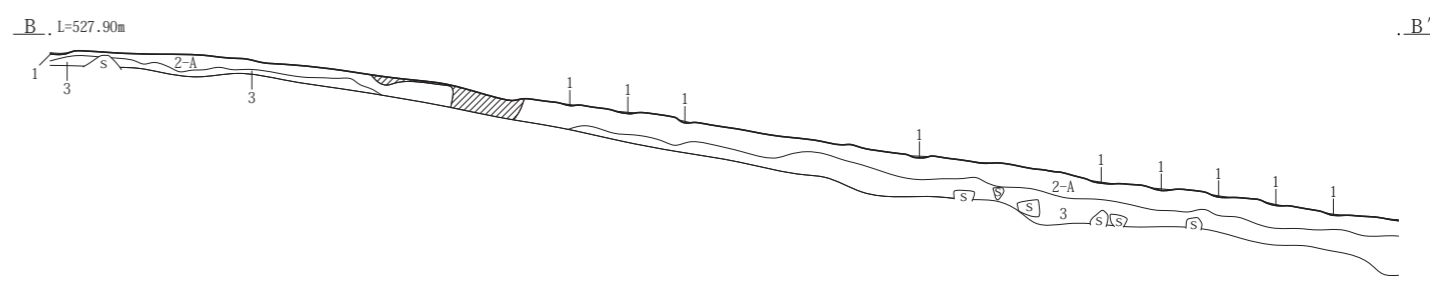
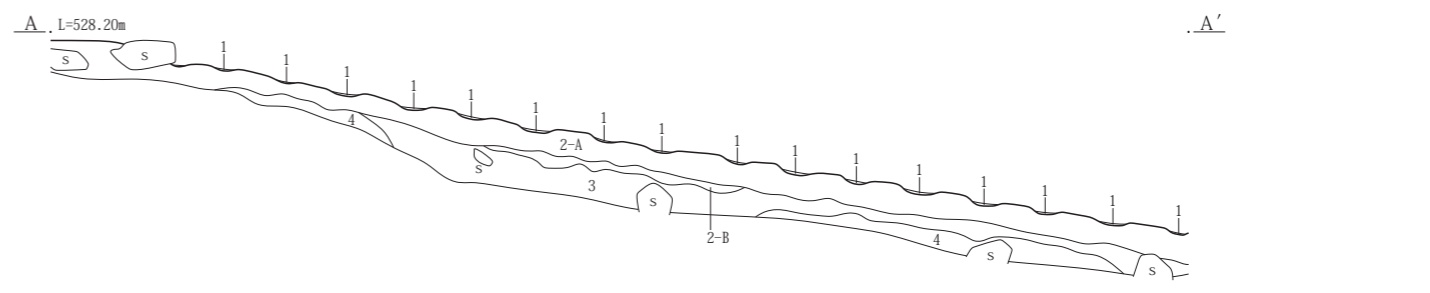
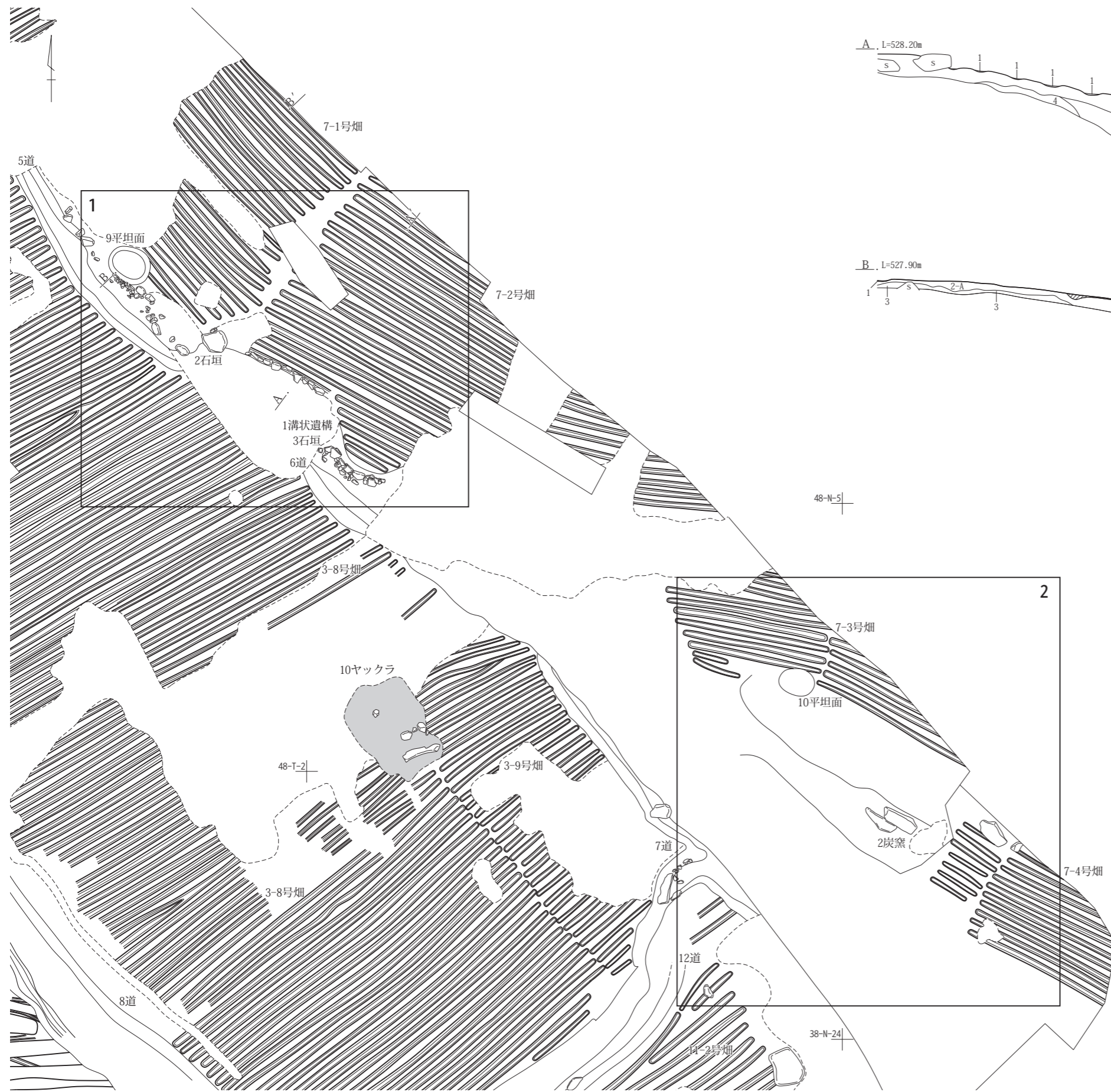
畝・畝間溝が認められない部分として表現されている。土層断面の観察所見によると、砂質で締まりの強い暗褐色の耕作土の上面にはAs-A軽石がなく、耕作土中に軽石が鎌状の断面を呈して含まれる。耕土中にAs-A軽石塊が含まれる堆積状況は、平成14年度調査部における所見と同様であり、As-A軽石降下後にこれを鋤き込む耕作行動がなされたものと考えられる。7号畑は空白部手前で畝間溝端部が完結しており、また良く揃っている。西の5号畑の畝間溝東端は、先述の通り揃わずに蛇行するが完結しており、切り合わない。北の畑畝間溝もこの影響を受けていない。3号畑の空白部が周囲の畝間溝を切って



第52図 第2面 第6区画畑



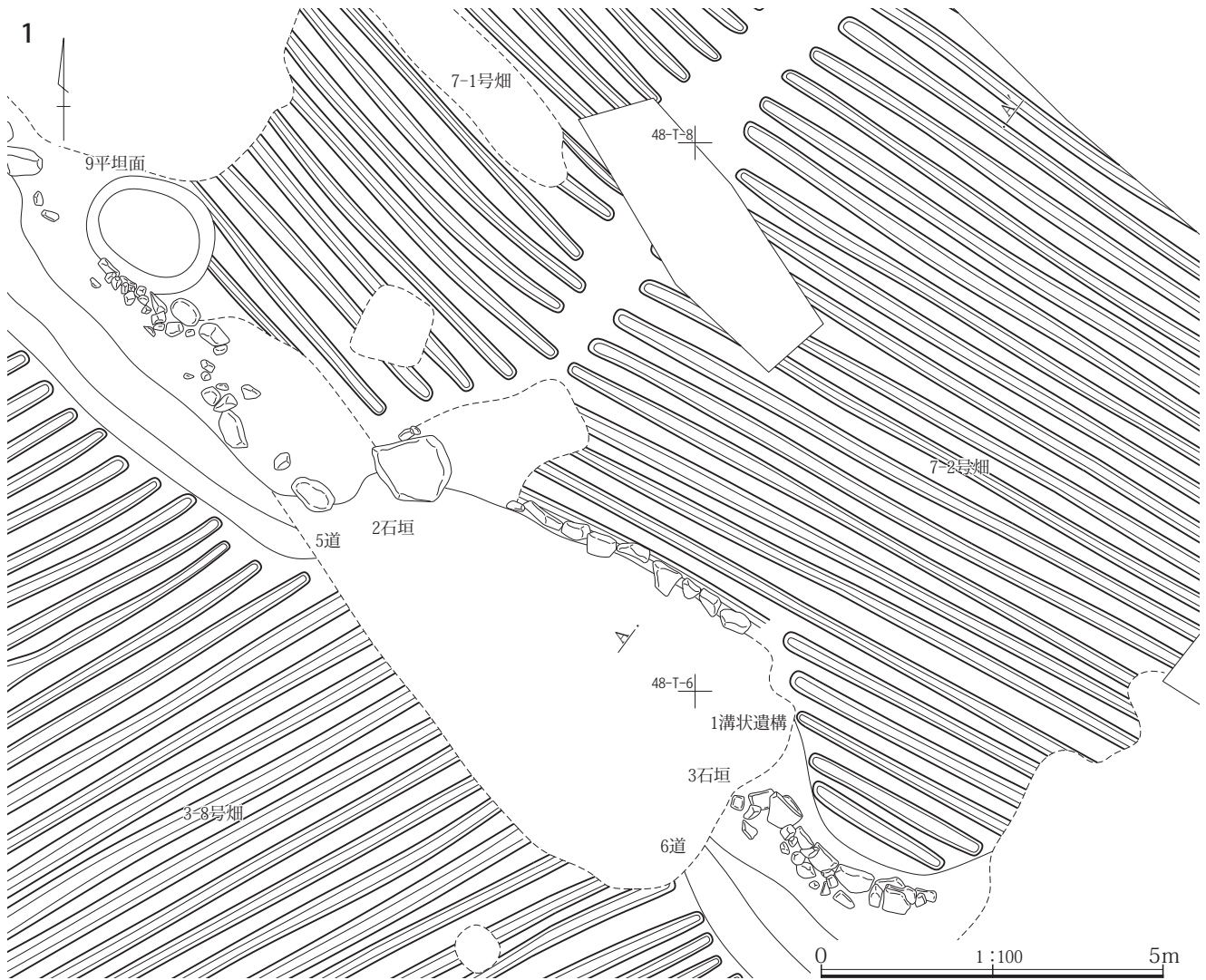
第53図 第2面 第6区画畑部分図1



- 1 As-A軽石
- 2-A にぶい黄褐色土 10YR4/3 径2～30mm程度の礫を多く含む。硬く締まる。やや粘質。
- 2-B 2-A層よりややくすむ。
- 3 黒褐色土 10YR3/2 径10～50mm程度の礫を多く含む。締まりあり。やや粘質。
- 4 黄褐色土 10YR5/6 砂状層を含み、ややもろい。



第54図 第2面 第7区画畑



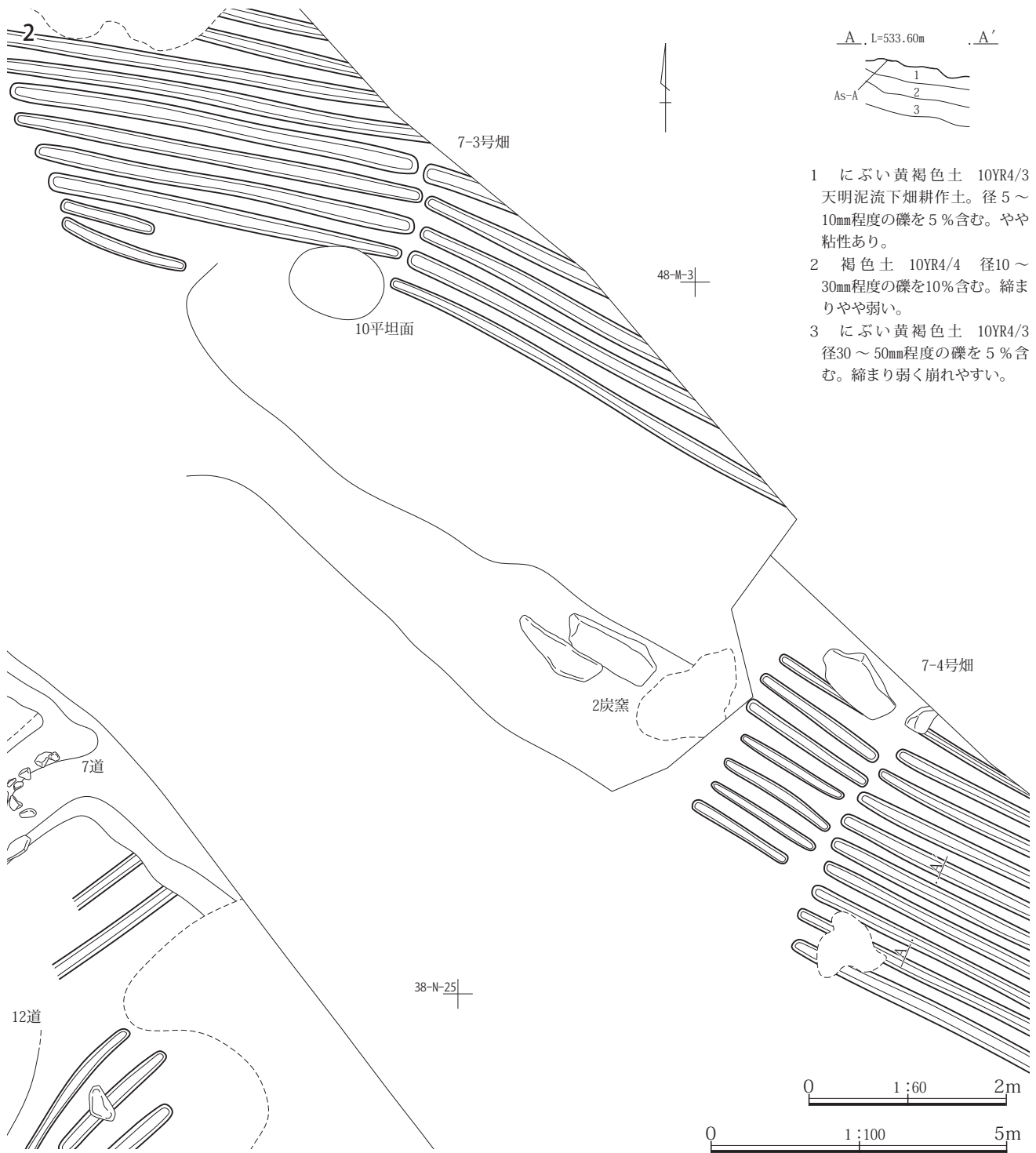
第55図 第2面 第7区画畑部分図1

いるのとは異なる状態が見られる。

**第3区画7号畑** 49-B～H-3～11グリッド 東辺は8号畑と接するが切り合わない。西辺は6号畑及びその南部の空白部と接する。南辺は3号道で画されるが、南端には畝・畝間溝が認められない部分が僅かに残される。ここには円形の4号平坦面が確認されているため、As-A軽石降下後の耕作行動による空白部とは性格が異なる。3号道を挟んで南には第9区画5号畑、8号ヤックラがある。北辺は西部が攪乱されて不明瞭であるが、1号溝で画され、第4区画畑と隣接する。東西長15.3m、南北長28m、面積470.28㎡。畝間溝55条がおおよそN-61°-Eを示して並び、畝間溝間の平均距離は0.51mとなる。南西部に3号平坦面、南端東部に4号平坦面がある。

**第3第区画8号畑** 38・39・48・49-O～E-2～14グリッド 東辺は5号～7号道に画され、北部は第6区画

畑、南部は第7区画畑が隣接する。西辺北部は7号畑と接し、切り合わない。西辺南部から南辺にかけては3号道の延長となって小崖下を綴るように延びる8号道で画される。西辺南部の上位には第10区画6号畑、南辺上位には第11区画畑がある。北辺は1号溝、1号石垣で画され、第5区画畑と隣接する。東部は大きく攪乱されるが、攪乱部南部では畝間溝の端部が攪乱手前で完結するように表現されていて、何らかの施設が存在したものかもしれない。非常に大きな区画で、東西19.8m、南北74.9m、面積1,442.41㎡を測る。南東隅部に畝間溝が切れて独立した群をなす部分があり、これを9号畑としたほか、さらにいくつかの区分が可能かもしれないが、明確に分界できるような指標は見出しがたい。南部に攪乱があるため、全体の畝間溝条数が確定しがたいが、150条以上があると見られ、北部でN-59～60°-E、南部

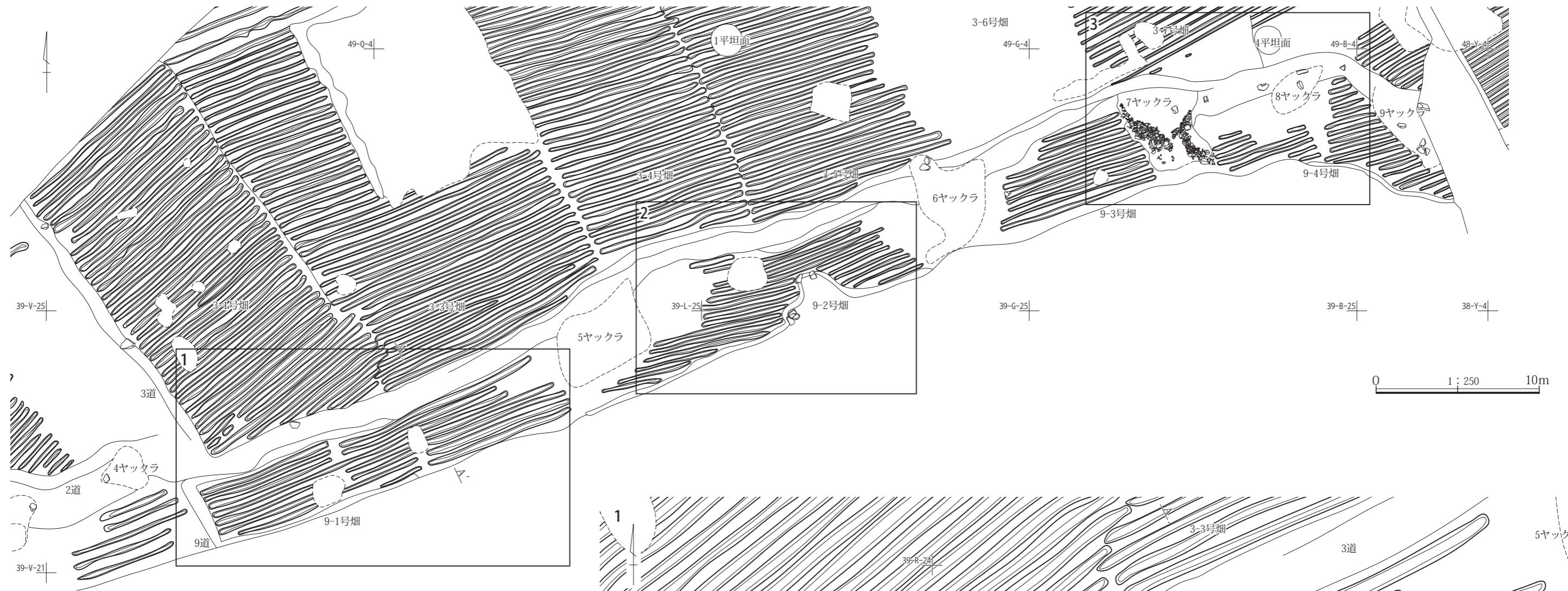


第56図 第2面 第7区画畑部分図2

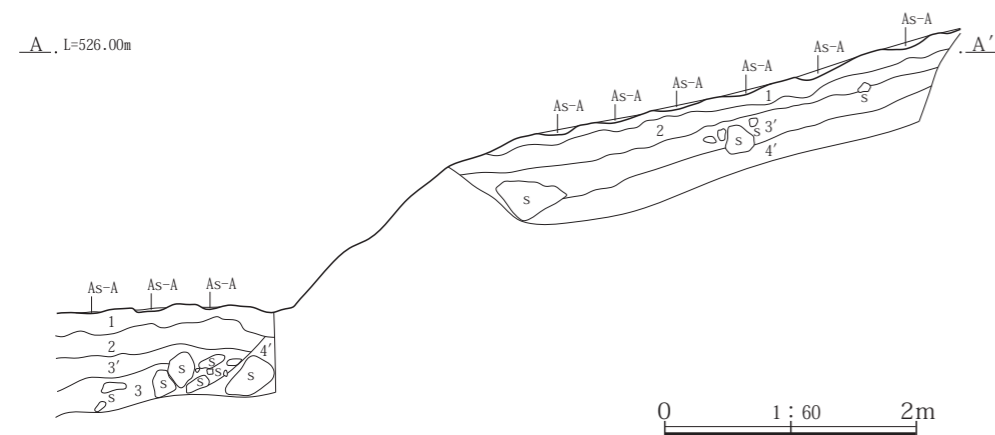
ではN-49°-Eを示して並ぶ。残存の良い部分を採ると、畝間溝間の平均距離はおよそ0.5mである。中央北部に5号平坦面、中央やや北寄りに6号平坦面がある。また、南東部の9号畑との境界に10号ヤックラがある。

**第3区画9号畑** 38・48-O～R-24～3グリッド 東辺は南辺から続いて東の小崖上を綴る8号道で画され、崖下に第7区画畑がある。西辺は第8区画畑と接してい

るが、双方の畝間溝端部は切り合わない。南辺は8号道で画される。北は攪乱されていて、8号畑との境界が捉えられない。東西長6.2m、南北確認長15.5m、面積86.18㎡。中央部から南東部に掛けて大きく攪乱されていて全体を把握しがたいが、畝間溝は34条が数えられ、北端ではかなり乱れるものの、南部ではおよそN-57°-Eを示して並ぶ。畝間溝間の平均距離は0.46mとなる。

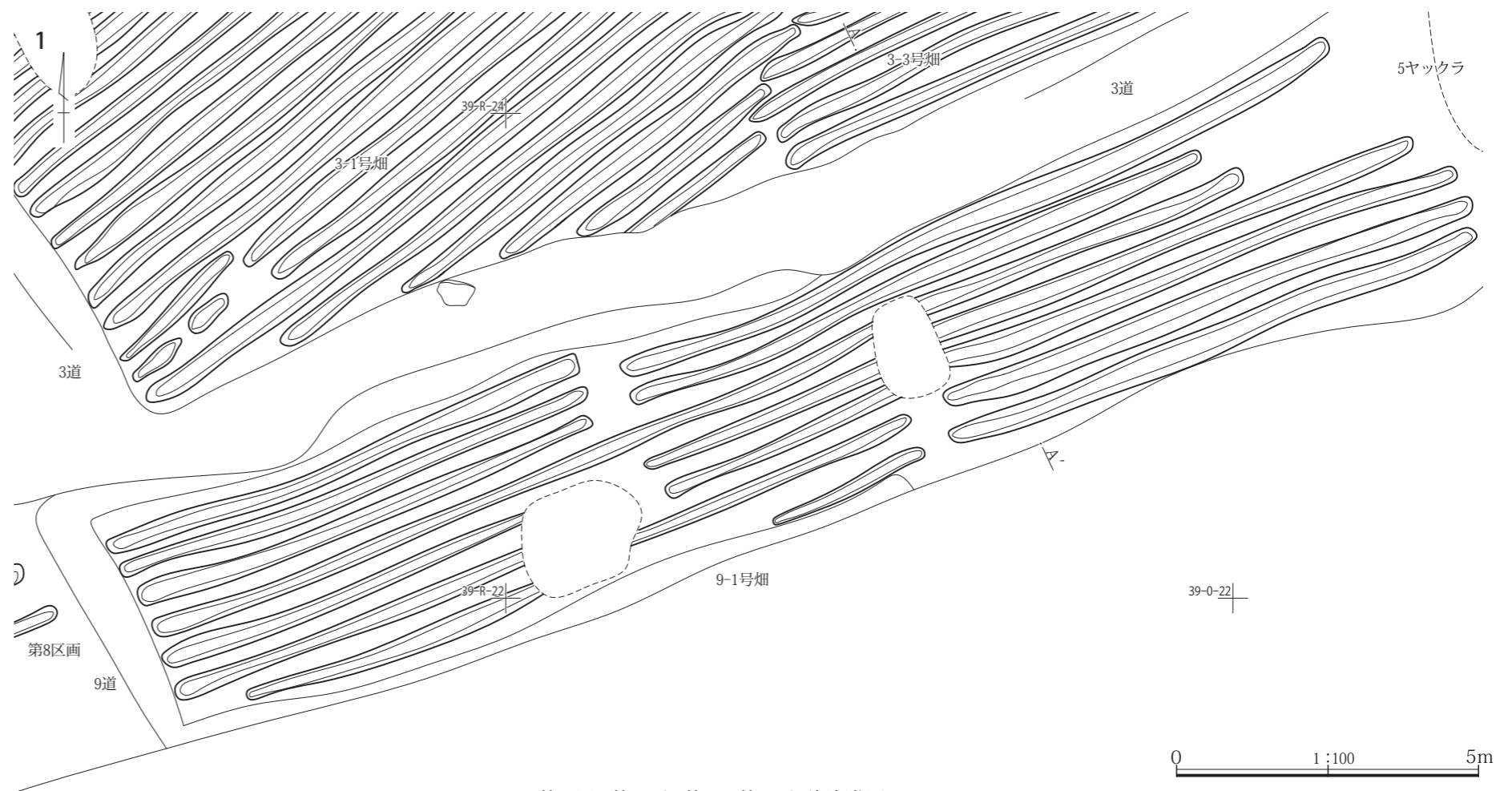


第57図 第2面 第8・第9区画畑

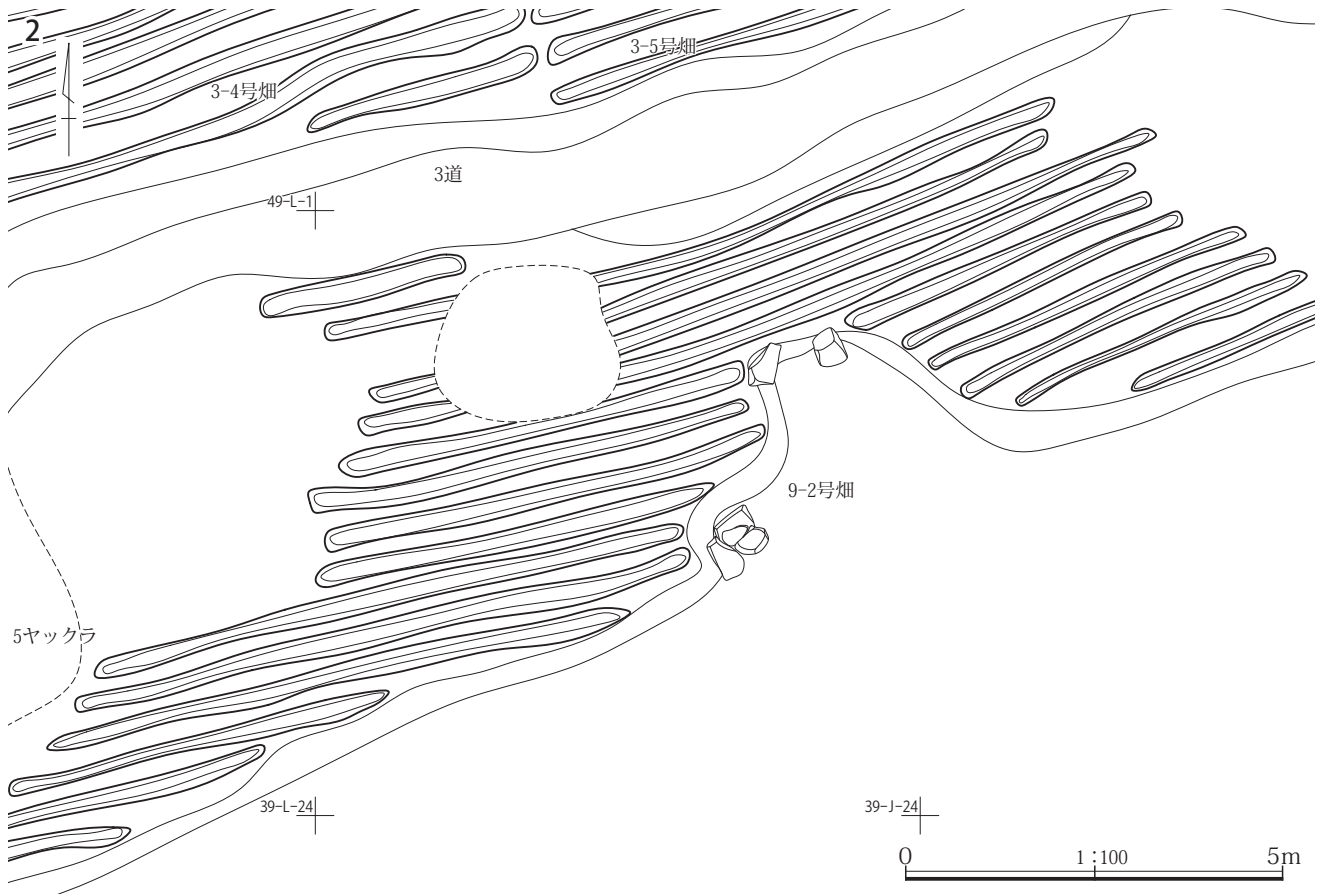


- 1 暗褐色土 7.5YR3/3 砂質。締まり強い。天明泥流下畑耕作土。
- 2 黒褐色土 7.5YR3/2 数mmから数cmの角礫を含む。1mmほどの大きさの軽石(7.5YR5/6)を5%含む。流入土。
- 3 黒褐色土 5YR3/1 砂質。締まり強く、粒子細かい。数mmから数cmの角礫を3層より多く含む。1mmほどの大きさの軽石(7.5YR5/6)を5%含む。
- 4 褐色土 7.5YR4/3 砂質。締まり強い。十数cmから数十cmの大型の礫を含む。土層下部に鉄分の沈着(2.5YR5/6)が見られる。

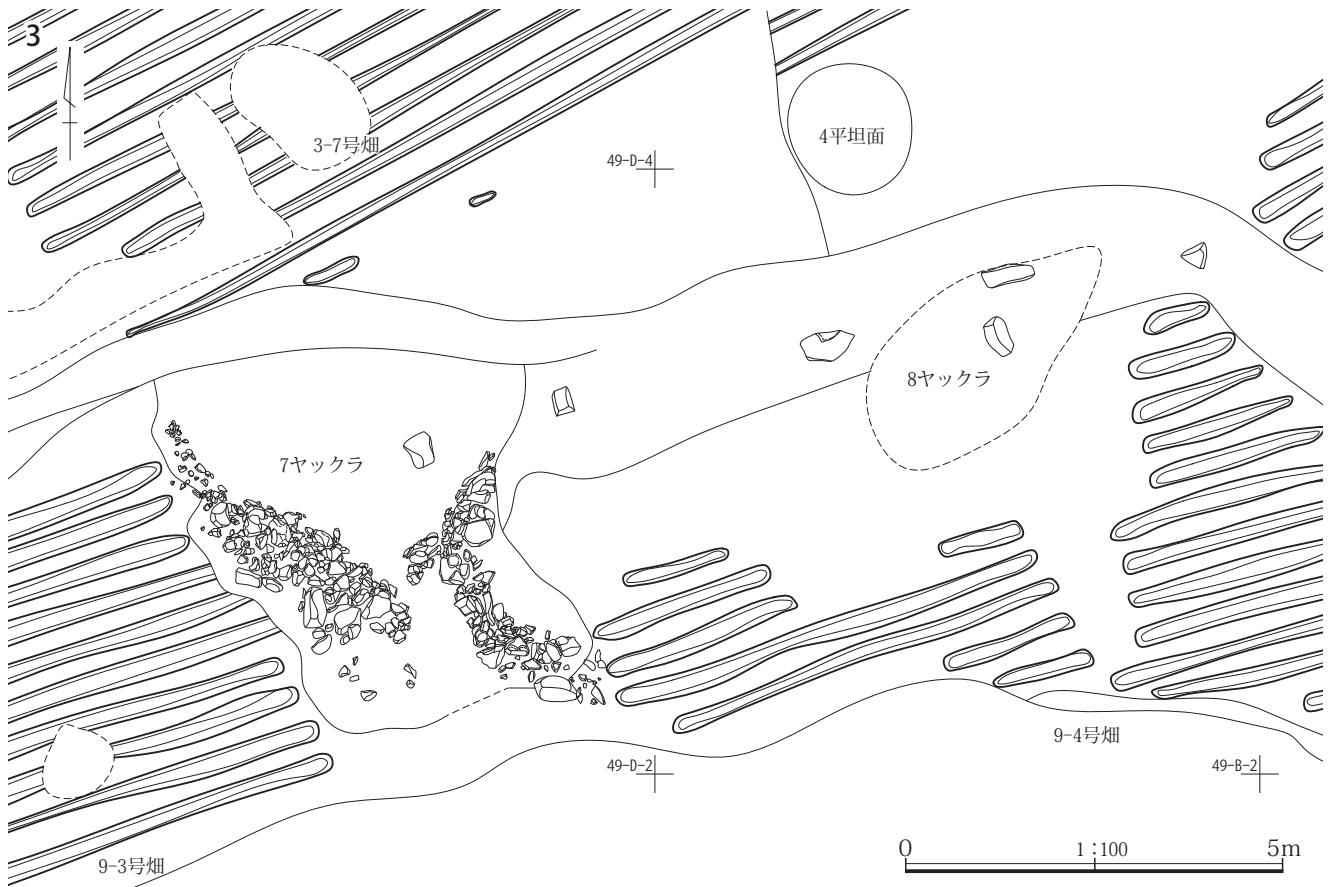
第58図 第2面 第9区画1号畑断面図



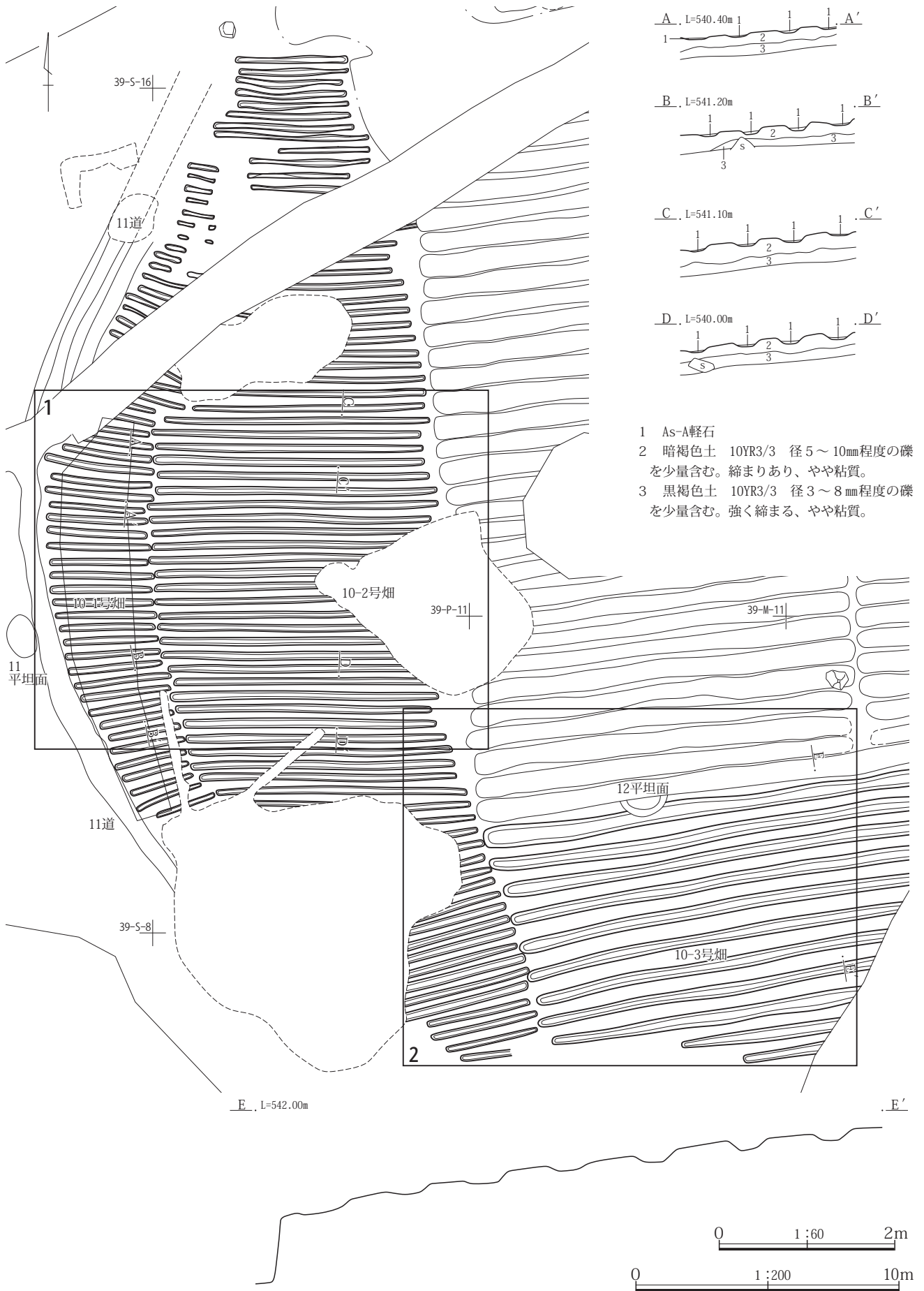
第59図 第2面 第8・第9区画畑部分図1



第60図 第2面 第8・第9区画畑部分図2

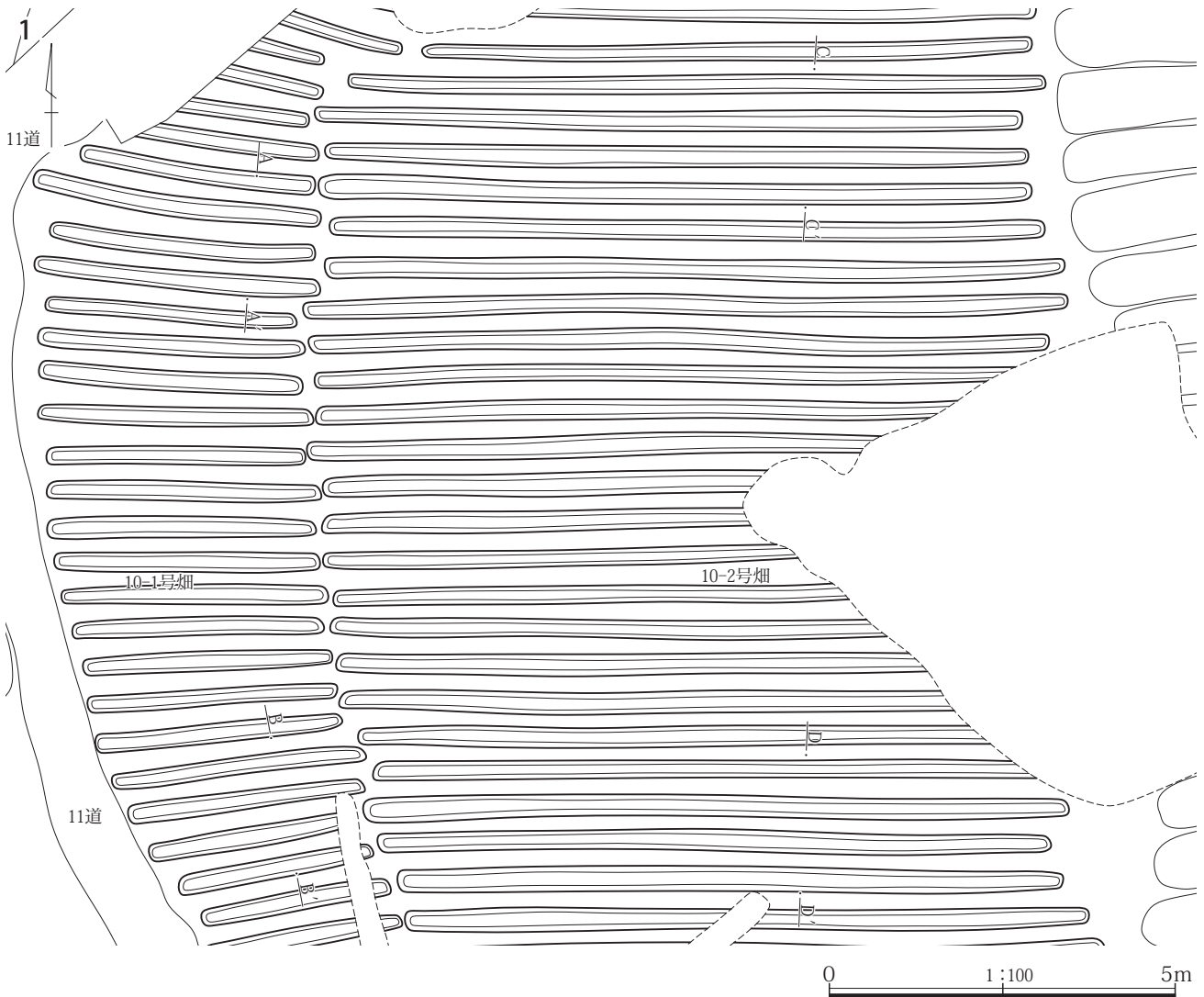


第61図 第2面 第8・第9区画畑部分図3



第62図 第2面 第10区画畑西部





第63図 第2面 第10区画畑西部部分図1

平坦面は確認されていない。北西隅に10号ヤックラがある。

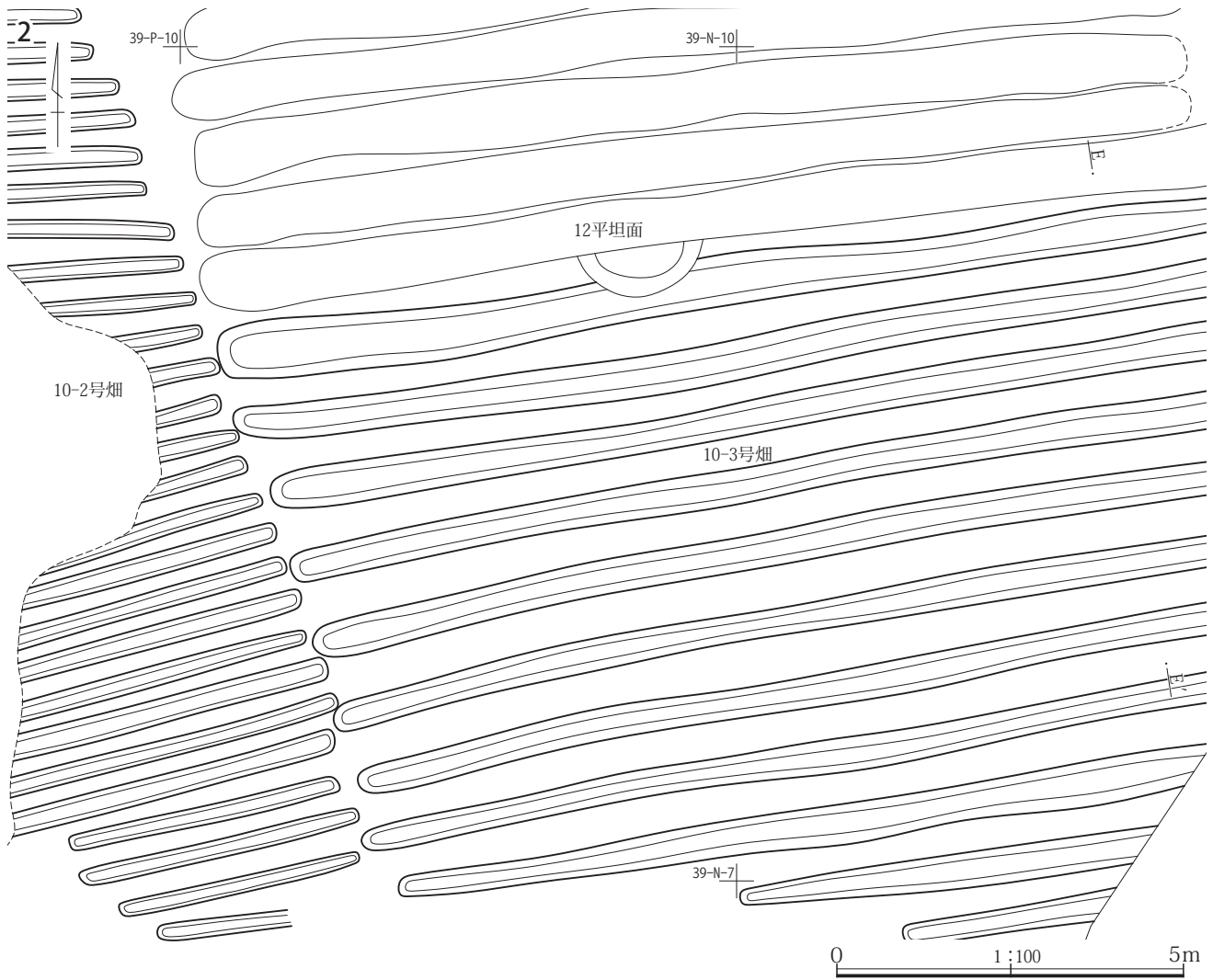
(4) 第4区画

48-F～I-9～13グリッド 北部数条の畝間溝が他と方位を異にするが、明確に分界する事ができないため、1面の畑として扱う。東辺は小さな段差を以て第5区画畑と区切られる。西辺は4号道に画され、第3区画6号畑と隣接する。南端の畝間溝と1号溝との間には若干の間隔があり、また西部を攪乱されていて4号道との交点など詳細を把握しがたいが、南辺東部は1号溝を挟んで第3区画7号畑と隣接する。北は発掘区界で区切られるが、14年度発掘区12号畑と連続するものと思われる。14年度12号畑は全面を薄いAs-A軽石が被覆していて、泥流到達時には耕作が行われていなかったものとされている。今次発掘区では東西長10.3m、南北確認長11.9m、

面積126.24㎡。畝間溝23条がおおよそN-52°-Eを示して並ぶ。北部にはN-75°-E方向を示す畝間溝が数条見られる。畝間溝間の平均距離は0.52mほどである。平成14年度発掘区を併せると、南北確認長は31mある。北部の東寄りに7号平坦面がある。

(5) 第5区画

48-C～G-11～14グリッド 東辺は攪乱され、北辺は発掘区界に切られる。西辺は小さな段差を以て第4区画畑と区切られる。南辺は1号溝、1号石垣に画され、上位の第3区画8号畑に隣接する。中央部に平成27年度発掘区と28年度発掘区の境界がある。東西長15m、南北長10.9m、面積103.6㎡。畝間溝24条がおおよそN-62°-Eを示して並び、畝間溝間の平均距離は0.45mとなる。平坦面は確認されていない。



第64図 第2面 第10区画畑西部部分図2

(6) 第6区画

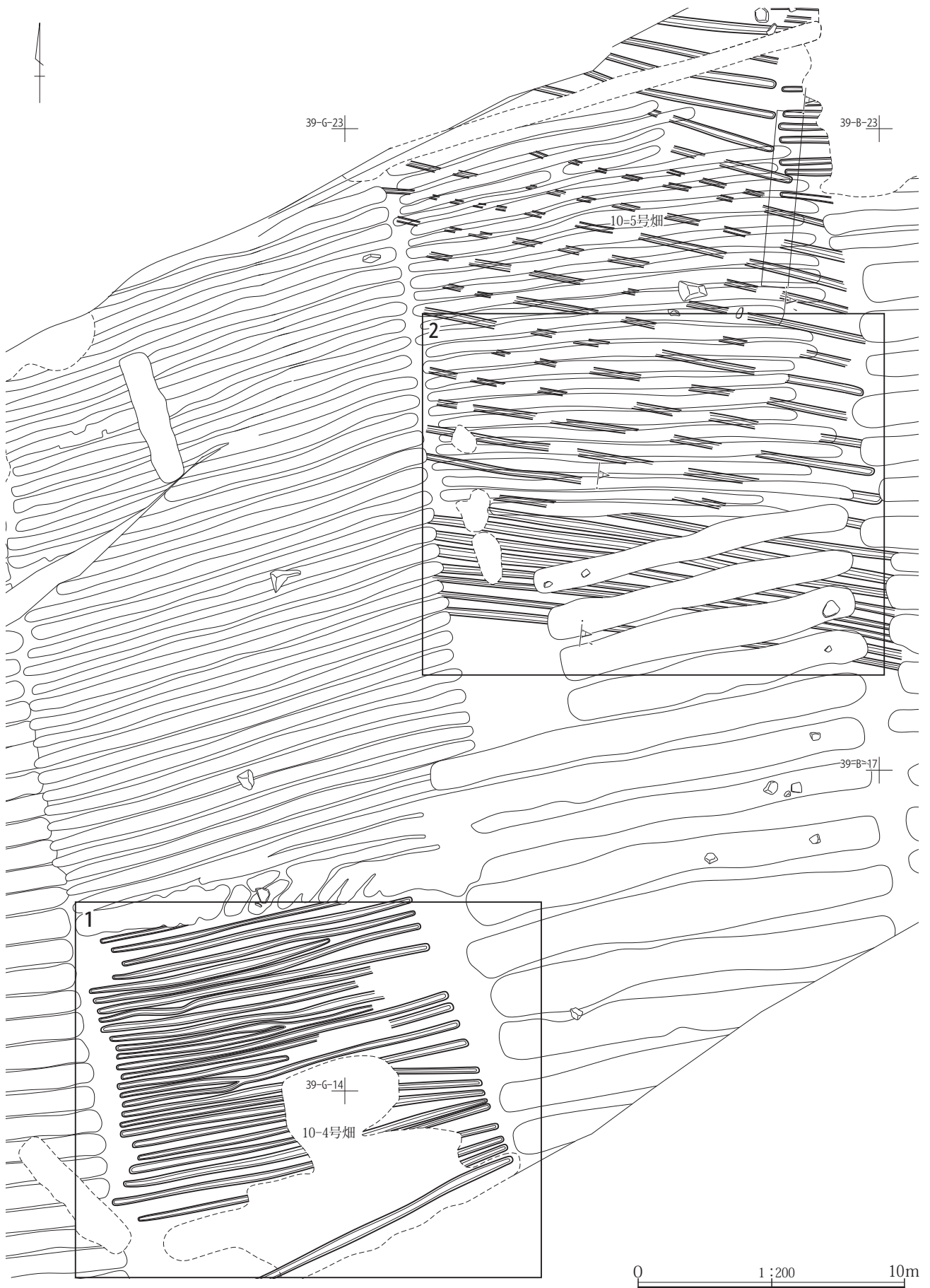
48・49-U～B-9～16グリッド 発掘区東北端にあり、東辺と北辺は発掘区外となる。西辺は5号道に画され、第3区画8号畑に隣接する。南部が大きく攪乱されていて南辺の状況はわからない。東西確認長11.1m、南北確認長28.6m、面積253.59㎡。畝間溝63条が確認され、およそN-61°-Eを示して並ぶ。南東から北西に下る斜面にあって、畝間溝は傾斜と斜行する。畝間溝間の平均距離は0.45mとなる。東部北寄りに円形の8号平坦面がある。

(7) 第7区画

38・48-J～U-24～9グリッド 発掘区の南東端にあたる。東辺と南辺は発掘区外となり、西は5号から7号道で画される。南部は第3区画8号・9号畑と隣接し、9号畑との境界近くからは比高が大きくなって小屋を介

する。南は第6区画畑と接するはずであるが、攪乱されて境界がわからない。南北58mにわたる細長い区画である西から東へと下る地形で、これにはほぼ平行するように南北ないし北西-南東方向に畝間溝が切られている。地形の制約を受けてか、狭い範囲で畝間溝が途切れており、この境界を単位として1号から4号畑に区分した。

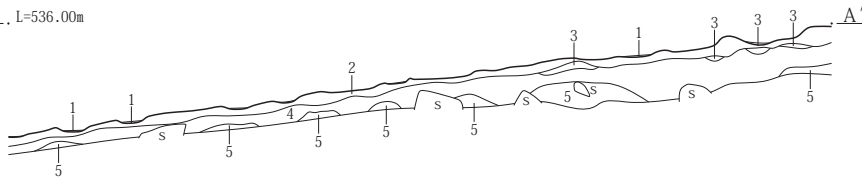
**第7区画1号畑** 48-S～U-7～8グリッド 東辺は発掘区外、西辺は2号石垣と5号道を挟んで、やや高い位置にある第3区画8号畑と隣接する。南辺は2号畑と接する。両畑の畝間溝端部は若干離れていて、切り合わない。北は第6区画畑と接するはずであるが、攪乱されて境界がわからない。東西確認長9.9m、全長のわかる畝間溝は無く、南北確認長7.5m、面積67.71㎡。畝間溝21条がおおよそN-135°-Eを示して並ぶ。西から東へと下る地形で、これにはほぼ平行するように畝間溝が切られて



第65図 第2面 第10区画畑中部

## 第2章 調査された遺構と遺物

A, L=536.00m



- 1 As-A軽石
- 2 にぶい黄褐色土 10YR4/3 白色粒を微量含む。径5～10mm程度の礫を含む。締まりあり。やや粘質。
- 3 黄褐色土 10YR5/6 径10mm程度の礫を含む。締まりあり。粘性あり。
- 4 暗褐色土 10YR3/3 径5～15mm程度の礫を含む。締まりあり。やや粘質。
- 5 暗褐色土 10YR3/3 白色粒を少量含む。ロームブロックを含む。締まりあり。粘性あり。

第66図 第2面 第10区画5号畑断面図

いる。畝間溝間の平均距離は0.47mとなる。写真記録では特に東側部分が、畝間溝内のAs-A軽石が不明瞭で、また、2号畑との間も含め、畝上にも同軽石が分布しているように見える。北西隅に円形の9号平坦面がある。

**第7区画2号畑** 48-O～U-4～8グリッド 東辺は発掘区外。西辺北部は攪乱されて不明瞭だが、1号溝状遺構、2号石垣、4号道を挟んで第3区画8号畑と隣接する。南半で2号石垣が小さな円弧状に張り出すが、この内部にも、これを充填するように短い畝間溝が切られている。南部は大きく攪乱されている。北は1号畑と接する。両畑の畝間溝端部は若干離れていて、切り合わない。東西確認長11.1m。全長のわかる畝間溝は無く、南北確認長は10.8mほどである。面積86.59㎡。残りの良い部分では畝間溝23条がおおよそN-120°-Eを示して並び、畝間溝間の平均距離は0.48mとなる。平坦面は確認されていない。なお、南部の3号畑との間に畝間溝の部分的な残存が見られる。このうち北側の畝間溝群はN-102°-E前後を示していて2号畑に比較的近い。

**第7区画3号畑** 48-L～O-2～4グリッド 東及び南は発掘区外、西辺は小崖を隔てて第3区画9号畑が隣接する。北は攪乱を受けている。東西確認長5.4m、南北確認長15.7m、面積40㎡ほどの範囲にあるが、中央近くに畝間溝の境界がある。北部は畝間溝の最大確認長7.4m、おおよそN-94°-Eを示す畝間溝が4.8m間に11条並び、畝間溝間の平均距離は0.44mとなる。北のO・P-4・5グリッドにある畝間溝はN-92°-Eを示していて、この群に近い。南部は畝間溝の最大確認長7.3m、おおよそN-110°-Eを示す畝間溝が2.2m間に5条並び、畝間溝間の平均距離は0.44mとなる。南西から北東へ傾斜地にあるため、畝間溝は等高線に対してやや斜行気味に切られていることになる。南北溝群の境界の西に接して円形

の10号平坦面がある。また、南西にある4号畑との間の傾斜地中段に2号炭窯がある。

**第7区画4号畑** 38・48-J～L-24～1グリッド 東から南にかけて発掘区外となる。西辺は急傾斜の崖部を隔てて上段に第11区画2号畑がある。北に2号炭窯の乗る小段があって、3号畑とは直接接しない。東西長4.3m、南北確認長9.6m、面積34.4㎡の範囲にあるが、畝間溝の境界で2群に分かれる。北側は最も長いものでも2.5mほどの短い畝間溝が、3m間に7条切られるもので、方位はN-147°-E、畝間溝間の平均距離は0.43m。南側の群は東西確認長4.3m、南北確認長6.9m。おおよそN-152°-Eを示す畝間溝が10条並び、畝間溝間の平均距離は0.43mとなる。平坦面は確認されていない。

### (8) 第8区画

39-S～U-20～22グリッド 東辺は9号道を挟んで第9区画畑と隣接する。西辺境界は特別な施設、構造は無い。畝間溝西端からやや離れた位置に3号ヤックラがある。南辺は上段に続く斜面で画される。北は小段とそこに形成されたを4号ヤックラを介して第2区画1号畑の空白部よりに隣接する。東西長7.6m、南北長3.5m、面積25.52㎡。畝間溝5条がおおよそN-69°-Eを示して並び、畝間溝間の平均距離は0.7mとやや幅が広い。平坦面は確認されていない。

### (9) 第9区画

39・48・49-Y～S-21～3グリッド 第3区画1号～7号畑の南にある、3号道と上段に続く傾斜面との間の狭長な場所を占める。東西は82.4mあるが、南北最大幅は8mほどしかない。斜面に寄せて作られた5号～9号ヤックラを境界として、1号～5号畑に区分した。

**第9区画1号畑** 39-M～S-21～24グリッド 東辺は5号ヤックラを挟んで2号畑と隣接する。西辺は9号道



第67図 第2面 第10区画畑中部部分図1

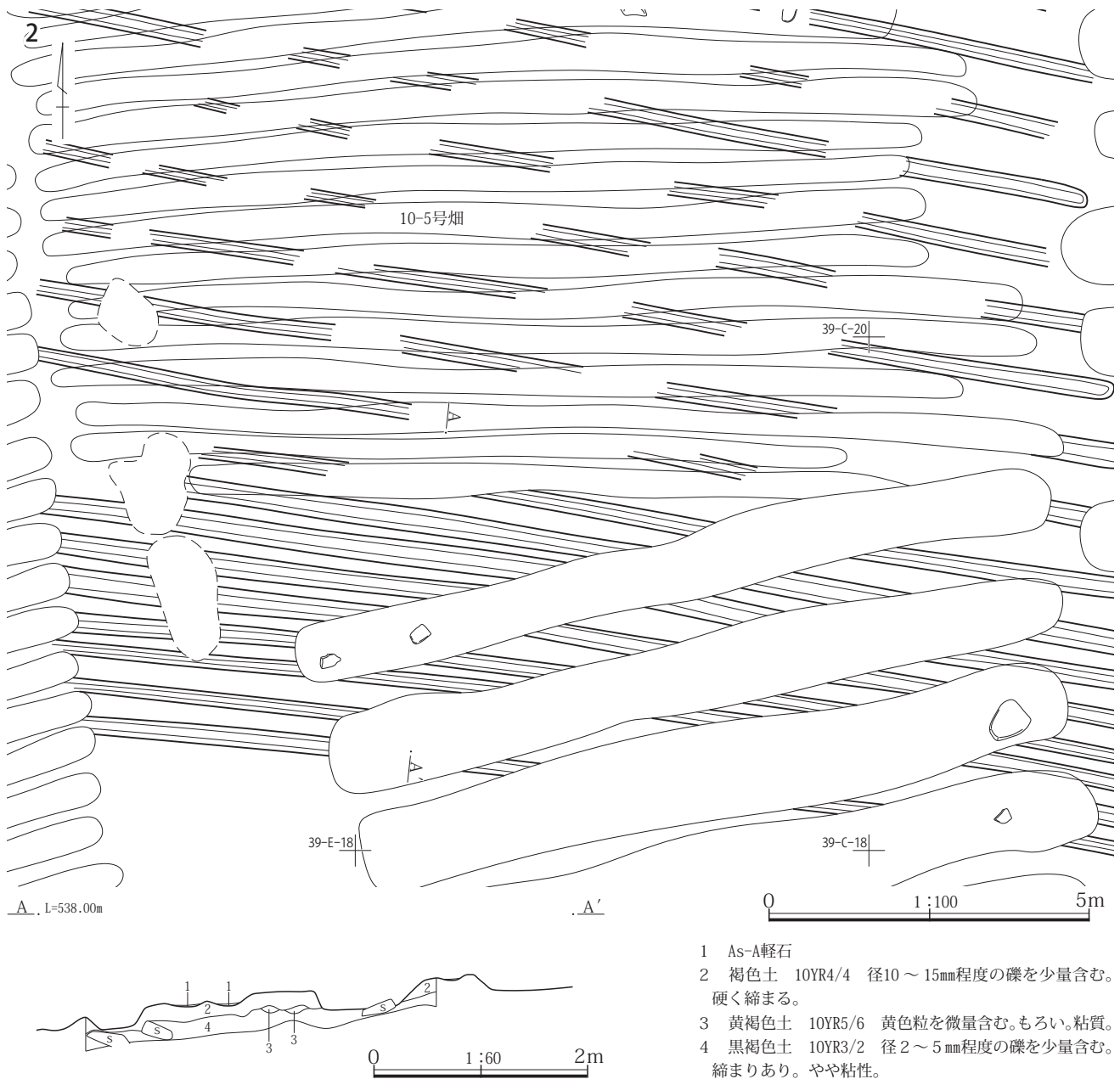
を挟んで第8区画畑と、北辺は3号道を挟んで第3区画1号・3号畑と隣接する。南辺は上段との境となる傾斜面である。東西長22.8m、南北長4.1m、面積85.08㎡。畝間溝7条がN-64～68°-Eを示して並び、畝間溝間の平均距離は0.56～0.59mとなる。平坦面は確認されていない。

**第9区画2号畑** 39・49-H～M-23～1グリッド 東辺は6号ヤックラを挟んで3号畑、西辺は5号ヤックラを挟んで1号畑と隣接する。ヤックラ周辺が乱された部分が多いが、5号ヤックラの南部はヤックラ背面まで回り込むように畝間溝が切られる。南辺は上段との境となる傾斜面で、中央部は斜面が張り出し、崩落したと思われる礫が見られる。北は3号道を挟んで第3区画4号・5号畑と隣接する。東西長22.8m、南北長5.8m、面積70.33㎡。各畝間溝には長短があって、最も長いもので

は10.9mほどある。14条がおおよそN-69°-Eを示して並び、畝間溝間の平均距離は0.41mとなる。平坦面は確認されていない。

**第9区画3号畑** 49-E～G-1～3グリッド 東辺は7号ヤックラを挟んで4号畑に隣接し、西辺は6号ヤックラを挟んで2号畑に隣接する。南辺は上段との境となる傾斜面で、北辺は3号道を挟んで第3区画6号畑南の空白部分と隣接する。東西長10.1m、南北長4.8m、面積37.4㎡。畝間溝は北部が短く南部が長い。10条がおおよそN-72°-Eを示して並び、畝間溝間の平均距離は0.48mとなる。平坦面は確認されていない。

**第9区画4号畑** 48・49-Y～D-1～3グリッド 東辺は9号ヤックラ及び発掘区界で画される。西辺は7号ヤックラを挟んで3号畑と隣接する。南辺は9号ヤックラ背面に回り込むように畝間溝が切られるが、上段との



第68図 第2面 第10区画畑中部部分図2

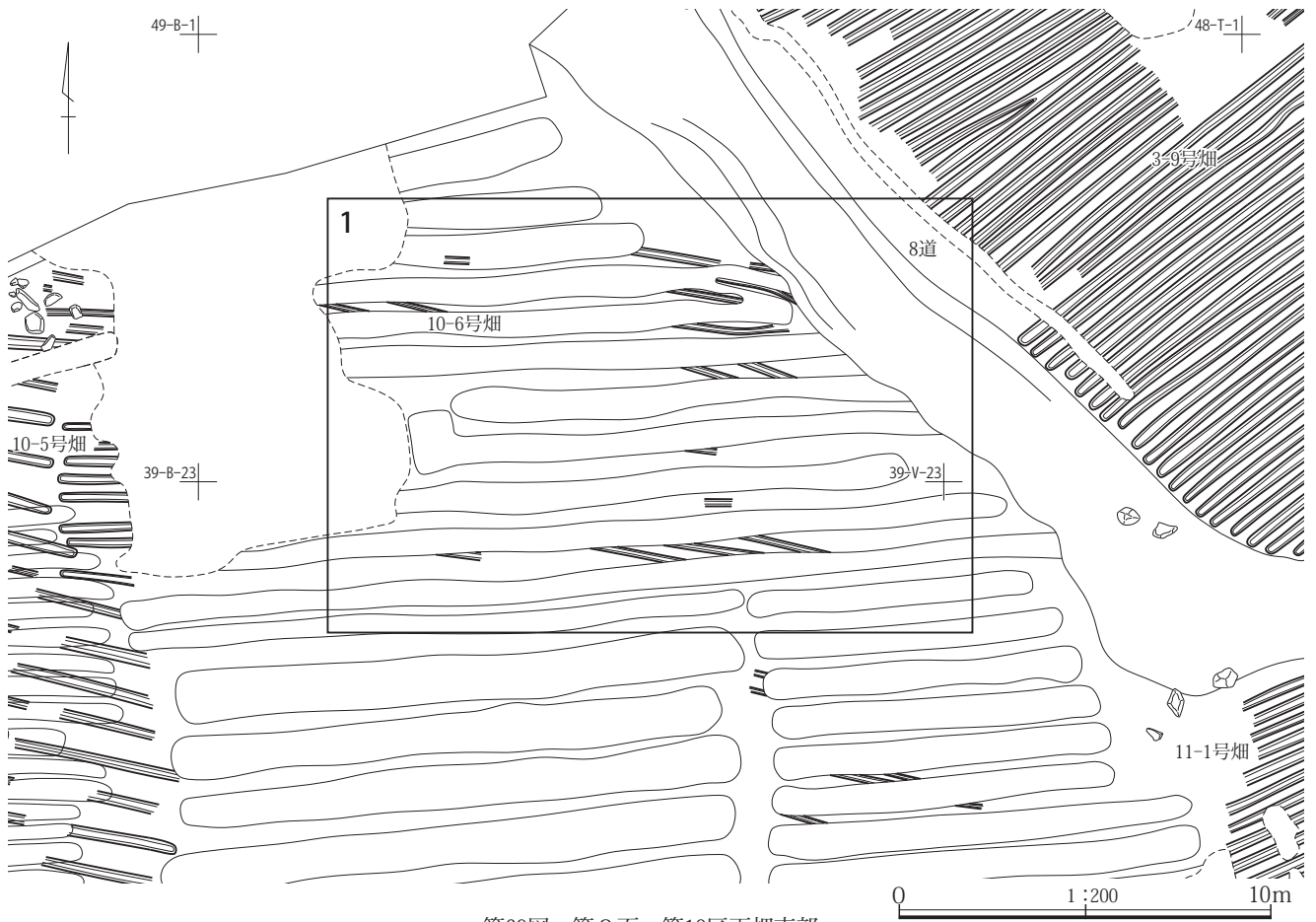
境となる傾斜面で画される。北は3号道を挟んで第3区画7号畑と隣接する。南辺中央部に8号ヤックラがあって、その周囲はやや広く乱れる。東西13.6m、南北6.6m、面積40.27㎡ほどの範囲を占めるが、中央部を境に東西に二分される。東部は最長確認長4.9m畝間溝19条がおおよそN-75°-Eを示して並び、畝間溝間の平均距離は0.45m。西部は途切れるものが多いが、最長5.9mの畝間溝7条がおおよそN-70°-Eの方向で並び、畝間溝間の平均距離は0.42mである。平坦面は確認されていない。

(10) 第10区画

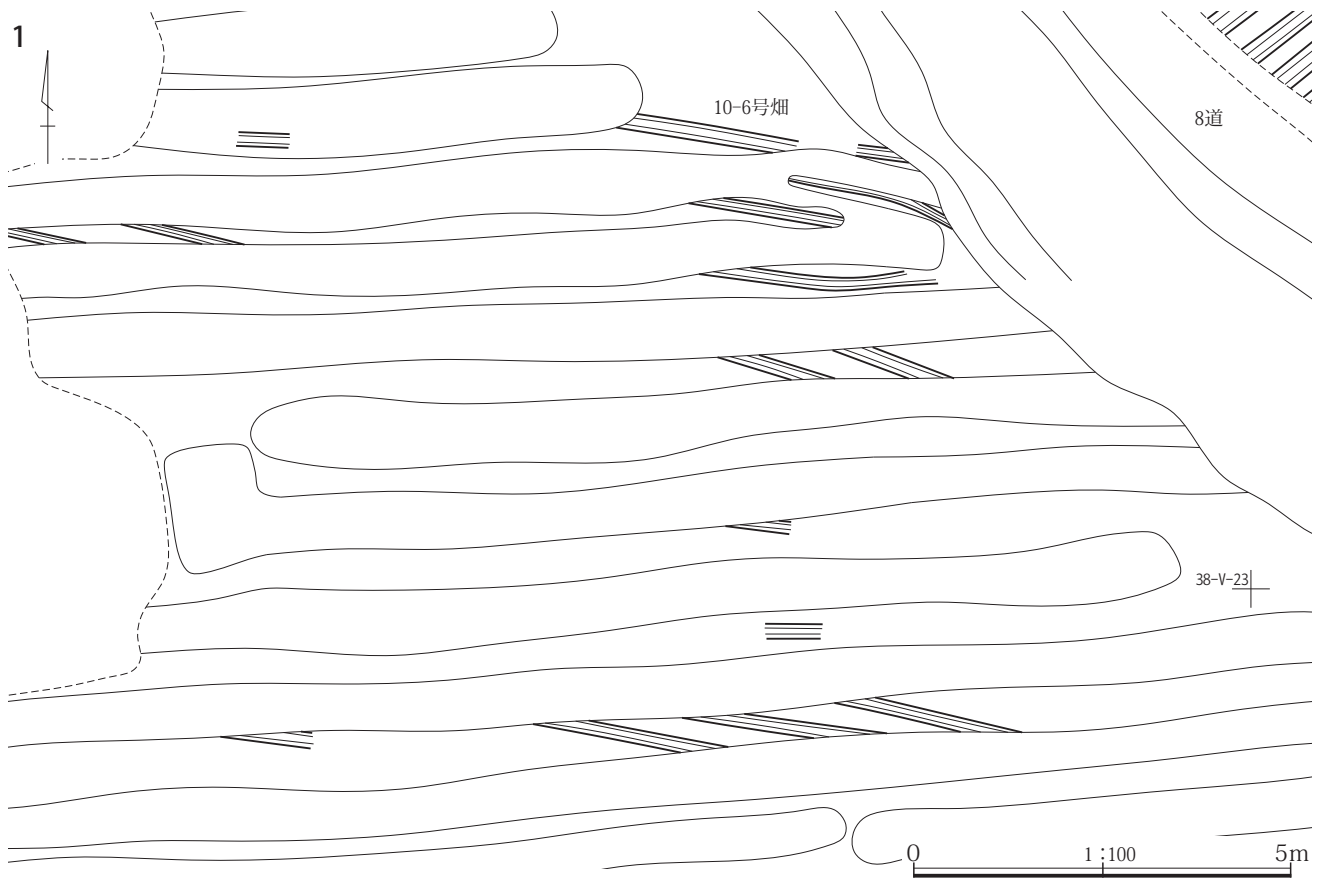
38-T～39-S-6～23グリッド 発掘区上段の緩傾斜

部の西部を占める。東辺は第11区画畑と接するが、明確な境界施設はない。西辺は11号道で区切られ、以西では畑遺構は確認されない。南辺は発掘区界に達し、北は下段との境界となる傾斜面に至る。東西長111.2m、南北長53.6mの広い区画であるが、中央部は泥流到達後の復旧坑群に大きく攪乱されていて、詳細が把握できない。特に東部は復旧坑間に僅かに畝間溝の痕跡が残るにとどまる。

**第10区画1号畑** 39-R・S-9～15グリッド 東辺は2号畑と接するが、畝間溝端は切り合わない。西辺は4号道で画される。南端は大きく攪乱される。弧状を描く



第69図 第2面 第10区画畑東部



第70図 第2面 第10区画畑東部部分図1



第71図 第2面 第11区画畑

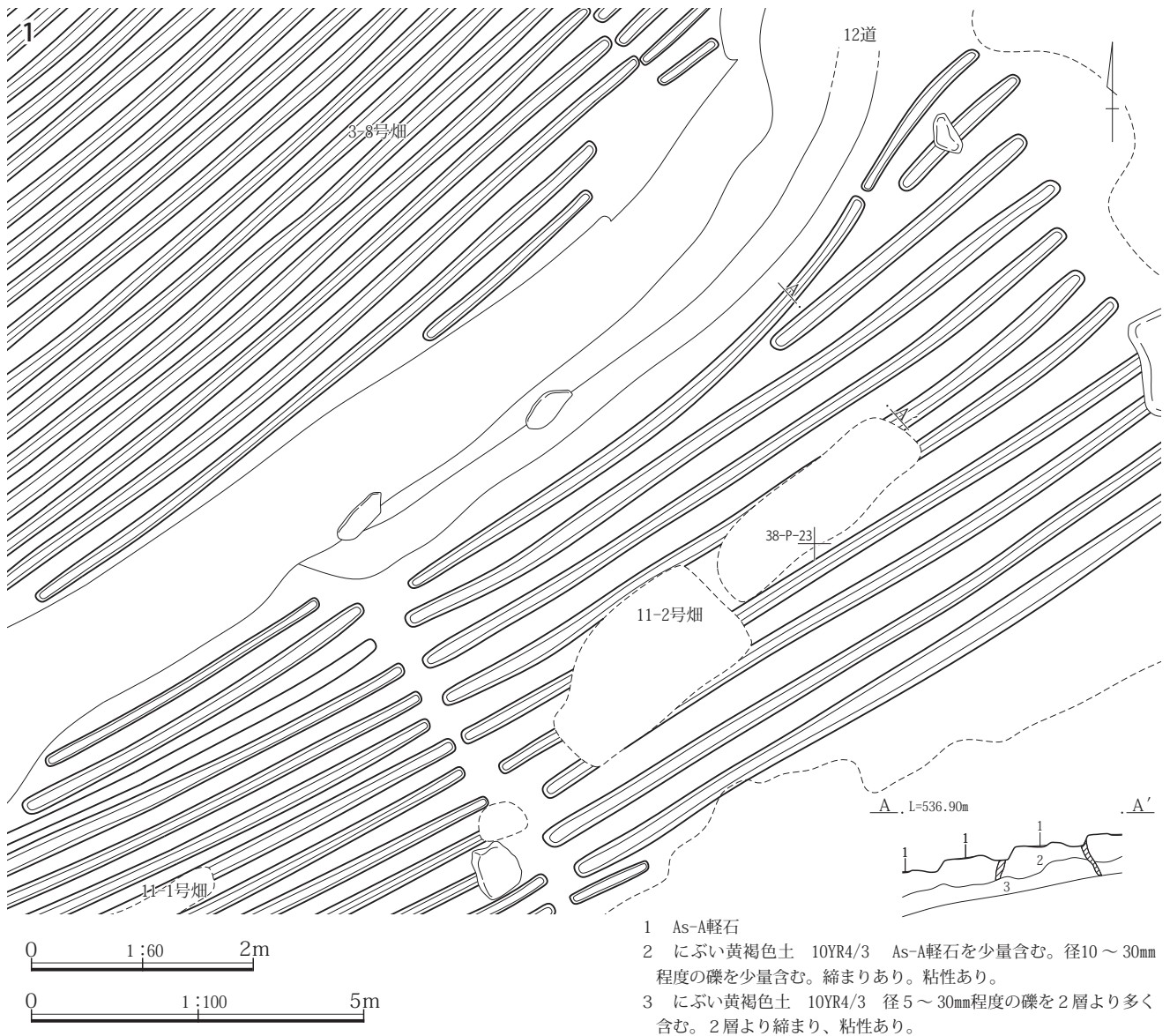
道に沿って、中央がやや長く、南北に向かって短くなる畝間溝が切られていて、弓形の平面形状を呈する。北部はやや攪乱されていて、端部が明確に捉えられない。東西最大長4.4m、南北長24m、面積83.13㎡。中間に発掘区界があって全体を確実に捉えることができないが、畝間溝51条がおおよそN-92°-Eを示して並び、残りの良い部分での畝間溝間の平均距離は0.48mとなる。平坦面は確認されていない。

**第10区画2号畑** 39-O~R-6~16グリッド 東辺は南部で3号畑と接するが、畝間溝端部は切り合わない。東辺北部は1号復旧坑群と接するが、畑の畝間溝が復旧坑に切られる状況は見られない。西辺は1号畑と接していて、11号道の弧線に揃うように中央部が西に膨らむ。畝間溝端は切り合わない。南辺は特別の境界施設がない

が、発掘区界手前で畝間溝が確認できなくなる。南西部は大きく攪乱を受けている。北辺も特別の境界は見られないが、下段に続く傾斜部のやや手前で畝間溝が確認できなくなる。東西最大長11.02m、南北長31.82m、面積330.74㎡。畝間溝43条が、4号畑に接する部分より北部ではおおよそN-89°-E、南部ではN-75°-E前後を示して並ぶ。畝間溝間の平均距離は0.5mほどである。平坦面は確認されていない。

**第10区画3号畑** 39-K~O-6~9グリッド 東辺は調査区界に達して、全長がわかる畝間溝はない。畝間溝東端は1号復旧坑群を越えて2号復旧坑群の中部近くに達する。西辺は2号畑と接するが切り合わない。南辺は特別の境界施設がないが、発掘区界手前で畝間溝が確認できなくなる。北辺は1号・2号復旧坑群に切られて把





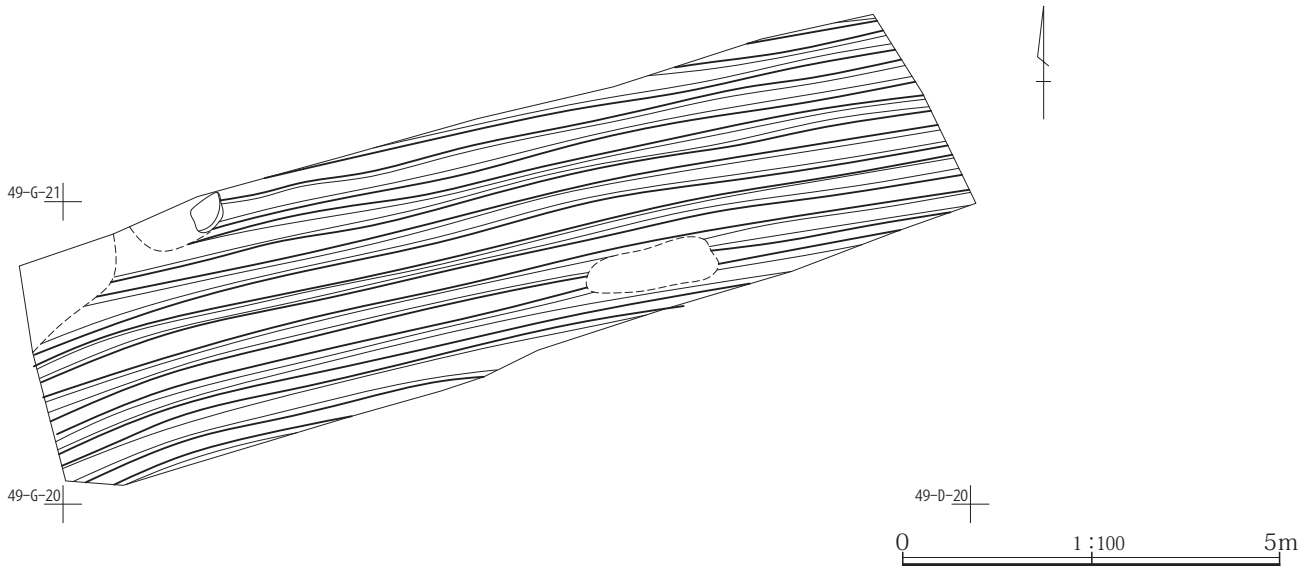
第72図 第2面 第11区画畑部分図1

握できないが、最北端の畝間溝は復旧坑に切られていない。北辺西寄りに12号平坦面があって、これは1号復旧坑群の最南端溝に半切される。おそらく更に北までこの畑が伸びていたものと思われる。東西確認長20m、南北長10.1m、面積147.78㎡。畝間溝11条がおおよそN-81°-Eを示して並び、畝間溝間の平均距離は0.92mと幅広である。

**第10区画4号畑** 39-E～I-12～15グリッド 東辺は6号復旧坑群、西辺は2号復旧坑群に接する。両辺ともにやや不規則で畝間溝の長短が揃わない。復旧坑端部との間にも若干の空隙があって切り合わない。南辺には攪乱部があって不明瞭だが、1条のみ明確に方位を異にする畝間溝があって、これが境界をなしたかと思われる。

北は4号復旧坑群に画される。東西長13.95m、南北長13.2m、面積166.87㎡。畝間溝29条が数えられ、おおよそN-77°-Eを示して並ぶが、最南端の畝間溝のみN-64°-Eを示す。畝間溝間の平均距離は0.41mとなる。平坦面は確認されていない。

**第10区画5号畑** 39-A～F-18～24グリッド 南西の一部を除いて5号復旧坑群下に当たって、復旧坑間に畝間溝痕跡が断続的に残される。東辺北部は攪乱されているが、7号復旧坑と接し、南部は8号復旧坑群と接する。両復旧坑群に切られている。西辺は3号復旧坑群に切られる。南端の畝間溝以南では畝間溝が見つからないため、以南は畑ではない、あるいは軽石降下後の耕作域と考えられる。南は6号復旧坑群北端を超えて広がり



第73図 第2面 第12区画畑

ある。北東隅部は畝間溝の方位や間隔がやや異なる。東西確認長16.7m、南北確認長25.8m、面積369.12㎡。畝間溝34条が数えられる。北東部ではおよそN-75°-Eを示して並び、畝間溝間の平均距離は0.8mほど、以南はN-79°-83°-Eで、南西部の残りの良い部分では畝間溝間の平均距離0.51mほどである。平坦面は確認されていない。

**第10区画6号畑** 38・39-U～A-20～24グリッド 7号・9号復旧坑群の復旧坑間に畝間溝痕跡が点々と残るもので、全容及び細部は把握できない。東西16.8m、南北15.4m、面積372.87㎡の範囲で痕跡が認められ、N-73°-82°-E方向に延びる畝間溝であったものと思われる、畝間溝間距離も捉えがたいが、0.2～0.4mほどかと思われる。平坦面はない。

(11)第11区画

38-N～T-18～25グリッド 発掘区の東南角部にあたる。東辺は斜面を介して第7区画畑に隣接する。西辺は9号復旧坑群と接するが、間に細長い攪乱があって切合い関係などは把握できない。畝間溝西端部は攪乱に切られる。また、9号復旧坑群の復旧坑東端も攪乱に切られている。南部は発掘区界まで大きく攪乱されているが、発掘区界まで畝間溝が認められる。北は斜面を介して第3区画8号・9号畑と隣接するが、12号道が東部の上段にあり、傾斜面下を8号道が綴る。東西確認長31.2m、南北確認長18.7mほどの範囲を占めるが、中央部で二分され、西部は畝間溝間隔が狭く、東部はやや広い。

**第11区画1号畑** 38-Q～T-18～22グリッド 東辺は2号畑と接するが、畝間溝末端はお互いに切り合わない。西辺は細長い攪乱部を隔てて9号復旧坑群と隣接する。南辺は大きく攪乱されているが、発掘区界まで畝間溝が認められる。北は急傾斜を介して、1.4mほど下の第3区画8号畑と隣接する。東西13m、南北12.2m、面積86.27㎡。26条ほどの畝間溝が数えられ、およそN-65°-Eを示す。畝間溝間の平均距離0.47mほどである。平坦面は確認されていない。

**第11区画2号畑** 38-N～Q-21～24グリッド 東部は東向き傾斜部の上縁に沿って攪乱されるが、畝間溝の多くは攪乱部よりやや西で端部が完結する。傾斜下は第7区画3号畑となる。西辺は1号畑と接するが切り合わない。南辺は攪乱されて把握できない。北は12号道で画され、南向きの傾斜面下に第3区画8号・9号畑がある。東西長14m、南北長7.4m、面積71.94㎡。畝間溝11条がおおよそN-58°-Eを示して並び、畝間溝間の平均距離は0.67mとなる。平坦面は確認されていない。

(12) 第12区画

48-D～G-20・21グリッド 他の発掘区とは離れて吾妻川寄りの位置にある。標高521.34～520.86m。東西長12.6m、南北長3.4m、面積39.02㎡のトレンチ内に、畝間溝9条が確認された。畝間溝の端部は確認されておらず、各溝の長はこれより長い。方位ははおよそN-78°-Eを示し、畝間溝間の平均距離は0.42mとなる。平坦面は確認されていない。

### 第3項 平坦面

畑面に残された、円形ないし四角形の平面形を呈して内部に凹凸の少ない部分を「平坦面」として調査している。ハツ場ダム地域の天明泥流下畑にあっては通有かつ特徴的に見られるものである。直径1.5～2.5mで、平面形が円形／方形、周囲を囲む溝(平坦面溝)がある／ない、畑の畝間溝が平坦面を切る／切らない、中央に溝がある／ないなどによっていくつかの類型が考えられている。作物種子と堆肥を混ぜ合わせる、播種前の作業の場などの性格が想定されている。

本遺跡では平成14年度発掘区で3か所、今次調査で12か所で円形平坦面が確認されている。14年度発掘区例はいずれも発掘区東寄りの部分にあり、今次発掘区に合わせると、第2区画畑の西部、第3区画1号畑にそれぞれ連続する畑内及び第2区画畑の空白部の北に接する畑内に1か所認められている。畝・畝間溝が明確な畑内にあって、畝間溝が平坦面に食い込むように表現されている。直径1.2m前後と、今次調査のものとは比べるとかなり小

さく、平坦面溝や中央溝はない。As-A軽石が平坦面上にもあり、As-A軽石降下前に行われた行為の痕跡であることがわかる。

今次調査範囲においては、第3区画西部、第4区画、第6・7区画及び第10区画にある。第6・7区画では畑ごとにあるように認められるが、第3区画3号・4号畑は畑面全域が調査されているが、平坦面はない。一方、第3区画7号畑では2か所の平坦面が確認されている。11号平坦面は、畑の項でも触れたが、畝や畝間溝の痕跡が捉えられていない部分にある唯一例である。12号平坦面は復旧坑で半裁されている。こうしてみると、平坦面は畝・畝間溝で示される耕作単位とは必ずしも対応しないことがわかる。断面記録のある5・6・9・10号平坦面ではいずれも、As-A降下軽石が平坦面上に乗る。

個々の平坦面を見ると、径1.37～1.95m、平均1.68m、中央値1.64mの円形平面形のもので、方形のものはない。畝間溝を切り、平坦面溝や中央部の溝がない1号～4号および7号・10号・11号平坦面、周囲を囲む溝が畝間溝を切り、中央溝がない8号・9号・12号平坦面、平坦面



第74図 第2面 平坦面位置図

溝が畝間溝を切り、中央溝が周囲の溝と連続する5号平坦面、畝間溝が平坦面溝の手前で止まり、中央溝が平坦面溝まで達せずに完結する6号平坦面という4類型が認められる。明確に掘削・削平されたものではなく、荷重による変形ともとれるような微弱な痕跡であるため、この類型が異なる行為や用具の痕跡であるのか、同じ行為・用具の痕跡の強弱、保存環境を示すものであるのか判断できない。

**1号平坦面** 49-K-3・4グリッド 標高523.8m前後にある。円形の平面形で、外径は195cmほど。平坦面溝はない。中央溝はない。第3区画5号畑の南部西辺近くにあり、周囲の畝間溝を切る。

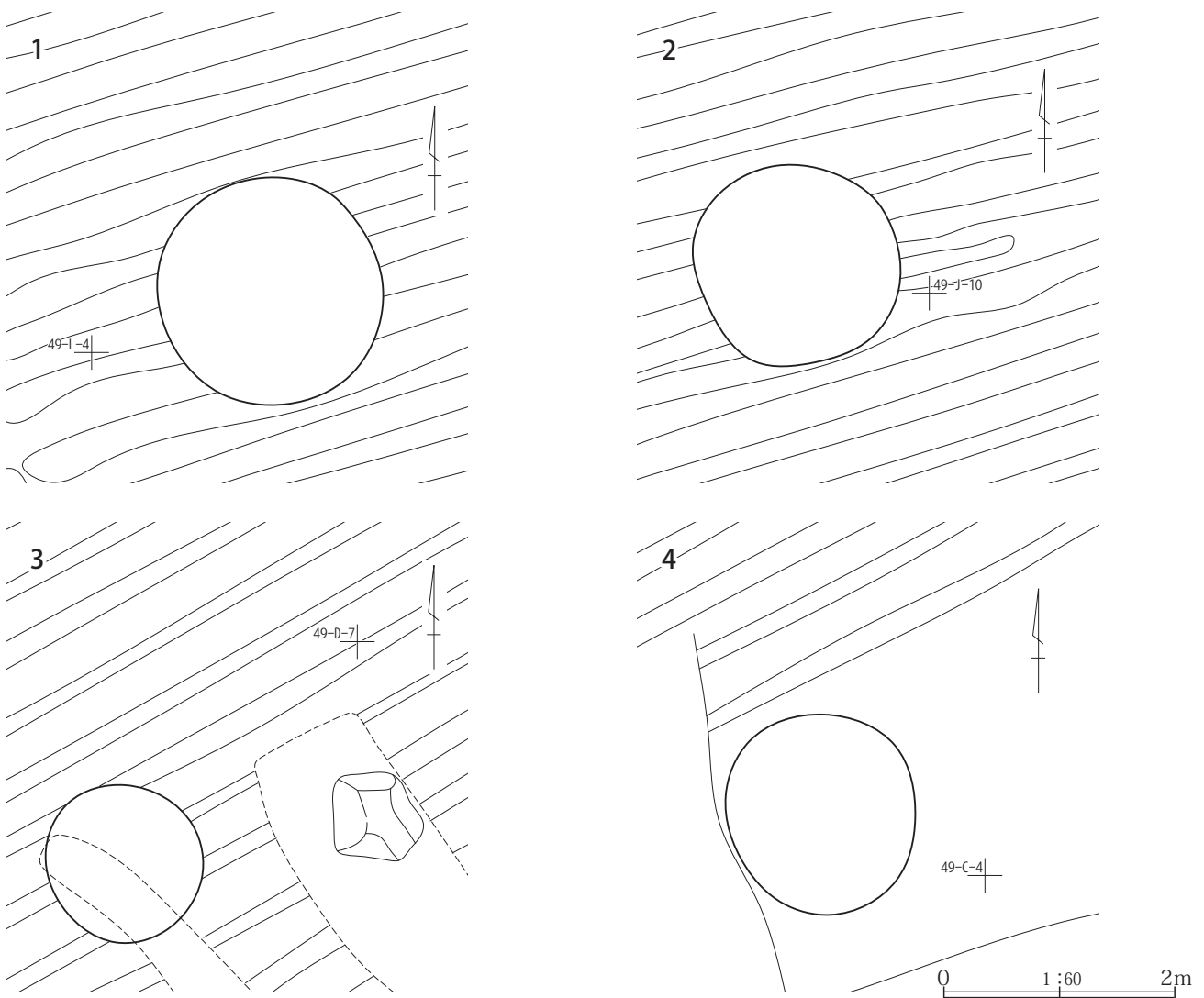
**2号平坦面** 49-J-9・10グリッド 標高522.31m前後にある。円形の平面形で、外径は178cmほど。平坦面溝はない。中央溝はない。第3区画6号畑の北寄り中央

近くにあり、周囲の畝間溝を切る。

**3号平坦面** 49-D-6グリッド 標高525.32m前後にある。円形の平面形で、外径は137cmほど。平坦面溝はない。中央溝はない。第3区画7号畑の南部中央近くにあり、周囲の畝間溝を切る。

**4号平坦面** 49-C-3・4グリッド 標高526.34m前後にある。円形の平面形で、外径は172cmほど。平坦面溝はない。中央溝ない。第3区画7号畑の南端中央にあり、畝・畝間溝が確認できない部分に当たる。

**5号平坦面** 49-B-10・11グリッド 標高525.5m前後にある。円形の平面形で、外径は155cmほど。平坦面溝は幅18～20cmで全周し、内径は117cmほど。深さ2～5cm。中央溝はN-124°-Eと北西-南東方向間溝を示し、幅20cm、深さ7cm。平坦面溝、中央溝内にはAs-A降下軽石が堆積する。第3区画8号畑北部中央にあり、周囲の



第75図 第2面 平坦面1

畝間溝を切る。

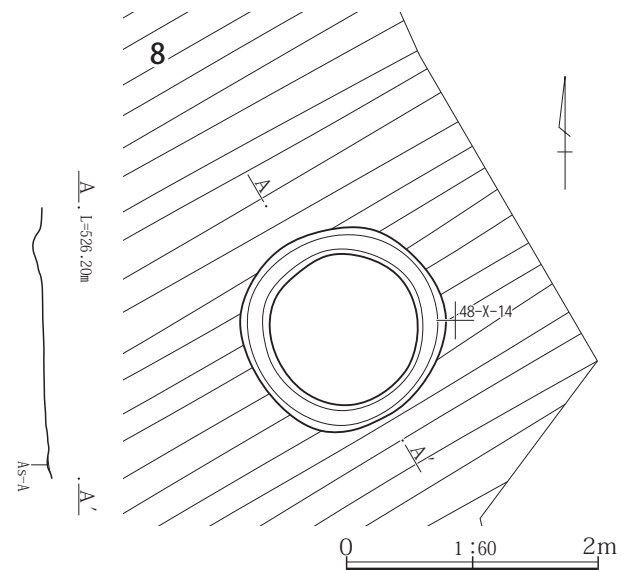
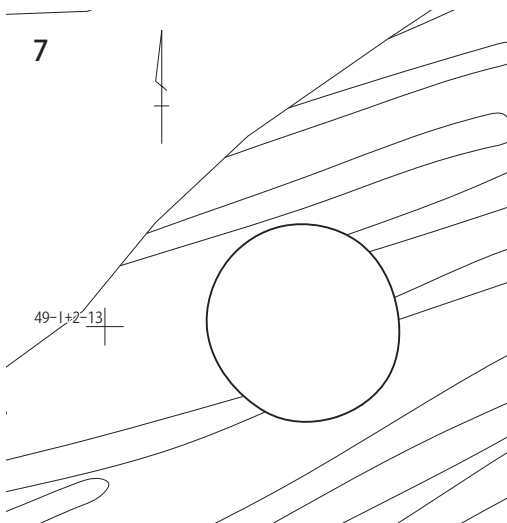
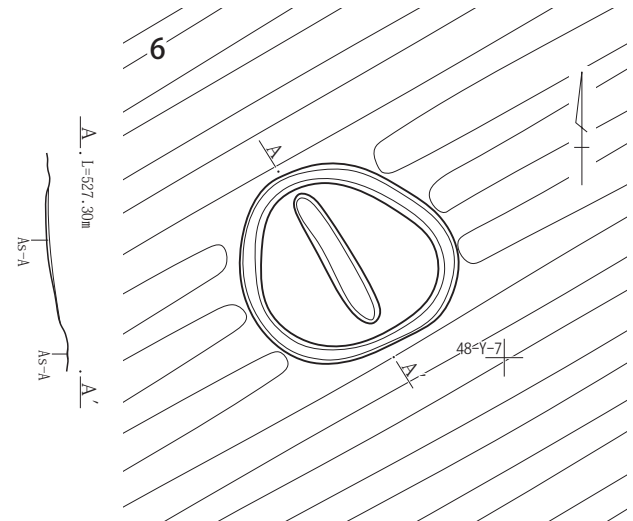
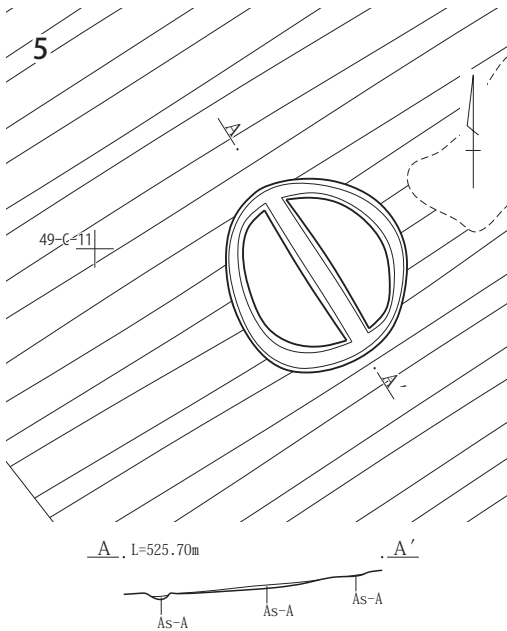
**6号平坦面** 48-Y-6・7グリッド 標高527.1m前後にある。南東がやや膨らむ下ぶくれの円形平面形で、外径は165cmほど。平坦面溝は幅18cm前後で全周し、内径は132cmほど。深さ1～3cm。中央溝は幅24cmほどで、5号平坦面とほぼ同じN-124°-Eを示す。深さ3～5cmで、両端は平坦面溝まで達せずで完結する。平坦面溝、中央溝内にはAs-A降下軽石が堆積する。第3区画8号畑中央やや北寄りの中央部にあり、周囲の畝間溝は平坦面溝直前で完結する。

**7号平坦面** 49-G・H-12・13グリッド 標高521.75m前後にある。円形の平面形で、外径は160cmほど。平坦

面溝はない。中央溝はない。第4区画畑の北発掘区画近くであり、周囲の畝間溝を切る。

**8号平坦面** 48-X-13・14グリッド 標高525.92m前後にある。円形の平面形で、外径は162cmほど。平坦面溝は幅24cm前後で全周し、内径は1.14mほど、深さ2～3cm。中央溝はない。第6区画畑やや北寄りの発掘区東端にあり、周囲の畝間溝を切る。

**9号平坦面** 48-U・V-7グリッド 標高527.72m前後にある。東西にやや長い長円形の平面形で、外側長軸径は182cmほど。平坦面溝は幅18～24cm前後で全周し、内側長軸径は153cm。中央溝はない。第7区画1号畑の北西隅にあたる。北側が攪乱されるが、東側では畝間溝



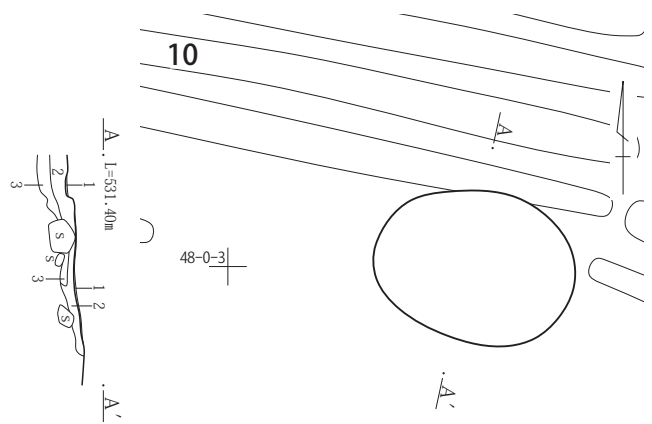
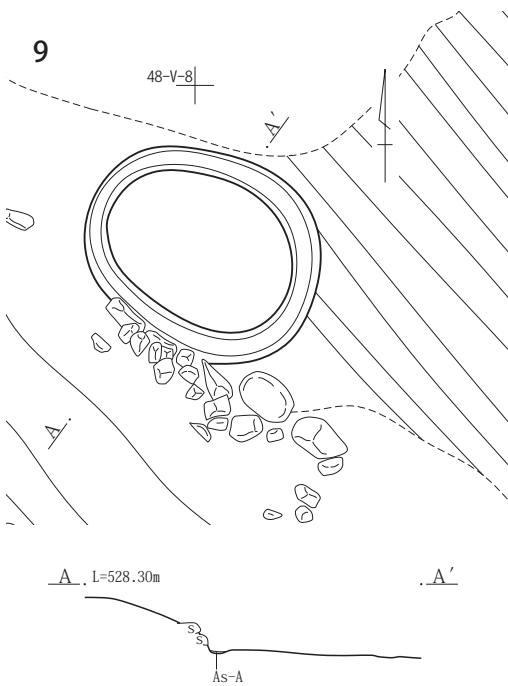
第76図 第2面 平坦面2

を切る。西側は2号石垣に接して、石垣の礫が平坦面溝上に崩落している。平坦面溝内にAs-A降下軽石が堆積する。  
**10号平坦面** 48-N-2・3グリッド 標高531.16m前後にある。東西に長軸を持つ長円形の平面形で、長軸長は160cmほど。平坦面溝はない。中央溝はない。第7区画3号畑にあって、周囲の畝間溝を切る。平坦面内部がやや窪み、As-A降下軽石が堆積する。

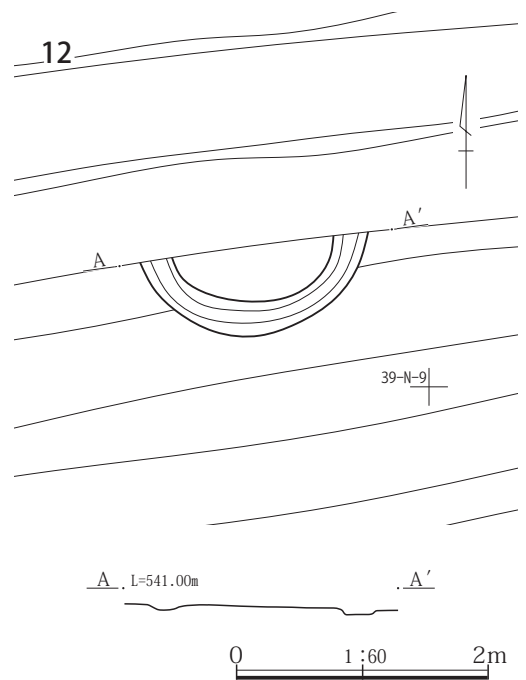
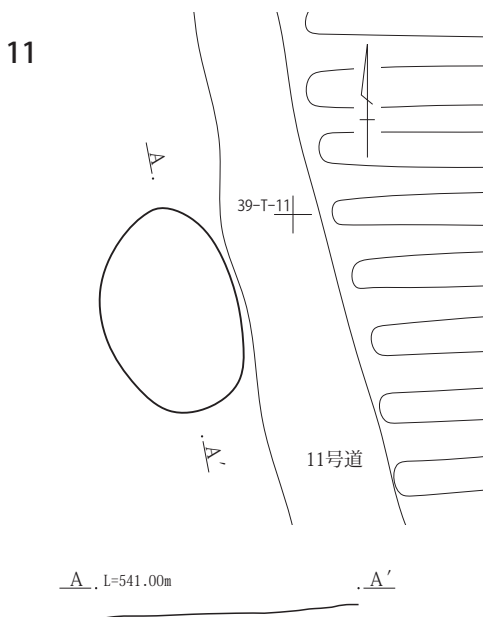
**11号平坦面** 39-T-10・11グリッド 標高540.8m前後にある。南北に長い偏円形の平面形で、長軸長は162cm

ほど。平坦面溝はない。中央溝はない。高低図を見ても周囲との比高はほとんどなく、痕跡的なあり方を示す。11号道に接して、道の東には第10区画1号畑があるが、平坦面周辺では畝や畝間溝は確認されていない。

**12号平坦面** 39-N-9グリッド 標高540.85m前後にある。円形の平面形であったと思われるが、北半を復旧坑に切られる。外径は185cmほど。平坦面溝は25cm前後で巡る。深さ2～9cm。中央溝はない。第10区画3号畑にあって、周囲の畝間溝を切る。



- 1 As-A軽石
- 2 暗褐色土 10YR3/3 径10～30mm程度の礫を少量含む。縮まりあり。やや粘質。耕作土。
- 3 黒褐色土 10YR3/2 径5～6mm程度の黄色粒を含む。縮まりあり。粘性あり。



第77図 第2面 平坦面3

第4項 ヤックラ・2号炭窯

畑地内あるいは畑地の片隅の斜面に寄せかけるように、人為的に礫が集められ、積み上げられた場所が見られる。従前の調査では、周囲に比較的大ぶりの礫を巡らした中に中小の礫が集積されている例が多く、開墾時に発生した礫を処理する場所であり、その後の耕作時に出た礫などが順次積み上げられていったものと考えられている。現在でも遺跡周辺から、耕作中に出た礫などをまとめ置く部分を「ヤックラ」と呼んでいるが、これに相当するものであろう。西ノ上遺跡では、10か所が見ついているが、うち9か所が下段の南側、1号～3号道と上段との境界斜面の間に、斜面に寄せ付けるように設けられる。第8・第9区画畑はこの隙間を耕すような状態にある。10号ヤックラのみが斜面から離れて、第3区画8号畑と9号畑の境にある。

炭窯は発掘区東端近くに作られたもので、写真記録では煙道や灰原が見られる。

**1号ヤックラ** 40-A・B-19・20グリッド 標高522.8～533.6m。東2.2mに2号ヤックラがある。以西には遺構が認められていない。東西5.24m、南北2.08m。平面形は東西に長軸を持つ長円形で、東部がやや膨らむ。南側の斜面を削り込み、また底面もやや掘り下げて掘り方を構築する。下部にやや小ぶりの礫が多く、斜面下方に大ぶりの礫が多く見られる。

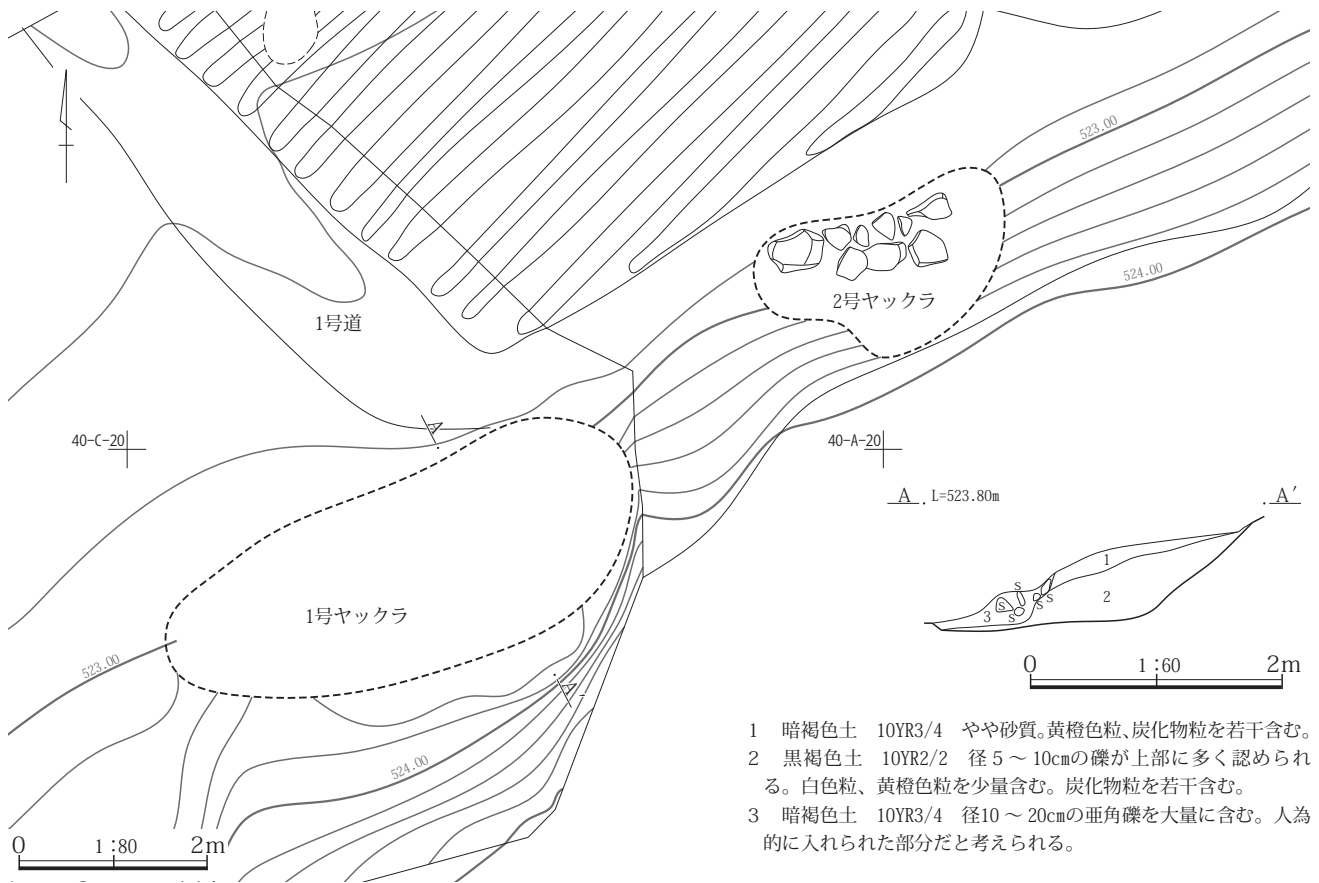
**2号ヤックラ** 39・40-Y・A-20グリッド 標高522.8～5523.9m。東10.5mに3号ヤックラ、西2.2mに1号ヤックラがある。東西2.8m、南北1.6m。平面形は北辺が膨らむ不整長円形。北部に大型の礫が集中する。

**3号ヤックラ** 39-V・W-21・22グリッド 標高523～524.3m。東4.2mに4号ヤックラ、西10.5mに2号ヤックラがある。東西4.32m、南北2.88m。平面形は不整形で、南西部が乱されて全体が把握できない。南側にやや大ぶりの礫が散在する。

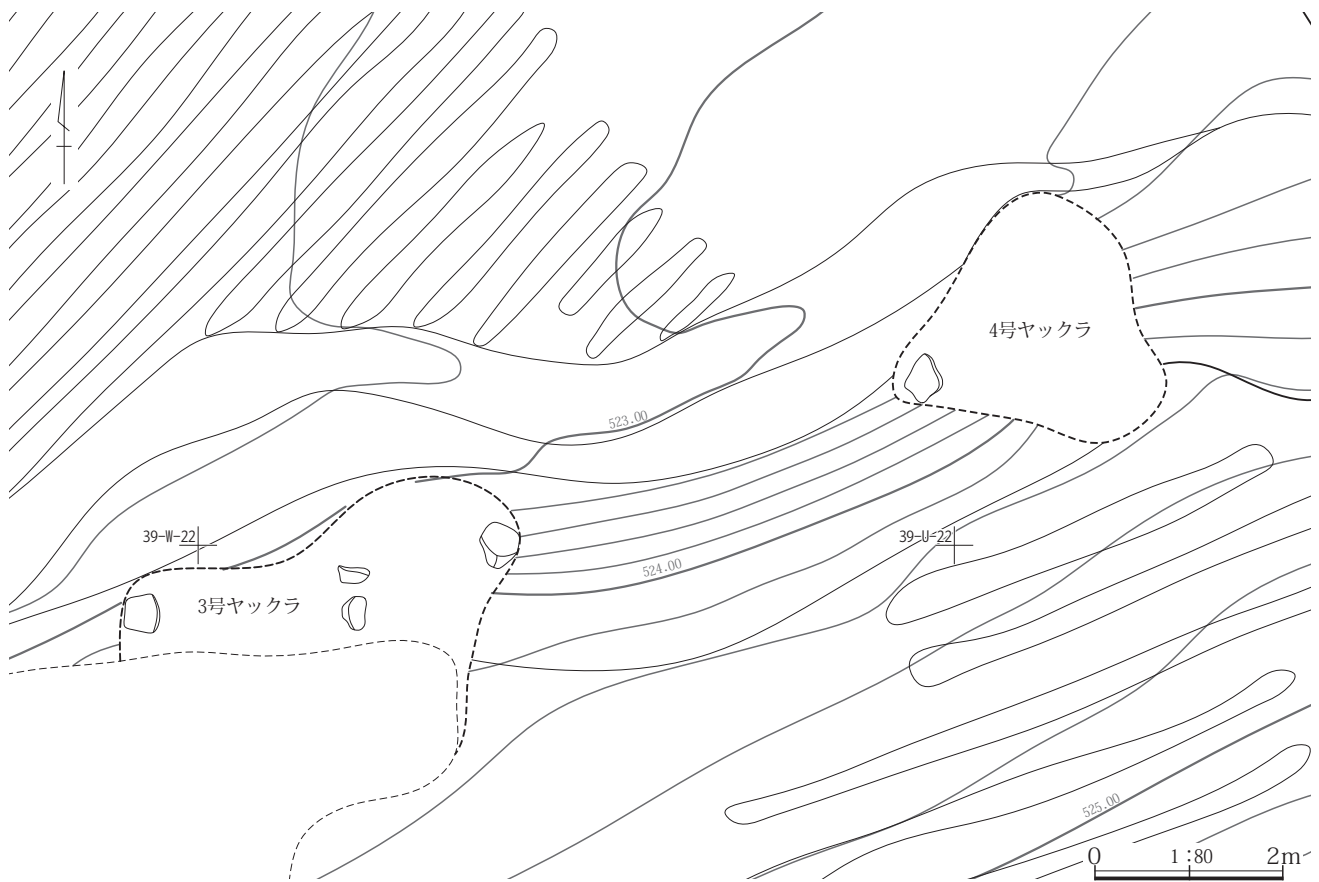
**4号ヤックラ** 39-T・U-19・20グリッド 標高522.8～524.4m。東25.9mに5号ヤックラ、西4.4mに3号



第78図 第2面 ヤックラ・炭窯位置図

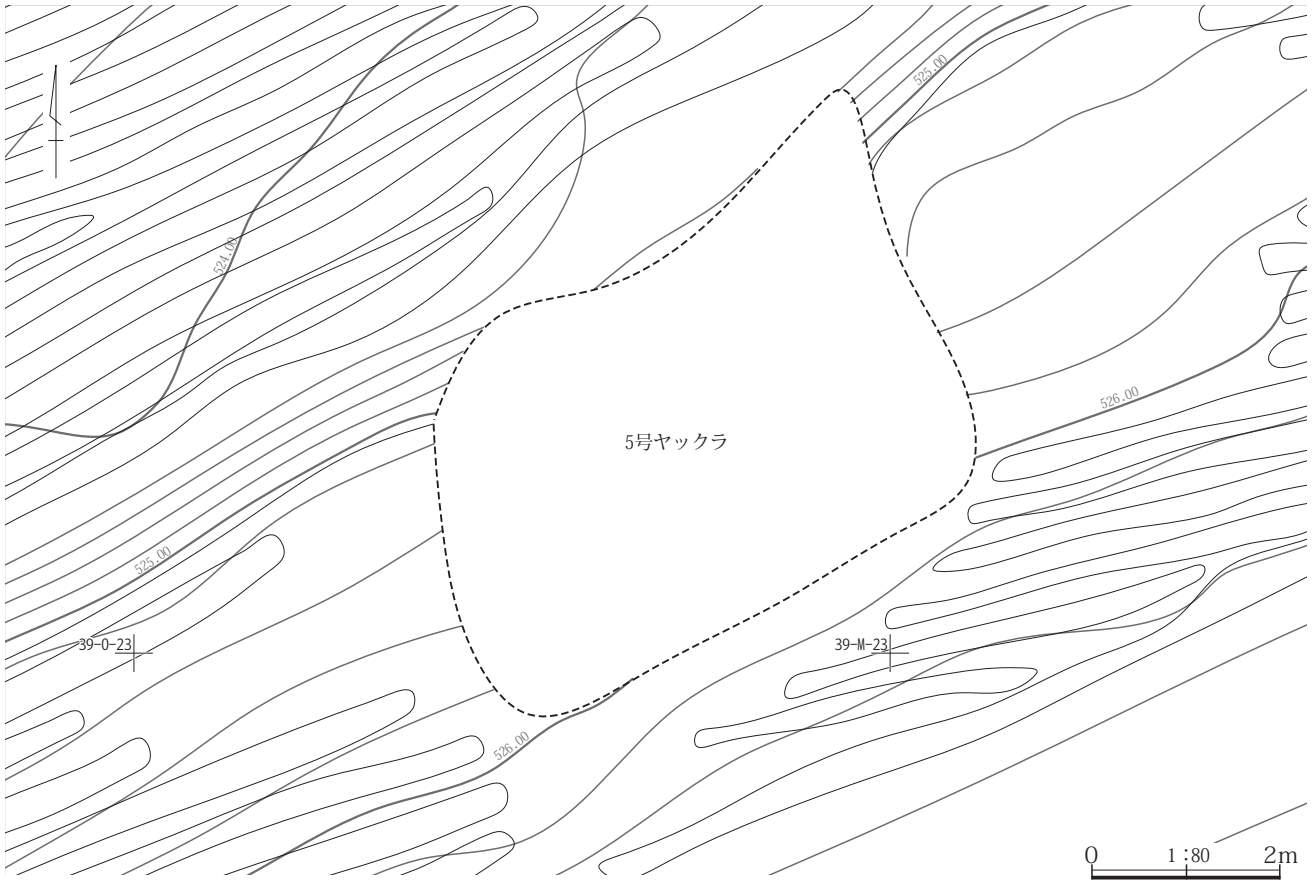


第79図 第2面 1号・2号ヤックラ・1号ヤックラ断面図

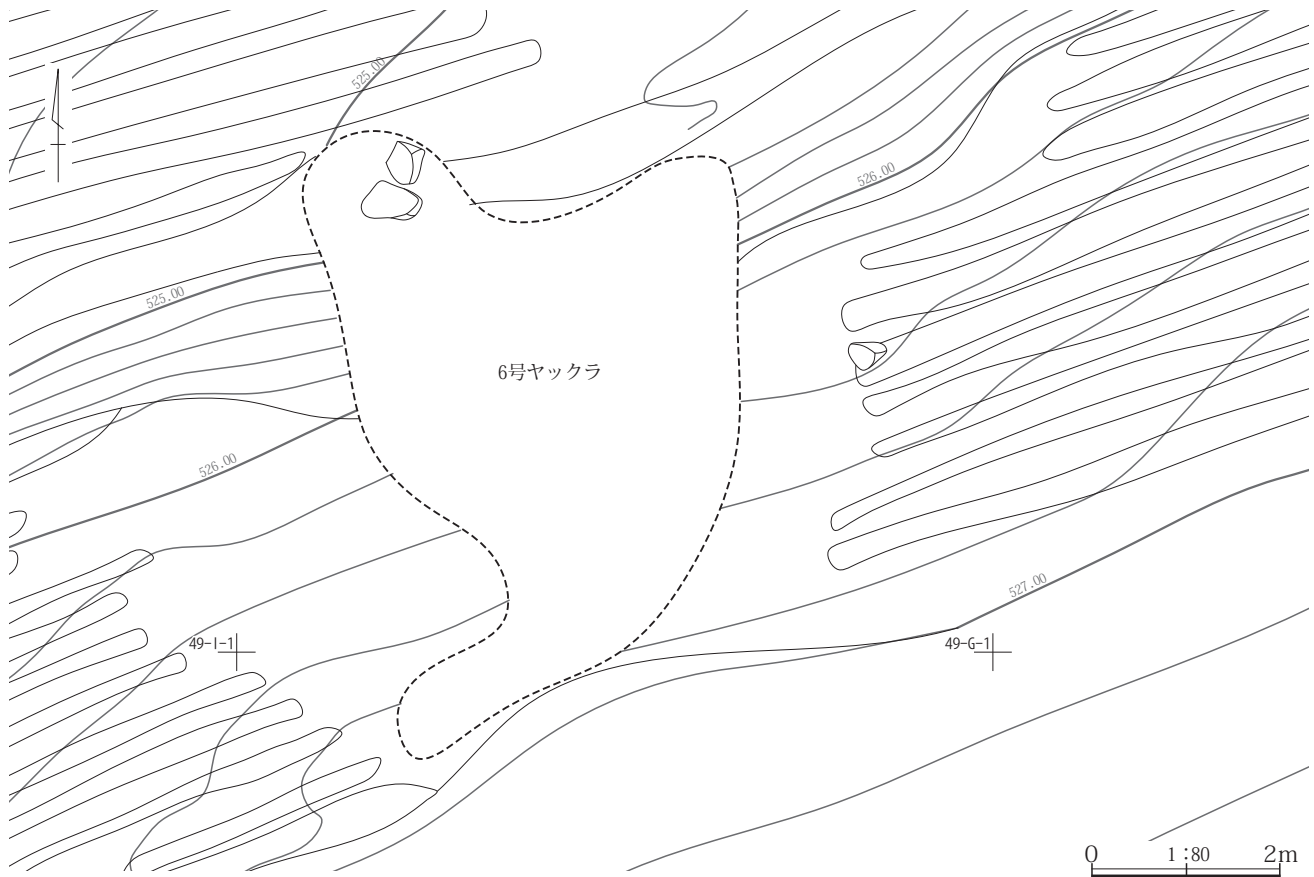


第80図 第2面 3号・4号ヤックラ

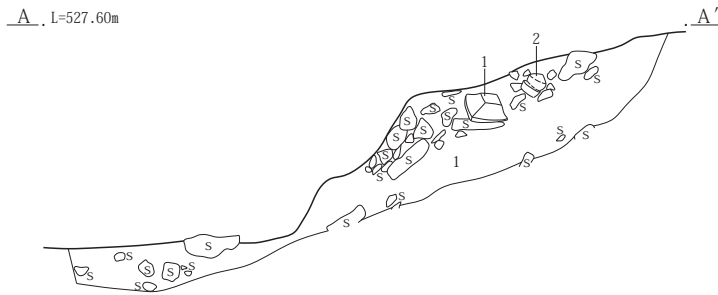




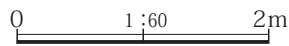
第81図 第2面 5号ヤックラ



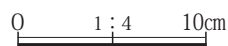
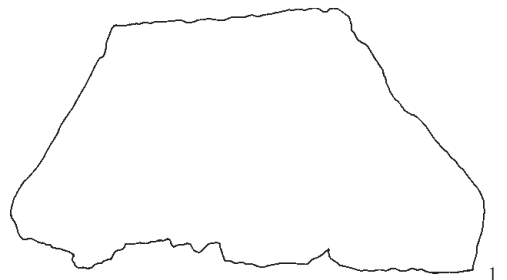
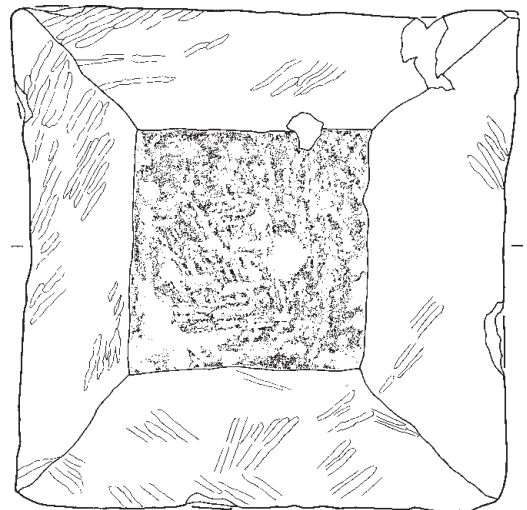
第82図 第2面 6号ヤックラ



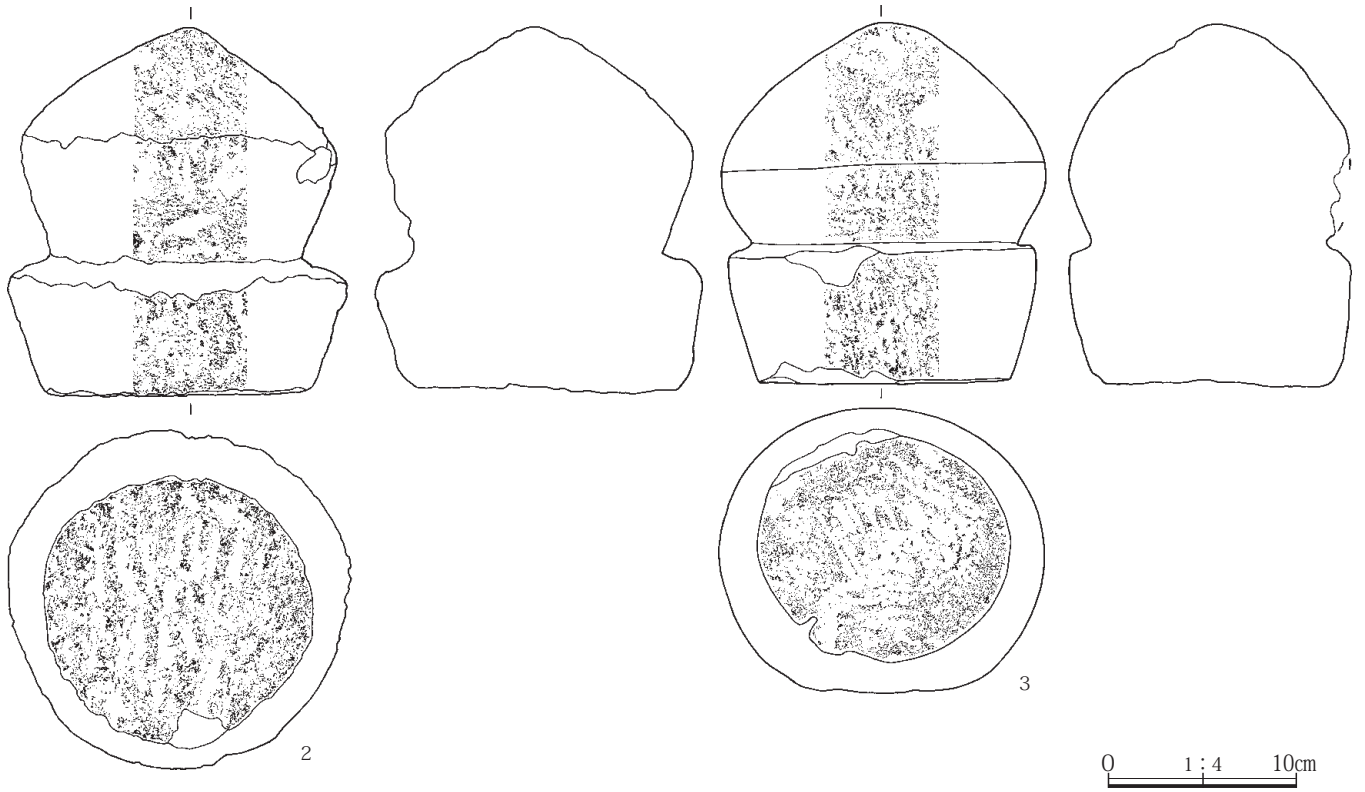
1 黒色土 上層部に礫を含み、全体に攪乱を受ける。  
下部は礫少なく締まる。



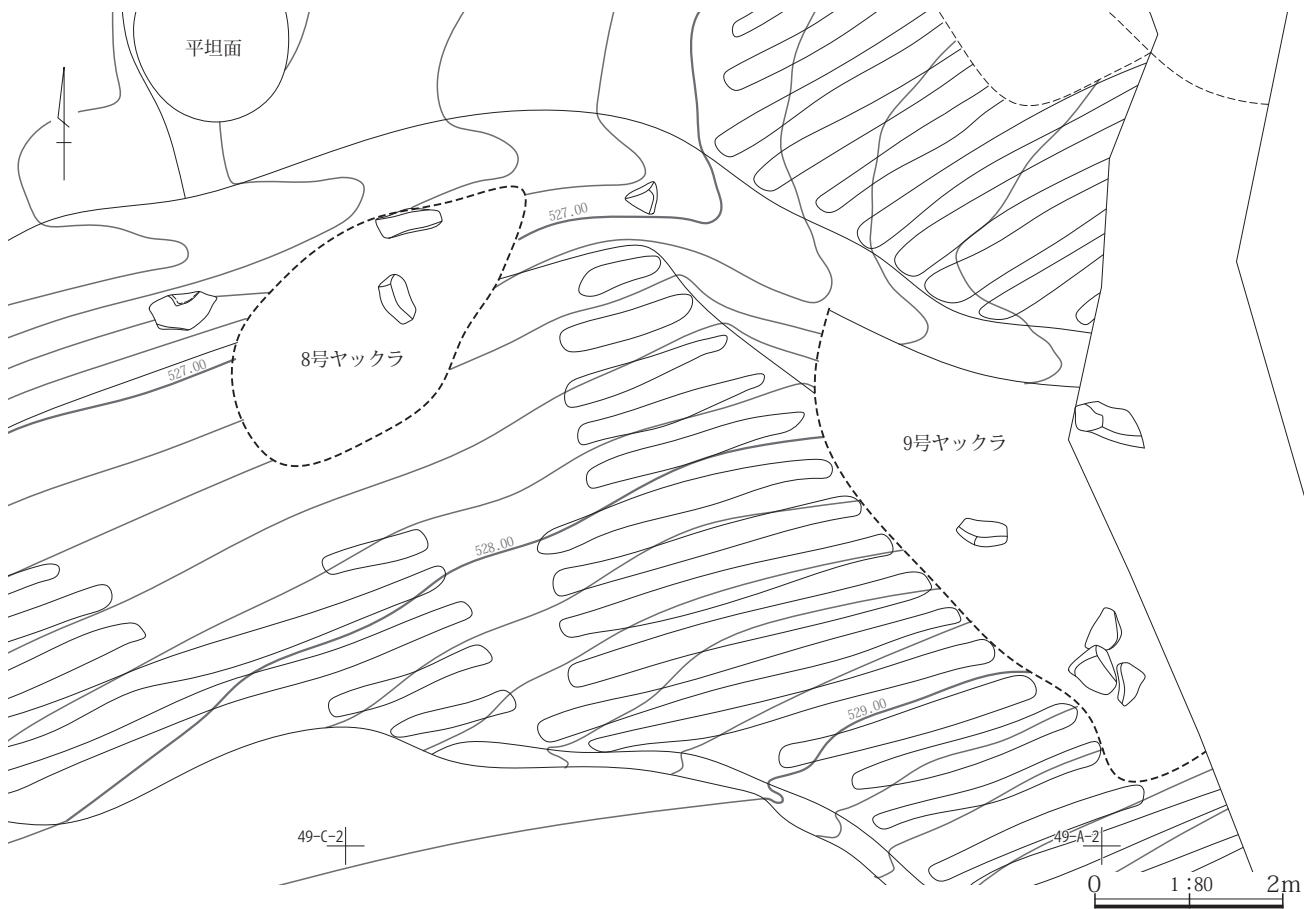
第83図 第2面 7号ヤックラ



第84図 第2面 7号ヤックラ出土遺物 1



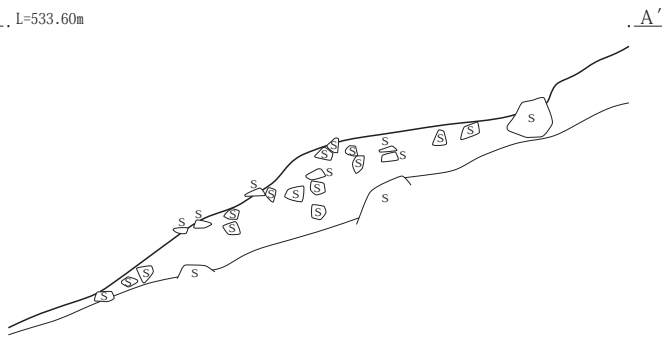
第85図 第2面 7号ヤックラ出土遺物2



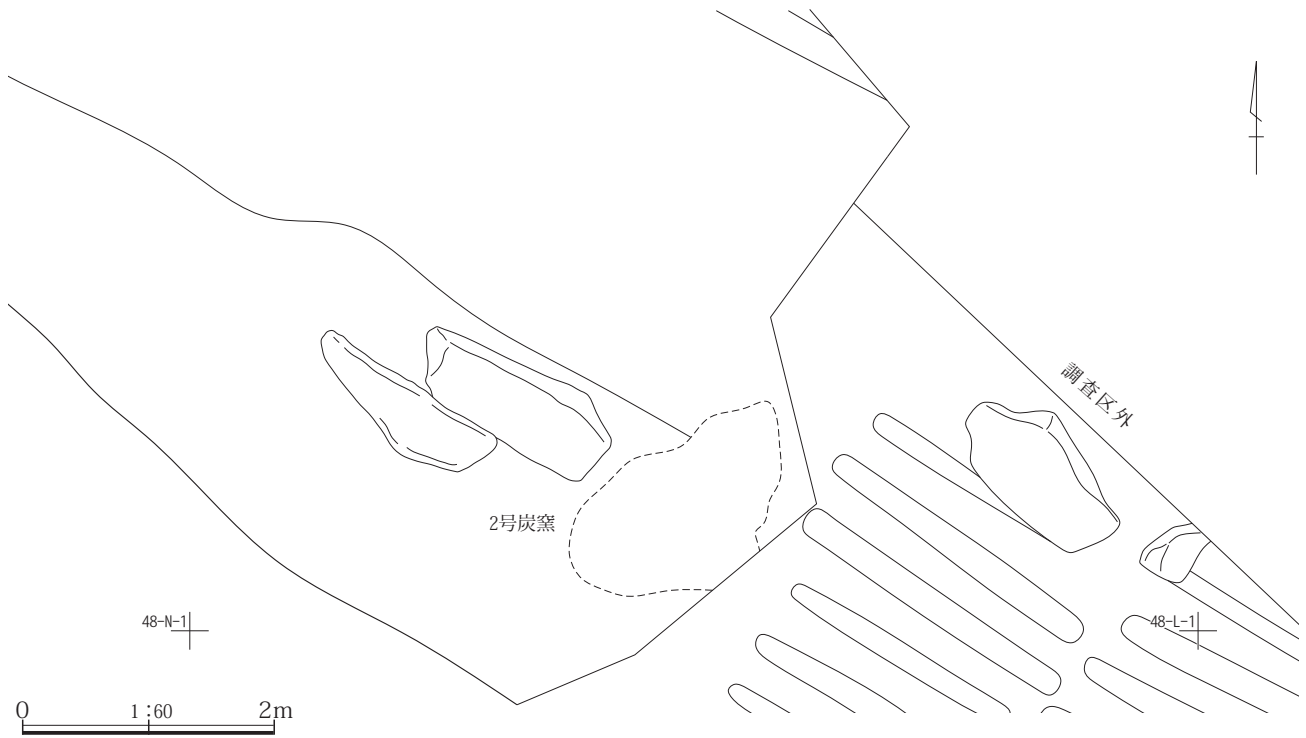
第86図 第2面 8号・9号ヤックラ



A L=533.60m



第87図 第2面 10号ヤックラ



第88図 第2面 2号炭窯

ヤックラがある。東西2.68m、南北2.76m。平面形は隅丸のゆがんだ三角形を呈する。西部にやや大ぶりの礫がある。

**5号ヤックラ** 39-L~N-23~25グリッド 標高524.6~526m。東18mに6号ヤックラ、西25.9mに4号ヤックラがある。東西6.64m、南北4.48m。平面形はゆがんだ隅丸の平行四辺形に近い形状を呈する。

**6号ヤックラ** 39・49-G・H-25~2グリッド 標高525~527m。東8.9mに7号ヤックラ、西18mに5号ヤックラがある。東西4.48m、南北6.68m。平面形は北部が大きく膨らみ、北辺がやや窪むようなゆがんだ涙滴状を呈する。北東端にやや大ぶりの礫が見られる。

**7号ヤックラ** 49-D・E-2・3グリッド 標高525.76~527.3m。東4.3mに8号ヤックラ、西8.9mに6号ヤックラがある。東西5.96m、南北7.52m。平面形は北部がやや広い隅丸の台形に近い形状を呈する。南側斜面を掘り込み、底面もやや深く掘り下げて掘り方を構築する。黒色土と礫で埋められるが、上層部及び掘り方南部外縁に特に大型の礫が多い。この中に五輪塔空風輪、火輪が含まれる。北部中央は礫・土の集石が少なく、相対的に窪んだような状態にある。

**8号ヤックラ** 49-B・C-2・3グリッド 標高526.8

~527.5m。東3.36mに9号ヤックラ、西4.3mに7号ヤックラがある。東西3.88m、南北1.96m。平面形は西部が膨らんだ涙滴状を呈する。北は3号道の半ばまで張り出す。

**9号ヤックラ** 48・49Y・A-2・3グリッド 標高527.66~529.6m。東は発掘区界で切られる。西3.36mに8号ヤックラがある。東西4.12m、南北6.24m。平面形は東部が発掘区界に切られるため全形はわからない。7号ヤックラに近い隅丸台形状の平面形かと思われる。

**10号ヤックラ** 48-R・S-1・2グリッド 標高532.2~533.4m。第3区画8号畑と9号畑の境界にある。東西3.24m、南北4.68m。平面形は隅丸方形に近い形状を呈する。南東寄りに比較的大ぶりの礫がある。

**2号炭窯** 48-M-1グリッド 図上では大型の角礫2個が標高532.4~533mにかけて並ぶようにあり、その東南に破線で囲まれた領域があって、炭窯との注記がある。写真資料を見ると、破線部が灰原で、破線部の南端に石組みの煙突が作られていたらしい。規模や形状に関する記載はない。調査時には攪乱と判断された可能性もあり、天明泥流下面のものか、上位から掘り込まれたものであるかも確定しがたい。

第5項 道・溝・石垣

ここでは、天明泥流直下で確認された道、溝、石垣に関する記載を行う。今次調査記録においては、溝状の窪みとして図上表現される遺構の中に、道としての遺構番号が付されているもの、溝とされているもの、溝状遺構とされているものに加え、遺構名や遺構番号が付与されずに図示されるものが混在する。一部高低や底面以下の土層に関する記載はあるものの、特に発掘時に4区とされた発掘区での、命名されていない遺構については、地表面の状況や硬度に関する記載も欠いているため、編集時点においてこれら遺構の性格を確定することはできない。流水を示す記載がないことや、浅く、皿状の断面形を示すこと、また2号道とした遺構については、平成14年度調査において道としての記載がなされている遺構と連続することから、3号道、4号道とともに、それぞれ道として記載することとした。

西部の1号～3号道はそれぞれL字状に屈曲し、2号

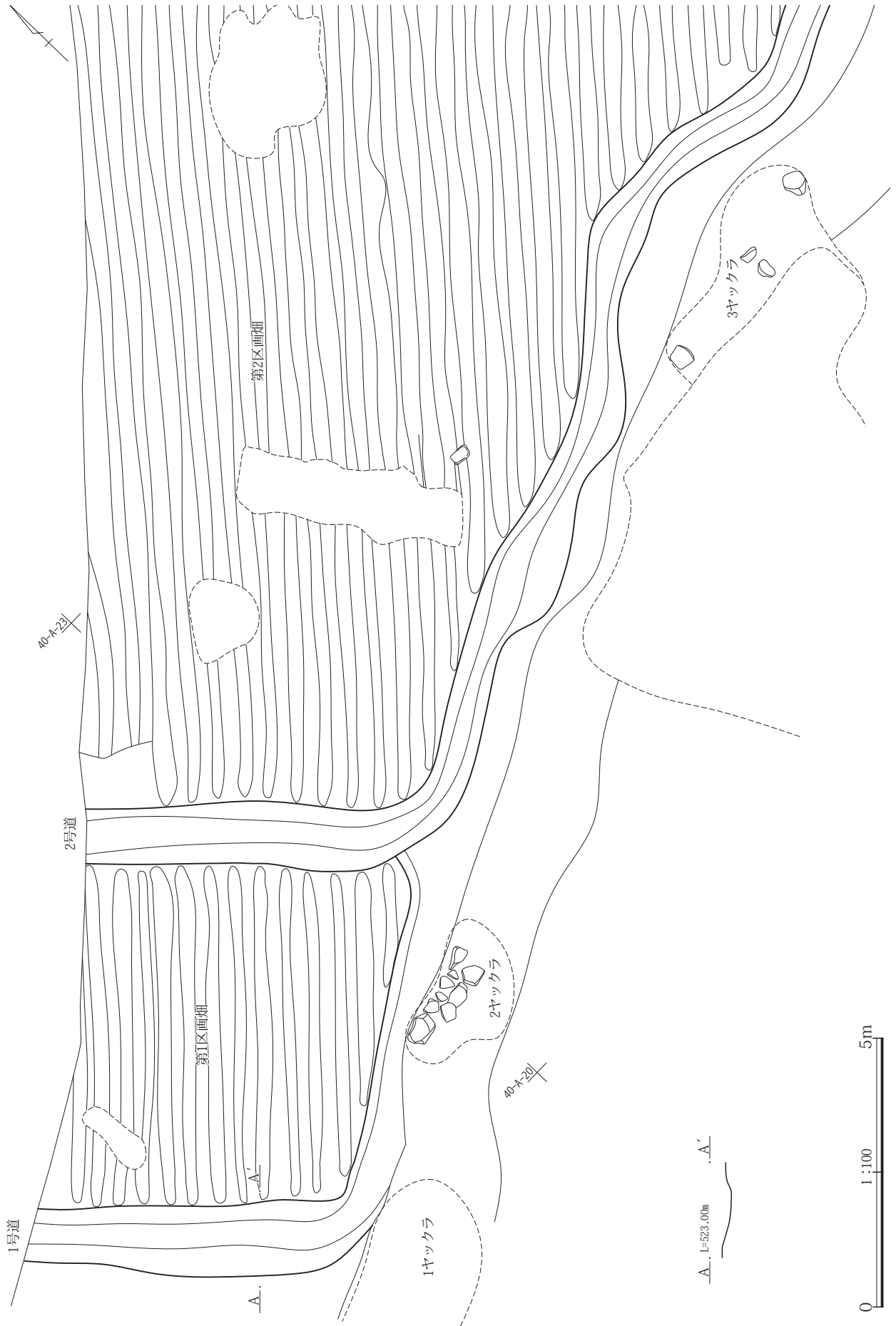
道は1号道に切られるように表現される。しかし道としての機能を考えると、1号～3号道の東西走部110m余が一連の道であり、同道の南北走部が北からこれに接続し、9号道は南からこれに接続する個別の道と見ることでもできよう。平成14年度調査では1号道の西にも南北走する道が認められているので、東西走する道は更に西に延びていた可能性もある。東部の5号～7号道は、攪乱に切られているが延長76mほどの一連の道であり、西から北に回り込む8号道もこれに連続するであろう。発掘区境界のわずかな空白を挟むが、1号～3号道の東西走部と8号道も連続するものと考えられる。

4号道は第4区画畑西端を画する。第4区画畑の南辺は第5区画畑南辺の1号溝の延長にあたる。おそらく1号溝も道として機能していたもので、これが連続して、両区画の外周を巡る道であろう。

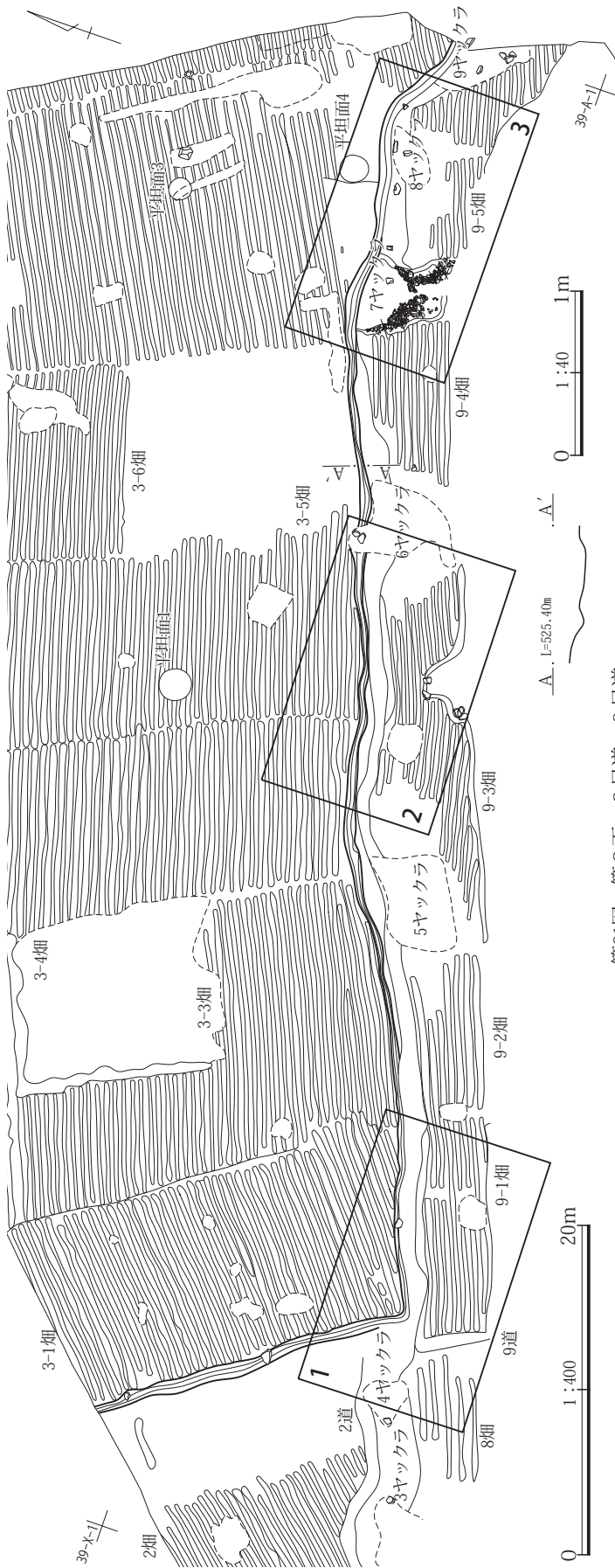
上段では西部の第10区画畑西端を弧状に囲む11号道とこの途中から西に延びる10号道、東部にあつて7号道の東西走部と平行する12号道がある。11号道は南北両端が



第89図 第2面 道・溝・石垣位置図



第90図 第2面 1号・2号道



第91図 第2面 3号道・9号道

わかっていないが、北側では上下段中間の斜面を下って9号道とつながるように思える。

こうすると、1号～3号道東西走部と8号～5号道が連続して、発掘区の上段段を分かつ斜面の裾を巡り、これに西部では1号～3号道南北走部や9号道、北東部では4号道・1号溝がとりつく。9号道は上下段を繋いで、上段西辺を画する11号道、以西に連続する10号道に続くという動線が考えられる。

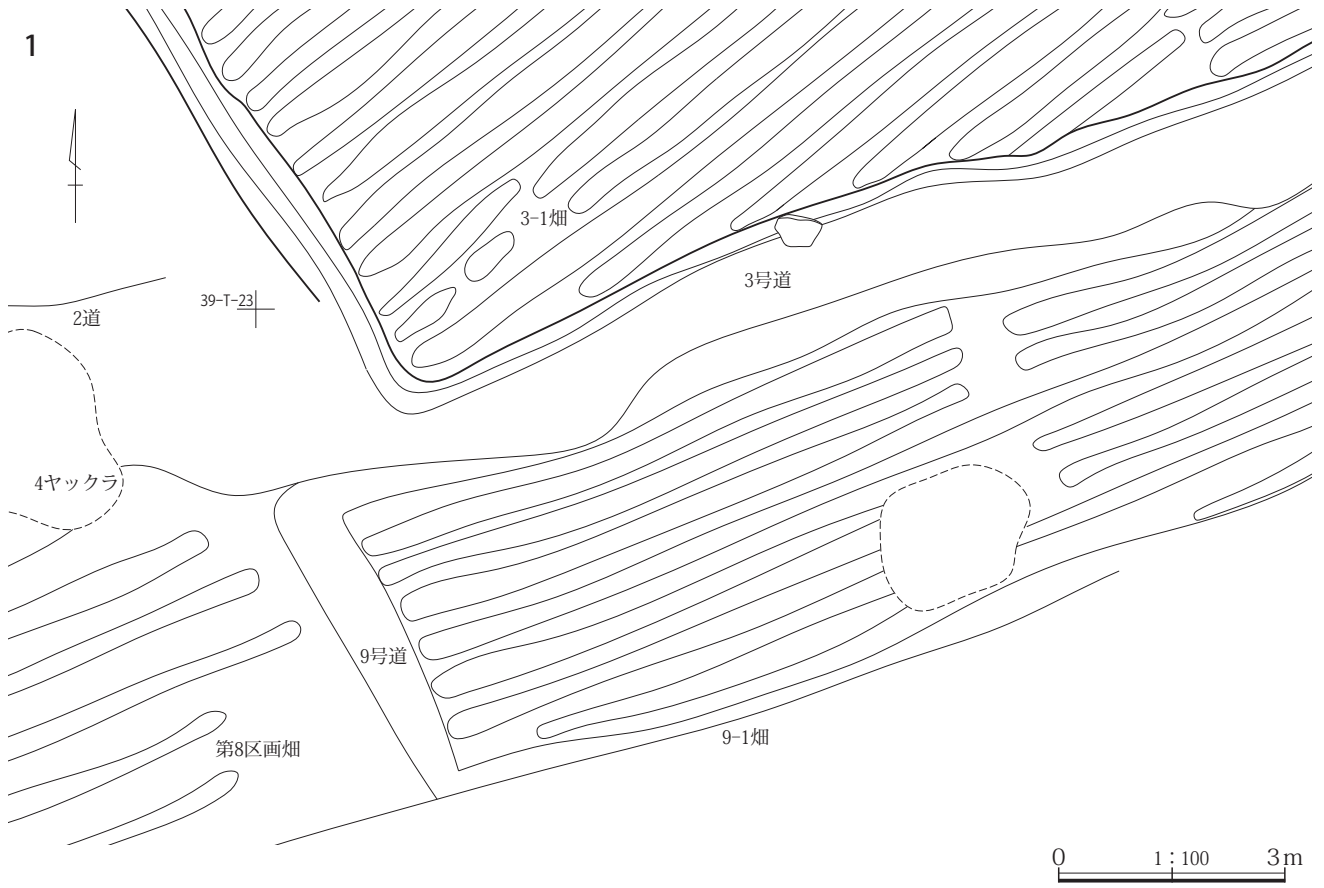
これらの道はいずれも微弱な窪みとして捉えられるもので、日常の農作業に伴って形成された道であろう。

**1号道** 39・40-Y～C-20～21グリッド 西部の南北走部はN-135°-E方向で北西-南東方向に延びる。幅100～150cm、確認長6mほど。地形の傾斜に従って東側がやや深く窪んでいて、浅い皿状の断面形を呈する。写真記録では両側に溝状の窪みを伴い、中央部には波板状の構造があるようにも見える。40-B-20グリッドで東に折れ、N-62°-E方向で上段との境界斜面の下端を綴るように東西走する。屈曲点から7.5mほど東で2号道に切られるが、斜面際の平坦面は連続する。屈曲点近くに1号ヤックラ、東西走部分の中間より東寄りに2号ヤックラがある。なお、北部は平成14年度調査2号道と連続する。この道は長10.5mが調査されており、幅150cmで東側がやや深く窪んだ断面形を呈し、底面は平坦だが、特に硬化した面は確認されていない。

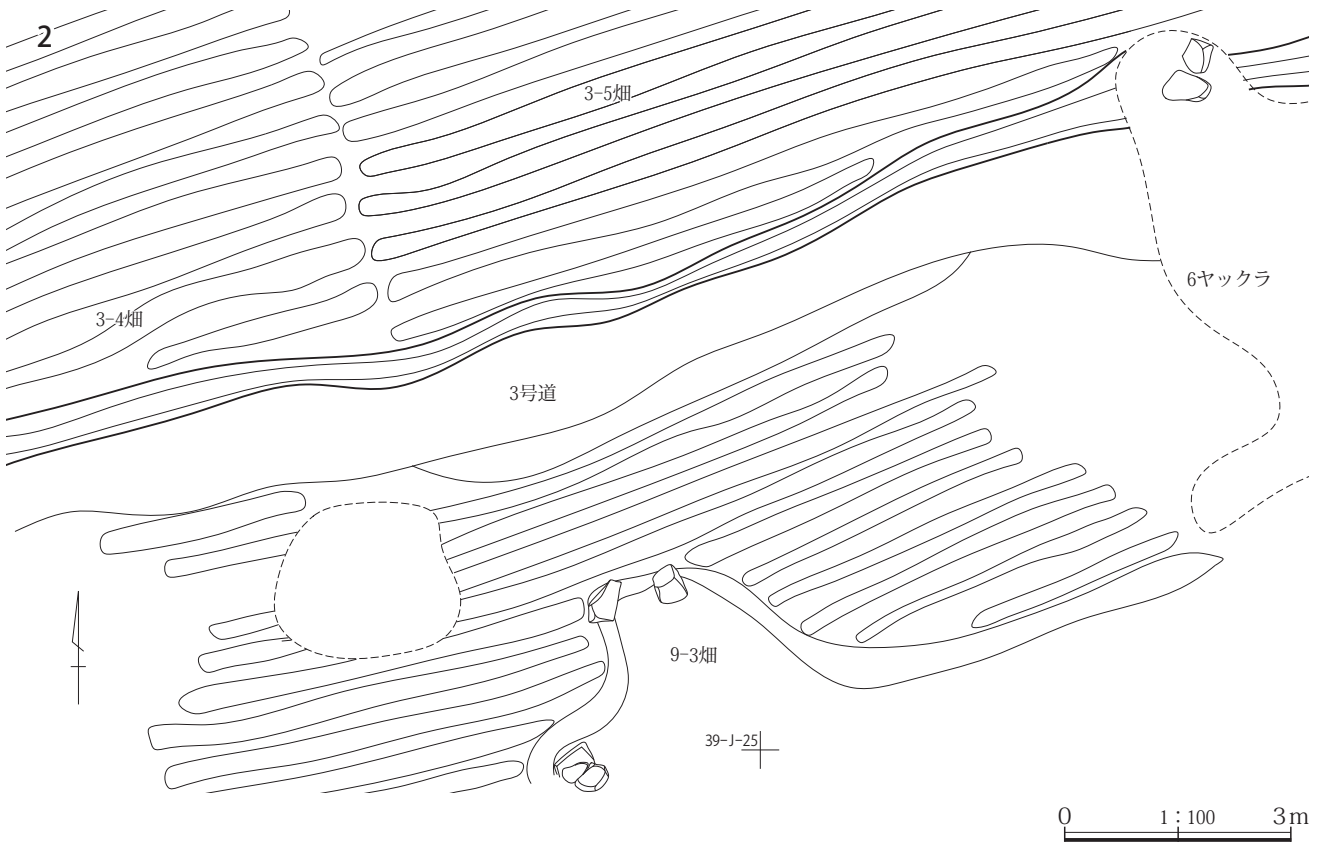
**2号道** 39・40-T～A-21～22グリッド 西部の南北走部はN-138°-Eで北西-南東方向に延びる。幅100～120cm、確認長6.5mほど。39-Y-21グリッドで東に折れ、N-70°-E方向で上段との境界斜面の下端を綴るように東西走する。屈曲点から22mほどで道としての輪郭は捉えられなくなる。なお、北部は平成14年度調査の3号道と連続する。この道は幅100cm、長12.5mが調査されている。浅いV字状の断面形で、緩やかに蛇行している。

**3号道** 39・40・49-A～V-22～3グリッド 西部の南北走部はN-135°-E方向で北西-南東方向に延びる。幅40～110cm、確認長19.8mほど。9-S-22グリッドで東に折れ、第3区画畑と第9区画畑の間を、7号ヤックラまではN-70°-E方向で、

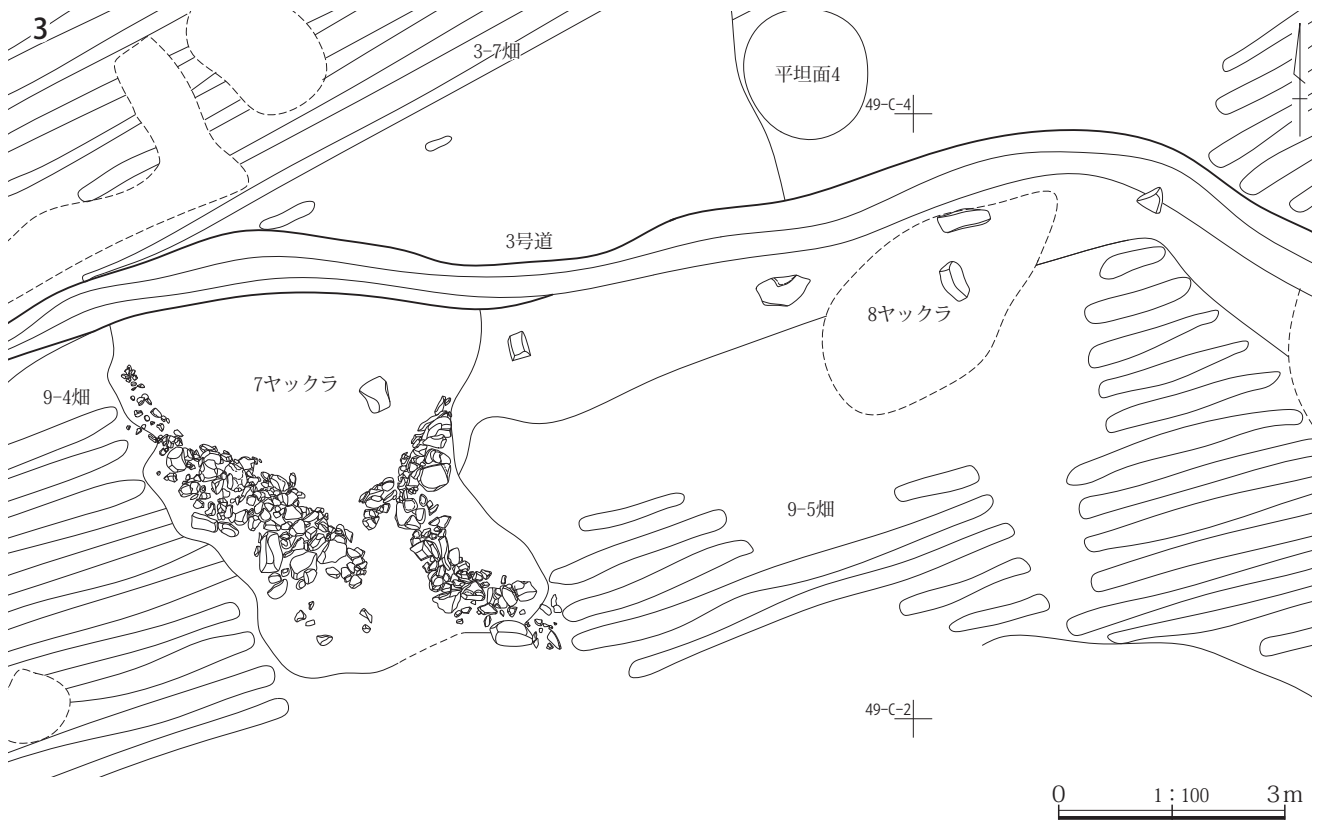




第92図 第2面 3号道部分図1・9号道



第93図 第2面 3号道部分図2



第94図 第2面 3号道部分図3

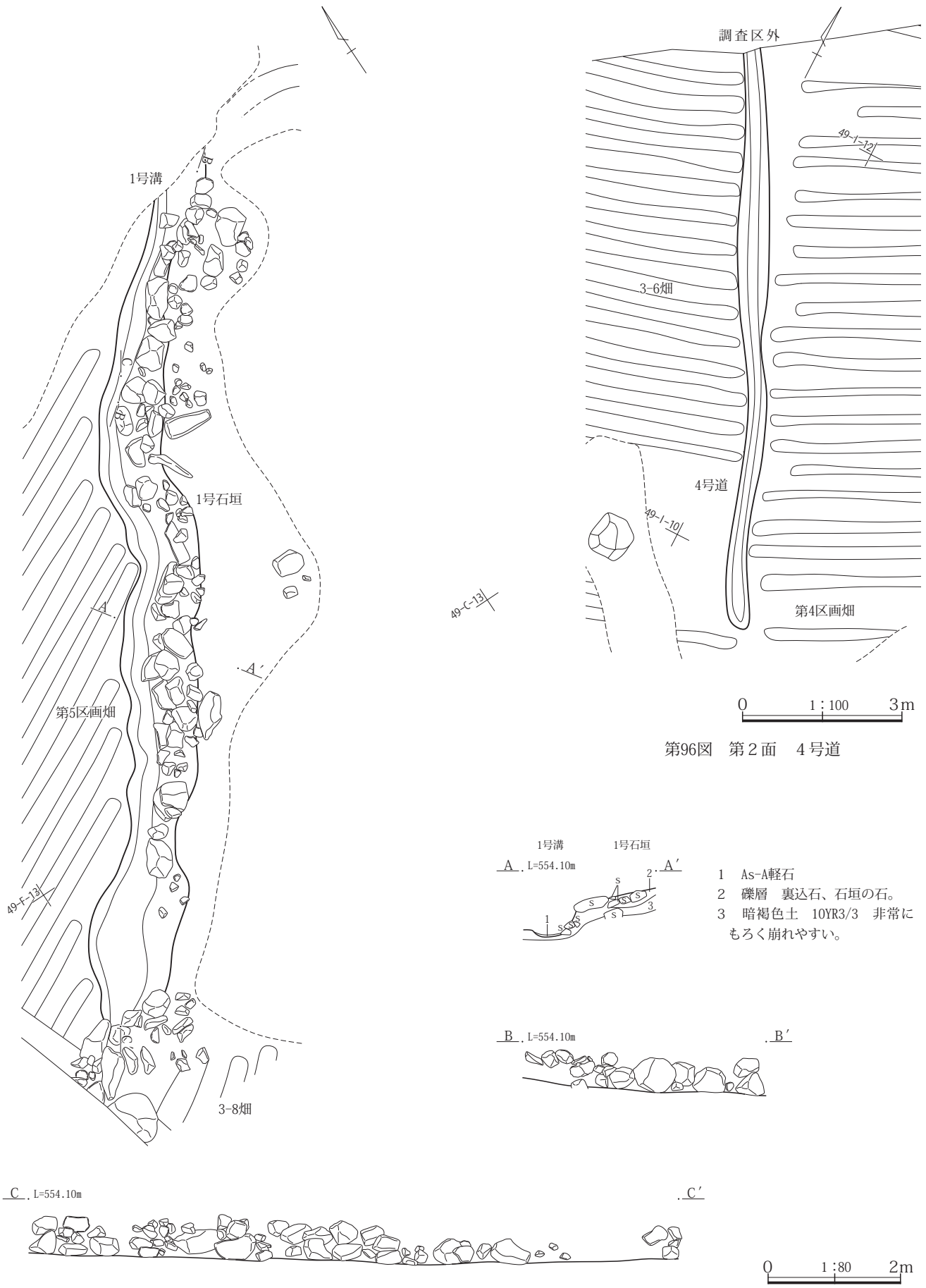
以東はN-93°-E方向で東西走する。南北走部は第3区画の西辺にあたり、第2区画東部の空白部との間を画す。北の平成14年度発掘区では5-1・3号畑と5-2・4号畑の境界に当たるが、道として延びることは確認されていない。東西走部は第3区画畑の南辺を画し、南の第9区画畑北端との間にある小段の下端を綴る。5号～9号ヤックラが道の南側に、この小段を切ってはみ出すように作られるが、6号ヤックラを除いて道上にまで達することはない。幅35～72cmほどで、小さく蛇行しながら東端は発掘区界に達し、確認長30mを測る。

**9号道** 39-S-21グリッド N-28°-W方向で北西-南東方向に延びる。確認長6m、上端幅90cm。断面形状等に関する記載はないが、溝状の窪みとして図示される。東は第9区画1号畑、西は第8区画畑。北端は3号道が南北走から東西走に屈曲する部分近くに当たって、南の斜面と3号道との間の平坦面に接続する。南は斜面下端で東に折れ、第9区画1号畑の南辺に回り込むかに見える。

**4号道** 49-H・I-9～12グリッド N-155°-E方向で北西-南東方向に延びる。確認長10.8m、幅28～

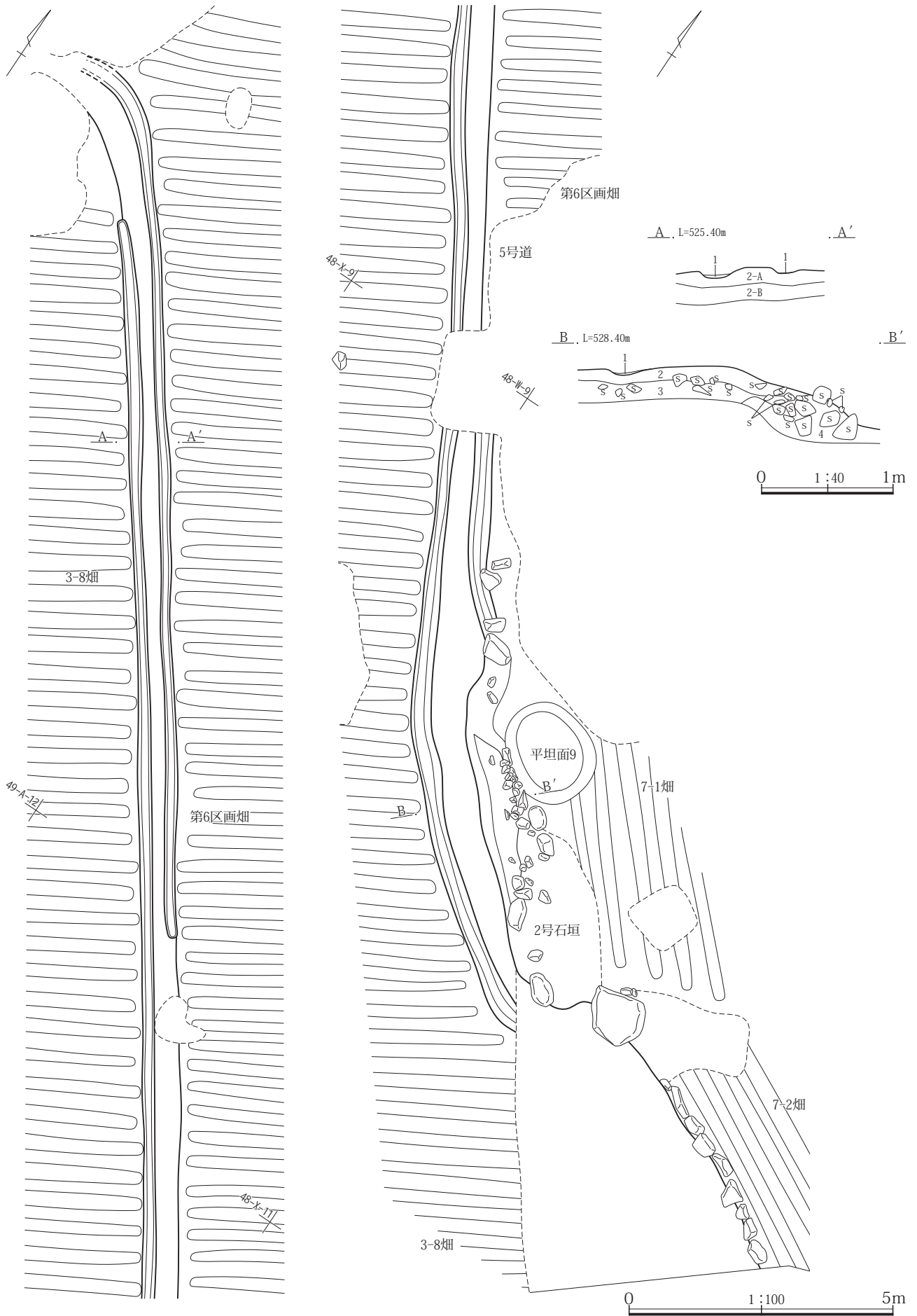
60cm。断面形状等に関する記載はないが、浅い溝状の窪みとして図示される。北端は発掘区界に達し、平成14年度発掘区では11号畑と12号畑の境界線がこの延長上にあたるが、道は確認されていない。東の第4区画畑、西の第3区画6号畑との境界となっていて、第4区画畑南端で溝状窪みが完結する。

**1号溝・1号石垣** 1号溝：49-C～F-11～14グリッド 1号石垣：49-C～E-12～14グリッド 調査時点では溝とされているためにこれを踏襲するが、石垣と並行すること以外は道との差を見いだしがたい。1号石垣は1号溝の南壁に組まれている。東端は発掘区界にかかるが、5号道とごく近接していて、何らかの形で接続していたものと思われる。1号石垣は平成27年度発掘区内にのみあって、確認長14.24m。1号溝とともにN-35°-Eで北東-南西に延びる。北の低い位置にある第5区画畑と南の高い位置にある第3区画8号畑との比高は33～55cmほどあり、この段差を大小の角礫・垂角礫を乱雑な横積み風に2～3石積み上げて覆う。控え積みや裏込めは見られない。平成29年度発掘区では認められていない。1号溝はこれより3.5mほど西に延びて、49-

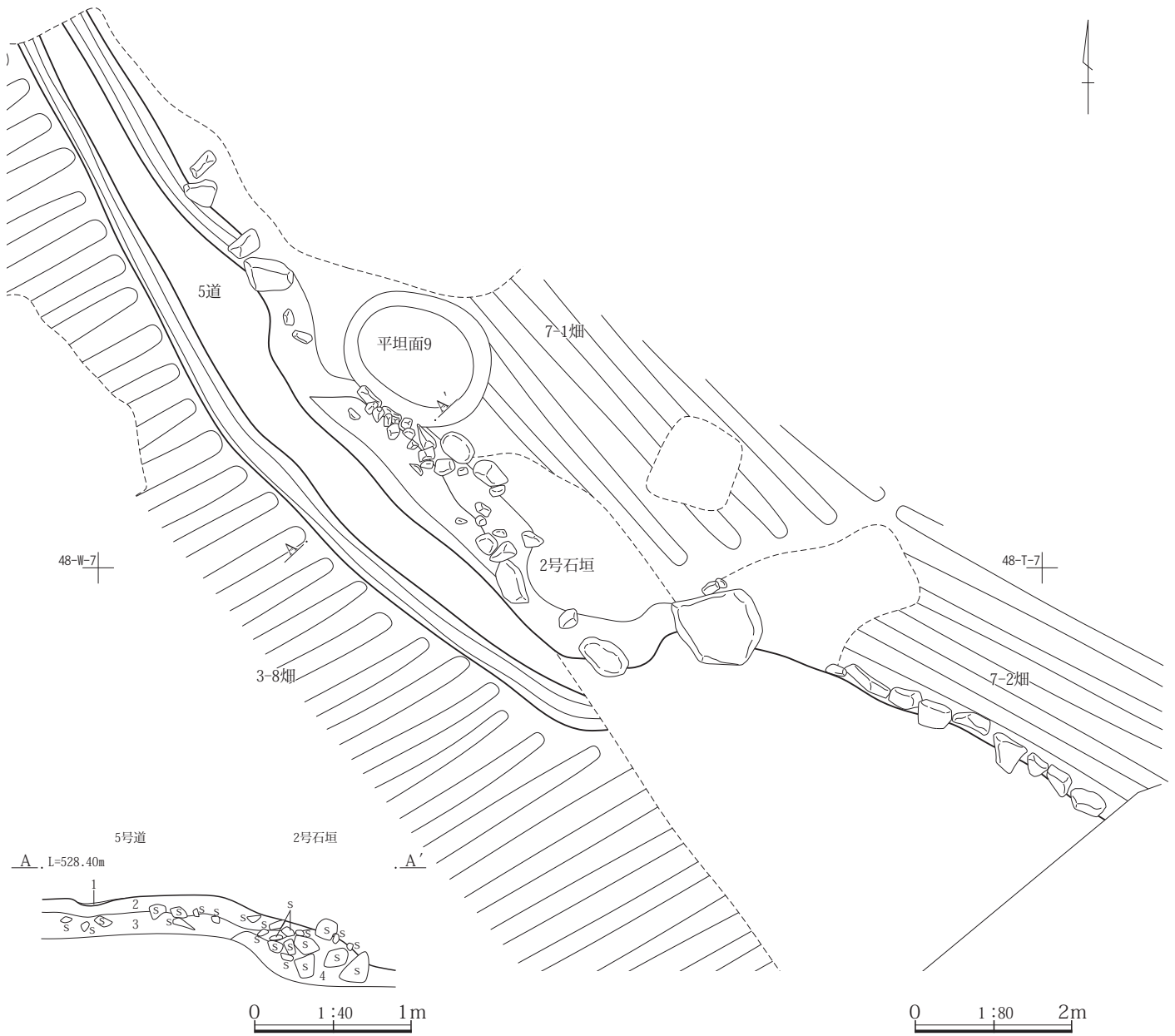


第96図 第2面 4号道

第95図 第2面 1号溝・1号石垣

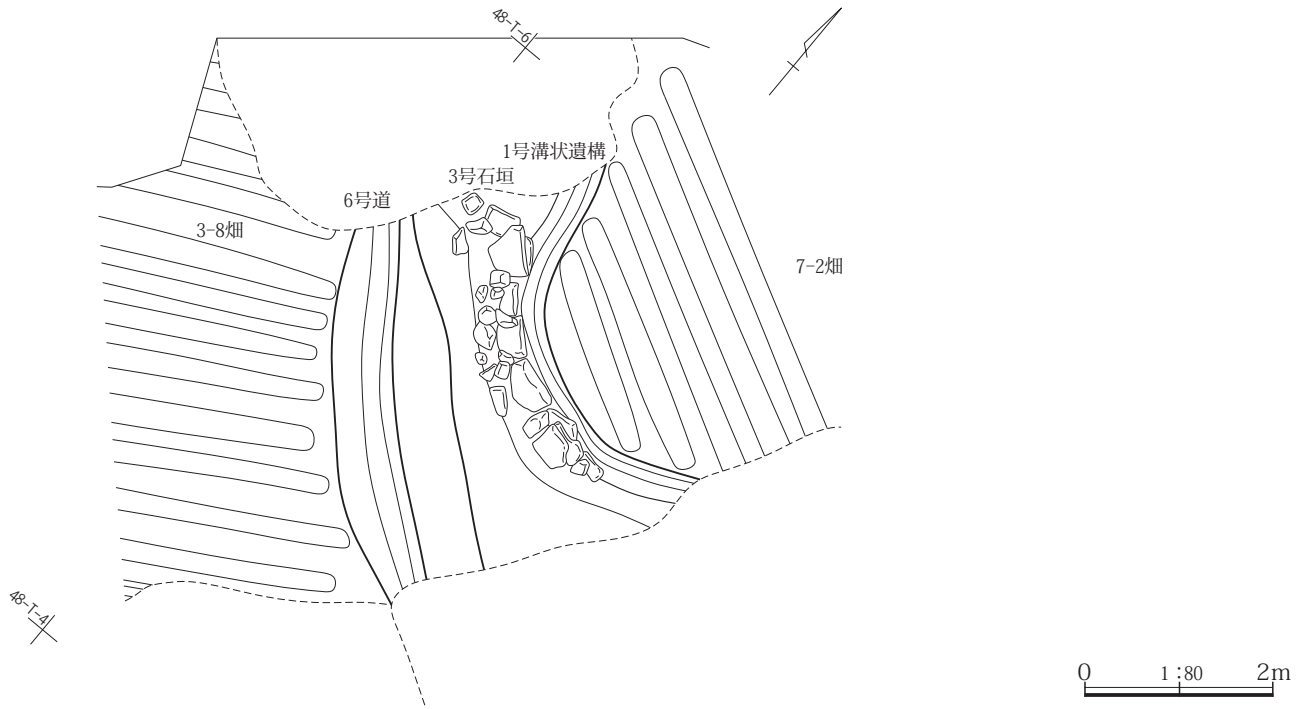


第97図 第2面 5号道



- 1 As-A軽石
- 2 暗褐色土 10YR3/4 径10～50mm程度の礫を少量含む。硬く締まる。  
やや粘性あり。
- 2A 暗褐色土 10YR3/4 径10～20mm程度の礫を少量含む。硬く締まる。  
やや粘性あり。
- 2B 2A層よりやややわらかい。くすんでいる。
- 3 褐色土 10YR4/4 径10～70mm程度の礫を大量に含む。締まりは弱い。  
やや粘性あり。
- 4 褐色土 10YR4/6 径10～20mm程度の礫を少量含む。締まり弱い。粘  
質。

第98図 第2面 2号石垣



第99図 第2面 6号道・3号石垣・1号溝状遺構

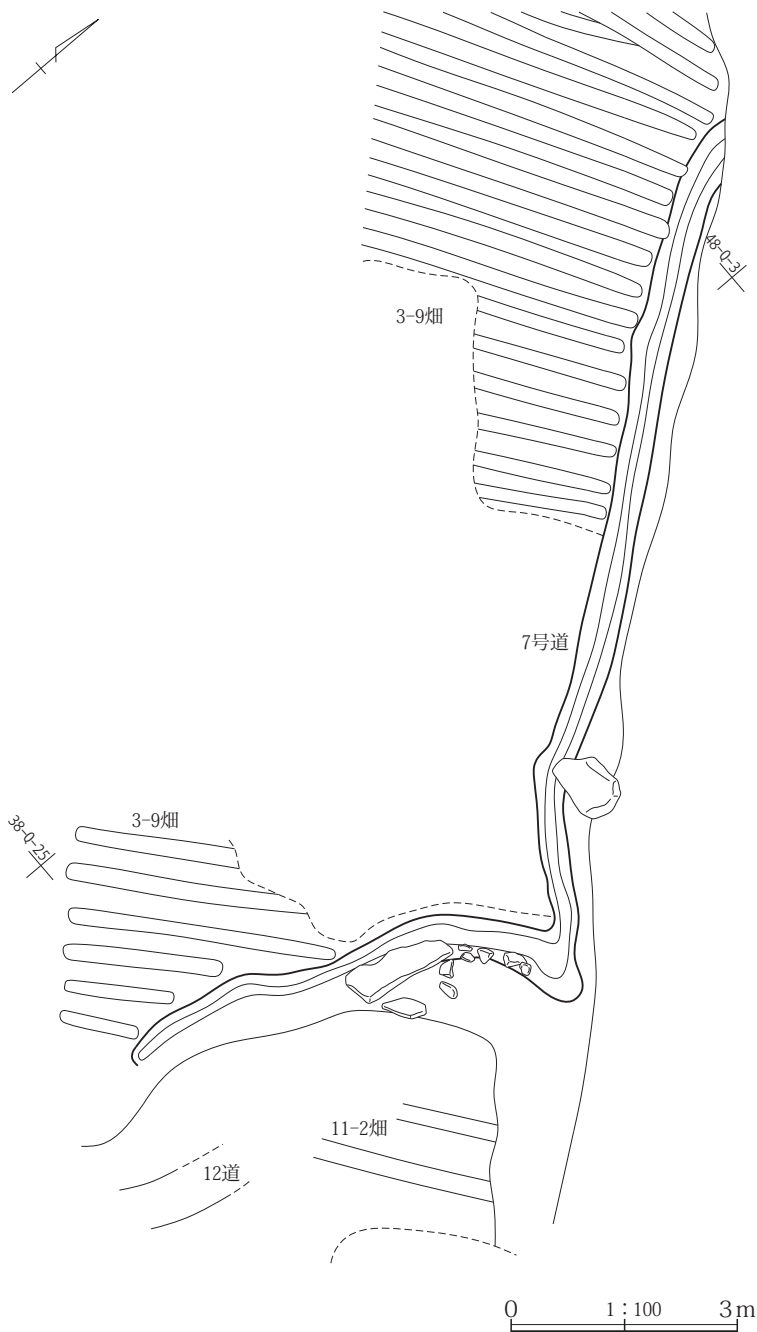
E-11グリッドで北に折れ、第5区画畑を取り巻く。幅50～135cm、深さ10cmほどである。南北走部はN-155°-Eを示し、確認長12.5mで北の発掘区界に達する。第3区画7号・8号畑の北端の小段が1号溝南壁の延長に当たるとすれば、西に延びて4号道と連続する可能性もある。

**5号道・2号石垣** 5号道：48・49-U～B-6～15グリッド 2号石垣：48-T～V-6～8グリッド 5号道はN-155°-E方向で北西-南東方向に延びる。東は第6区画畑及び第7区画1号・2号畑、西は第3区画8号畑と接する。北端は西にカーブし、発掘区界で途切れるために直接把握することはできないが、1号溝に接続するものと思われる。南部は攪乱に切られているが、東辺が2号石垣で画された部分で小さなクランク状に屈曲し、攪乱以南の6号道に連続するものと思われる。確認長43.6m。東西を浅い溝によって区画される硬化面として把握される。両側溝ともに底部にAs-Al降下軽石が堆積する。東側溝は幅20～32cm、深さ2～3cmほどで、北端から16.5mほどまで南に延び、Y-11グリッドでいったん途絶える。2号石垣の北にあたるW-8グリッドから再び確認され、2号石垣の下部に連続する。西側溝は幅20～40cm、深さ1～8cm。北端が不明瞭であるものの、

南端の攪乱まで連続する。南端では2号石垣の屈曲を追うように、やや東に曲がる。両側溝間は硬く締まっており、幅20～45cm、2号石垣部では60～96cmほどある。

2号石垣は第7区画1号畑の西辺にあたる斜面を綴る位置にある。西は5号道を挟んで第3区画8号畑がある。石垣の始点近くで5号道東側の側溝が途切れて東西両畑間に段差が生じるようになる。北端の高低差は8cmほどだが、南端近くでは7区画畑の方が50cm以上低くなる。北部は扁平な角礫がやや乱れた状態で斜面に貼り付けられたように並び、9号平坦面付近では小ぶりの角礫を交えた角礫や垂角礫が数段積まれる。U-6グリッドでいったん東北に折れ、次いで南東に折れてクランク状の屈曲を示す。攪乱により屈曲部西北辺の詳細が把握できないが、屈曲部に比較的大きな垂角礫が孤立的に置かれる。南部は上位が攪乱されて基部だけが確認されている。面をそろえた垂角礫が一例並んだもので、裏込め等の造作は認められない。南端は発掘区界及び攪乱に切られているが、南の3号石垣に連続するものであろう。

**6号道・3号石垣・1号溝状遺構** 6号道：45-S・T-4・5グリッド 3号石垣：45-S-5グリッド 1号溝状遺構：45-R・S-5グリッド 6号道はN-134°-E方向で北西-南東方向に延びる。北西・南東両端が攪



第100図 第2面 7号道

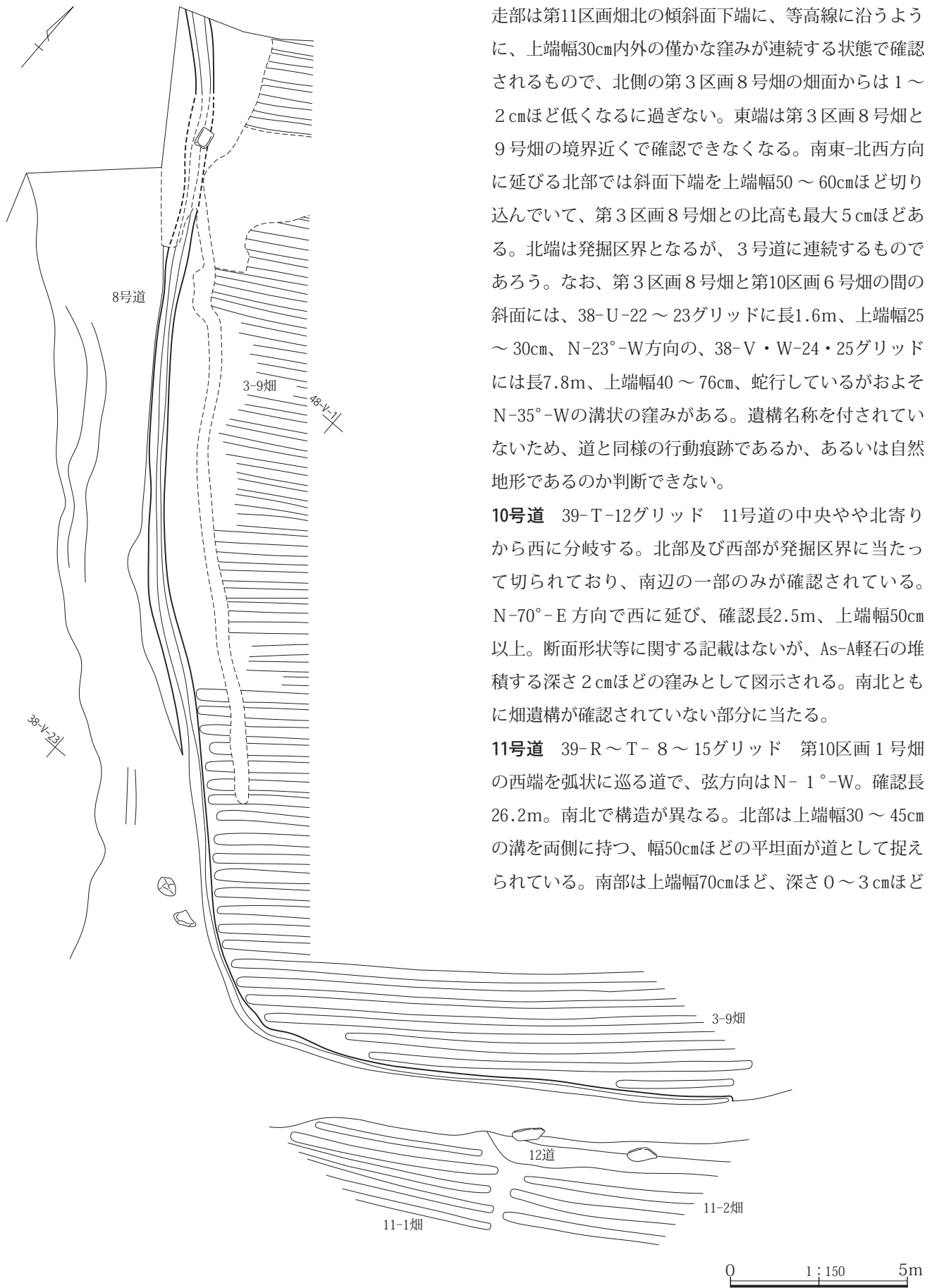
乱されていて、4mほどの長さしか確認されないが北は5号道、南は7号道に連続するものと思われる。東は3号石垣、1号溝状遺構を挟んで一段低い第7区画2号畑と接し、西は第3区画8号畑と接していて、両畑の比高は109cmほどある。5号道南部では西側溝と斜面上端との間が道として捉えられているが、ここでの調査所見では上端幅55～70cm、深さ24cmほどの溝状部が道として捉えられている。5号道側溝に比して上端幅がやや広いこと、また斜面上端と溝状部の間が北端では16cmほどと

ごく狭くなっていることから判断されたものであると思われる。断面や硬化状況に関する記載はない。

3号石垣は6号道下の斜面の裾部を綴るようにならされている。小ぶりの角礫を裏込めとし、扁平な垂角礫を斜面に貼り付けるように並べている。礫の形状によって、複数の礫を積む部分も見られる。1号溝状遺構は3号石垣の下端にそって弧状に巡るもので、確認長3.4m、幅35cm前後、深さ5cmほどある。断面や硬化状況に関する記載はないが、1号溝と1号石垣と同様、石垣下端の踏み分け道として捉えられるのではないかと推測される。

**7号道** 38・48-O～Q-24～3グリッド 北部はN-128°-Eで北西-南東方向に伸びる21.4m分が確認されている。第7区画3号畑に至る斜面の上端にあたる。北端は東側斜面に切られて確実な延長を捉えられないが、6号道に連続するものと想定される。西は第3区画9号畑の東辺を画する。48-O-1グリッドで屈曲し、N-24°-Eで5.9mほど南西方向に伸びる。屈曲部南東側には列状に礫集中が認められ、上位斜面を押さえる石列の残痕であるかもしれない。傾斜面上位には12号道や第11区画2号畑がある。7号道西端は12号道東端部と僅かながら並行することが確認されていて、両者は連続しない。第3区画9号畑の南辺にあたるが、末端は南の傾斜面に突き当たって以西が捉えられない。やや間隔が開くが、8号道と連続して傾斜部下端を巡るものと見たい。幅60～80cm、西側畑面からの6～9cm、東側では1～2cmほどの深さで浅い溝状を呈する。

**8号道** 38・48-P～X-22～2グリッド 第3区画8号畑南部の西辺及び南辺を画する。発掘区上下を画する斜面の下端を綴る。38-P-22グリッドからN-47°-E方向で13.6mほど伸び、S-22グリッドで緩く屈曲してN-37°-W方向に転じ、発掘区界まで延長29.8mが確認されている。南部の北東-南西



走部は第11区画畑北の傾斜面下端に、等高線に沿うように、上端幅30cm内外の僅かな窪みが連続する状態で確認されるもので、北側の第3区画8号畑の畑面からは1～2cmほど低くなるに過ぎない。東端は第3区画8号畑と9号畑の境界近くで確認できなくなる。南東-北西方向に延びる北部では斜面下端を上端幅50～60cmほど切り込んでいて、第3区画8号畑との比高も最大5cmほどある。北端は発掘区界となるが、3号道に連続するものであろう。なお、第3区画8号畑と第10区画6号畑の間の斜面には、38-U-22～23グリッドに長1.6m、上端幅25～30cm、N-23°-W方向の、38-V・W-24・25グリッドには長7.8m、上端幅40～76cm、蛇行しているがおよそN-35°-Wの溝状の窪みがある。遺構名称を付されていないため、道と同様の行動痕跡であるか、あるいは自然地形であるのか判断できない。

**10号道** 39-T-12グリッド 11号道の中央やや北寄りから西に分岐する。北部及び西部が発掘区界に当たって切られており、南辺の一部のみが確認されている。N-70°-E方向で西に延び、確認長2.5m、上端幅50cm以上。断面形状等に関する記載はないが、As-A軽石の堆積する深さ2cmほどの窪みとして図示される。南北ともに畑遺構が確認されていない部分に当たる。

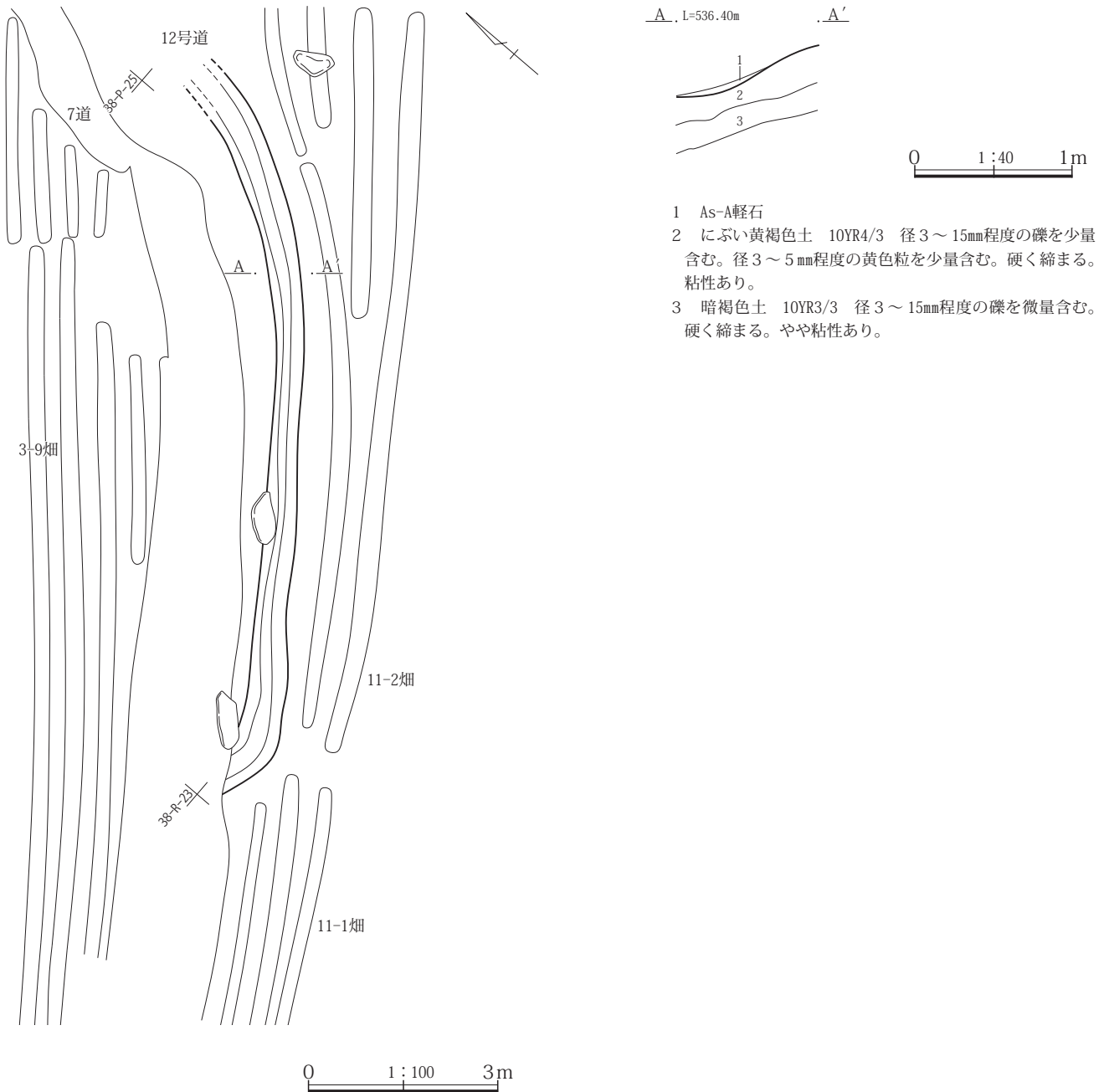
**11号道** 39-R～T-8～15グリッド 第10区画1号畑の西端を弧状に巡る道で、弦方向はN-1°-W。確認長26.2m。南北で構造が異なる。北部は上端幅30～45cmの溝を両側に持つ、幅50cmほどの平坦面が道として捉えられている。南部は上端幅70cmほど、深さ0～3cmほど

第101図 第2面 8号道





第102図 第2面 10号・11号道



第103図 第2面 12号道

のごく浅い帯状の窪みとして図示される。北はさらに延びるものと想定されているが、下段発掘区との境界斜面へのとりつき方は不明。南端は攪乱に切られる。東は第10区画1号畑で、畑面は路面より僅かに低い。西には畑遺構が認められていないが、南部では道に接して11号平坦面がある。

**12号道** 38-O～Q-22～24グリッド 第11区画2号畑の北辺、第3区画8号・9号畑との間の傾斜面上端にあって、N-46°-E方向で北東-南西方向に延びる。12mほ

どが確認されている。東端近くでは地形に沿ってやや北に曲がり、西部では斜面を下るかのように北西方向に屈曲する。土層観察所見によると、断面形は浅い皿状を呈し、地山全体が硬く締まっている。

## 第4節 第3面の調査

### 第1項 第3面の概要

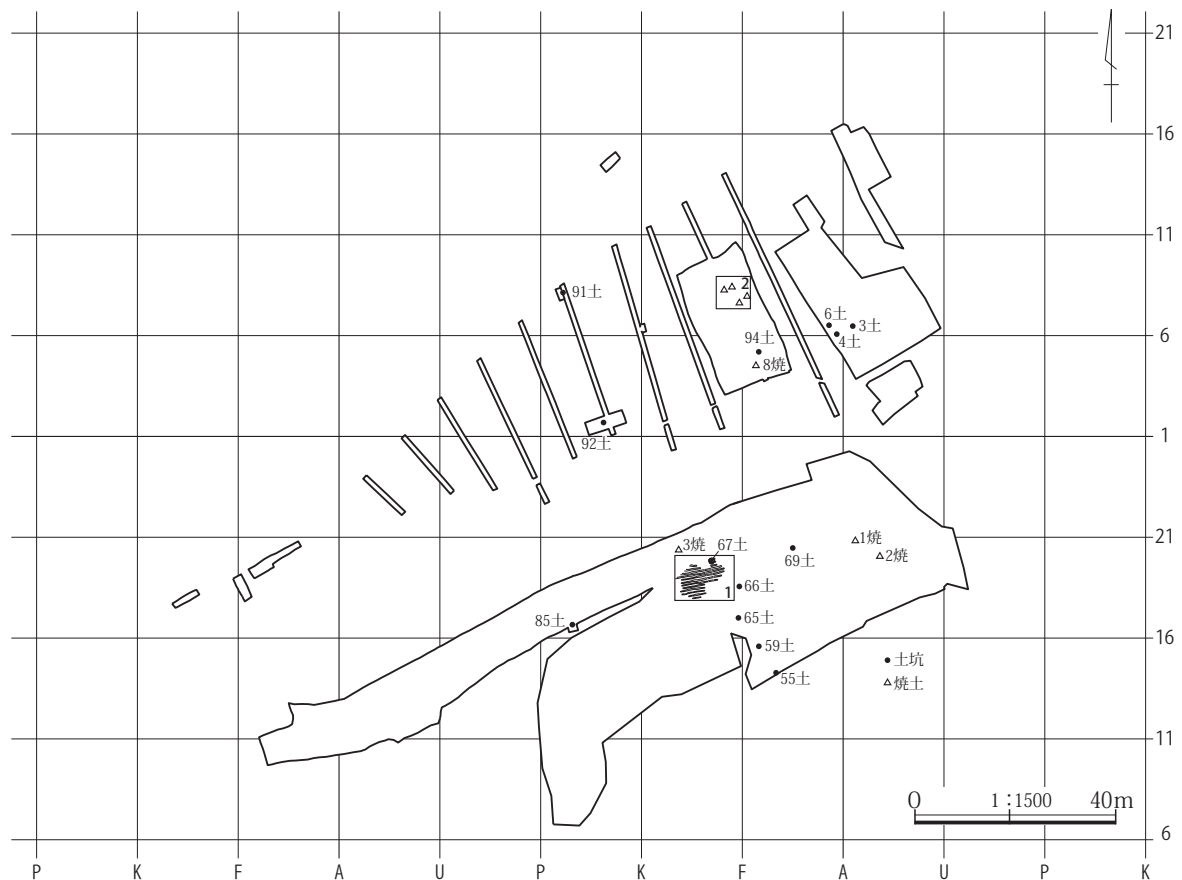
本節では平成27年度調査においては、第2面、第3面として調査され、平成29年度調査においては第2面として調査された、天明泥流下面以下で確認された遺構、遺物のうち、縄文時代に属するもの以外を扱う。

発掘区下段の天明泥流下面の畑耕土下は、黒褐色から暗褐色土層で、部分的に流水痕跡を示すにぶい黄褐色の砂層が認められている。発掘区上段ではより上位からの斜面崩落土を主体とする褐色土・灰黄褐色土層がある。沢に挟まれた傾斜地にあるために、斜面崩落や洪水による堆積が繰り返されていたのであろう。第3面ではこれに埋没した畑遺構が部分的に認められたほか、土坑13基、焼土8か所を調査した。いずれも年代決定の根拠を欠くが、本遺跡には平安時代に属する遺構遺物がないこ

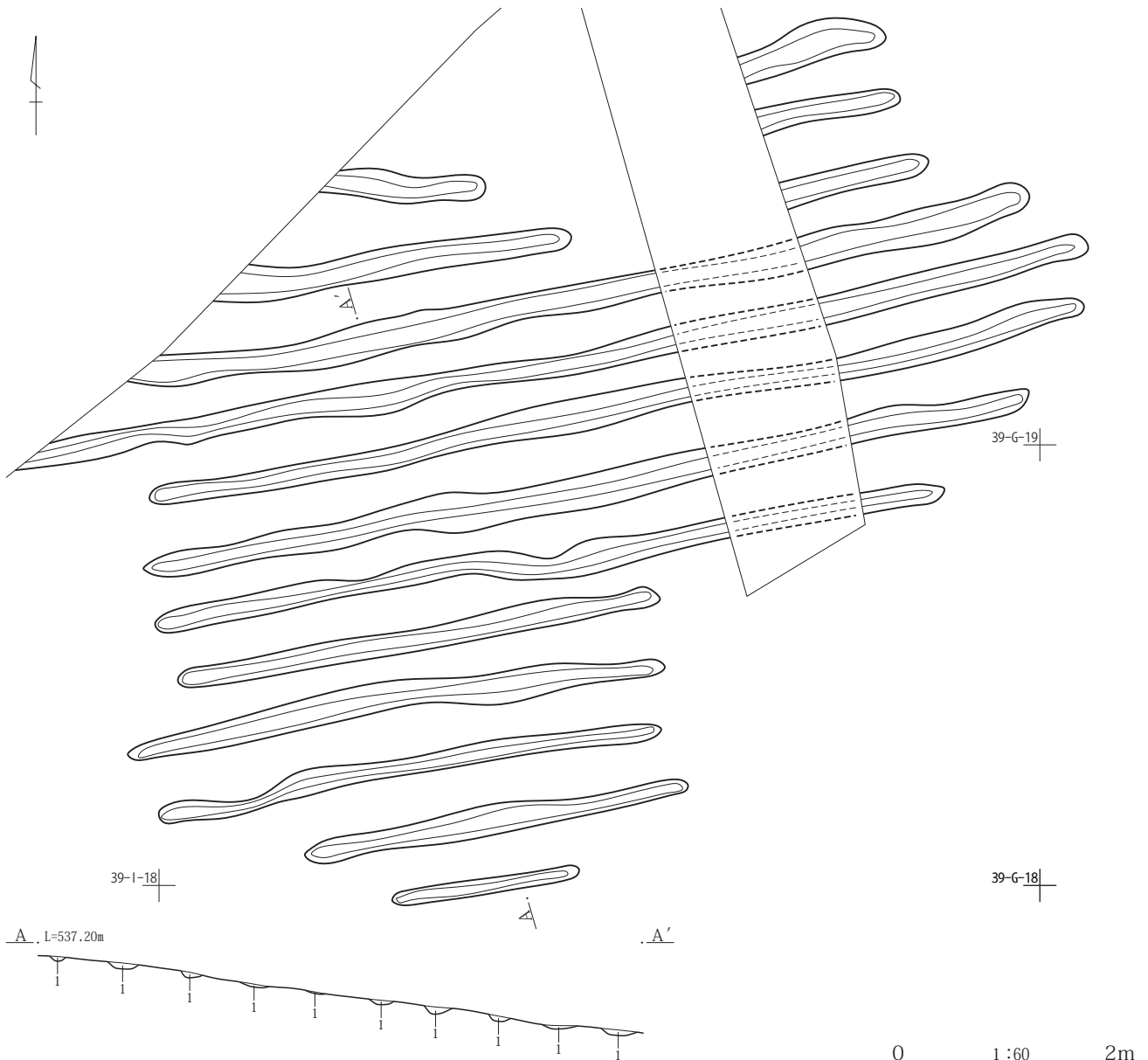
と、出土遺物には近世の陶磁器の他、宋銭も見られることから、中世以降に相当するものと見られる。土坑は多くが次節で扱う縄文時代に属するものであるが、覆土がこれらとは異なって灰褐色土や茶褐色土であったり、締まりが弱いものなどは、ピット、焼土遺構とともに、より新しい時代の所産として本節で取り扱った。

### 第2項 畑

39-F ~ I-17 ~ 20グリッド 標高536.2 ~ 537.0m にかけて、東西10m、南北7.5mほどの間に、およそN-78°-E方向で13条の畝間溝痕跡が並ぶ。畝間溝間の距離は平均0.56mほどで揃う。畝間溝の方向、畝間距離ともに揃っていて同一耕作面であろうと思われる。畝間溝の覆土は硬く締まった灰黄褐色土と黄褐色土の混土及びもろい黄褐色土である。各畝間溝は長短様々で、途中途切れるものもあるが、最大長で9.75m以上、幅12 ~ 33cm、深さ1 ~ 10cmほどを測る。



第104図 第3面遺構位置図



- 1 灰黄褐色土 10YR4/2 黄褐色土 10YR5/6 混土。径3～5mm程度の礫を含む。硬く締まる。粘性あり。
- 2 黄褐色土 10YR5/6 径3～5mm程度の礫を含む。ややもろい。粘性あり。

第105図 第3面 部分図1 畑

### 第3項 土坑

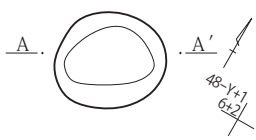
**3号土坑** 48-Y-6グリッド 長軸長88cm、短軸長75cm、深さ31cm、長軸方位N-57°-E。平面形は不整形、断面形は碗状だが底面は下層の礫に当たる。覆土は暗褐色土を主体とし、ロームブロックや径10～25cmの礫を含む。遺物はない。攪乱土の誤認か。

**4号土坑** 49-A-5・6グリッド 長軸長78cm、短軸長74cm、深さ29cm、長軸方位N-42°-E。平面形は不整形、断面形は碗状だが底面は下層の礫に当たる。覆土は暗褐色土を主体とし、径2～10cmの礫を含む。遺物はない。攪乱土の誤認か。

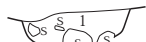
色土を主体とし、径2～10cmの礫を含む。遺物はない。攪乱土の誤認か。

**6号土坑** 49-A-6グリッド 長軸長72cm、短軸長65cm、深さ21cm、長軸方位N-8°-E。平面形は不整形、断面形は碗状だが底面は下層の礫に当たる。覆土は暗褐色土を主体とし、径3～5mmの礫を少量含む。遺物はない。攪乱土の誤認か。

**55号土坑** 39-D-14グリッド 長軸長126+cm、短軸長82cm、深さ25cm、長軸方位N-84°-W。平面形は隅丸長方形、断面形は鍋状。覆土は黒褐色土を主体とし、下層は黄褐色土ブロックを含み、締まりが弱い。上層に径1cm程度の礫を含む。遺物はない。攪乱土の誤認か。

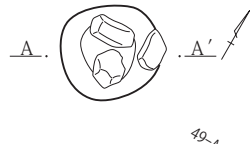


A, L=527.20m A'



3号土坑

- 1 暗褐色土 10YR3/3 径100 ~ 250mm程度の礫を数個含む。所々にロームブロックを含む。

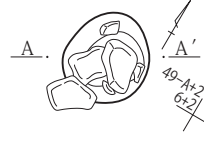


A, L=526.80m A'



4号土坑

- 1 暗褐色土 10YR3/3 白色粒を微量含む。径20 ~ 100mm程度の礫を少量含む。締まりあり。粘性あり。

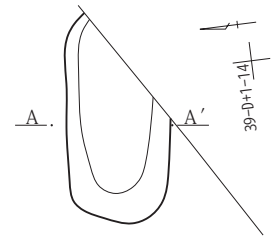


A, L=526.60m A'

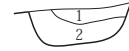


6号土坑

- 1 暗褐色土 10YR3/3 径3 ~ 5mm程度の礫を少量含む。締まりあり。やや粘性あり。

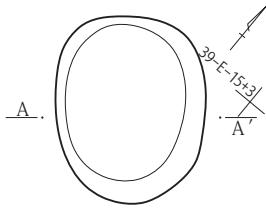


A, L=538.90m A'



55号土坑

- 1 黒褐色土 10YR3/2 径10mm程度の礫を2%含む。締まりやや強く粘性あり。
- 2 黒褐色土 10YR3/1 黄褐色ブロックを2%含む。やわらかく締まりやや弱い。粘性あり。

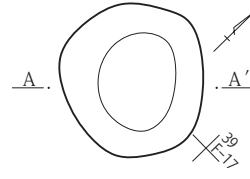


A, L=538.60m A'

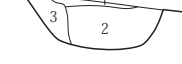


59号土坑

- 1 黒褐色土 10YR3/2 径10mm程度の礫を1%含む。やわらかく、締まりやや弱い。
- 2 暗褐色土 10YR3/3 黄褐色粒を3%、径10mm程度の礫を僅かに含む。締まり強い。

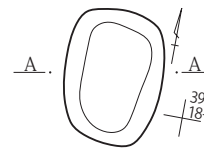


A, L=538.10m A'

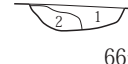


65号土坑

- 1 褐色土 10YR4/4 黄褐色土混じりで土質もろい。
- 2 黒褐色土 10YR3/2 径50 ~ 100mm程度の礫を10%含む。締まりやや弱い。
- 3 暗褐色土 10YR3/3 黄褐色粒を5%、径50mm程度の礫を2%含む。締まりやや弱い。

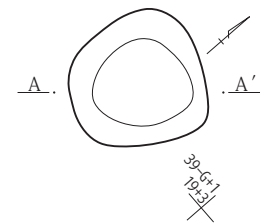


A, L=537.30m A'



66号土坑

- 1 暗褐色土 10YR3/3 径10 ~ 20mm程度の礫を1%含む。締まりやや強い。
- 2 褐色土 10YR4/4 明黄褐色土と1層との混土。締まり強い。

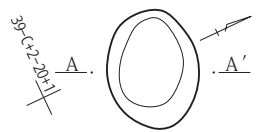


A, L=536.10m A'

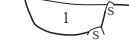


67号土坑

- 1 黒褐色土 10YR2/3 土質均質でやわらかい。やや粘性あり。
- 2 暗褐色土 10YR3/3 にぶい黄褐色土を20%含む。締まり強い。

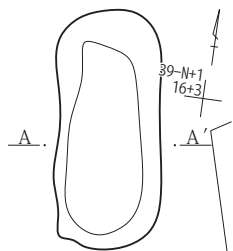


A, L=536.30m A'



69号土坑

- 1 黒褐色土 10YR3/2 黄褐色粒を2%含む。締まり弱い。

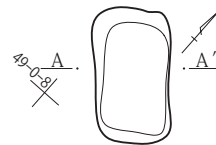


A, L=537.20m A'

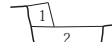


85号土坑

- 1 黒色土 若干の炭化物、小礫含み粗粒。

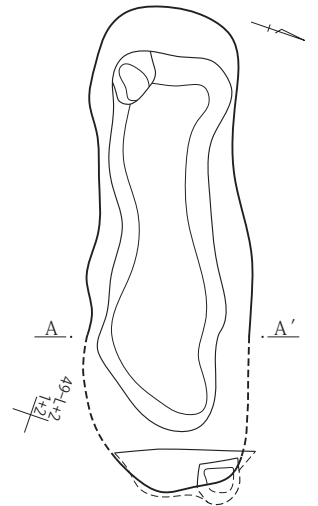


A, L=522.60m A'

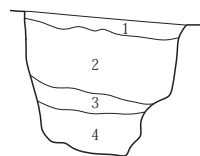


91号土坑

- 1 暗褐色土 褐色粒、小岩片多く含み、鉄分凝集塊点在。
- 2 黒褐色土 黒味強く若干の褐色粒含む、粘性あり。



A, L=524.20m A'

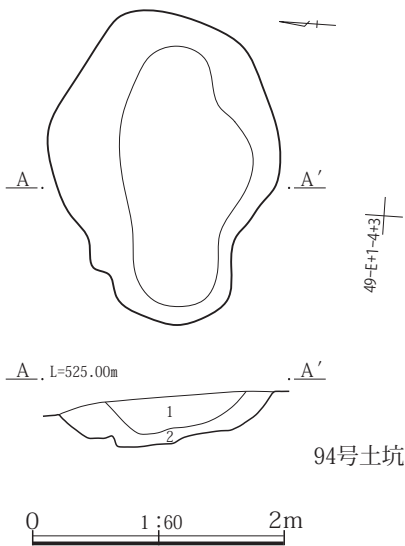


92号土坑

- 1 灰褐色土 炭化物を少量含む(畑耕作土類似)
- 2 黒褐色土 炭化物を少量含む。径3 ~ 5cmの角礫を少量含む。
- 3 暗褐色土 やや砂質
- 4 黒褐色土 径3 ~ 5cmの角礫を少量含む。

0 1:60 2m

第106図 第3面 土坑1



- 1 茶褐色土 砂質。締まり強い。黄色軽石、径数mm～2cmの角礫を含む、炭化物も少量含む。  
 2 やや黄色掛った茶褐色土 砂質、締まり強い、数cm～十数cmの角礫、黄色軽石径数mmを多数含む。

第107図 第3面 土坑2

**59号土坑** 39-E-15グリッド 長軸長148cm、短軸長119cm、深さ37cm、長軸方位N-39°-W。平面形は円形、断面形は碗状。覆土は黒褐色土を主体とし、径1cm程度の礫を含む。軟らかく、締まりが弱い。遺物はない。

**65号土坑** 39-F-16・17グリッド 長軸長148cm、短軸長119cm、深さ37cm、長軸方位N-39°-W。平面形は円形、断面形は鍋状。覆土は黒褐色土を主体とし、径5～10cm程度の礫を含む。締まりやや弱い。遺物はない。

**66号土坑** 39-F-18グリッド 長軸長106cm、短軸長78cm、深さ20cm、長軸方位N-0°。平面形は楕円形、断面形は鍋状。覆土は暗褐色土を主体とし、下層には明黄褐色土が混ざる。上位に径1～2cm程度の礫を含む。遺物はない。

**67号土坑** 39-G-19グリッド 長軸長115cm、短軸長114cm、深さ44cm、長軸方位N-21°-W。平面形は円形、断面形はやや深い碗状。覆土は下層ににぶい黄褐色土を含む暗褐色土、上層は軟らかい黒褐色土を主体とする。遺物はない。

**69号土坑** 39-C-20グリッド 長軸長93cm、短軸長73cm、深さ30cm、長軸方位N-66°-W。平面形は楕円形、断面形は鍋状。覆土は黄褐色粒を含む締まりの弱い黒褐色土を主体とする。遺物はない。

**85号土坑** 39-N-16グリッド 長軸長188cm、短軸長

85cm、深さ62cm、長軸方位N-6°-W。平面形は隅丸長方形、断面形は深い鍋状。覆土は炭化物や小礫を含む粗粒の黒褐色土を主体とする。遺物はない。

**91号土坑** 49-N・O-8グリッド 長軸長108cm、短軸長62cm、深さ32cm、長軸方位N-42°-W。平面形は隅丸長方形、断面形は上部の開く逆台形に近い。覆土は下層に粘性のある黒褐色土があり、上層には小岩片を含み鉄分凝集が点在する暗褐色土が乗る。遺物はない。

**92号土坑** 49-L・M-1グリッド 長軸長365cm、短軸長132cm、深さ121cm、長軸方位N-78°-E。平面形は隅丸長方形、断面形は上部の開く逆台形に近いが、北側に中段を持つ。覆土は下層に礫を含む黒褐色土やや砂質の暗褐色土、上位に炭化物や礫を含む黒褐色土がある。最上層の灰褐色土は2面畑の耕作土に類似する。遺物はない。

**94号土坑** 49-D・E-4・5グリッド 長軸長252cm、短軸長180cm、深さ56cm、長軸方位N-75°-E。平面形は不整形、断面形はやや深い皿状。覆土は下層にやや黄色掛った茶褐色土、上層は炭化物や黄色軽石、角礫を含む茶褐色土を主体とする。遺物はない。攪乱土の誤認か。

#### 第4項 焼土

**1号焼土** 38-Y-20グリッド 長軸長112cm、短軸長49cm、深さ5cmの範囲で、ブロック状の焼土が地山の暗褐色土に混じる。東側に赤化の強い明赤褐色のブロックがあるが、加熱方向は判断できない。出土遺物はない。下位に縄文時代の31号土坑があるが、直接の関係は認められず、帰属時期は不明。

**2号焼土** 38-X-19・20グリッド 長軸長60cm、短軸長45cm、深さ15cmの範囲で、地山の暗褐色土に小ブロック化、粒状化した焼土が混ざる。明るい色調で強く被熱したブロックも見られるが、加熱方向は判断できない。下位の64号土坑に帰属すると思われる縄文土器片が出土しているが、土坑覆土には焼土が及んでいない。帰属時期は不明。

**3号焼土** 39-I-20グリッド 長軸長44cm、短軸長30cm、深さ11cmの範囲で、地山の暗褐色土に小ブロック化、粒状化した焼土が混ざるが、黄色みを帯び、焼土化は弱い。写真では面状に焼土が広がる部分もあり、これが植物の根による攪乱を受けたかと思われる。加熱方向

は判断できない。下層から土器片が出土しているが、この層までは焼土粒が及んでおらず、関係はうかがえない。帰属時期は不明。

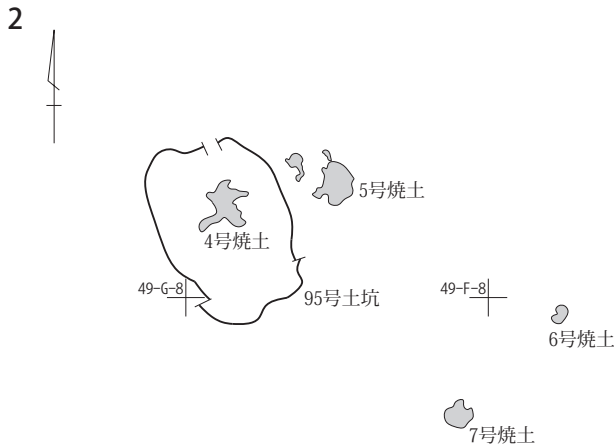
**4号焼土** 49-F-8グリッド 長軸長130cm、短軸長86cm、深さ15cmの範囲で弱く焼土化した暗赤褐色から黄

褐色のロームブロック、炭化物片などが暗褐色土中に混じる。図は明確なブロックが残された部分を示している。加熱方向は判断できない。下位に縄文時代の95号土坑があるが、直接の関係は認められず、帰属時期は不明。

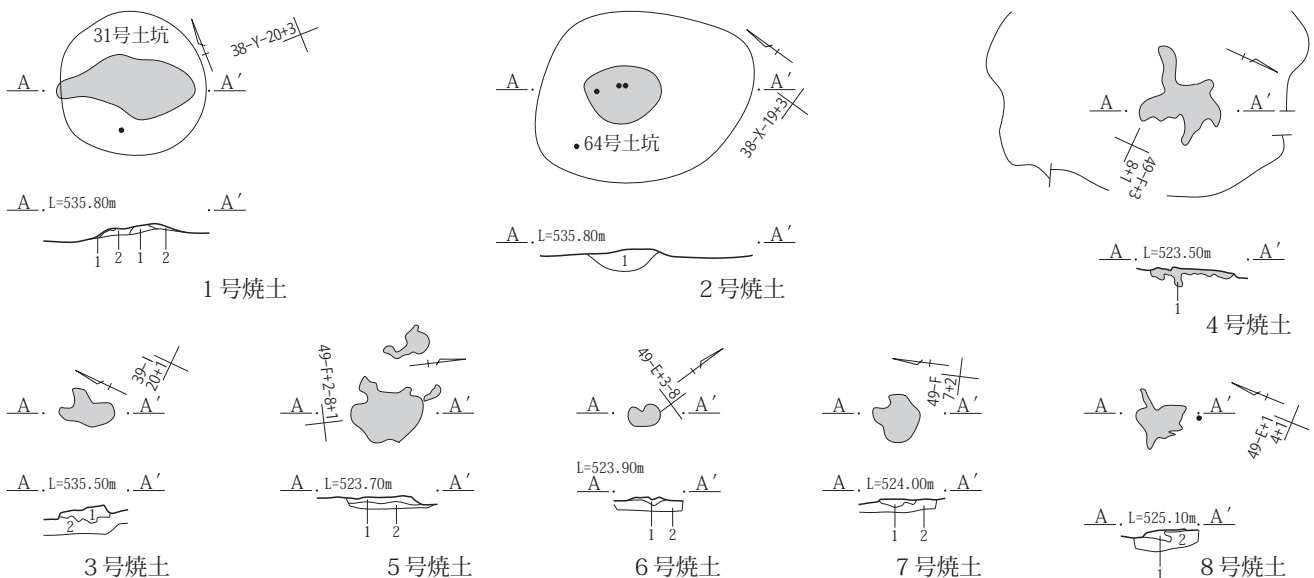
**5号焼土** 49-F-8グリッド 長軸長90cm、短軸長70cm、深さ5cmの範囲で弱く焼土化した暗赤褐色から黄褐色のロームブロック、炭化物片などが礫を多く含む暗褐色土中に混じる。出土遺物はない。

**6号焼土** 49-E-7・8グリッド 長軸長25cm、短軸長15cm、深さ5cmの範囲で焼土化した暗赤褐色から黄褐色のロームブロックが礫を多く含む暗褐色土中に混じる。下位の方が赤化が強いものの、焼土化は弱い。加熱方向は判断できない。出土遺物はない。

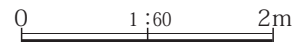
**7号焼土** 49-F-7グリッド 長軸長40cm、短軸長40cm、深さ5cmの範囲で暗赤褐色から黄褐色の、比較的大きなロームブロックがまとまって見られる。中央部が円形に攪乱されている。焼土化は弱い。加熱方向は判断



第108図 第3面 部分図2 焼土



- 1号焼土 1 明赤褐色土 2.5YR5/6 焼土 暗褐色ブロックを含む。締まりあり。やや粘性あり。
- 2 暗褐色土 10YR3/4 焼土を少量含む。締まりあり。やや粘性あり。
- 2号焼土 1 暗褐色土 7.5YR3/3 焼土粒、焼土ブロックを15%含む。締まり強く粘性あり。土器片を多く含む。
- 3号焼土 1 黒色土 やや黄色味を帯びた焼土ブロックを斑に含む。
- 2 黒褐色土 地山土。
- 4号焼土 1 暗赤褐色土 10R3/3 焼土 径1mm程の炭化物を約1%含む。締まり強い。粘質土。
- 5号焼土 1 暗赤褐色土 10R3/3 焼土 径1mm程の炭化物を約1%含む。締まり強い。粘質土。
- 2 暗褐色土 数mm～数cmの角礫を含む。1%程ローム欠片微量に混ざる、黄色の軽石1%程含む。締まり強い。砂質。
- 6号焼土 1 暗赤褐色土 10R3/3 焼土 径1mm程の炭化物を約1%含む。締まり強い。粘質土。
- 2 暗褐色土 数mm～数cmの角礫を含む。1%程ローム欠片微量に混ざる、黄色の軽石1%程含む。締まり強い。砂質。
- 7号焼土 1 暗赤褐色土 10R3/3 焼土 径1mm程の炭化物を約1%含む。締まり強い。粘質土。
- 2 暗褐色土 数mm～数cmの角礫を含む。1%程ローム欠片微量に混ざる、黄色の軽石1%程含む。締まり強い。砂質。
- 8号焼土 1 暗赤褐色土 10R3/3 焼土 径1mm程の炭化物を約1%含む。締まり強い。粘質土。
- 2 暗褐色土 数mm～数cmの角礫を含む。1%程ローム欠片微量に混ざる、黄色の軽石1%程含む。締まり強い。砂質。



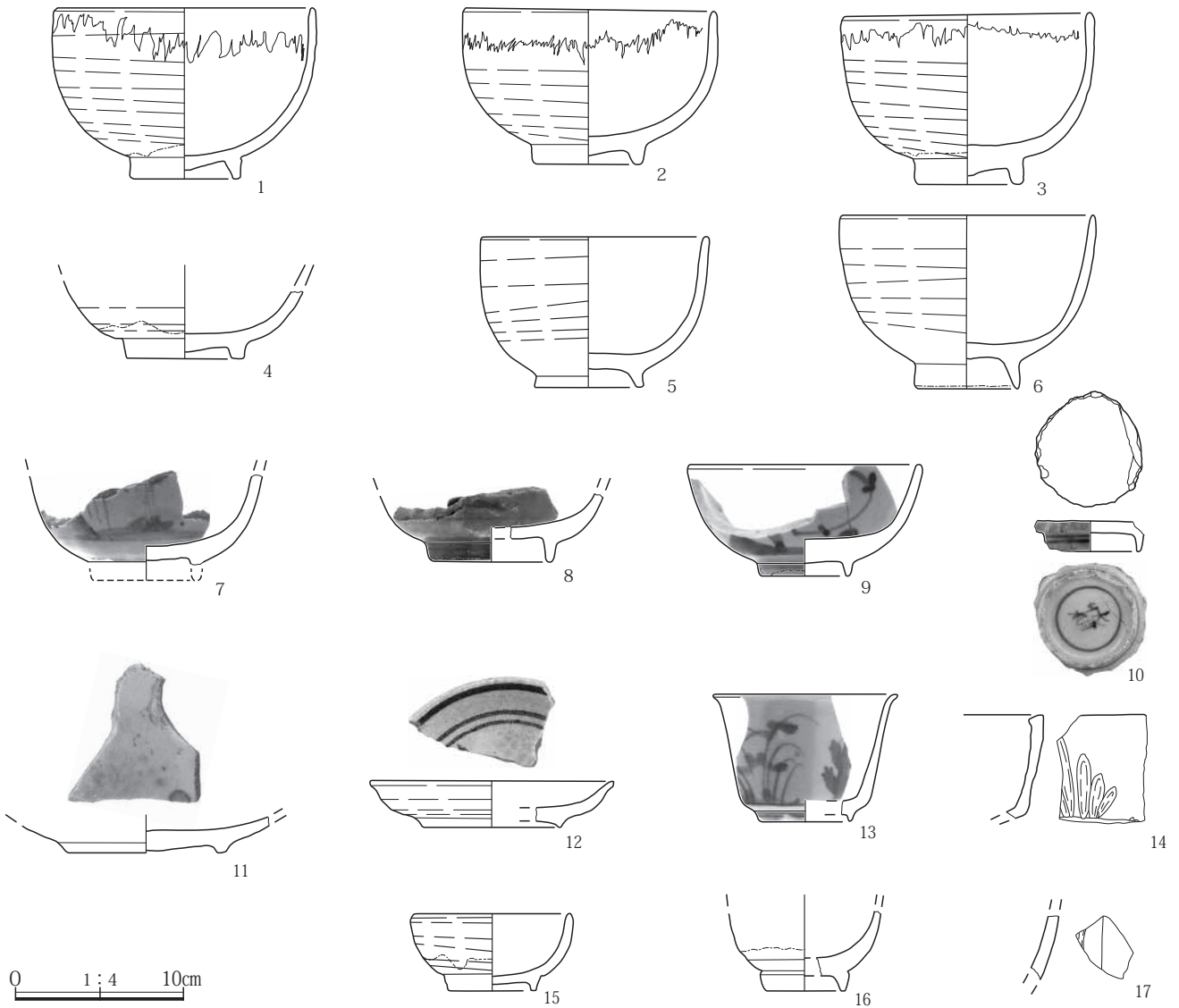
第109図 第3面 焼土

できない。出土遺物はない。

**8号焼土** 49-E-4 グリッド 長軸長50cm、短軸長40cm、深さ8cmの範囲で暗赤褐色から黄褐色のロームブロックがまとまって見られる。東部には周辺地山に含まれる礫より大きな方形厚板状の垂角礫があって、焼土はこの上にも広がっている。焼土化は弱い。加熱方向は判断できない。出土遺物はない。

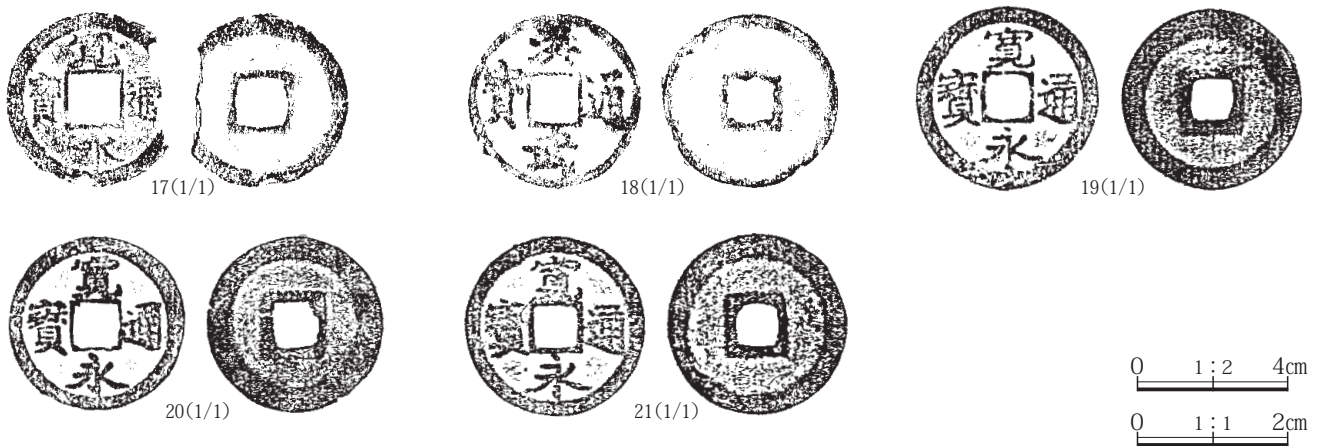
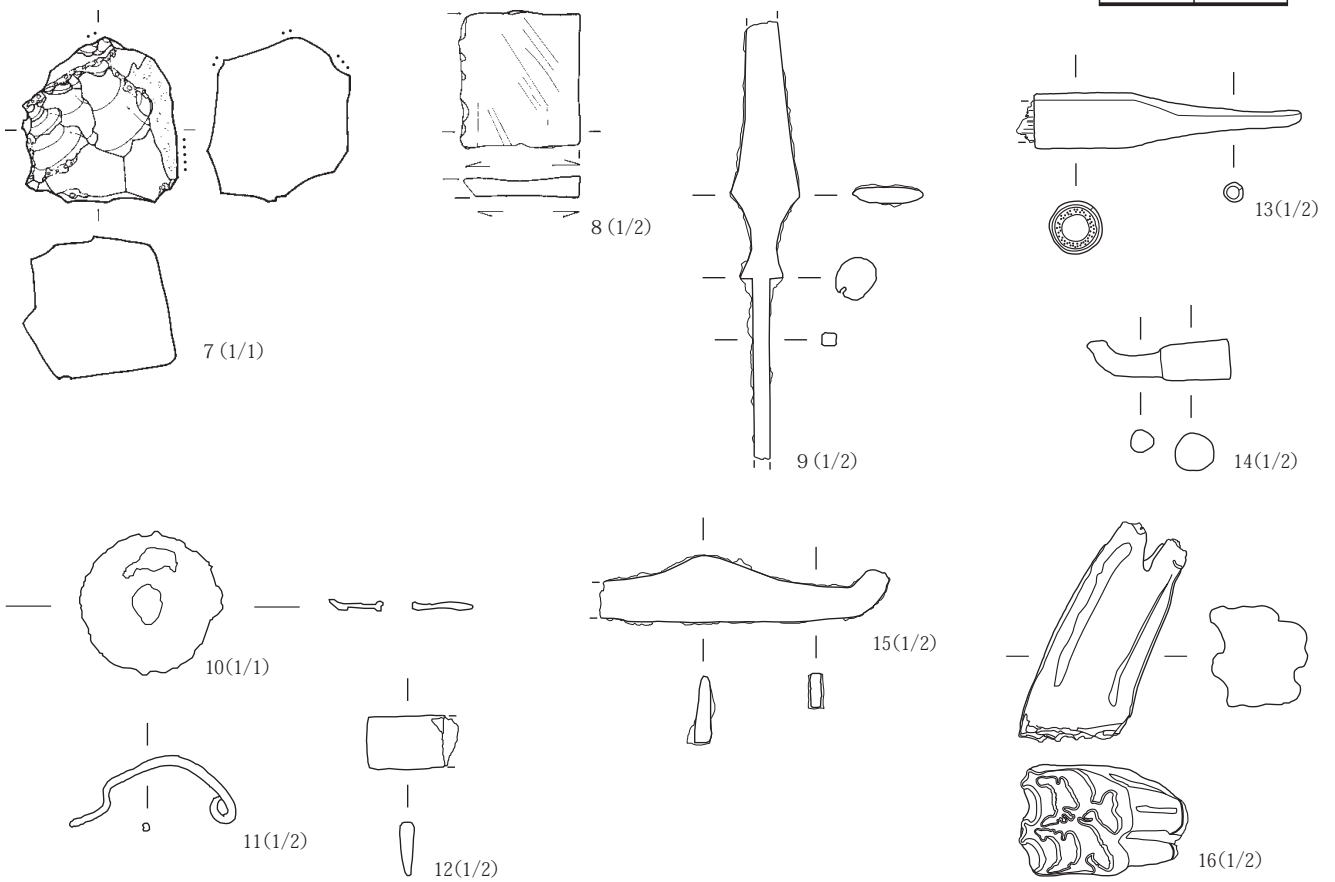
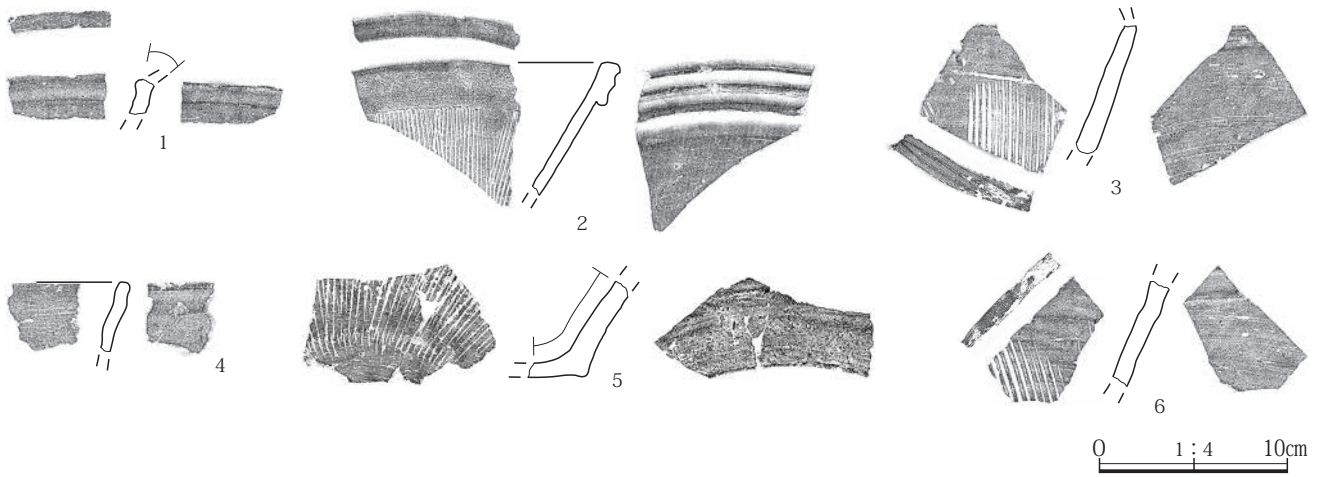
第5項 第1～3面出土遺物

本遺跡は畑遺構を中心とするため、7号ヤックラ内遺物以外には遺物と遺構の間に関連を持つ遺物はない。また、復旧坑内から出土した遺物を含め、発掘記録からは帰属面を判別することが困難であったため、出土位置に特定の意味を求められない。このため、本節では3面まで出土した遺物を一括して扱った。碗・皿を中心とする陶磁器のほか、煙管、小柄、火打ち金、火打石、砥石、寛永通寶、洪武通寶、馬齒などが出土している。



第110図 第1～3面出土遺物 1





第111図 第1～3面出土遺物2

## 第5節 第1～3面遺構一覧表・遺物観察表

第2表 第1面 復旧坑1

群	番号	グリッド	長(m)	幅(m)	深(m)	方位	挿図	PL.	発掘時名称
1	1	39-M-19	2.7+	0.95		N-80°-E	15	3	1号復旧坑
	2	39-M ~ 0-18・19	11.7+	0.9		N-80°-E	15	3	1号復旧坑
	3	39-M ~ P-18・19	13.85+	0.85		N-80°-E	15	3	1号復旧坑
	4	39-M ~ P-18	15	0.8		N-79°-E	15	3	1号復旧坑
	5	39-M ~ P-17・18	14.9	0.75		N-80°-E	15	3	1号復旧坑
	6	39-M ~ P-17・18	14.5	0.85		N-80°-E	15	3	1号復旧坑
	7	39-M ~ P-17・18	13.6	0.7		N-80°-E	15	3	1号復旧坑
	8	39-M ~ P-17	12.2	0.75		N-80°-E	15	3	1号復旧坑
	9	39-M ~ P-17	12.35	0.8		N-79°-E	15	3	1号復旧坑
	10	39-M ~ 0-16・17	11.88	0.75		N-79°-E	15	3	1号復旧坑
	11	39-M ~ 0-16・17	11+	0.8		N-80°-E	15	3	1号復旧坑
	12	39-L・M-16	2.8+	0.69		N-80°-E	15	3	1号復旧坑
	13	39-L ~ N-16	5.55+	0.8		N-80°-E	15	3	1号復旧坑
	14	39-L ~ 0-15・16	9.2+	0.75		N-80°-E	15	3	1号復旧坑
	15	39-L ~ 0-15・16	10.6+	0.8		N-80°-E	15	3	1号復旧坑
	16	39-L ~ 0-15	12.1+	0.85		N-81°-E	15	3	1号復旧坑
	17	39-L ~ P-14・15	14.1+	0.85		N-81°-E	15	3	1号復旧坑
	18	39-L ~ P-14・15	15.2	0.85		N-82°-E	15	3	1号復旧坑
	19	39-L ~ P-14・15	15.05	0.85		N-82°-E	15	3	1号復旧坑
	20	39-L ~ P-14	15.2	0.9		N-81°-E	15	3	1号復旧坑
	21	39-L ~ P-14	15	0.85		N-83°-E	15	3	1号復旧坑
	22	39-L ~ P-13・14	15.45	0.85		N-82°-E	15	3	1号復旧坑
	23	39-L ~ P-13・14	15.35	0.8		N-81°-E	15	3	1号復旧坑
	24	39-L ~ P-13・14	15.2	0.85		N-82°-E	15	3	1号復旧坑
	25	39-L ~ P-12・13	15.15	0.85		N-82°-E	15	3	1号復旧坑
	26	39-L ~ P-12・13	15	1		N-83°-E	15	3	1号復旧坑
	27	39-L ~ P-12・13	15.05	0.85		N-83°-E	15	3	1号復旧坑
	28	39-L ~ P-12・13	15.15	0.85		N-82°-E	15	3	1号復旧坑
	29	39-L ~ P-12	15.1	0.85		N-83°-E	15	3	1号復旧坑
	30	39-L ~ P-11・12	14.7	0.75		N-83°-E	15	3	1号復旧坑
	31	39-L ~ P-11・12	14.4	0.7		N-84°-E	15	3	1号復旧坑
	32	39-L ~ 0-11・12	13.4+	0.8		N-83°-E	15	3	1号復旧坑
	33	39-L ~ 0-11・12	13.5+	0.75		N-84°-E	15	3	1号復旧坑
	34	39-L ~ 0-11	12.95+	0.85		N-83°-E	15	3	1号復旧坑
	35	39-L ~ 0-11	13.5+	0.8		N-82°-E	15	3	1号復旧坑
	36	39-L ~ 0-10・11	12+	0.72		N-83°-E	15	3	1号復旧坑
	37	39-L ~ 0-10・11	12.5+	0.8		N-83°-E	15	3	1号復旧坑
	38	39-L ~ 0-10・11	13.25+	0.85		N-84°-E	15	3	1号復旧坑
	39	39-L ~ 0-10	14.58	0.9		N-83°-E	15	3	1号復旧坑
	40	39-L ~ 0-9・10	14.6	0.9		N-84°-E	15	3	1号復旧坑
	41	39-L ~ P-9・10	14.62	0.75		N-84°-E	15	3	1号復旧坑
	42	39-L ~ 0-9・10	14.25	0.9		N-85°-E	15	3	1号復旧坑
	43	39-L ~ 0-9	14.3	0.8		N-82°-E	15	3	1号復旧坑
2	1	39-J ~ L-20	6.52+	0.5+		N-77°-E	15	2・4	2号復旧坑
	2	39-J ~ M-19・20	10.45+	0.9		N-79°-E	15	2・4	2号復旧坑
	3	39-J ~ M-19・20	10.92+	0.85		N-80°-E	15	2・4	2号復旧坑
	4	39-J ~ M-19・20	11.02+	0.9		N-80°-E	15	2・4	2号復旧坑
	5	39-J ~ M-19	11.4+	0.83		N-81°-E	15	2・4	2号復旧坑
	6	39-J ~ M-18・19	11.95	0.8		N-81°-E	15	2・4	2号復旧坑
	7	39-J ~ M-18・19	12.05	0.95		N-81°-E	15	2・4	2号復旧坑
	8	39-J ~ M-18・19	11.85	0.9		N-80°-E	15	2・4	2号復旧坑
	9	39-J ~ M-18	11.95	0.8		N-80°-E	15	2・4	2号復旧坑
	10	39-J ~ M-18	11.95	0.8		N-82°-E	15	2・4	2号復旧坑
	11	39-J ~ M-17・18	10.7+	0.85		N-81°-E	15	2・4	2号復旧坑
	12	39-J ~ M-17・18	12.5	0.85		N-81°-E	15	2・4	2号復旧坑
	13	39-J・K-17・18	12.15	0.65		N-81°-E	15	2・4	2号復旧坑
	14	39-J・K-17	7.6	0.8		N-80°-E	15	2・4	2号復旧坑
	15	39-I ~ K-17	8.15	0.7		N-79°-E	15	2・4	2号復旧坑

第3表 第1面 復旧坑2

群	番号	グリッド	長(m)	幅(m)	深(m)	方位	挿図	PL.	発掘時名称	
2	16	39-I ~ L-16・17	10.65+	0.75		N-78°-E	15	2・4	2号復旧坑	
	17	39-I ~ L-16・17	12.45	1		N-79°-E	15	2・4	2号復旧坑	
	18	39-I ~ L-16	12.5	0.9		N-80°-E	15	2・4	2号復旧坑	
	19	39-I ~ L-16	12.65	0.85		N-80°-E	15	2・4	2号復旧坑	
	20	39-I ~ L-15・16	12.6	0.85		N-80°-E	15	2・4	2号復旧坑	
	21	39-I ~ L-15・16	12.65	0.85		N-81°-E	15	2・4	2号復旧坑	
	22	39-I ~ L-15・16	12.8	0.8		N-82°-E	15	2・4	2号復旧坑	
	23	39-I ~ L-15	12.8	0.8	0.27	N-81°-E	15	2・4	2号復旧坑	
	24	39-I ~ L-15	12.65	1	0.24	N-80°-E	15	2・4	2号復旧坑	
	25	39-I ~ L-14・15	12.7	0.9	0.25	N-82°-E	15	2・4	2号復旧坑	
	26	39-I ~ L-14・15	12.72	0.9	0.1	N-82°-E	15	2・4	2号復旧坑	
	27	39-I ~ L-14	12.75	0.8	0.24	N-83°-E	15	2・4	2号復旧坑	
	28	39-I ~ L-14	12.85	0.9		N-83°-E	15	2・4	2号復旧坑	
	29	39-I ~ L-13・14	12.95	0.95		N-84°-E	15	2・4	2号復旧坑	
	30	39-I ~ L-13・14	13.15	0.9		N-84°-E	15	2・4	2号復旧坑	
	31	39-I ~ L-13・14	13.2	0.85		N-83°-E	15	2・4	2号復旧坑	
	32	39-I ~ L-13	13.3	0.8		N-84°-E	15	2・4	2号復旧坑	
	33	39-I ~ L-13	13.45	0.85		N-84°-E	15	2・4	2号復旧坑	
	34	39-I ~ L-12・13	13.4	0.8		N-84°-E	15	2・4	2号復旧坑	
	35	39-I ~ L-12・13	13.35	0.8		N-84°-E	15	2・4	2号復旧坑	
	36	39-I ~ L-12	11.9+	0.8		N-83°-E	15	2・4	2号復旧坑	
	37	39-I ~ L-12	12.2+	0.8		N-85°-E	15	2・4	2号復旧坑	
	38	39-I ~ L-12	13.25	0.85		N-85°-E	15	2・4	2号復旧坑	
	39	39-I ~ L-11・12	13.6	0.7		N-84°-E	15	2・4	2号復旧坑	
	40	39-I ~ L-11・12	13.35	0.8		N-84°-E	15	2・4	2号復旧坑	
	41	39-I ~ L-11	12.85	0.8		N-84°-E	15	2・4	2号復旧坑	
	42	39-I ~ L-11	12.6	1		N-85°-E	15	2・4	2号復旧坑	
	43	39-J ~ L-10・11	5.7+	0.75		N-85°-E	15	2・4	2号復旧坑	
	44	39-K・L-10	5.2+	0.75		N-85°-E	15	2・4	2号復旧坑	
	45	39-K・L-10	4.6+	0.8		N-86°-E	15	2・4	2号復旧坑	
	46	39-K・L-10	4.1+	0.9		N-86°-E	15	2・4	2号復旧坑	
	47	39-K・L-10	3.65+	0.7		N-86°-E	15	2・4	2号復旧坑	
	48	39-K・L-9・10	3.4+	0.6		N-82°-E	15	2・4	2号復旧坑	
	3	1	39-G ~ I-21	5.5+	0.5		N-74°-E	17	4	3号復旧坑
		2	39-G ~ I-21	6.1+	0.45		N-70°-E	17	4	3号復旧坑
		3	39-G ~ J-20・21	9.8+	0.48		N-70°-E	17	4	3号復旧坑
		4	39-G ~ J-20・21	10.45+	0.5		N-71°-E	17	4	3号復旧坑
		5	39-G ~ J-20・21	10.4+	0.5		N-71°-E	17	4	3号復旧坑
		6	39-G ~ J-20・21	10.8+	0.4		N-70°-E	17	4	3号復旧坑
		7	39-G ~ J-19・20	10.75+	0.6		N-71°-E	17	4	3号復旧坑
		8	39-G ~ J-19・20	10+	0.5		N-71°-E	17	4	3号復旧坑
		9	39-H ~ J-19・20	8.8+	0.45		N-72°-E	17	4	3号復旧坑
		10	39-H ~ J-19・20	7.6+	0.45		N-73°-E	17	4	3号復旧坑
		11	39-H ~ J-19	5.75+	0.45		N-73°-E	17	4	3号復旧坑
		12	39-H ~ J-19	5.3+	0.45		N-75°-E	17	4	3号復旧坑
		13	39-I・J-18・19	3.9+	0.45		N-78°-E	17	4	3号復旧坑
		14	39-F・G-21・22	5.5+	0.6		N-70°-E	17	4	3号復旧坑
		15	39-F・G-21・22	5.4+	0.6		N-71°-E	17	4	3号復旧坑
16		39-F・G-21・22	5.25+	0.55		N-73°-E	17	4	3号復旧坑	
17		39-F・G-21	5.15+	0.6	0.26	N-74°-E	17	4	3号復旧坑	
18		39-F・G-21	5.1+	0.55	0.18	N-74°-E	17	4	3号復旧坑	
19		39-F・G-21	5+	0.5	0.3	N-73°-E	17	4	3号復旧坑	
20		39-F・G-20・21	4.9+	0.5	0.21	N-73°-E	17	4	3号復旧坑	
21		39-F・G-20・21	4.15+	0.5	0.23	N-70°-E	17	4	3号復旧坑	
22		39-F・G-20・21	4.65+	0.45	0.15	N-73°-E	17	4	3号復旧坑	
23		39-F・G-20	6.4+	0.5	0.12	N-71°-E	17	4	3号復旧坑	
24		39-F ~ H-20	7.6+	0.5	0.25	N-73°-E	17	4	3号復旧坑	
25		39-F ~ H-19・20	9.5+	0.55	0.29	N-73°-E	17	4	3号復旧坑	
26		39-F ~ H-19・20	9.9	0.55	0.25	N-73°-E	17	4	3号復旧坑	
27		39-F ~ I-19・20	11.9+	0.6		N-73°-E	17	4	3号復旧坑	
28		39-F ~ I-19・20	13.1+	0.6		N-73°-E	17	4	3号復旧坑	
29		39-F ~ I-18・19	14.55+	0.6		N-73°-E	17	4	3号復旧坑	
30		39-F ~ I-18・19	15.9	0.5		N-73°-E	17	4	3号復旧坑	

第2章 調査された遺構と遺物

第4表 第1面 復旧坑3

群	番号	グリッド	長(m)	幅(m)	深(m)	方位	挿図	PL.	発掘時名称
3	31	39-F ~ I-18・19	15.7	0.55		N-73°-E	17	4	3号復旧坑
	32	39-F ~ I-18・19	15.9	0.6		N-72°-E	17	4	3号復旧坑
	33	39-F ~ I-17 ~ 19	15.95	0.55		N-74°-E	17	4	3号復旧坑
	34	39-F ~ I-17・18	16.05	0.55		N-73°-E	17	4	3号復旧坑
	35	39-F ~ I-17・18	16.15	0.45		N-72°-E	17	4	3号復旧坑
	36	39-F ~ I-17・18	16.35	0.55		N-74°-E	17	4	3号復旧坑
	37	39-F ~ I-17・18	16.3	0.5		N-73°-E	17	4	3号復旧坑
	38	39-F ~ I-17・18	16.35	0.55		N-73°-E	17	4	3号復旧坑
	39	39-E ~ I-16 ~ 18	16.2	0.48		N-75°-E	17	4	3号復旧坑
	40	39-E ~ I-16・17	16.35	0.45		N-73°-E	17	4	3号復旧坑
	41	39-E ~ I-16・17	16.35	0.55		N-73°-E	17	4	3号復旧坑
	42	39-E ~ I-16・17	16.3	0.55		N-75°-E	17	4	3号復旧坑
	43	39-E ~ I-16・17	16.4	0.58		N-75°-E	17	4	3号復旧坑
	44	39-E ~ I-16・17	16.4	0.43	0.23	N-74°-E	17	4	3号復旧坑
	45	39-F ~ I-16・17	14.2+	0.55	0.2	N-74°-E	17	4	3号復旧坑
46	39-F ~ I-15・16	14.2+	0.55	0.19	N-74°-E	17	4	3号復旧坑	
47a	39-F ~ I-15・16	13.6+	0.5	0.16	N-74°-E	17	4	3号復旧坑	
47b	39-F ~ I-15・16	8.7+	0.65	0.11	N-75°-E	17	4	3号復旧坑	
4	a	39-H-15	1.53	0.62	0.09 ~ 0.29	N-12°-E	17	4	4号復旧坑
	b	39-H-15	1.53	0.68	0.16 ~ 0.28	N-38°-E	17	4	4号復旧坑
	c	39-G・H-15	1.28	0.69	0.03 ~ 0.2	N-38°-E	17	4	4号復旧坑
	d	39-G-15	1.25	0.54	0.07 ~ 0.14	N-66°-E	17	4	4号復旧坑
	e	39-G-15	1.88	0.68	0.13 ~ 0.23	N-44°-E	17	4	4号復旧坑
5	1	39-D ~ F-22・23	10.5	0.5		N-77°-E	19	4・5	5号復旧坑
	2	39-C ~ F-22・23	11.4	0.5		N-76°-E	19	4・5	5号復旧坑
	3	39-D ~ F-22	10.2	0.4		N-75°-E	19	4・5	5号復旧坑
	4a	39-E・F-22	5.8	0.45		N-76°-E	19	4・5	5号復旧坑
	4b	39-D-22	3.75	0.4		N-77°-E	19	4・5	5号復旧坑
	5	39-B ~ F-22	15	0.5		N-80°-E	19	4・5	5号復旧坑
	6	39-B ~ F-22	13.88	0.55		N-79°-E	19	4・5	5号復旧坑
	7	39-B ~ F-22	15.1	0.45		N-81°-E	19	4・5	5号復旧坑
	8	39-B ~ F-21・22	16.5	0.5	13	N-84°-E	19	4・5	5号復旧坑
	9	39-B ~ F-21・22	14.85	0.5	10	N-83°-E	19	4・5	5号復旧坑
	10	39-B ~ F-21・22	15.2	0.5	15	N-85°-E	19	4・5	5号復旧坑
	11	39-B ~ F-21	15.15	0.45	7	N-85°-E	19	4・5	5号復旧坑
	12	39-B ~ F-21	15.25	0.55	6	N-85°-E	19	4・5	5号復旧坑
	13	39-B ~ F-21	15.1	0.45	18	N-85°-E	19	4・5	5号復旧坑
	14	39-B ~ F-20・21	13.8	0.75	17	N-85°-E	19	4・5	5号復旧坑
	15	39-B ~ F-20・21	14.4	0.6	13	N-87°-E	19	4・5	5号復旧坑
	16	39-B ~ F-20・21	14.7	0.75	18	N-88°-E	19	4・5	5号復旧坑
	17	39-B ~ F-20	13.8	0.5	12	N-87°-E	19	4・5	5号復旧坑
	18	39-B ~ F-20	13.5	0.5	15	N-87°-E	19	4・5	5号復旧坑
	19	39-B ~ F-20	13.75	0.55	13	N-87°-E	19	4・5	5号復旧坑
	20	39-B ~ F-20	13.4	0.5		N-88°-E	19	4・5	5号復旧坑
	21	39-B ~ F-20	14.85	0.6		N-89°-E	19	4・5	5号復旧坑
	22	39-B ~ F-19・20	15.2	0.55		N-90°-E	19	4・5	5号復旧坑
	23	39-B ~ F-19	14.2	0.55		N-90°-E	19	4・5	5号復旧坑
	24	39-B ~ F-19	15.35	0.58		N-89°-E	19	4・5	5号復旧坑
	25	39-C ~ F-19	12.1	0.45		N-89°-E	19	4・5	5号復旧坑
26	39-B ~ E-19	11.2+	0.55		N-89°-E	19	4・5	5号復旧坑	
6	1	39-B ~ E-18・19	12	1.1		N-77°-E	19	4・5	6号復旧坑
	2	39-B ~ E-18・19	11.65	1.3		N-78°-E	19	4・5	6号復旧坑
	3	39-B ~ D-17・18	11.2	1.5		N-78°-E	19	4・5	6号復旧坑
	4	39-B ~ D-17・18	11.35	1.5		N-78°-E	19	4・5	6号復旧坑
	5	39-B ~ F-16・17	16.6	1.3		N-78°-E	19	4・5	6号復旧坑
	6	39-B ~ E-16・17	16.25+	1.4		N-79°-E	19	4・5	6号復旧坑
	7	39-B ~ E-16・17	16.15+	1.1		N-78°-E	19	4・5	6号復旧坑
	8	39-A ~ E-15・16	15.65	1.5		N-80°-E	19	4・5	6号復旧坑
	9	39-A ~ E-15・16	16.15	1.95		N-79°-E	19	4・5	6号復旧坑
	10	39-A ~ E-14・15	15.3	1.8		N-81°-E	19	4・5	6号復旧坑
	11	39-B ~ E-14・15	12+	1.55		N-84°-E	19	4・5	6号復旧坑
	12	39-C ~ E-13・14	8.8+	1.4		N-80°-E	19	4・5	6号復旧坑
	13	39-D・E-13	4.6+	1.2		N-80°-E	19	4・5	6号復旧坑

第5節 第1～3面遺構一覧表・遺物観察表

第5表 第1面 復旧坑4

群	番号	グリッド	長(m)	幅(m)	深(m)	方位	挿図	PL.	発掘時名称
7	1	38-X・Y-24・25	4.6+	1.2		N-77°-E	21	5・6	7号復旧坑
	2	38-X・Y-24	5.2+	0.95		N-86°-E	21	5・6	7号復旧坑
	3	38-X・Y-24	6.5+	1		N-87°-E	21	5・6	7号復旧坑
	4a	38・39-W～A-24	12.8+	0.85		N-88°-E	21	5・6	7号復旧坑
	4b	38・39-W～A-23・24	13.55+	0.75		N-89°-E	21	5・6	7号復旧坑
	5	38・39-V～A-23	13.5+	0.83		N-89°-E	21	5・6	7号復旧坑
	6	38-V～Y-23	12.3+	0.95		N-88°-E	21	5・6	7号復旧坑
	7	38-V～Y-23	14.3+	0.75		N-88°-E	21	5・6	7号復旧坑
	8	38-V～Y-22・23	13.8+	0.85		N-86°-E	21	5・6	7号復旧坑
	9	38・39-U～A-22	21.3+	0.7		N-86°-E	21	5・6	7号復旧坑
10	38・39-U～B-22	25.3+	0.75		N-86°-E	21	5・6	7号復旧坑	
8	1	38・39-W～B-21・22	16.55	0.6		N-86°-E	21	5・6	8号復旧坑
	2	38・39-W～B-21・22	15.35	1.28		N-85°-E	21	5・6	8号復旧坑
	3	38・39-W～B-21	14.85	1.3		N-85°-E	21	5・6	8号復旧坑
	4	38・39-W～B-20・21	15.1	1.25		N-84°-E	21	5・6	8号復旧坑
	5	38・39-W～B-20	15.5	1.3		N-84°-E	21	5・6	8号復旧坑
	6	38・39-W～B-19・20	15.3	1.4		N-85°-E	21	5・6	8号復旧坑
	7	38・39-W～A-19・20	14.85	1.5		N-84°-E	21	5・6	8号復旧坑
	8	38・39-W～B-19	16.5	1.9		N-85°-E	21	5・6	8号復旧坑
	9a	38・39-Y・A-18・19	5.2	0.7		N-88°-E	21	5・6	8号復旧坑
	9b	39-W～Y-18・19	7.4	1.4		N-86°-E	21	5・6	8号復旧坑
	10	38・39-W～A-18	14.25	1.58		N-90°-E	21	5・6	8号復旧坑
	11	38・39-W～A-18	14.2	1.7		N-90°-E	21	5・6	8号復旧坑
	12	38・39-W～A-17・18	13.75	1.7		N-90°-E	21	5・6	8号復旧坑
	13	38・39-W～A-17	14.85	1.2		N-89°-E	21	5・6	8号復旧坑
	14	38・39-Y・A-16・17	5.7+	1.05		N-72°-E	21	5・6	8号復旧坑
	15	38・39-X～A-16・17	6.75	0.9		N-84°-E	21	5・6	8号復旧坑
	16a	39-A-16	1.65	1.3		N-90°-E	21	5・6	8号復旧坑
	16b	38・39-X～A-16	5.7	0.9		N-82°-E	21	5・6	8号復旧坑
17	38・39-Y・A-16	4.7	1		N-86°-E	21	5・6	8号復旧坑	
18	38・39-Y・A-15・16	3.2+	0.7+		N-78°-E	21	5・6	8号復旧坑	
9	1	38-U～W-22	7.7	0.65		N-85°-E	21	5	9号復旧坑
	2	38-U～W-21・22	8.35	0.7		N-85°-E	21	5	9号復旧坑
	3	38-U～W-21	8.6	0.9		N-87°-E	21	5	9号復旧坑
	4	38-T～W-21	8.8	0.85		N-87°-E	21	5	9号復旧坑
	5	38-T～W-21	9.05	0.85		N-85°-E	21	5	9号復旧坑
	6	38-T～W-20・21	9.25	0.85		N-85°-E	21	5	9号復旧坑
	7	38-T～W-20	11.45	0.98		N-86°-E	21	5	9号復旧坑
	8	38-T～W-20	11.6	0.9		N-86°-E	21	5	9号復旧坑
	9	38-T～W-19・20	11.7+	1		N-85°-E	21	5	9号復旧坑
	10	38-T～W-19	11.85+	0.8		N-85°-E	21	5	9号復旧坑
	11a	38-U～W-19	5.35	0.9		N-87°-E	21	5	9号復旧坑
	11b	38-T・U-19	5.2	0.7		N-85°-E	21	5	9号復旧坑
	12	38-T～W-19	12.5	0.95		N-86°-E	21	5	9号復旧坑
	13	38-S～W-18・19	12.75	0.85		N-87°-E	21	5	9号復旧坑
	14	38-S～W-18・19	13	0.85		N-88°-E	21	5	9号復旧坑
	15	38-S～W-18	13.1	0.7		N-87°-E	21	5	9号復旧坑
	16	38-S～W-18	13.2	0.85		N-86°-E	21	5	9号復旧坑
	17	38-T～W-18	8.7	0.65		N-87°-E	21	5	9号復旧坑
	18	38-U～W-17・18	7.2	0.8		N-90°-E	21	5	9号復旧坑
19	38-V・W-17	4.5	0.8		N-90°-E	21	5	9号復旧坑	

第6表 第1面 1号炭窯

番号	グリッド	全長(m)	窯体長(m)	窯体幅(m)	残存高(m)	方位	挿図	PL.	発掘時名称
1	40-L・M-16・17	3.24	1.98	1.48	1.5	N-30°-W	23	6	1号炭窯

第2章 調査された遺構と遺物

第7表 第2面 畑

区画	番号	グリッド	東西長	南北長	条数	畝溝間幅	面積(m <sup>2</sup> )	方位	挿図	PL.	発掘時名称
1	1	39～40-Y～B-20～22	7.2	5.8+	12+	0.48	36.06	N-45°-E	25～27	7	
2		39～40-S～A-21～1	13.2	16.9+	26+	0.65	149.07	N-42°-E	25～27	7	
3	1	39・49-P～V-21～3	12.3	23.4+	44+	0.53	247.06	N-48-52°-E	28～48	7～10	
	2	49-P～T-3～8	17.5	6.6+	9+	0.73～0.9	74.42	N-67°-E			
	3	39・49-M～S-23～4	15.6	22.7	44	0.52	252.47	N-66-67°-E			
	4	39・49-K～R-25～8	11.8	31.6+	57+	0.55	320.97	N-71-75°-E			
	5	49-H～O-1～10	12.9	36.5+	70+	0.52	404.97	N-71-75°-E			
	6	49-G～J-5～12	11.9	24.7+	51+	0.48	265.57	N-73-74°-E			
	7	49-B～H-3～11	15.3	28	55+	0.51	470.28	N-61°-E			
	8	38・39・48・49-O～E-2～14	19.8	74.9	150+	0.5	1442.41	N-49/50-60°-E			
	9	38・48-O～R-24～3	6.2	15.5	34	0.46	86.18	N-57°-E			
4		48-F～I-9～13	10.3	11.9+	23+	0.52	126.24	N-52/75°-E	49～51	10・11	
5		48-C～G-11～14	15	10.9+	24+	0.45	103.6	N-62°-E	49～51	11・12	4号畑
6		48・49-U～B-9～16	11.1+	28.6+	63+	0.45	253.59	N-61°-E	52・53	12	2号畑
7	1	48-S～U-7～8	9.9+	7.5+	21+	0.47	67.71	N-135°-E	54～56	12・13	1号畑
	2	48-O～U-4～8	11.1+	10.8+	23+	0.48	86.59	N-120°-E			1号畑
	3	48-L～O-2～4	5.4+	15.7+	16+	0.44	40	N-92/94°-E			5号畑
	4	38・48-J～L-24～1	4.3+	9.6+	17+	0.43	34.4	N-147/152°-E			9号畑
8		39-S～U-20～22	7.6	3.5	5	0.7	25.52	N-69°-E	57～61	13	
9	1	39-M～S-21～24	22.8	4.1	7	0.56～0.59	85.08	N-64-68°-E	57～61	13・14	
	2	39・49-H～M-23～1	22.8	5.8	14	0.41	70.33	N-69°-E			
	3	49-E～G-1～3	10.1	4.8	10	0.48	37.4	N-72°-E			
	4	48・49-Y～D-1～3	13.6	6.6	26	0.45/0.42	40.27	N-75/70°-E			
10	1	39-R・S-9～15	4.4	24	51+	0.48	83.13	N-92°-E	62～70	14～16	6号畑
	2	39-O～R-6～16	11.02	31.82+	43+	0.5	330.74	N-89/75°-E			6号畑
	3	39-K～O-6～9	20+	10.1+	11+	0.92	147.78	N-81°-E			7号畑
	4	39-E～I-12～15	13.95	13.2+	29+	0.41	166.87	N-77/64°-E			8号畑
	5	39-A～F-18～24	16.7	25.8	34	0.51	369.12	N-75-77/89-83°-E			11号畑
	6	38・39-U～A-20～24	16.8	15.4		0.2～0.4	372.87	N-73-82°-E			
11	1	38-Q～T-18～22	13	12.2+	26+	0.47	86.27	N-65°-E	71・72	16	10号畑
	2	38-N～Q-21～24	14	7.4+	11+	0.67	71.94	N-58°-E			10号畑
12		48-D～G-20・21	12.6+	3.4+	9+	0.42	39.02	N-78°-E	73	16	

第8表 第2面 平坦面

番号	グリッド	標高(m)	平面形	径(cm)	平坦面溝		中央溝			挿図	PL.	発掘時名称
					幅(cm)	深(cm)	幅(cm)	深(cm)	方位			
1	49-K-3・4	523.80	円	195						75		12号平坦面
2	49-J-9・10	522.31	円	178						75		11号平坦面
3	49-D-6	525.32	円	137						75		9号平坦面
4	49-C-3・4	526.34	円	172						75		10号平坦面
5	49-B-10・11	525.50	円	155	18～20	2～5	20	7	N-124°-E	76	16	4号平坦面
6	48-Y-6・7	527.10	円	165	18	1～3	24	3～5	N-124°-E	76	16	3号平坦面
7	49-G・H-12・13	521.75	円	160						76		8号平坦面
8	48-X-13・14	525.92	円	162	24	2～3				76	16	2号平坦面
9	48-U・V-7	527.72	長円	182	18～24					77	16	1号平坦面
10	48-N-2・3	531.16	長円	160						77	17	5号平坦面
11	39-T-10・11	540.80	偏円	162						77		6号平坦面
12	39-N-9	540.85	円か	185	25	2～9				77	17	7号平坦面

第9表 第2面 2号炭窯

番号	グリッド	全長(m)	窯体長(m)	窯体幅(m)	残存高(m)	方位	備考	挿図	PL.	発掘時名称
1	48-M-1						礫2のみ	88	22	炭窯

第10表 第2面 溝

番号	グリッド	確認長(m)	幅(m)	深(m)	方位	挿図	PL.	発掘時名称
1	49-C～F-11～14	30.3	0.5～1.35	0.1	35/155	95	21	1号溝

第11表 第2面 石垣

番号	グリッド	確認長(m)	高(m)	方位	挿図	PL.	発掘時名称
1	49-C～E-12～14	14.24	0.33～0.55	35	95	21	1号石垣
2	48-T～V-6～8	13.8	～0.5	155	98		2号石垣
3	45-S-5	4		28	99	20	3号石垣

第5節 第1～3面遺構一覧表・遺物観察表

第12表 第2面 ヤックラ

番号	グリッド	標高(m)	東西幅(m)	南北幅(m)	遺物	挿図	PL.	発掘時名称
1	40-A・B-19・20	522.8～533.6	5.24	2.08		79	17	1号ヤックラ
2	39・40-Y・A-20	522.8～5523.9	2.8	1.6		79		
3	39-V・W-21・22	523～524.3	4.32	2.88		80	17	
4	39-T・U-19・20	522.8～524.4	2.68	2.76		80	17	
5	39-L～N-23～25	524.6～526	6.64	4.48		81		
6	39・49-G・H-25～2	525～527	4.48	6.68		82		
7	49-D・E-2・3	525.76～527.3	5.96	7.52	五輪塔空風輪、火輪	83	18	4区1号ヤックラ
8	49-B・C-2・3	526.8～527.5	3.88	1.96		86		
9	48・49-Y・A-2・3	527.66～529.6	4.12	6.24		86		4区2号ヤックラ
10	48-R・S-1・2	532.2～533.4	3.24	4.68		87		2区1号ヤックラ

第13表 第2面 道

番号	グリッド	確認長(m)	幅(m)	方位	挿図	PL.	発掘時名称
1	39・40-Y～C-20～21	13.5	1～1.5	N-135/62°-E	90	19	平成14年度2号道と連続
2	39・40-T～A-21～22	28.5	1～1.2	N-138/70°-E	90	19	平成14年度3号道と連続
3	39・40・49-A～V-22～3	49.8	0.4～1.1/0.35～0.72	N-135/70/93°-E	91～94	19	
4	49-H・I-9～12	10.8	0.28～0.6	N-155°-E	96	19	
5	48・49-U～B-6～15	43.6	60/96	N-155°-E	97	19・20	1号道
6	45-S・T-4・5	4	0.55～0.7	N-134°-E	99	20	2号道
7	38・48-O～Q-24～3	27.3	0.6～0.8	N-128/24°-E	100	20	3号道
8	38・48-P～X-22～2	43.4	0.3～0.6	N-47/37°-E	101	20	7号道
9	39-S-21	6	0.9	N-28°-W	91・92		
10	39-T-12	2.5	0.5+	N-70°-E	102	21	5号道
11	39-R～T-8～15	26.2	1.1～1.4/0.7	N-1°-W	102	21	4号道
12	38-O～Q-22～24	12	0.6～0.8	N-46°-E	103	21	6号道

第14表 第2面 溝状遺構

番号	グリッド	確認長(m)	幅(m)	深(m)	方位	挿図	PL.	発掘時名称
1	45-R・S-5	3.4	0.35	0.05		99		1号溝状遺構

第15表 第3面 畑

番号	グリッド	東西長	南北長	条数	畝・畝間溝幅	方位	挿図	PL.	発掘時名称
1	39-F～I-17～20	10+	7.5+	13+	0.56	N-78°-E	105	22・23	13号畑

第16表 第3面 土坑

番号	グリッド	平面形状	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	長軸方位	挿図	PL.	発掘時名称
3	48-Y-6	不整形	88	75	31	N-57°-E	108	23	1区3号土坑
4	49-A-5・6	不整形	78	74	29	N-42°-E	108	23	1区4号土坑
6	49-A-6	不整形	72	65	21	N-8°-E	108	24	1区6号土坑
55	39-D-14	隅丸長方形	126+	82	25	N-84°-W	108	24	2区55号土坑
59	39-E-15	円形	148	119	37	N-39°-W	108	24	2区59号土坑
65	39-F-16・17	円形	148	119	37	N-39°-W	108	24	2区65号土坑
66	39-F-18	楕円形	106	78	20	N-0°	108	25	2区66号土坑
67	39-G-19	円形	115	114	44	N-21°-W	108	25	2区67号土坑
69	39-C-20	楕円形	93	73	30	N-66°-W	108	25	2区69号土坑
85	39-N-16	隅丸長方形	188	85	62	N-6°-W	108	25	3区12号土坑
91	49-N・O-8	隅丸長方形	108	62	32	N-42°-W	108	26	4区1号土坑
92	49-L・M-1	隅丸長方形	365	132	121	N-78°-E	108	26	4区2号土坑
94	49-D・E-4・5	不整形	252	180	56	N-75°-E	109	26	4区4号土坑

第17表 第3面 焼土

番号	グリッド	長径(cm)	短径(cm)	厚さ(cm)	時期	備考	挿図	PL.	発掘時名称
1	38-Y-20	112	49	5	不明		109	27	2区1号焼土
2	38-X-19・20	60	45	15	不明		109	27	2区2号焼土
3	39-I-20	44	30	11	不明		109	27	3区1号焼土
4	49-F-8	130	86	15	不明		109	27	4区1号焼土
5	49-F-8	90	70	5	不明		109	27	4区2号焼土
6	49-E-7・8	25	15	5	不明		109	27	4区3号焼土
7	49-F-7	40	40	5	不明		109	27	4区4号焼土
8	49-E-4	50	40	8	不明		109	28	4区5号焼土

第2章 調査された遺構と遺物

第18表 陶磁器観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		色調	成形・整形の特徴	備考		
				口径 底径	器高					
第110図 PL.28	1	瀬戸・美濃陶器 尾呂碗	2区14トレンチ 口縁一部欠	口径 底径	11.7 4.7	器高	7.5	灰白	外面口縁部以下回転篋削りの後、高台貼付。内面から高台脇に飴釉。高台脇以下は釉を丁寧に拭う。口縁部に藁灰釉か。	18世紀前葉 ～中葉
第110図 PL.28	2	瀬戸・美濃陶器 尾呂碗	2区泥流下畑 1/2	口径 底径	11.2 4.7	器高	6.9	灰白	体部上位以下は回転篋削り。底部は回転篋削りの後、高台貼付。内面から高台脇に飴釉施釉の後、口縁部に藁灰釉。	10片接合。 18世紀中葉
第110図 PL.28	3	瀬戸・美濃陶器 尾呂碗	3区14トレンチ ほぼ完形	口径 底径	11.0 4.6	器高	7.5	灰白	体部外面上位以下は回転篋削り。底部は回転篋削りの後、高台部分の回転撫で。内面から体部外面下位に飴釉。口縁部に藁灰釉。飴釉はやや薄く斑状に白濁。	14片接合。 18世紀中葉
第110図	4	瀬戸・美濃陶器 尾呂碗か	復旧坑第7群 体部下位以下 1/2	口径 底径	- (5.2)	器高	-	灰白	外面回転篋削りの後、高台貼付。内面から体部下位に飴釉。体部割れ口の外側半分は釉が付着する箇所があり、焼成時にヒビが入っていた。	18世紀前葉 か
第110図 PL.28	5	瀬戸・美濃陶器 碗	3区14トレンチ ほぼ完形	口径 底径	9.8～ 10.4 4.5～4.8	器高	6.5	灰白	高台端部を除き灰釉。貫入入る。高台端部やや摩滅。	18世紀中葉 か
第110図 PL.28	6	肥前陶器 呉器手碗	2区14トレンチ 口縁一部欠	口径 底径	11.2 4.5	器高	7.8	灰白	高台内中央は兜巾状を呈する。高台端部を除き貫入が入る透明釉。	14片接合。 17世紀末から 18世紀前葉
第110図	7	肥前陶器 陶胎染付碗	4区7トレンチ 体部下位1/4	口径 底径	- -	器高	-	灰	外面に染付。高台丁寧に打ち欠いて使用か。	18世紀前葉 ～中葉
第110図	8	肥前陶器 陶胎染付碗	3区復旧溝 1/3	口径 底径	- (5.3)	器高	-	灰～灰白	外面染付。高台端部を除き透明釉。文様不鮮明。貫入入る。	18世紀前葉 ～中葉
第110図 PL.28	9	肥前磁器 染付碗	49-J-1 口縁部一部、 底部1/2	口径 底径	(10.3) 4.0	器高	5.0	灰白	外面雪輪梅樹文。高台内不明銘。	18世紀中葉 から後葉。 2片接合
第110図 PL.28	10	肥前磁器 染付碗	復旧坑第8群 底部	口径 底径	- (3.6)	器高	-	白	高台内1重圏線内に「大明年製」崩れ銘。高台脇を叩打により円形に成形。	二次加工 品。江戸時代
第110図	11	肥前磁器 染付皿	3区復旧溝 底部1/3	口径 底径	- (7.1)	器高	-	灰白	内面染付。高台端部を除き透明釉。高台外面は内傾し、端部を削り断面逆台形に成形。	17世紀前葉 ～中葉
第110図	12	瀬戸・美濃陶器 鉄絵皿	2区3面 1/4	口径 底径	(10.8) (6.1)	器高	2.1	灰白	口縁部内面に幅広の圏線。底部内面2重圏線内に不明文様。施文は鉄絵具。高台端部を除き長石釉。貫入入る。	17世紀前葉 ～中葉
第110図 PL.28	13	肥前磁器 小杯	4区7トレンチ 1/5	口径 底径	(8.2) (4.0)	器高	5.7	灰白	手描きによる植物文とコンニャク印版による若松文。内面無文。	18世紀前葉 ～中葉
第110図	14	瀬戸・美濃陶器 筒形香炉	1区 口縁部から体 部片	口径 底径	- -	器高	-	灰白	外面に若松状の文様。内面から残存部外面に飴釉。口縁部外面端部に器表の微細剥離あり。	18世紀
第110図 PL.28	15	瀬戸・美濃陶器 小碗	3区14トレンチ ほぼ完形	口径 底径	7.0 4.0	器高	3.5	灰白	外面は口縁部以下回転篋削り。内面から高台脇に飴釉。	18世紀
第110図	16	製作地不詳陶器 碗	復旧坑第6群 1/3	口径 底径	- (4.1)	器高	-	灰	内面から体部外面に鉄釉。露胎部はにぶい褐色。	時期不詳
第110図	17	龍泉窯系青磁 碗	39-J-19 2面 体部片	口径 底径	- -	器高	-	灰白	外面鎊蓮弁文。内外面青磁釉。	13世紀
第111図 PL.28	1	製作地不詳陶器 すり鉢	1区表採 口縁部片	口径 底径	- -	器高	-	淡黄	内面にすり目密に施し、口縁部回転横撫でにより上端を撫で消す。口縁部内面から外面に錆釉。片口の押しえは弱く、僅かに突き出るのみ。	19世紀前葉 以降
第111図	2	瀬戸・美濃陶器 すり鉢	39-J-19 2面 口縁部下位片	口径 底径	- -	器高	-	灰白	口縁部下位片の上部割れ口を擦って平坦かつ平滑とする。用途不明。	二次加工。 江戸時代
第111図	3	瀬戸・美濃陶器 すり鉢	復旧坑第6群 口縁部下位片	口径 底径	- -	器高	-	灰白	口縁端部付近欠損。口縁下部の屈曲部以下の外面は回転篋削り、内面はすり目。内面側から見て左下の割れ口は擦られて平滑となる。	二次加工
第111図	4	瀬戸・美濃陶器 すり鉢	復旧坑第7群 口縁部下位片	口径 底径	- -	器高	-	灰白	口縁端部付近欠損。口縁下部の屈曲部以下の外面は回転篋削り、内面はすり目。内面側から見て左上の割れ口の2/3は、擦られて平滑となる。	二次加工
第111図	5	丹波陶器か すり鉢	1区 体部下位から 底部	口径 底径	- -	器高	-	褐灰	内面器表は浅黄褐色、外面器表はにぶい褐色。内面のすり目は密に入り、使用による摩滅著しい。	3片接合。 江戸時代
第111図	6	在地系土器 内耳鍋か	4区5トレンチ 口縁部片	口径 底径	- -	器高	-	にぶい褐、 外面器表黒 灰	口縁部横撫で。	中世か



第19表 石製品観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長 幅	厚 重	厚 重			
第85図 PL.18	2	五輪塔 空風輪	7号ヤックラ 完形	長 幅 19.5 18.1	厚 重 17.9 5478.0		溶結凝灰岩	成形は均質、表面は丁寧な整形を施す。側面のくびれ部は明瞭である。底面の加工は比較的粗く平ノミ状あるいは棒状の工具痕が明瞭に認められる。	
第85図 PL.18	3	五輪塔 空風輪	7号ヤックラ 完形	長 幅 19.1 17.1	厚 重 15.1 3698.6		粗粒輝石安山岩	成形は均質、表面は丁寧な整形を施す。側面のくびれ部は明瞭である。底面の加工は比較的粗く平ノミ状あるいは棒状の工具痕が明瞭に認められる。	
第84図 PL.18	1	五輪塔 火輪	7号ヤックラ ほぼ完形	長 幅 26.6 26.8	厚 重 15.4 6700.0		粗粒輝石安山岩	丁寧な成整形。上面はほぼ平坦であり棒状あるいは平ノミ状の工具痕が明瞭に認められる。隅棟の反りは認められず、屋だるみはわずかに認められる。軒の上辺は曲線を呈するが下辺はほぼ直線である。底面の加工は全体的に粗い。	
第111図 PL.28	7	石製品 火打石	4区5号トレン チ 完形	長 幅 2.2 2.1	厚 重 1.9 11.6		流紋岩	縁辺部の稜上に微細剥離痕とつぶれ痕が認められる。左側面には自然面が認められ円礫を利用している可能性が高い。	
第111図 PL.28	8	石製品 砥石	49-F-7 不明	長 幅 (3.7) (3.2)	厚 重 0.8 13.3		珪質粘板岩	表裏面の全体に非常に滑らかな面が認められ砥面と判断した。	

第20表 金属製品等観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			成形・整形の特徴	備考
				縦 横	厚 重	厚 重		
第111図 PL.28	9	鉄製品 鏃	38-X-18 一部欠損	縦 横 11.55 1.85	厚 重 1.1 16.6		鉄鏃。鏃通し。鋒、茎の端部が欠損している。中世以降の鏃と見られる。	
第111図 PL.28	10	銅製品 雁首銭	1区3面 一部欠損	縦 横 1.95 1.9	厚 重 0.1 9		雁首銭。全体に劣化が見られ、一部欠損している。煙管の火皿部分をつぶしたものの。	
第111図 PL.28	11	銅製品 銅線	2区3面 不明	縦 横 4.38 1.9	厚 重 0.2 1.6		詳細は不明。片方が丸まっており、もう一方はやや細くなる。	
第111図 PL.28	12	銅製品 小柄柄部	38-Y-20 1/2	縦 横 2.4 1.45	厚 重 0.4 3.2		細かい傷が右上から左下方向に多数ある。中心部と思われるところから中心から両側に折り返されるように破損している。	
第111図 PL.28	13	銅製品 キセル(吸口)	復旧坑第7群 ほぼ完形	縦 横 7.5 1.5	厚 重 1.4 11.8		内部に羅字が残存する。全体が錆で覆われており、一部剥離も見られる。	
第111図 PL.28	14	銅製品 キセル(雁首)	1区3面 一部欠損	縦 横 3.8 1.1	厚 重 1.0 4.9		全体が細かい砂を含む錆に覆われている。火皿部分が欠損。	
第111図 PL.28	15	鉄製品 火打ち金	2区3面 2/3	縦 横 7.7 1.85	厚 重 0.6 21.1		山形の火打ち金。銅の針金が付随している。針金は端部が丸く収められており、もう一方の端部の直前で曲がり、欠損している。	
第111図 PL.28	16	馬歯	39-W-23 完形	縦 横 6.1 2.5	厚 重 2.6 53.5		馬の上の歯。後臼歯と見られる。歯冠高が1.6cmと見られ、高齢の馬の可能性はある。	
第111図 PL.28	17	銭貨 寛永通寶	2区 一部欠損	縦 横 2.294 -	厚 重 0.103 1.4		面、背ともにやや彫は浅いが、字、輪、郭は明瞭。	
第111図 PL.28	18	銭貨 洪武通寶	復旧坑第7群 完形	縦 横 2.332 2.303	厚 重 1.47 2.1		面の彫は深く、字、輪、郭が明瞭。背の彫は浅いが、輪、郭は明瞭。背の郭がゆがんでおり、いびつな形をしている。	
第111図 PL.28	19	銭貨 寛永通寶	48-B-22 完形	縦 横 2.427 2.422	厚 重 1.3 3.2		古寛永。面、背ともに彫が深く字、輪、郭が明瞭。	
第111図 PL.28	20	銭貨 寛永通寶	3区3面 完形	縦 横 2.370 2.379	厚 重 0.122 2.3		古寛永。面の彫が深く、字、輪、郭が明瞭。背はやや彫が浅いが、輪、郭は明瞭。面より背の郭が太い。	
第111図 PL.28	21	銭貨 寛永通寶	3区3面 完形	縦 横 2.412 2.407	厚 重 0.127 2.4		古寛永。面、背ともに彫が深く、字、輪、郭ともに明瞭。	

## 第6節 第4面の調査

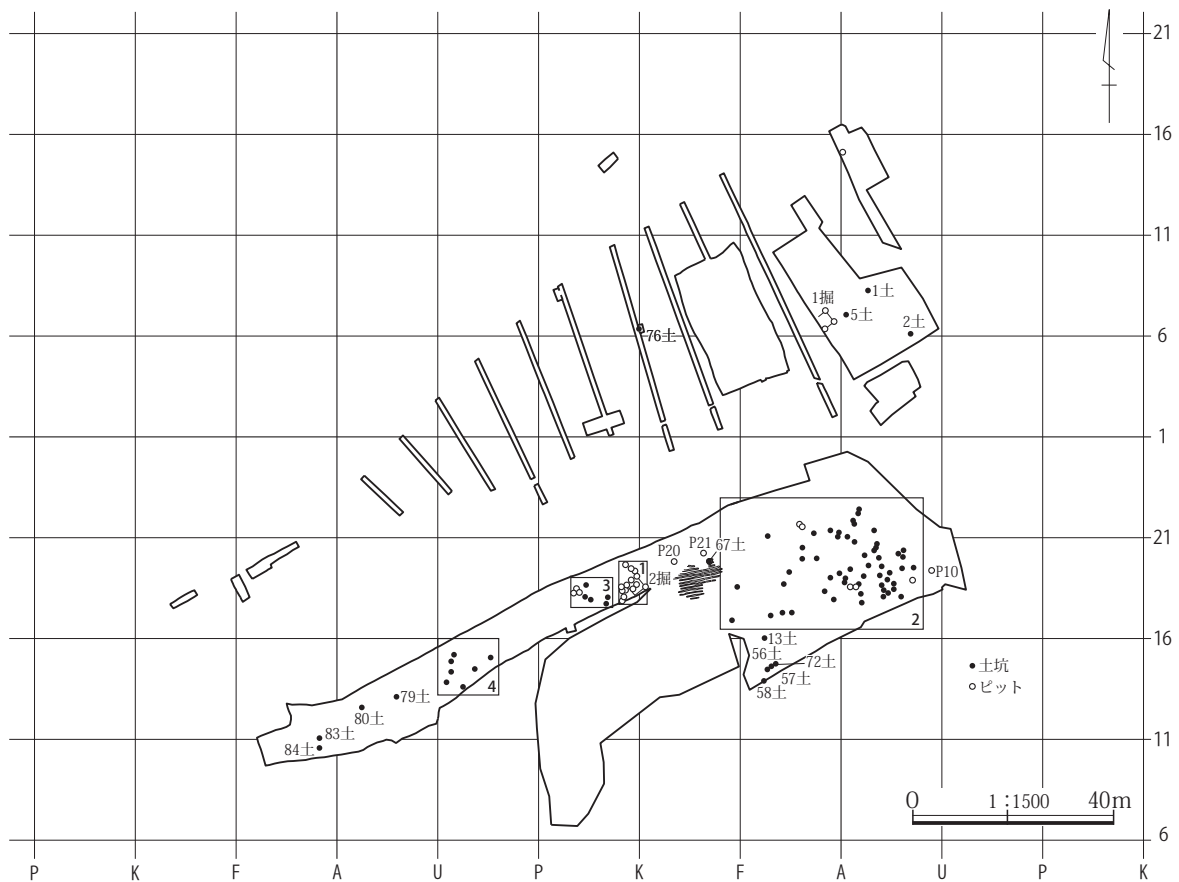
### 第1項 第4面の概要

本節では平成27年度調査においては、第2面、第3面として調査され、平成29年度調査においては第2面として調査された、天明泥流下面以下で確認された遺構、遺物のうち、縄文時代、弥生時代に属するものを扱う。

遺構の検出にあたっては、縄文・弥生時代遺物を包含する黒褐色土のVI層内と二次堆積ロームのVII層上位面において精査作業を行い、掘立柱建物2棟、ピット状遺構23基、土坑82基などの遺構を調査した。各遺構の帰属時期については、伴出遺物の無い掘立柱建物やピット状遺構の同定が困難であるが、20点の縄文土器片を出土した

9基の土坑は縄文時代前期～後期に、条痕文を施した深鉢や甕の胴部破片を主体に183点を出土した20基の土坑は、縄文時代晩期末葉～弥生時代前期に属すると考えられる。また、併せてVI層の包含層調査を実施し、弥生時代中期の土器片7点や石鏃1点と、縄文時代晩期末葉～弥生時代前期の土器片401点、縄文時代前期～後期の土器片424点や土偶片2点および、僅少なながら石鏃3点・削器1点・剥片34点等の石器類を検出した。その他に人為的な遺構ではないが、VII層上面において13基の風倒木痕や攪乱土痕を検出している。

当遺跡内では各期竪穴建物(住居)の存在は確認されず、上記遺構のみで構成されと考えられるが、居住施設については時期不明ながら掘立柱建物がその機能を有する可能性もある。以下、遺構種別を単位として、その詳細を記述する。



第112図 第4面遺構位置図

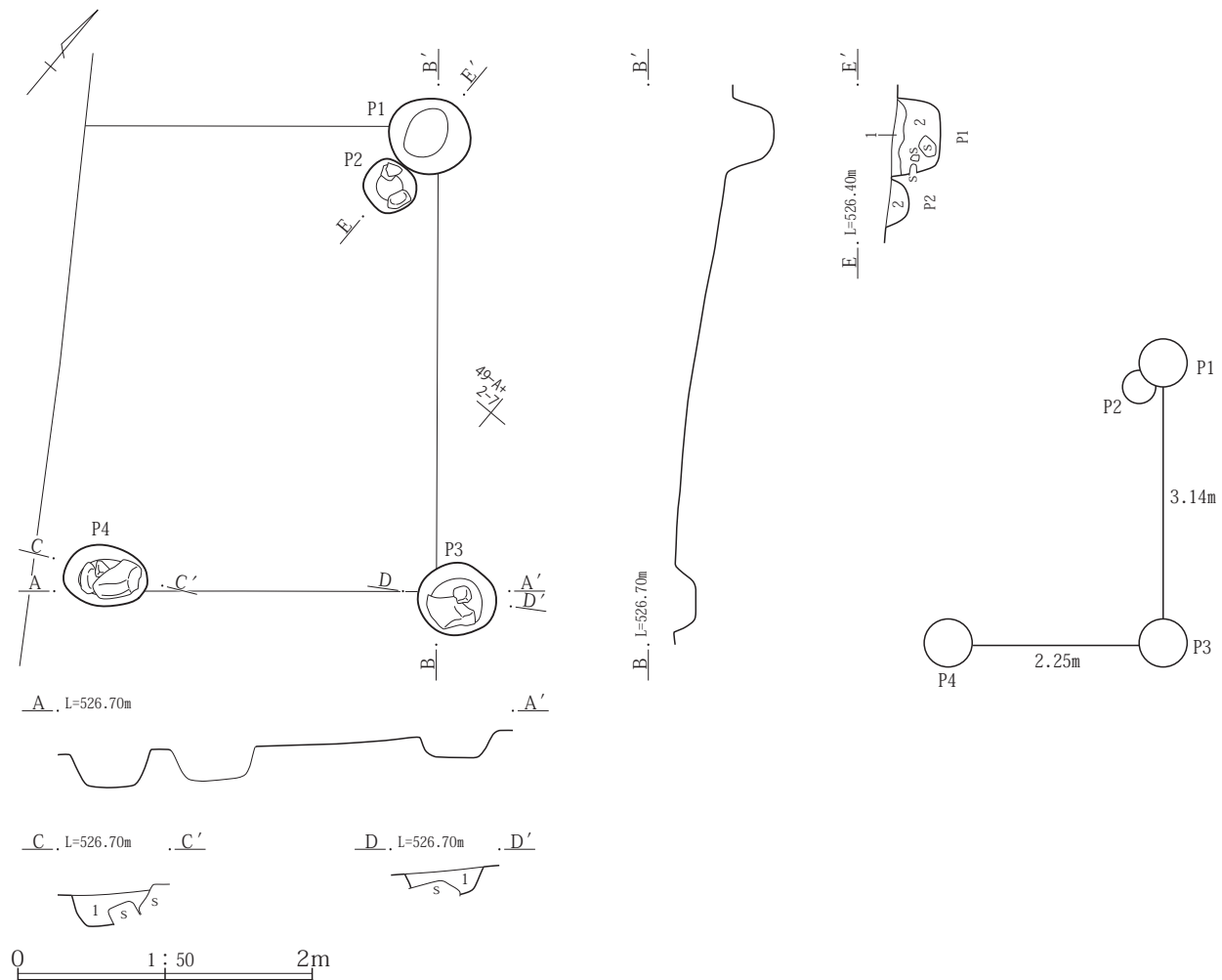
## 第2項 掘立柱建物とピット状遺構

掘立柱建物については、調査段階ではその存在を明確には把握し得なかったが、報告書作成に関わる基礎整理段階で、下記のピット状遺構群の全体平面図上において柱間の間隔やその配列方向などの相関性から掘立柱建物の存在を認定し、第113・114図のように1・2号掘立柱建物の2棟を想定復元したものである。ただし、両者ともに建物の一部が調査区境界との関連で不明瞭となっており、間取りや全体規模に関しては確定できない。

一方、ピット状遺構に関しては、第21表に掲示したように23基が確認されているが、実際には1・2号掘立柱建物の柱穴として復元した9基のピットを含めれば、合計32基となる。従って、間取りの復元には至らなかった

23基についても、元来は他の掘立柱建物を構成するピットであった可能性もある。また、各ピットの深度を見ると、25cm以下の浅いものが17基と全体の74%を占めているが、このような低深度状況は掘立柱建物の柱穴についても同様に認められる。その要因としては、調査確認面が当時の構築面からかなり下位のⅦ層上面であるために、本来の壁面高をかなり削り込んでしまっていることが考えられる。従って、第21表に示した深さについては、こうした点を勘案する必要がある。

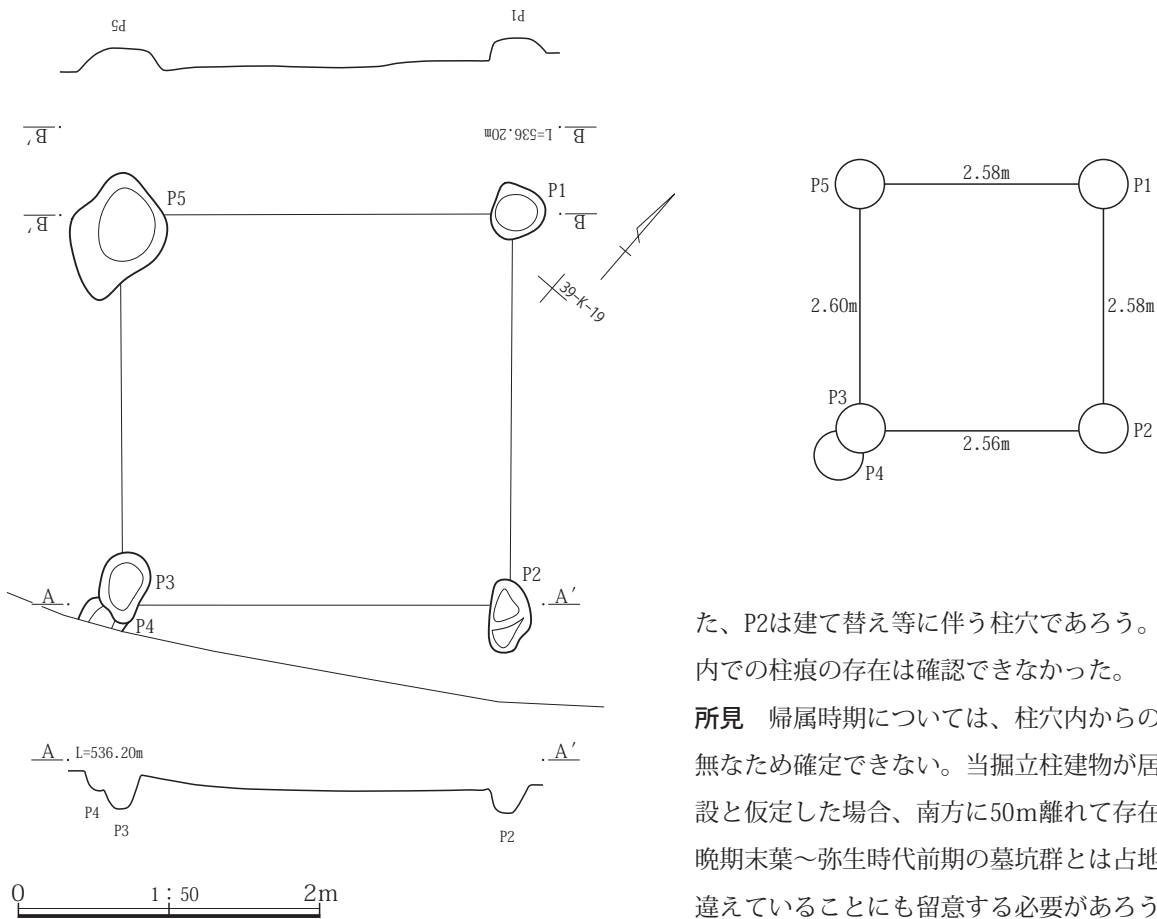
掘立柱建物とピット状遺構の分布状況は、縄文時代晩期末葉～弥生時代前期の土坑(墓)が集中的に存在する38-U～39-G-14～22グリッド地点から北方や西方に約40～50m離れた49-A-6・7グリッドと39-K-18・19グリッドの2地点に分散しており、掘立柱建物と墓坑



### 1号掘立柱建物

- |       |   |      |         |                                       |
|-------|---|------|---------|---------------------------------------|
| P1・P2 | 1 | 暗褐色土 | 10YR3/3 | 白色粒を微量含む。締まりあり。やや粘性あり。                |
|       | 2 | 黒褐色土 | 10YR3/2 | 径5～20mm程度の礫を含む。白色粒を少量含む。締まりあり。やや粘性あり。 |
| P3    | 1 | 暗褐色土 | 10YR3/3 | 白色粒及び径3～20mm程度の礫を少量含む。締まりあり。やや粘質。     |
| P4    | 1 | 暗褐色土 | 10YR3/3 | 径3～5mm程度の礫を少量含む。締まりあり。やや粘性あり。         |

第113図 1号掘立柱建物



第114図 2号掘立柱建物

群とは互いに占地場所を違えていることが窺える。

**1号掘立柱建物**

**位置** 49-A-6・7グリッド **方位** N-40°-W

**区画内面積** (8.14)m<sup>2</sup> **重複** 無し

**形状** 西半部が調査区境界により不明瞭となっているために確定できないが、2号と同様に梁行1間×桁行1間の正形状を呈する側柱建物の可能性がある。この場合、斜面地の等高線にほぼ並行するように、長軸あるいは短軸が配置されると考えられる。上記の方位は、P1とP3を結んだ軸線の方位である。

**規模** 南北軸に相当するP1とP3の芯々間を結んだ距離は、3.14mを測る。また、これと直交する東西軸のP3～P4の距離は2.25mであるが、共に2.6m前後の柱間を基本とする2号とは大きな差異がある。

**柱穴** 各柱穴の規模(直径×深さ)はP1:55cm×34cm、P2:36cm×16cm、P3:52cm×18cm、P4:55cm×24cmを測る。P3・P4内の中位に長径40cmの垂角礫各1点が出土しており、柱の沈下を防止する根太石の可能性もある。ま

た、P2は建て替え等に伴う柱穴であろう。なお、各柱穴内での柱痕の存在は確認できなかった。

**所見** 帰属時期については、柱穴内からの出土遺物が皆無なため確定できない。当掘立柱建物が居住等に係る施設と仮定した場合、南方に50m離れて存在する縄文時代晩期末葉～弥生時代前期の墓坑群とは占地場所を明確に違えていることにも留意する必要がある。この点を重視すれば、ともに同一時期の所産とみなすこともできよう。

**2号掘立柱建物**

**位置** 39-K-18・19グリッド **方位** N-49°-E

**区画内面積** (13.3)m<sup>2</sup> **重複** 無し

**形状** 斜面地の等高線にやや斜行して、長軸を北東-南西方向にもつ梁行1間×桁行1間の正形状を呈する側柱建物として復元した。

**規模** 長軸方向の桁行では東辺2.58m・西辺2.60m、短軸方向の梁行では北辺2.58m・南辺2.56mを測る。

**柱穴** 長軸・短軸ともに2本の4本側柱構造であり、各柱穴の規模(直径×深さ) P1:37cm×14cm、P2:48cm×19cm、P3:46cm×22cm、P4:31cm×21cm、P5:85cm×19cmを測る。他のピットに比べてP2やP5の長径が大振りとなっているが、建て替えに伴う抜柱等により拡張された可能性が高い。同様に、P4もP3の建て替えに関わる柱穴であろう。なお、各柱穴内での柱痕の存在は確認できなかった。

**所見** 帰属時期については、柱穴内からの出土遺物が皆無なため確定できない。ただし、1号と同様に縄文時代

第21表 第4面 掘立柱建物

番号	グリッド	長軸長 (cm)	短軸長 (cm)	方位	挿図	PL.	
1	49-A-6・7	3.12	2.48	N-40°-W	113		
ピット	グリッド	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	挿図	PL.	発掘時名称
1	49-A-7	55	52	34	113	29	1区5号ピット
2	49-A-7	36	34	16	113	29	1区4号ピット
3	49-A-6	52	49	18	113	29	1区2号ピット
4	49-A-6	55	41	24	113	29	1区3号ピット

番号	グリッド	長軸長 (cm)	短軸長 (cm)	方位	挿図	PL.	
2	39-J・K-18・19	2.64	2.58	N-49°-W	114		
ピット	グリッド	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	挿図	PL.	発掘時名称
1	39-K-19	37	37	14	114		3区18号ピット
2	39-J-18	48	28	19	114		3区19号ピット
3	39-K-18	46	32	22	114		3区11号ピット
4	39-K-18	31	18+	21	114		3区10号ピット
5	39-K-18	85	64	19	114		3区9号ピット

晩期の墓坑群とは西方に50m離れて立地しており、当該期に比定される可能性もある。

ピット

前述したように、各ピットは49-A-6・7グリッドと39-K-18・19グリッドの2地点を中心に23基が存在し、構造物としての復元は困難であるが、同地点に併存する1・2号掘立柱建物とも密接な関係性を有すると想定される。

第21表に示した各ピットの形状・規模に関しては、その確認・調査面が必ずしも当時の掘削・構築面に限定されないことから、基本的に「参考値」である点に留意する必要がある。先ず形状については、円形を基調とする

ものが6・7・9・10・15・18・19・31号の8基、楕円形状が1・8・11・13・16・23・25・27・28号の9基、不整形円形状が12・14・17・24・26・32号の6基である。また、規模の点では直径が①30cm未満：3基、②30～39cm：3基、③40～49cm：9基、④50～59cm：4基、⑤60～70cm：4基であり、③グループが全体の4割弱を占める。形状と規模との有意な関係性はさほど明確ではないが、直径50cm以上は楕円形状が6割強を占めている。また、⑤グループには円形状の31号のように長径が70cmを超えるものも存在し、ピットではなく土坑に分類される可能性もある。

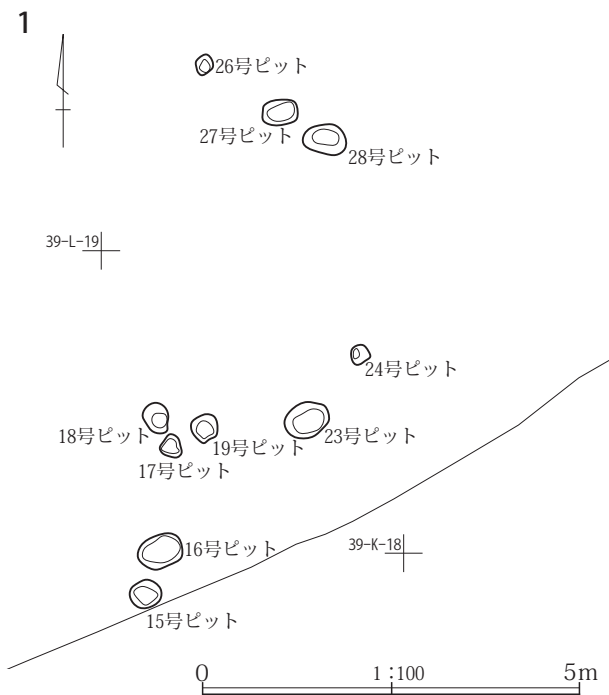
埋没土の状況は、多少に関わらずローム相当の黄褐色土や暗褐色土のブロックを含むが、確認し得る残存深度が浅いため人為的な埋填の有無を見分けるのは難しく、同様に柱痕等の痕跡が確認されたピットも皆無である。

帰属時期については、土器等の伴出遺物は皆無であることから、明確にすることは困難である。ただし、掘立柱建物で述べたように、晩期末葉～弥生時代前期の墓坑群との関連性が想定できるとすれば、当該期に比定される可能性もある。

第3項 土坑

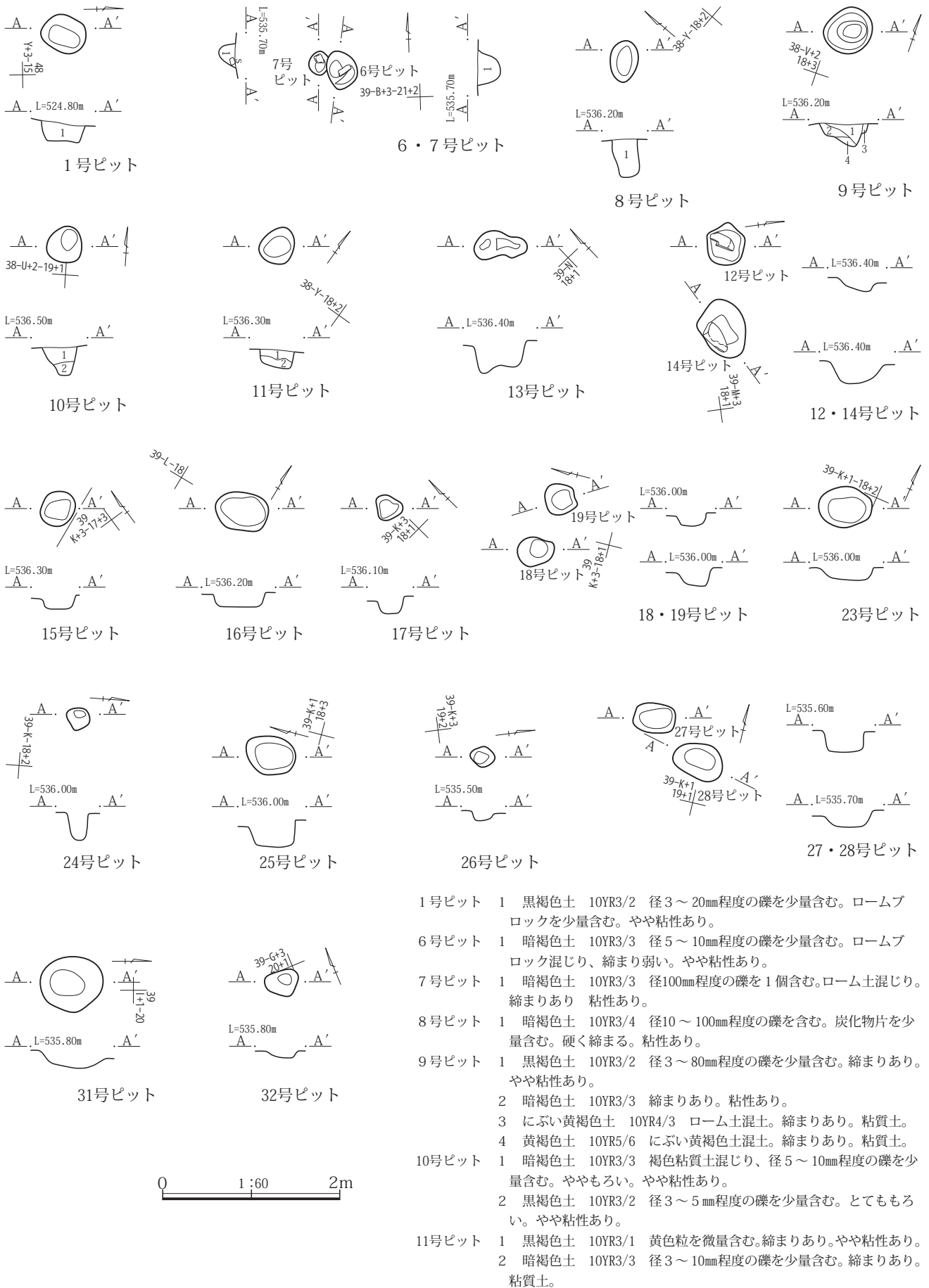
第23・24表に掲示したように82基を検出したが、その分布状況は標高535～539mの38-U～39-G-14～22グリッド(座標値 X=61352～61368、Y=-100785～100825)の範囲に、全体の7割に相当する60基が集中している。

帰属時期については、第34表に示したように総計220



第115図 第4面 部分図1 ピット

第2章 調査された遺構と遺物



第116図 第4面 ピット

第22表 第4面 ピット

番号	グリッド	平面形	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	備考	挿図	PL.	発掘時名称
1	48-Y-15	長円形	48	40	24		116	29	1区1号ピット
6	39-B・C-21	偏円形	43	33	26	7ピットを切る	116	29	2区6号ピット
7	39-C-21	不整形円形	27	19+	21	6ピットに切られる	116	29	2区7号ピット
8	38-Y-18	長円形	97	31	42	34・35土坑を切る	116	30	2区8号ピット
9	38-V-18	不整形円形	55	52	24		116	30	2区9号ピット
10	38-U-19	不整形円形	41	39	34		116	30	2区10号ピット
11	38-Y-18	円形	43	37	20		116	30	2区11号ピット
12	39-N-18	五角形	48	43	15		116		3区1号ピット
13	39-N-18	双円状	60	31	35		116		3区2号ピット
14	39-M・N-18	長円形	68	52	23		116		3区3号ピット
15	39-K-17	円形	42	37	13		116		3区4号ピット
16	39-K-17・18	長円形	59	42	15		116		3区5号ピット
17	39-K-18	不整形	31	27	24		116		3区6号ピット
18	39-K-18	偏円形	41	32	21		116		3区7号ピット
19	39-K-18	不整形円形	38	35	14		116		3区8号ピット
23	39-K-18	長円形	60	46	13		116		3区12号ピット
24	39-K-18	不整形円形	28	26	31		116		3区13号ピット
25	39-K-18	長円形	58	45	26		116		3区14号ピット
26	39-K-19	不整形円形	28	24	11		116		3区15号ピット
27	39-K-19	長円形	47	35	23		116		3区16号ピット
28	39-K-19	長円形	57	40	17		116		3区17号ピット
31	39-I-19	円形	70	63	20		116		3区20号ピット
32	39-G-20	不整形	39	30	17		116		3区21号ピット

点を数える土器片等の伴出遺物により、ある程度判定可能なものが29基にとどまるが、それらとの重複関係によりある程度時期判定可能な土坑3基を含めれば、合計32基を数える。その内訳は縄文時代前期2基、中期5基、後期2基を数えるが、晩期末葉～弥生時代前期が23基と最多数を占めている。

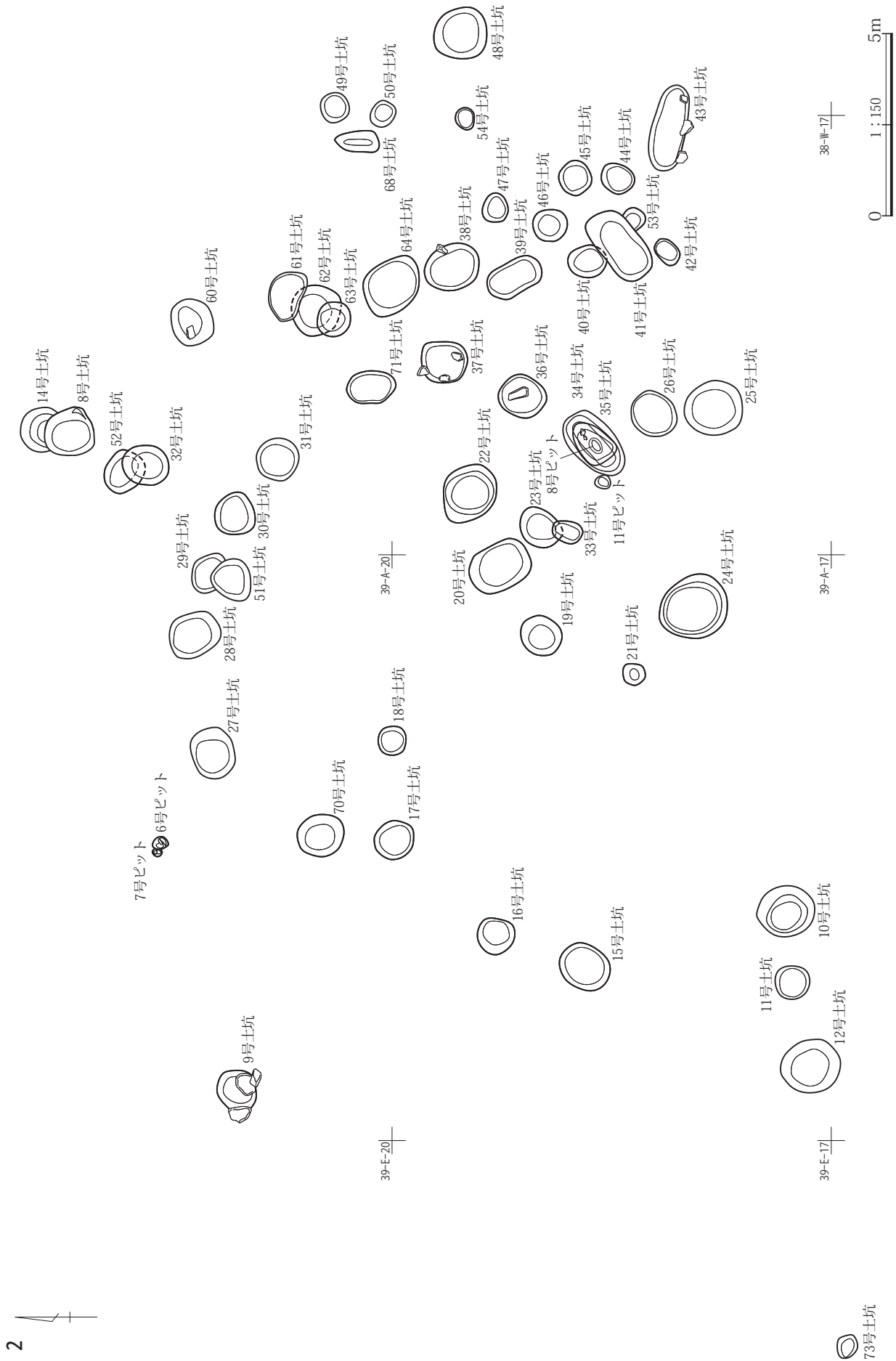
形態としては、掘り込み確認面での平面形状が円形のもの62基と全体の76%を占め、次いで楕円形を基調とするものが15基(18%)、隅丸方形状2基(2%)と不整形形状3基(4%)となる。円形状土坑の中で、いわゆる袋状の形態を持つものは皆無であるが、これについてはその調査確認面がローム相当層のⅦ層に近接したⅥ層下位であるために、当時の本来の壁面高をかなり削り込んでしまっていることが影響を及ぼしている可能性も考慮する必要がある。また、Ⅶ層が火山灰を主体とした土層ではなく、多数の大小亜角礫を含む二次堆積ローム層であることから、当時においては高深度の掘削が困難であり、実態として低深度の土坑とならざるを得なかった点も加味すべきと思われる。ちなみに、壁高が50cm未満のものは88%の71基を数えるが、例外的に壁高が80cmを超えるものは、攪乱痕の可能性が高い84号を除けば14・35・78号の3基にとどまり、それらはいずれもⅦ層内の亜角礫混入が希薄な地点に構築されている。

規模に関しては、円形状の場合、直径が①50～74cm以下：14基、②75～99cm：14基、③100～124cm：15

基、④125～149cm：12基、⑤150～199cm：7基であり、③グループが最多となる。仮に直径100cm未満の①・②グループを小形、同150cm未満の③・④グループを中形、同150cm以上の⑤グループを大形に分類すれば、小形：28基(45%)、中形：27基(44%)、大形：7基(11%)であり、小・中形がほぼ拮抗して円形土坑全体の89%を占める。楕円形状では、長軸が100cm未満は皆無であり、①100～149cm：5基、②150～199cm：7基、③200cm以上：3基であり、200cm未満の①・②グループを主体とする傾向が明瞭である。規模の面で見れば、円形土坑よりもやや大形であると言えよう。また楕円形に近似するが、方形状の平面形を企図したと想定される隅丸長・正方形状のものは、長軸が①100～149cm：1基、②250～299cm：1基である。方形状土坑の場合、時期も不明で全体的な傾向を云々できるほどの数量ではないが、分布域が冒頭の密集地点から外れる土坑もある点は、注意を要する。また規模の点では、長・短軸比がほぼ1.2～1.5：1の範囲に収まっている。

なお、各土坑の掘削深度については、10cm以下～100cm弱のものまで多様であるが、前述したように当時の構築・掘削面を把握できないものが大半であり、第23・24表に掲示した深度についてもその実態を直接反映していない点に留意されたい。

各土坑の機能・用途を考定する上で重要な要件となる埋没土の状況や遺物出土状況については、時期比定が可



第117図 第4面 部分図2 土坑1

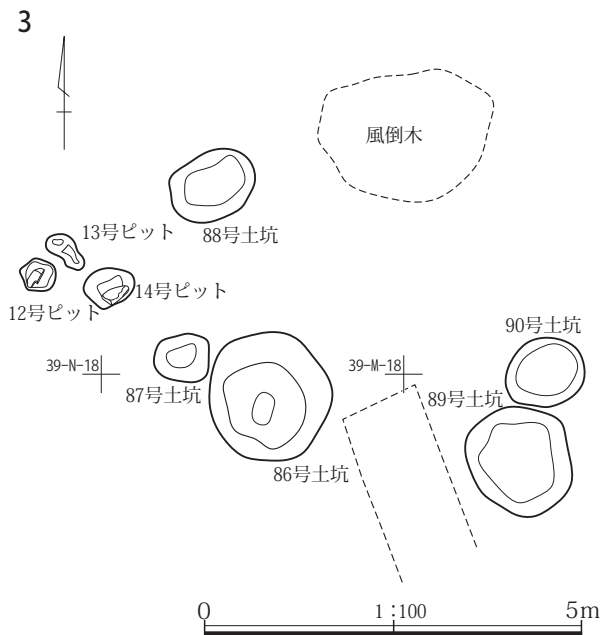


能な土坑を中心として以下の記述の中で扱うが、伴出土器等の遺物が皆無の土坑中で、平面形態が楕円形・長方形のもの、土器の大形破片や大・中形自然礫を伴う土坑を除けば、貯蔵穴としての用途が想定される。

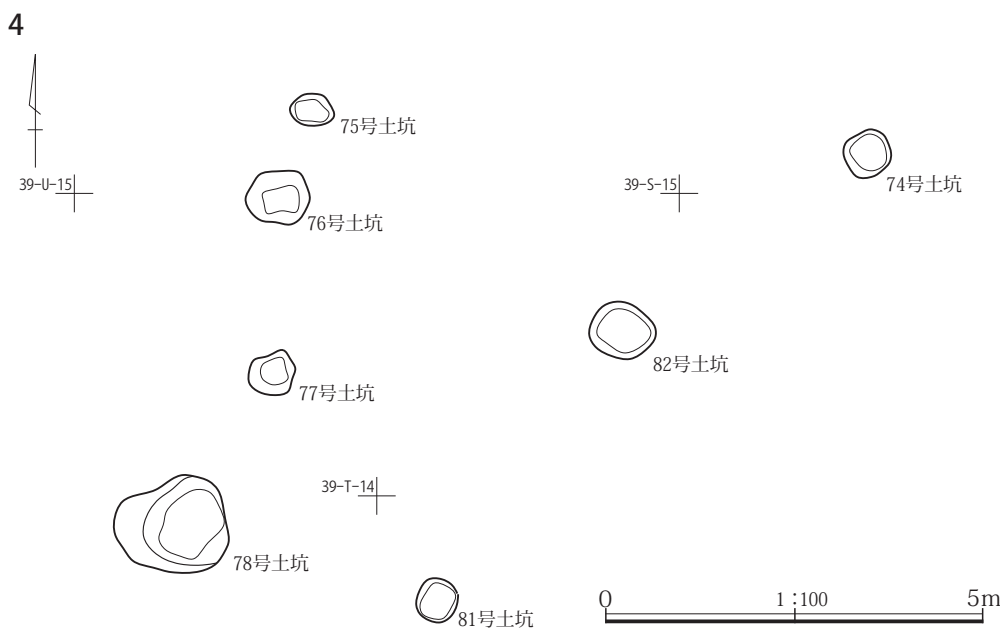
以下、煩雑さを回避するために、伴出土器の細別時期を単位にして記述するが、規模・形状や重複関係等の詳細については第23・24表を参照されたい。

**A. 縄文時代前期**

**諸磯a式期** 不整形の1号1基が存在するのみである。底面は複数の凹凸により平坦ではなく、不整形な平



第118図 第4面 部分図3 土坑2



第119図 第4面 部分図4 土坑3

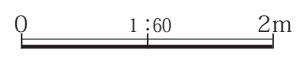
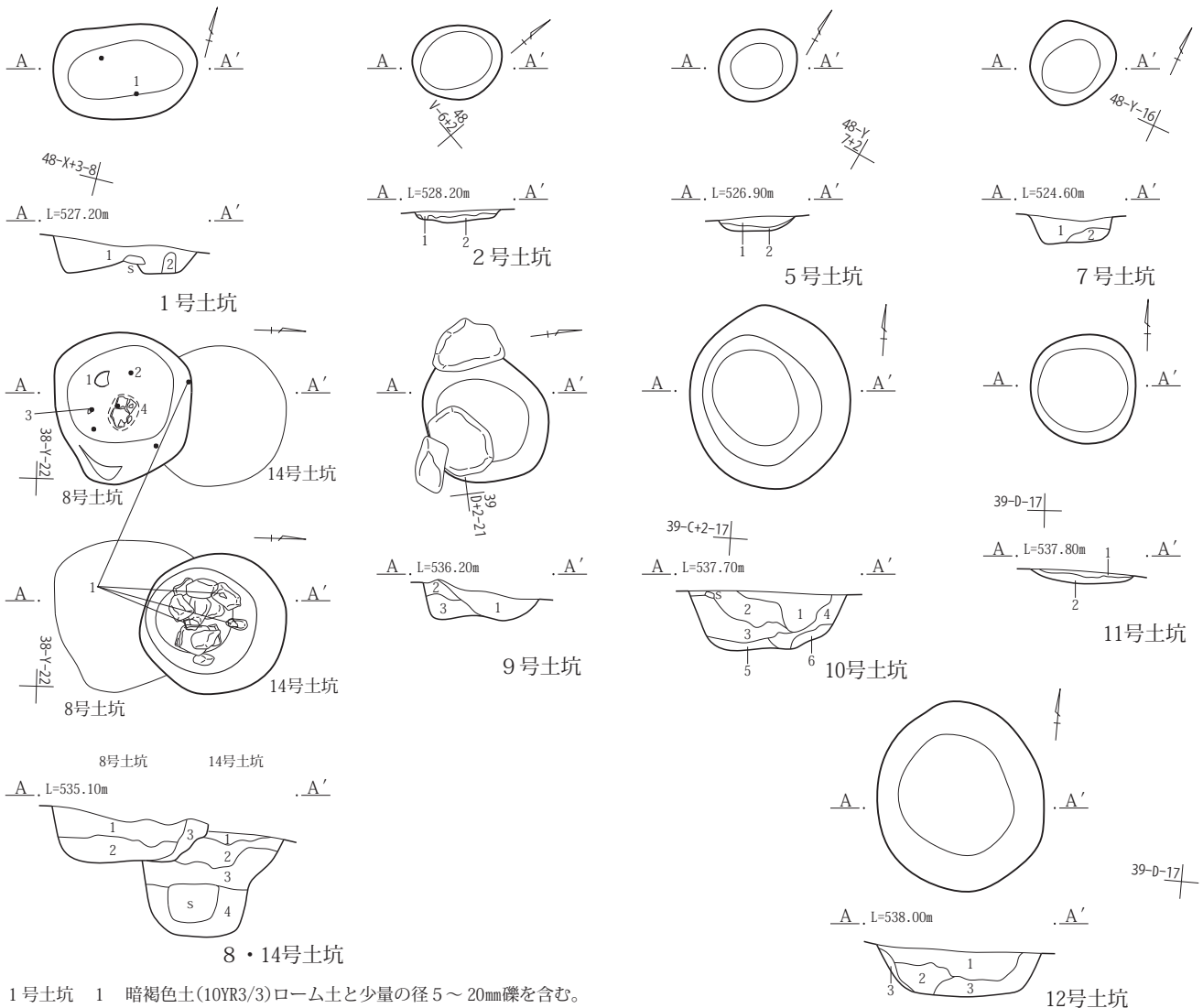
面形状も考慮すれば、倒木痕等の土壌攪乱痕の可能性が高い。埋没土中から諸磯a式土器1片(第127図1坑1)が出土しているが、当土坑の構築時期を反映しているか否かは不明である。

**十三菩提式期** 円形土坑の81号1基が存在するのみである。直径56cm×深さ15cmの小形土坑だが、小礫混じりの黒褐色土の単一層で埋没している。出土遺物には埋没土中からの十三菩提式土器片3点と黒曜石剥片1点があり、その内の土器片2点(第129図81坑1・2)を資料化した。当該土器を重視すれば十三菩提式期に比定し得るが、いずれも小破片であり確定的ではない。なお、黒曜石剥片については蛍光X線分析による産地同定を行ったが、星ヶ台産という結果を得ている。詳細については、148頁以下の「黒曜石製石器の原産地同定」を参照されたい。

**B. 縄文時代中期**

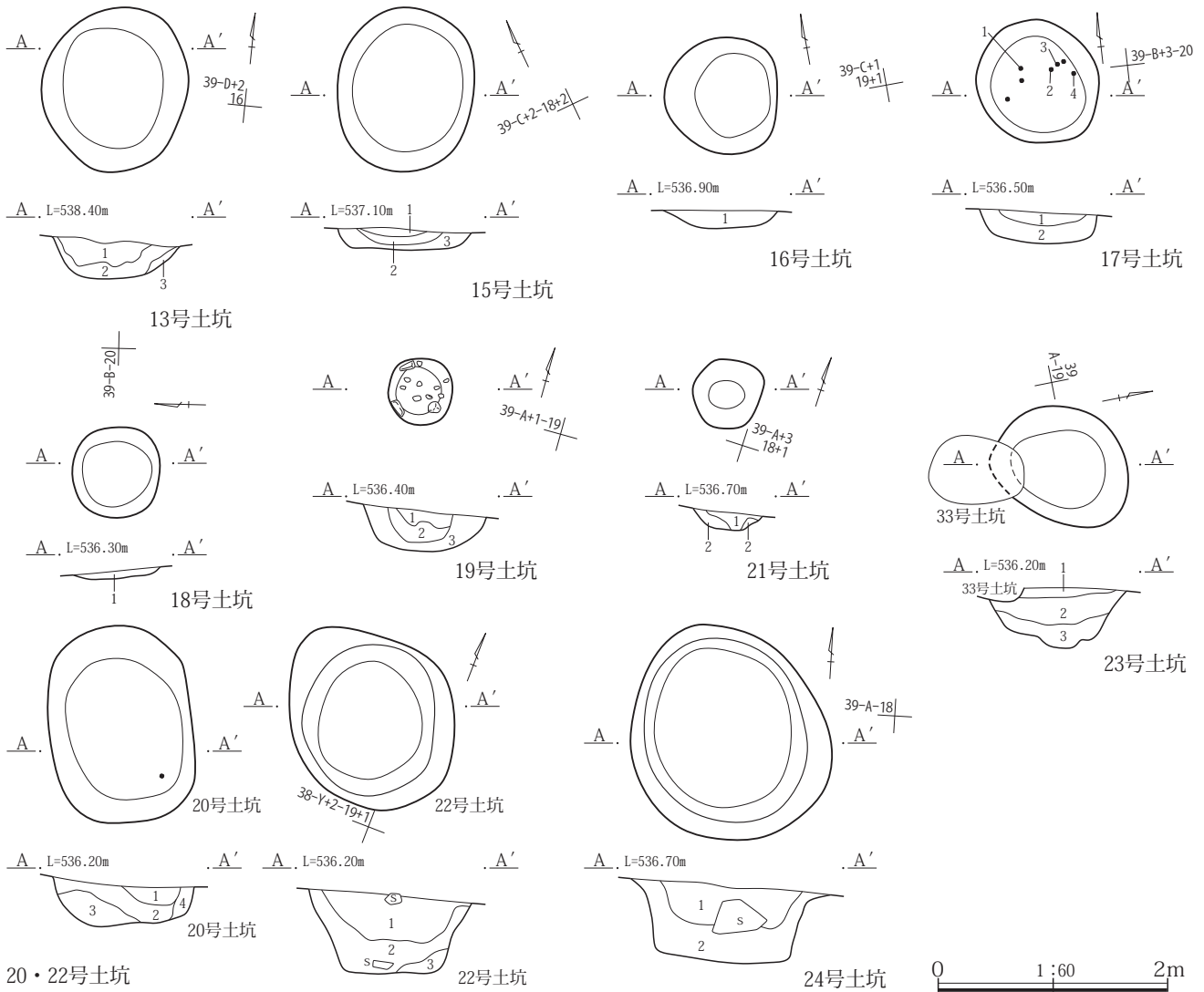
**五領ヶ台式期** 円形状の74号と楕円形状の78号の2基が存在するのみである。74号は直径61cm×深さ21cmの小形土坑であり、底面にはⅦ層内の大形垂角礫が露出している。出土遺物は、底面から9cm浮遊した五領ヶ台式土器片1点(第129図74坑1)のみであるが、長径10～30cmの垂角礫5点が底面にほぼ密着して出土しており、注意を要する。78号は上縁部の西側が突出してやや不整形な楕円形状を呈するが、底面形状を重視すれば直径130cm前後の正円に近い形状を持ち、深さ98cmの規模で他に比

第2章 調査された遺構と遺物



- 1号土坑 1 暗褐色土(10YR3/3)ローム土と少量の径5～20mm礫を含む。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3)ロームブロック15%と径3～5mmの礫を含む。締まりあり。粘質。
- 2号土坑 1 灰黄褐色土(10YR4/2)白色軽石粒を微量含む。締まり・粘性あり。
- 2 黒褐色土(10YR3/2)黄色粒を微量含む。1層より締まり弱く粘性あり。
- 5号土坑 1 にぶい黄褐色土(10YR4/3)径3～8mmの礫を少量含む。硬く締まる。やや粘性あり。
- 7号土坑 1 黒褐色土(10YR3/2)径5～10mmの礫を少量含む。やや締まり弱くやや粘性あり。
- 2 褐色土(10YR4/4)ローム土を含む。締まり弱い。
- 8号土坑 1 暗褐色土(10YR3/3)ロームブロック10%と少量の白色軽石粒・径20～30mm礫や微量の炭化物片を含む。硬く締まる。粘質。
- 2 黒褐色土(10YR3/2)ロームブロック20%と数個の径5～10cm礫を含む。1層より締まり弱くやや粘性あり。
- 3 暗褐色土(10YR3/4)ロームブロック15%と微量の白色軽石粒を含む。締まりあり、やや粘質。
- 9号土坑 1 黒褐色土(10YR3/2)少量の径3～10mm礫と微量の白色軽石粒を含む。締まりあり、やや粘性あり。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)白色軽石粒を微量含む。締まりあり、やや粘質。
- 3 黒褐色土(10YR3/2)ロームブロック10%と微量の径3～5mm礫を含む。締まりあり、やや粘質。
- 10号土坑 1 暗褐色土(10YR3/4)ローム土10%と径5～10mmの礫を含む。締まり・粘性あり。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)ローム土5%と少量の径5～50mm礫を含む。締まり・粘性あり。
- 3 暗褐色土(10YR3/4)ロームブロック10%と径5～40mmの礫を含む。やや締まり弱く粘性あり。
- 4 にぶい黄褐色土(10YR4/3)ロームブロック15%含む。締まりあり、やや粘質。
- 5 黒褐色土(10YR3/2)ローム土10%含む。締まり弱く粘性あり。
- 6 にぶい黄褐色土(10YR4/3)ローム土20%を含む。締まり・粘性あり。
- 11号土坑 1 黒褐色土(10YR3/2)径3～5mmの礫を少量含む。締まりあり。粘質。
- 2 黒褐色土(10YR3/2)ロームブロック5%や少量の径3～10mm礫を含む。締まり・粘性あり。
- 12号土坑 1 黒褐色土(10YR3/2)ローム土5%と少量の径10～30mm礫や黄色粒を含む。締まりあり、やや粘質。
- 2 暗褐色土(10YR3/4)ロームブロック20%と少量の径10～30mm礫を含む。硬く締まる。やや粘質。
- 3 暗褐色土(10YR3/3)ロームブロック30%と径10～40mmの礫を含む。締まりあり、やや粘質。
- 14号土坑 1 黒褐色土 10YR3/2 ローム土5%、径3～20mm礫を少量含む。硬く締まる。
- 2 暗褐色土 10YR3/4 ロームブロック30%、径2～15mm礫を多量に含む。硬く締まる。
- 3 黒褐色土 10YR3/2 ローム土10%と径3mm礫を少量含む。硬く締まる。
- 4 黒褐色土 10YR3/2 ローム土15%と径3mm礫を少量含む。硬く締まる。

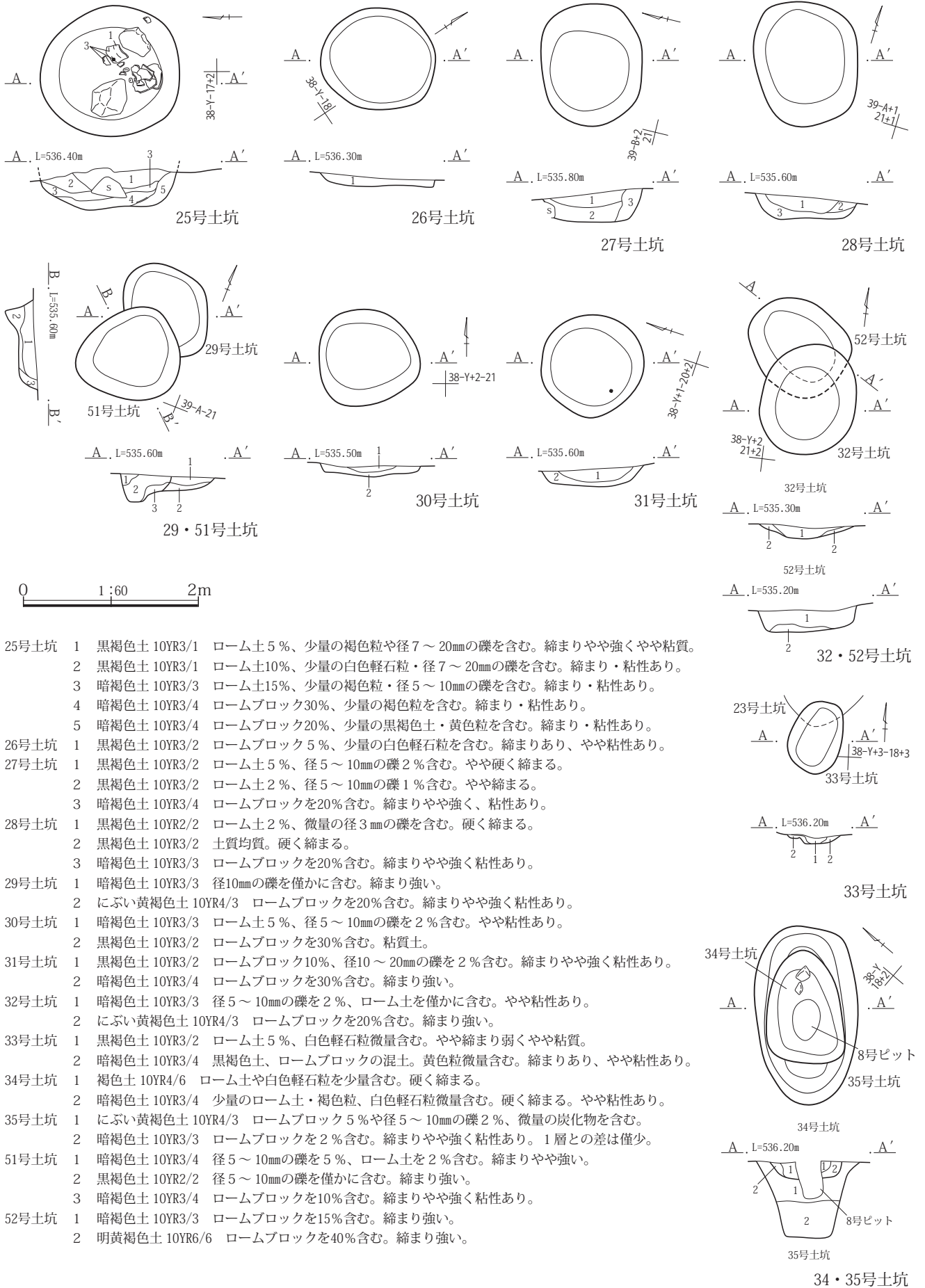
第120図 第4面 土坑1



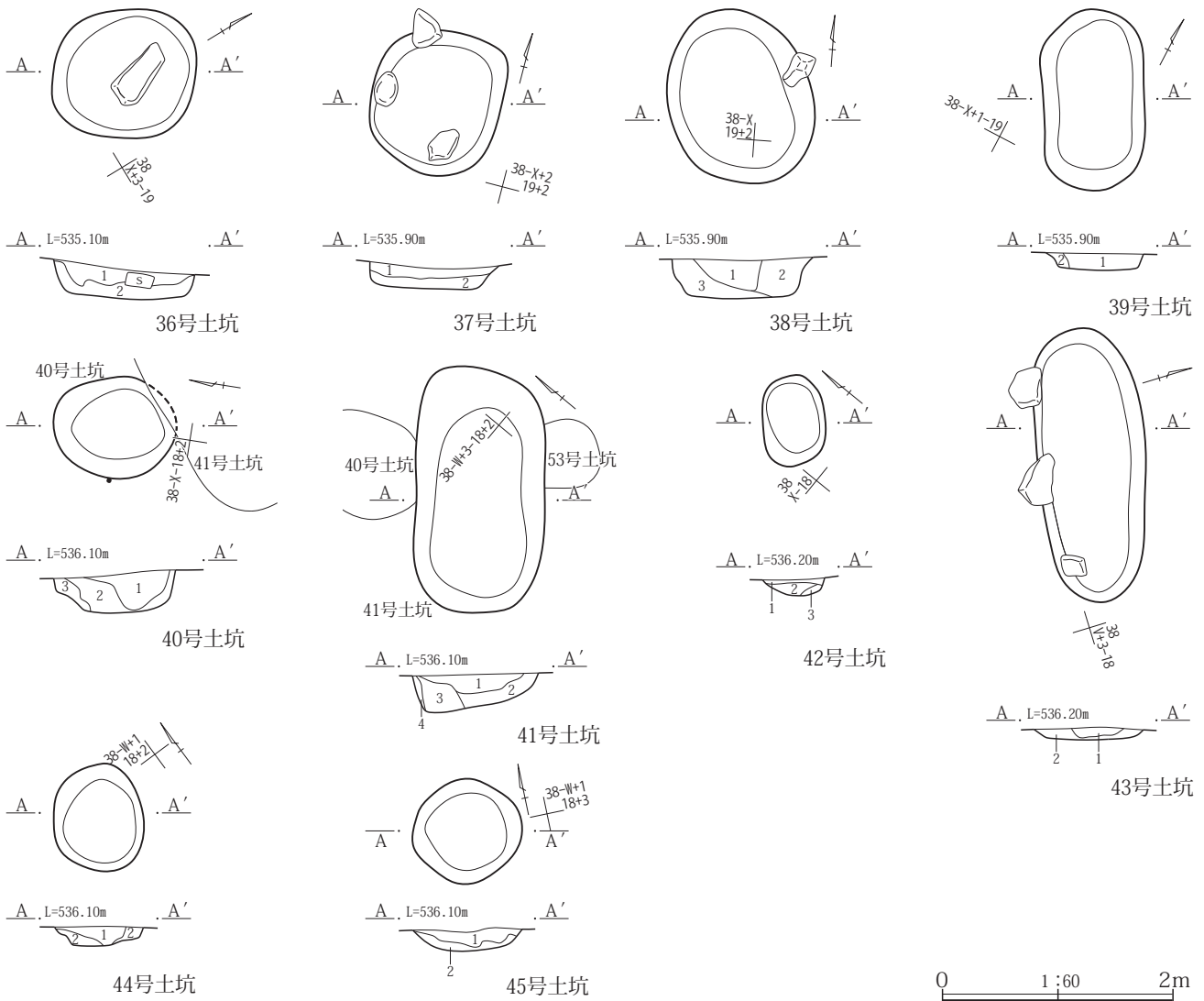
- 13号土坑 1 黒褐色土 10YR3/2 ローム土5%、径10～30mmの礫や黄色粒を少量含む。締まりあり、やや粘質。  
2 暗褐色土 10YR3/3 ロームブロック20%含む。締まりあり、やや粘性あり。  
3 褐色土 10YR4/4 ロームブロック30%、径30mmの礫を含む。締まりあり、やや粘性あり。
- 15号土坑 1 褐色土 10YR4/4 径5mmの小礫を2%含む。締まり弱い。攪乱層か。  
2 黒褐色土 10YR3/2 ローム土5%、径1～3mmの黄色粒僅かに含む。やや粘性あり。  
3 暗褐色土 10YR3/3 ローム土10%含む。締まりやや強い。
- 16号土坑 1 暗褐色土 10YR3/3 ローム土5%、径5～10mmの礫を2%含む。やや粘性あり。
- 17号土坑 1 黒褐色土 10YR3/2 ローム土5%含む粘質土。  
2 暗褐色土 10YR3/3 ローム土15%含む。締まりやや強く粘性あり。
- 18号土坑 1 暗褐色土 10YR3/3 ローム土5%、径5～10mmの礫2%含む。やや粘性あり。
- 19号土坑 1 暗褐色土 10YR3/4 径5mm前後の礫少量含む。締まりあり、やや粘性あり。  
2 暗褐色土 10YR3/3 ローム土5%含む。締まり弱くやや粘性あり。  
3 暗褐色土 10YR3/3 ローム土5%、少量の礫・黄色粒を含む。締まり・粘性あり。
- 20号土坑 1 黒褐色土 10YR3/2 ローム土5%含む。硬く締まる。  
2 暗褐色土 10YR3/3 ロームブロック10%含む。締まり強い。  
3 黒褐色土 10YR2/2 ローム土5%含む。締まりやや強く粘性あり。  
4 にぶい黄褐色土 10YR4/3 土質均質。締まりやや強く粘性あり。
- 21号土坑 1 暗褐色土10YR3/4と黒褐色土10YR3/2の混土。ローム土5%、白色軽石粒微量含む。締まりある粘質土。  
2 褐色土 10YR4/4 ロームブロックを30%含む。締まり・粘性あり。
- 22号土坑 1 暗褐色土 10YR3/3 ロームブロック10%、少量の径5～10mmの礫を含む。締まり・粘性あり。  
2 黒褐色土 10YR3/2 ローム土5%、少量の黄色粒および径5～10mmの礫を含む。締まり・粘性あり。  
3 暗褐色土 10YR3/3 ローム土2%、少量の礫・黄色粒を含む。締まり・粘性あり。
- 23号土坑 1 暗褐色土 10YR3/4 ロームブロックを10%含む。締まり強い。  
2 黒褐色土 10YR3/2 ロームブロック5%、微量の径5～10mmの礫を含む。締まり強い。  
3 暗褐色土 10YR3/3 ロームブロックを10%含む。締まりやや強く粘性あり。
- 24号土坑 1 黒褐色土 10YR2/2 ローム土5%、微量の径10～20mmの礫を含む。締まりやや強く粘性あり。  
2 暗褐色土 10YR3/4 ロームブロックを15%、微量の径10～30mmの礫を含む。締まり強い。

第121図 第4面 土坑2

第2章 調査された遺構と遺物



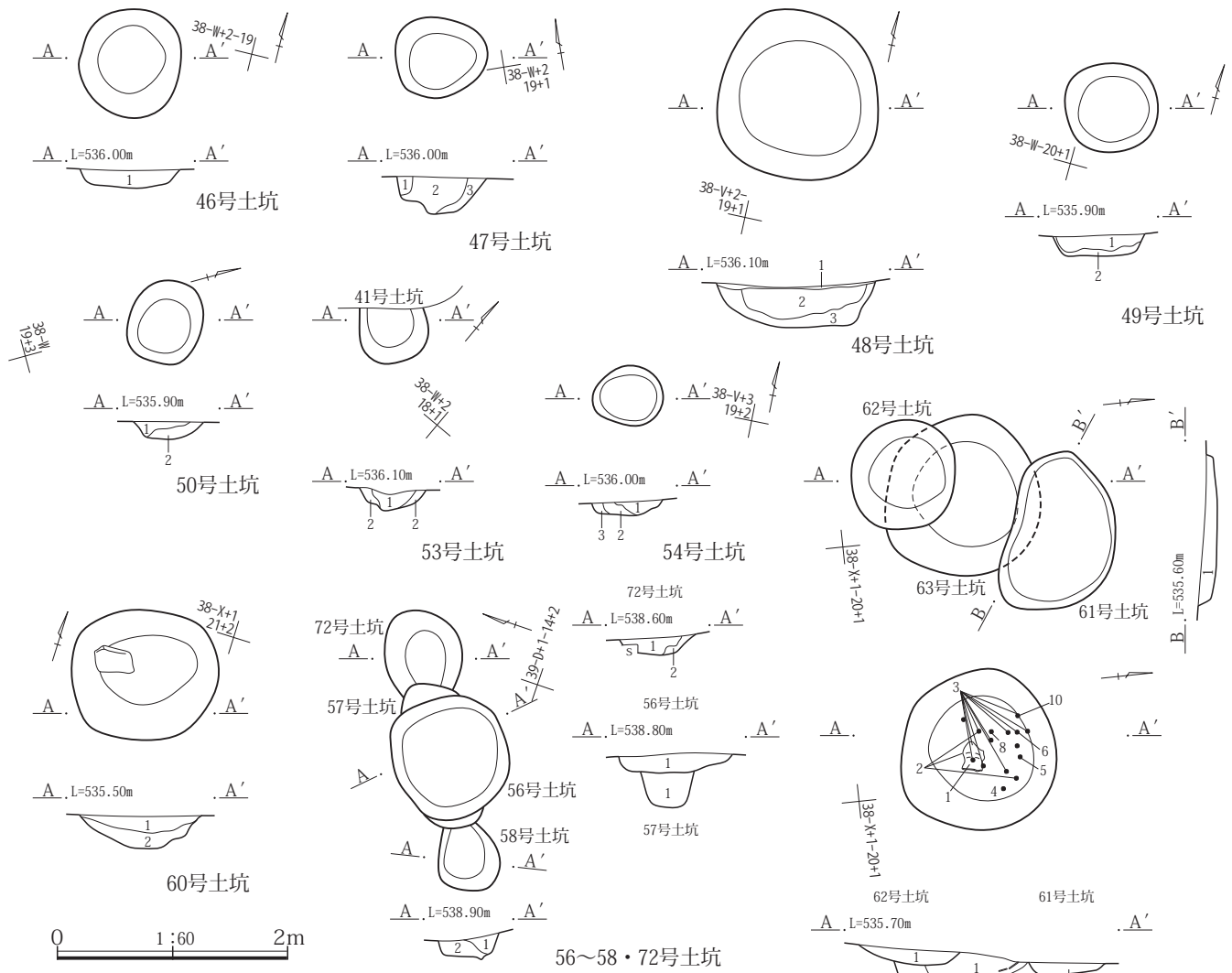
第122図 第4面 土坑3



- |       |   |                 |   |
|-------|---|-----------------|---|
| 36号土坑 | 1 | 黒褐色土 10YR3/2    | ローム土5%、微量の黄色粒・褐色粒を含む。締まり・粘性あり。                    |
|       | 2 | 暗褐色土 10YR3/4    | ロームブロック15%、少量の径5~20mmの礫を含む。締まり・粘性あり。              |
| 37号土坑 | 1 | 黒褐色土 10YR3/2    | ローム土10%、少量の径5~15mmの礫や褐色粒を含む。硬く締まる。やや粘性あり。         |
|       | 2 | 暗褐色土 10YR3/3    | ローム土15%含む。締まりあり。粘質土。                              |
| 38号土坑 | 1 | 黒褐色土 10YR3/2    | ロームブロック10%、少量の白色軽石粒や微量の径5~10mmの礫を含む。硬く締まる。やや粘性あり。 |
|       | 2 | 暗褐色土 10YR3/3    | ロームブロック15%、少量の径3~5mmの礫を含む。締まりあり、やや粘性あり。           |
|       | 3 | 暗褐色土 10YR3/3    | 黄色粒を多く含む。硬く締まる。やや粘性あり。                            |
| 39号土坑 | 1 | 暗褐色土 10YR3/3    | ローム土5%、少量の径5~10mmの礫を含む。硬く締まる。やや粘性あり。              |
|       | 2 | にぶい黄褐色土 10YR4/3 | ロームブロック20%含む。締まりあり、やや粘性あり。                        |
| 40号土坑 | 1 | 暗褐色土 10YR3/3    | ローム土10%、径3~10mmの礫少量含む。締まり・粘性あり。                   |
|       | 2 | 黒褐色土 10YR3/2    | ロームブロック15%、少量の径50~100mmの礫や白色軽石粒を含む。締まり・粘性あり。      |
|       | 3 | 暗褐色土 10YR3/3    | ロームブロック30%、微量の黄色粒を含む。締まり・粘性あり。                    |
| 41号土坑 | 1 | 黒褐色土 10YR3/1    | ロームブロック10%、少量の径5mmの礫や白色軽石粒・黄色粒を含む。硬く締まる。やや粘性あり。   |
|       | 2 | 褐色土 10YR4/4     | 黒褐色土、ロームブロックの混土層。白色軽石粒微量含む。締まり・粘性あり。              |
|       | 3 | 暗褐色土 10YR3/4    | ロームブロック30%、少量の黄色粒・白色軽石粒を含む。締まりあり、やや粘性あり。          |
|       | 4 | にぶい黄褐色土 10YR4/3 | ロームブロック20%、少量の白色軽石粒を含む。やや締まりあり、やや粘性あり。            |
| 42号土坑 | 1 | 黒褐色土 10YR3/1    | ローム土10%、少量の黄色粒を含む。締まりあり、やや粘性あり。                   |
|       | 2 | 黒褐色土 10YR3/1    | ロームブロック20%、褐色粒を含む。締まりあり、やや粘質。                     |
|       | 3 | 黒褐色土 10YR3/1    | 黒褐色土、ロームブロックの混土層。締まり・粘性あり。                        |
| 43号土坑 | 1 | 黒褐色土 10YR3/2    | ローム土10%含む。硬く締まる。やや粘質。                             |
|       | 2 | 暗褐色土 10YR3/4    | ローム土20%含む。硬く締まる。やや粘性あり。                           |
| 44号土坑 | 1 | 暗褐色土 10YR3/3    | ロームブロック15%、少量の黄色粒を含む。締まりあり、やや粘質。                  |
|       | 2 | 暗褐色土 10YR3/3    | ロームブロック30%、白色軽石粒微量含む。締まりあり、やや粘質。                  |
| 45号土坑 | 1 | 暗褐色土 10YR3/3    | ロームブロック10%、少量の黄色粒を含む。締まりあり、やや粘質。                  |
|       | 2 | 暗褐色土 10YR3/3    | ロームブロック30%、白色軽石粒微量含む。締まりあり、やや粘質。                  |

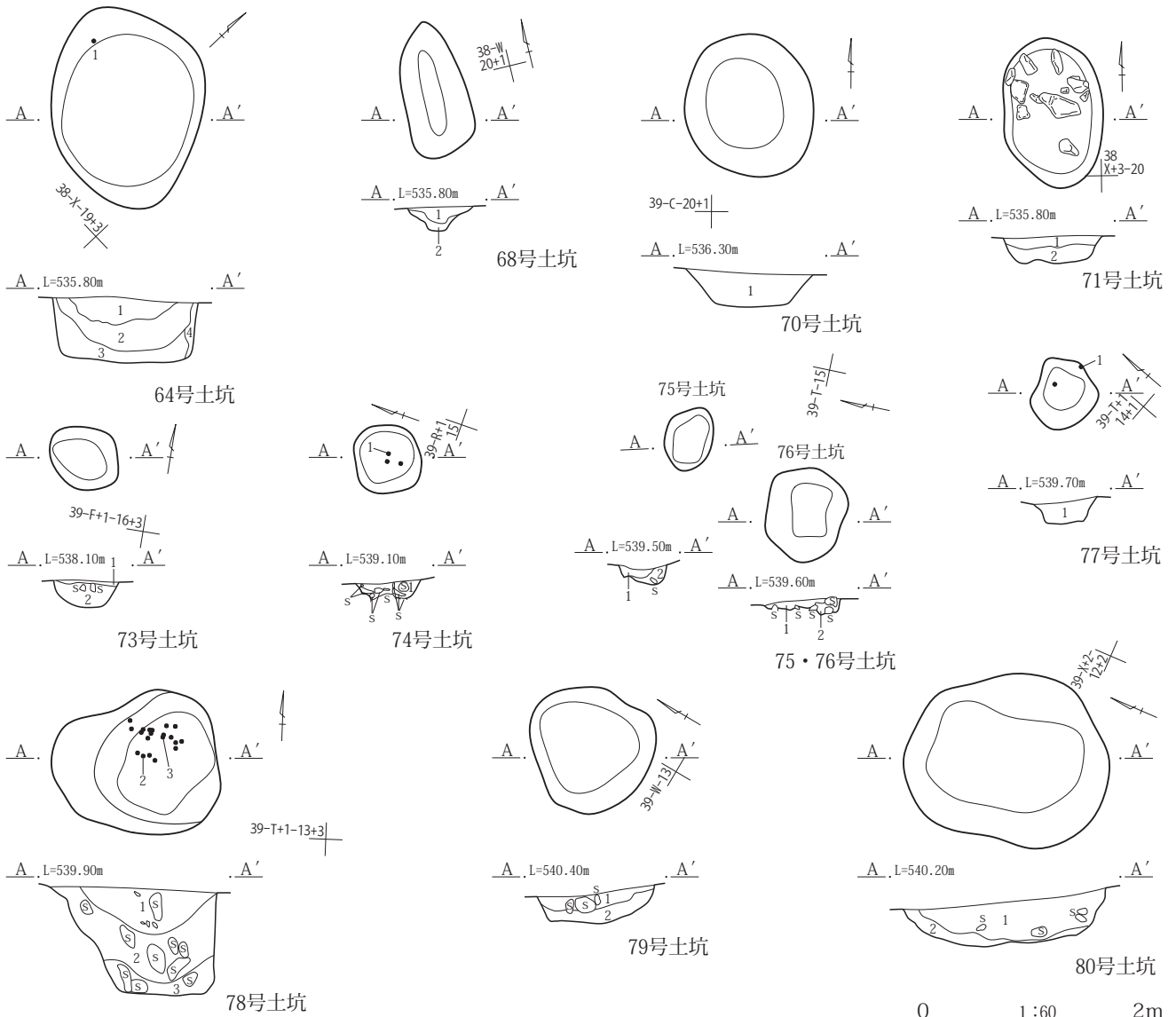
第123図 第4面 土坑4

第2章 調査された遺構と遺物



- |       |   |                 |  |
|-------|---|-----------------|--|
| 46号土坑 | 1 | 暗褐色土 10YR3/3    | 黄色粒を少量含む。縮まりあり、やや粘質。                         |
| 47号土坑 | 1 | 暗褐色土 10YR3/3    | ローム土10%、白色軽石粒微量含む。縮まりあり、やや粘性あり。              |
|       | 2 | 黒褐色土 10YR3/2    | ロームブロック15%、微量の黄色粒を含む。硬く縮まる。粘性あり。             |
|       | 3 | 黒褐色土 10YR3/2    | ロームブロック30%含む。硬く縮まる。やや粘性あり。                   |
| 48号土坑 | 1 | 黒褐色土 10YR3/2    | 黄色粒微量含む。縮まりあり、やや粘性あり。                        |
|       | 2 | 暗褐色土 10YR3/3    | ロームブロック5%、少量の径5~10mmの礫を含む。縮まりあり、やや粘性あり。      |
|       | 3 | 暗褐色土 10YR3/4    | ロームブロック10%、少量の径30~60mmの礫を含む。縮まりあり。粘質土。       |
| 49号土坑 | 1 | 黒褐色土 10YR3/2    | ローム土2%、少量の径5~10mmの礫や白色軽石粒微量含む。縮まりあり、やや粘質。    |
|       | 2 | 黒褐色土 10YR3/2    | ローム土5%含む。縮まり・粘性あり。                           |
| 50号土坑 | 1 | 黒褐色土 10YR3/2    | ロームプ土5%含む。縮まりあり、やや粘性あり。                      |
|       | 2 | 暗褐色土 10YR3/3    | ローム土10%含む。縮まり・粘性あり。                          |
| 53号土坑 | 1 | 黒褐色土 10YR3/2    | 径20~30mmの礫少量含む。著しく縮まり弱くやや粘性あり。               |
|       | 2 | 暗褐色土 10YR3/3    | ローム土5%、微量の黄色粒を含む。縮まり・粘性あり。                   |
| 56号土坑 | 1 | 黒褐色土 10YR3/2    | 褐灰色細砂粒を10%、径10mmの礫を2%含む。縮まりやや強い。             |
| 54号土坑 | 1 | 黒褐色土 10YR3/2    | 黄色粒微量含む。やや縮まり・粘性あり。                          |
|       | 2 | にぶい黄褐色土 10YR5/4 | ロームブロックを主体に黒褐色土20%混入。硬く縮まる。粘質土。              |
|       | 3 | 黒褐色土 10YR3/2    | ローム土5%含む。やや縮まり・粘性あり。                         |
| 57号土坑 | 1 | 黒褐色土 10YR2/2    | 灰ロームブロックを含む。縮まりやや弱い。                         |
| 58号土坑 | 1 | 暗褐色土 10YR3/3    | ローム土を20%含む。縮まりやや強い。                          |
|       | 2 | 黒褐色土 10YR3/2    | ローム土5%含む。縮まりやや強く粘性あり。                        |
| 60号土坑 | 1 | 黒褐色土 10YR3/2    | ロームブロック10%、微量の黄色粒を含む。縮まりあり、やや粘性あり。           |
|       | 2 | 暗褐色土 10YR3/3    | ロームブロック20%含む。縮まりあり、やや粘質。                     |
| 72号土坑 | 1 | 黒褐色土 10YR3/2    | ローム土5%含む。硬く縮まる。                              |
| 61号土坑 | 1 | にぶい黄褐色土 10YR4/3 | 黒褐色土、ロームブロックの混土。縮まりやや強く粘性あり。                 |
|       | 2 | 黒褐色土 10YR2/1    | ロームブロック10%、少量の径3~10mmの礫や褐色粒を含む。縮まりあり、やや粘性あり。 |
| 62号土坑 | 1 | 黒褐色土 10YR2/1    | ローム5%、少量の径10mmの礫や褐色粒を含む。縮まりあり、やや粘性あり。        |
| 63号土坑 | 1 | 黒褐色土 10YR3/2    | ローム土2%・炭化物1%・径10mmの礫を2%含み、遺物多数出土。縮まり強い。      |
|       | 2 | 暗褐色土 10YR3/3    | ロームブロックを10%含む。縮まり強い。                         |

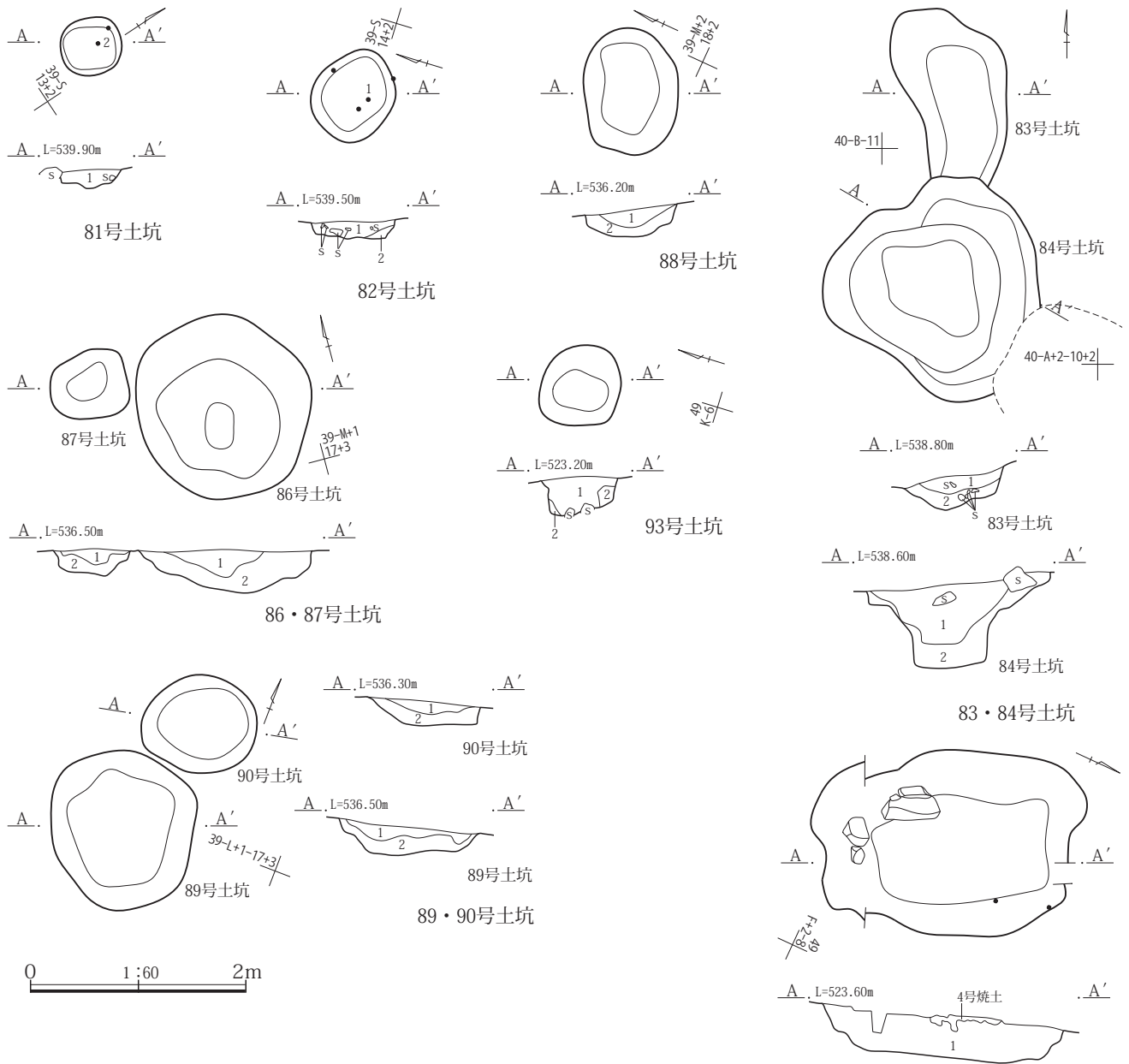
第124図 第4面 土坑5



- 64号土坑 1 黒褐色土 10YR3/2 ローム土10%、微量の炭化物を含む。締まり強く粘性あり。  
 2 暗褐色土 10YR3/3 ローム土20%、径10～30mmの礫2%含む。締まり強い。  
 3 黒褐色土 10YR3/2 ローム土5%含む。硬く締まり強い。  
 4 灰黄褐色土 10YR4/2 ロームブロック30%、微量の炭化物を含む。締まりやや強い。
- 68号土坑 1 黒褐色土 10YR3/2 ローム土10%、少量の径5～10mmの礫や白色軽石粒微量含む。締まりあり、やや粘性あり。  
 2 暗褐色土 10YR3/3 ローム土15%、少量の径5～7mmの礫を含む。締まりあり、やや粘質。
- 70号土坑 1 黒褐色土 10YR2/2 ローム土5%含む。締まりやや強く粘性あり。
- 71号土坑 1 黒褐色土 10YR3/2 ロームブロック20%、少量の径2～5mmの礫を含む。締まりあり、やや粘性あり。  
 2 暗褐色土 10YR3/3 ロームブロック30%、少量の径20～50mmの礫を含む。締り・粘性あり。
- 73号土坑 1 黒褐色土 10YR3/2 ローム土10%、径5～20mmの礫を10%含む。締まりやや強い。  
 2 灰黄褐色土 10YR4/2 ローム土20%、径5～10mmの礫20%含む。締まりやや弱い。
- 74号土坑 1 にぶい黄褐色土 10YR4/3 ロームブロックと褐色土の混土。長径10～20cmの亜角礫を多量に含む。軟質。
- 75号土坑 1 黒褐色土 10YR3/2 ロームブロック20、炭化物をブロック状に含む。  
 2 にぶい黄褐色土 10YR4/3 黒褐色土とロームブロックの混土層。
- 76号土坑 1 黒褐色土 10YR3/2 ロームブロック15、炭化物をブロック状に含む。  
 2 にぶい黄褐色土 10YR4/3 黒褐色土とロームブロックの混土層。
- 77号土坑 1 黒褐色土 10YR3/2 ロームブロックを10%含む。締りあり。
- 78号土坑 1 黒褐色土 10YR3/2 ロームブロック10%、長径10～30cmの亜角礫少数含む。やや軟質。  
 2 暗褐色土 10YR3/3 ロームブロック20%、長径10～30cmの亜角礫多数含む。締まり弱い。  
 3 にぶい黄褐色土 10YR4/3 ロームブロック30%、10～20cmの亜角礫少数含む。締まり弱い。
- 79号土坑 1 にぶい黄褐色土 10YR4/3 ローム土10%、中・小礫や炭化物を含む。軟質。  
 2 黒褐色土 10YR3/2 ローム土20%、小礫を含む。1層より締りあり。
- 80号土坑 1 黒色土 10YR2/1 少量の炭化物と小礫を含む。やや締まりあり。  
 2 にぶい黄褐色土 10YR4/3 ロームブロックと黒褐色土の混土層。小礫を含む。

第125図 第4面 土坑6

第2章 調査された遺構と遺物



- 81号土坑 1 黒褐色土 10YR3/2 ローム土20%、ブロック状の炭化物や長径10～20cmの礫を多量に含む。締まり弱い。
- 82号土坑 1 黒褐色土 10YR3/2 ロームブロック5、長径10～20cmの礫を多量に含む。やや軟質。  
2 にぶい黄褐色土 10YR4/3 ロームブロックと黒褐色土の混土層。
- 83号土坑 1 黒褐色土 10YR3/2 ロームブロック10%、長径10cmの小礫を含む。全体に粗粒で軟質。  
2 にぶい黄褐色土 10YR4/3 ロームブロックと黒褐色土の混土層。
- 84号土坑 1 黒褐色土 10YR3/2 ロームブロック20%、長径10～20cm礫を含む。粗粒・やや軟質。  
2 にぶい黄褐色土 10YR4/3 ロームブロックと黒褐色土の混土層。
- 86号土坑 1 黒褐色土 10YR3/2 ロームブロック5%、少量の礫を含む。全体に粗粒で軟質。  
2 にぶい黄褐色土 10YR4/3 ロームブロックと黒褐色土の混土層。
- 87号土坑 1 黒褐色土 10YR3/2 ロームブロックを20%含む。全体に粗粒で軟質。  
2 にぶい黄褐色土 10YR4/3 ロームブロックと黒褐色土の混土層。
- 88号土坑 1 黒褐色土 10YR3/2 ローム10%、小礫を含む。やや締まり弱い。  
2 にぶい黄褐色土 10YR4/3 ロームブロックと黒褐色土の混土層。やや締まり弱い。
- 89号土坑 1 黒褐色土 10YR3/2 ローム土20%、小礫を含む。やや軟質。  
2 にぶい黄褐色土 10YR4/3 ロームブロックと黒褐色土の混土層。軟質。
- 90号土坑 1 黒褐色土 10YR3/2 ロームブロック10%、少量の小礫を含む。やや軟質。  
2 にぶい黄褐色土 10YR4/3 ロームブロックと黒褐色土の混土層。軟質。
- 93号土坑 1 黒褐色土 10YR3/2 やや砂質で締まり強い。  
2 にぶい黄褐色土 10YR4/3 ロームブロック10%、径10cm角礫や黄色軽石を少量含む。砂質。締まり強い。
- 95号土坑 1 暗褐色土 10YR3/3 ロームブロック5%、炭化物粒・角礫・黄色軽石を少量含む。砂質。締まり強い。

第126図 第4面 土坑7



第23表 第4面 土坑1

番号	グリッド	平面形	規模 (cm)			長軸方位	時期	備 考	挿図		PL.		発掘時名称
			長径	短径	深さ				遺構	遺物	遺構	遺物	
1	48-X-8	不整形	124	81	33	N-75°-E	諸磯 a 式期		120	127	30	51	1区1号土坑
2	48-V-6	円形	77	65	12		晩期末葉		120		31		1区2号土坑
5	48-Y-7	円形	71	60	13		不 明		120		31		1区5号土坑
7	48-Y-16	円形	73	67	23		不 明		120		31		1区7号土坑
8	38-Y-22	円形	135	128	42		晩期末葉	14坑を切る。底面から10cm前後浮遊した深鉢と浅鉢の大形破片が各1点。黒曜石片1点。	120	127	31	51	2区8号土坑
9	39-D-21	円形	119	108	28		不 明		120		32		2区9号土坑
10	39-C-17	円形	159	139	50		不 明		120		32		2区10号土坑
11	39-C-17	円形	96	91	13		不 明	攪乱土痕の誤認か。	120		32		2区11号土坑
12	39-D-17	円形	165	144	47		晩期末葉		120	127	32	51	2区12号土坑
13	39-D-16	円形	144	124	38		不 明		121		33		2区13号土坑
14	38-Y-22	円形	122	120	83		称名寺 I 式		120	127	33	51	2区14号土坑
15	39-C-18	円形	142	118	18		不 明		121		33		2区15号土坑
16	39-C-19	円形	101	98	15		不 明		121		33・34		2区16号土坑
17	39-B-19	円形	114	102	29		晩期末葉	底面から10cm浮遊して長径10～30cmの垂角礫。	121	127	34	51	2区17号土坑
18	39-B-19	円形	82	80	11		不 明		121		34		2区18号土坑
19	39-A-18	円形	116	103	40		不 明		121		34		2区19号土坑
20	39-A-19	楕円形	171	123	44	N-28°-W	勝坂2式期	中形垂角礫1点。	121	128	34・35	52	2区20号土坑
21	39-A-18	円形	63	61	17		不 明		121		35		2区21号土坑
22	38-Y-19	楕円形	173	143	73	N-59°-W	不 明		121		35		2区22号土坑
23	38-Y-19	不整形円形	121	98	48		晩期末葉	33坑に切られる。	121	128	35	52	2区23号土坑
24	39-A-17	円形	192	169	73		不 明	上～中位に垂角礫2点。	121		35・36		2区24号土坑
25	38-X-17	円形	161	147	42		晩期末葉	底面や10cm前後浮遊して3個体の深鉢土器大形破片や、長径40～50cmの大形垂角礫2点。	122	127	36	52	2区25号土坑
26	38-Y-18	円形	130	115	16		不 明		122		36		2区26号土坑
27	39-B-21	円形	139	115	40		不 明		122		36		2区27号土坑
28	39-A-21	楕円形	142	118	29	N-22°-W	後 期		122		37		2区28号土坑
29	39-A-21	円形	117	(55)	23		不 明	51坑に切られる。倒木痕の可能性あり。	122		37		2区29号土坑
30	38-Y-21	円形	119	115	16		不 明		122		37		2区30号土坑
31	38-Y-20	円形	118	114	31		晩期末葉	堀之内1式4点、加曾利B2式1点あり。	122	128	37	52	2区31号土坑
32	38-Y-21	円形	127	107	19		晩期末葉	52坑を切る。	122	128	37	52	2区32号土坑
33	38-Y-18	円形	82	60	12		晩期末葉	23坑を切る。	122	128	38	52	2区33号土坑
34	38-Y-18	楕円形?	127	89	19	N-48°-E	晩期末葉?	35坑を切り、8ピットに切られる。東側奥壁底面に長径10～15cmの垂角礫2点。	122		38		2区34号土坑
35	38-Y-18	楕円形	204	118	97	N-48°-E	晩期末葉	34坑・8ピットに切られる。	122	128	38	52	2区35号土坑
36	38-X-19	円形	132	117	36		晩期末葉	底面中央部に約5cm浮遊して斜位の長径65cmの棒状扁平河床礫1点。中位に土器破片。	123	128	38	52	2区36号土坑
37	38-X-19	円形	125	111	21		晩期末葉	長径30cmの扁平円形河床礫1点と長径40～50cmの垂角礫2点。	123	128	39	52	2区37号土坑
38	38-X-19	楕円形	154	123	36	N-29°-W	晩期末葉	削器1。	123	128	39	52	2区38号土坑
39	38-X-19	楕円形	155	89	19	N-27°-W	不 明		123		39		2区39号土坑
40	38-W-18	円形	106	89	38		不 明	41坑と重複。	123		39		2区40号土坑
41	38-W-18	楕円形	212	111	37	N-53°-E	不 明	53坑を切り、40坑と重複。	123		40		2区41号土坑
42	38-W-18	円形	78	53	16		不 明		123		40		2区42号土坑
43	38-W-18	楕円形?	237	94	25	N-78°-W	不 明	プラン不明瞭、攪乱土痕か。南側周壁沿いに径20～50cmの垂角礫3点。	123		40		2区43号土坑
44	38-W-18	円形	93	88	16		不 明	プラン不明瞭、攪乱土痕か。	123		40		2区44号土坑
45	38-W-18	円形	89	88	19		晩期末葉		123	128	40・41	52	2区45号土坑
46	38-W-18	円形	94	87	19		不 明		124		41		2区46号土坑
47	38-W-19	円形	80	69	33		不 明		124		41		2区47号土坑
48	38-V-19	円形	154	144	44		不 明		124		41		2区48号土坑

第2章 調査された遺構と遺物

第24表 第4面 土坑2

番号	グリッド	平面形	規模 (cm)			長軸方位	時期	備 考	挿図		PL.		発掘時名称
			長径	短径	深さ				遺構	遺物	遺構	遺物	
49	38-V-20	円形	79	78	22		晩期末葉		124	128	41	52	2区49号土坑
50	38-V-20	円形	72	63	17		不 明		124		42		2区50号土坑
51	39-A-21	円形	118	105	21		不 明	29坑を切る。倒木痕の可能性あり。	122		42		2区51号土坑
52	38-Y-21	円形	118	100	31		晩期末葉	32坑に切られる。	122	128	42	52	2区52号土坑
53	38-W-18	円形	59	(49)	18		不 明	41坑に切られる。	124		42		2区53号土坑
54	38-W-19	円形	60	54	15		不 明	攪乱土痕の誤認か。	124		43		2区54号土坑
56	39-D-14	円形	109	105	14		不 明	57坑を切る。	124		43		2区56号土坑
57	39-D-14	楕円形	128	58	44	N-58°-E	不 明	56坑に切られる。	124		43		2区57号土坑
58	39-D-14	円形	(57)	54	23		不 明	57坑に切られる。	124		43		2区58号土坑
60	38-X-21	隅丸正方形?	127	113	44	N-65°-E	不 明		124		43・44		2区60号土坑
61	38-X-20	円形	141	91	16		晩期末葉?	63坑を切る。	124		44		2区61号土坑
62	38-X-20	円形	97	90	18		晩期末葉?	63坑を切る。	124		44		2区62号土坑
63	38-X-20	円形	141	137	8		晩期末葉	61・62坑に切られる。上～中位に5個体の大形破片を主体に多数の土器破片。黒曜石片3点。	124	128・129	44・45	52・53	2区63号土坑
64	38-X-19	楕円形	183	137	58	N-32°-W	晩期末葉	黒曜石片4点。	125	129	45	53	2区64号土坑
68	38-W-20	楕円形	120	59	22	N-2°-E	晩期末葉		125		45		2区68号土坑
70	39-B-20	円形	131	117	37		不 明	底面に板状摂理の安山岩6点を積上げ、その上位に石皿状の窪みを持つ灰白色安山岩を載せる。	125		45		2区70号土坑
71	38-X-20	楕円形	135	90	23	N-10°-W	不 明	中位～底面に長径10～40cmの垂角礫10点と長径40cmの斜位棒状河床礫1点。	125		46		2区71号土坑
72	39-D-14	円形	(63)	67	20		不 明	57坑に切られる。	124		46		2区72号土坑
73	39-F-16	円形	69	67	21		不 明	多数の小形垂角礫を含む埋没土。	125		46		2区73号土坑
74	39-R-15	円形	61	58	21		五領ヶ台式期	中・大形垂角礫5点。	125	129	46・47	53	3区1号土坑
75	39-T-15	円形	53	43	11		不 明	ブロック状の炭化物層。焚火行為を伴うか。	125		47		3区2号土坑
76	39-T-15	円形	84	71	18		加曾利E2式期	ブロック状の炭化物層。焚火行為を伴うか。	125		47		3区3号土坑
77	39-T-14	円形	64	61	25		加曾利E2式期	北壁際に中形垂角礫1点。一括埋没。	125	129	47	53	3区4号土坑
78	39-T-13	楕円形	153	129	98	N-78°-W	五領ヶ台式期	多数の小・中形垂角礫を含む埋没土。	125	129	47・48	53	3区5号土坑
79	39-W-13	円形	115	113	34		不 明	底面から10cm浮遊して長径20cmの垂角礫1点。	125		48		3区6号土坑
80	39-X-12	楕円形	183	155	54	N-27°-W	不 明		125		48		3区7号土坑
81	39-S-13	円形	56	53	15		十三菩提式期	一括埋没。	126	129	48	53	3区8号土坑
82	39-S-14	円形	84	74	19		晩期末葉		126	129	48	53	3区9号土坑
83	40-A-11	円形	(156)	106	34		不 明	84坑に切られる。	126		48・49		3区10号土坑
84	40-A-10	不整形	207	201	89	N-4°-E	不 明	83坑を切る。攪乱土痕の誤認か。	126		49		3区11号土坑
86	39-M-17	円形	169	162	62		不 明		126		49		3区13号土坑
87	39-M-18	円形	72	63	29		不 明	攪乱土痕の誤認か。	126		49・50		3区14号土坑
88	39-M-18	円形	117	87	28		不 明		126		50		3区15号土坑
89	39-L-17	円形	148	135	35		不 明	上面中央部に長径20cmの垂角礫1点。	126		50		3区16号土坑
90	39-L-17	円形	107	91	28		不 明		126		50		3区17号土坑
93	49-K- 6	円形	75	74	30		不 明		126		50・51		4区3号土坑
95	49-G- 8	隅丸長方形	259	172	53	N-29°-W	不 明	中世の4号焼土の痕跡が埋土上位に存在。	126		51		4区5号土坑

べてかなりの高深度となる。埋没土は多量の中・小垂角礫やロームブロックを含んだ黒褐色土を主体にしており、人為的な埋填の可能性もある。出土遺物は、諸磯b式土器5点(第129図78坑1)と五領ヶ台式土器片2点(第129図78坑2・3)および黒曜石・流紋岩・赤碧玉の石器剥片各1点があり、帰属時期は74号と共に五領ヶ台式期と想定されるが、いずれも底面より70cm以上浮遊しており確定的ではない。また、各土坑の機能・用途についても確定的ではないが、74号の場合は「抱石葬」的な状況を想定することもできよう。78号も人為的な埋填状況を重視すれば、墓としての用途が推定される。

**勝坂2式期** 楕円形状の20号1基が存在するのみである。長軸171cm×短軸123cm×深さ44cmの中形土坑で、かなり多量のローム土が混在した暗褐色土が堆積することから、人為的な埋填の可能性が高い。出土遺物は、埋没土中からの勝坂2式土器片3点(第128図20坑1)が存在し、他に埋没土上位より長径約20cmの垂角礫1点が出土している。機能・用途については確定できないが、埋没状況を重視すれば墓の可能性もある。帰属時期については確定的ではないが、勝坂2式期と想定される。

**加曾利E2式期** 円形状を呈する76・77号の2基が存在する。いずれも直径が1m未満で周壁高も25cm以下の小形土坑であり、全体的に残存状態は悪い。共にロームブロックを少量含む黒褐色土で埋没しているが、いずれも薄層であることから、人為か自然かの判別は困難である。出土遺物は、共に加曾利E2式の土器片が各1点(第129図77坑1)のみであるが、76号の土器片について風化が著しいために割愛した。また、76号では西壁に接して埋没土の中位より長径20cmの垂角礫1点が出土している。帰属時期については、確定的ではない。

### C. 縄文時代後期

**称名寺I式期** 円形状の14号が1基存在するのみである。直径122cm×深さ83cmの中形土坑であり、4層の黒褐色・暗褐色土で埋没しているが、第2層中には多量のロームブロックが混在し、人為的な埋填が想定される。出土遺物は、埋没土中からの称名寺I式の土器片1点(第127図14坑1)のみであるが、底面の10cm上位から中位にかけて長径20～30cm大の扁平な垂角礫11点が重畳的に出土している。人為的な埋没状況を考慮すれば、多数の礫を用いた「抱石葬」による墓坑の可能性もある。帰属時

期については出土土器片により称名寺I式期に比定したが、確定的ではない。

**その他** 後期前半と推定される無文部の土器片2点を出土した、楕円形の28号が存在する。黒褐色土を主体に自然埋没状況を示す。

### D. 縄文時代晩期～弥生時代前期

ここでは、主に出土土器が小破片のために、明確な時期比定が困難な17基や重複関係により当該期とした3基を含む23基について、一括して記載する。

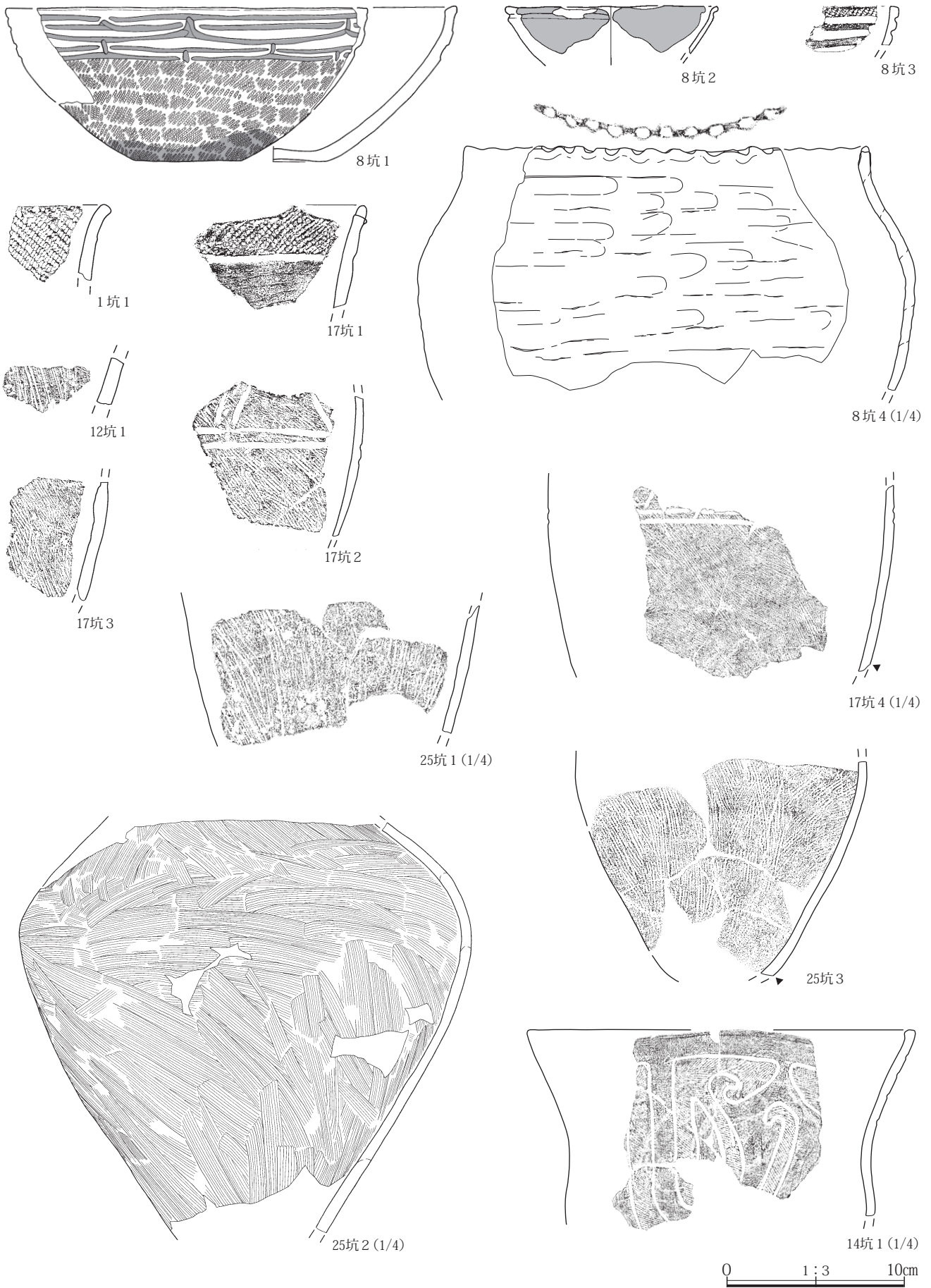
**分布** 当該期土坑は円形状が17基、楕円形状が5基、不整形円形が1基の合計23基が存在し、その分布状況は38-W～Y-17～22グリッドから39-B～D-17～19グリッドの範囲に、全体の91%に当たる21基が密集している。

**規模・形状** 形態別にその詳細を見ると、円形状の場合、直径が1m未満の小形土坑が2・33・45・49・62・82号の6基、150cm未満の中形が8・17・31・32・36・37・52・61・63号の9基、150cm以上の大形が12・25号の2基であり、中形が主体を占める。楕円形状では、長軸が120cmの中形から200cmを超える大形までかなりの差異があるが、1m未満の小形は存在しない。ちなみに長径100～149cmの中形は34・68号の2基、同150cm以上の大形は35・38・64号の3基である。

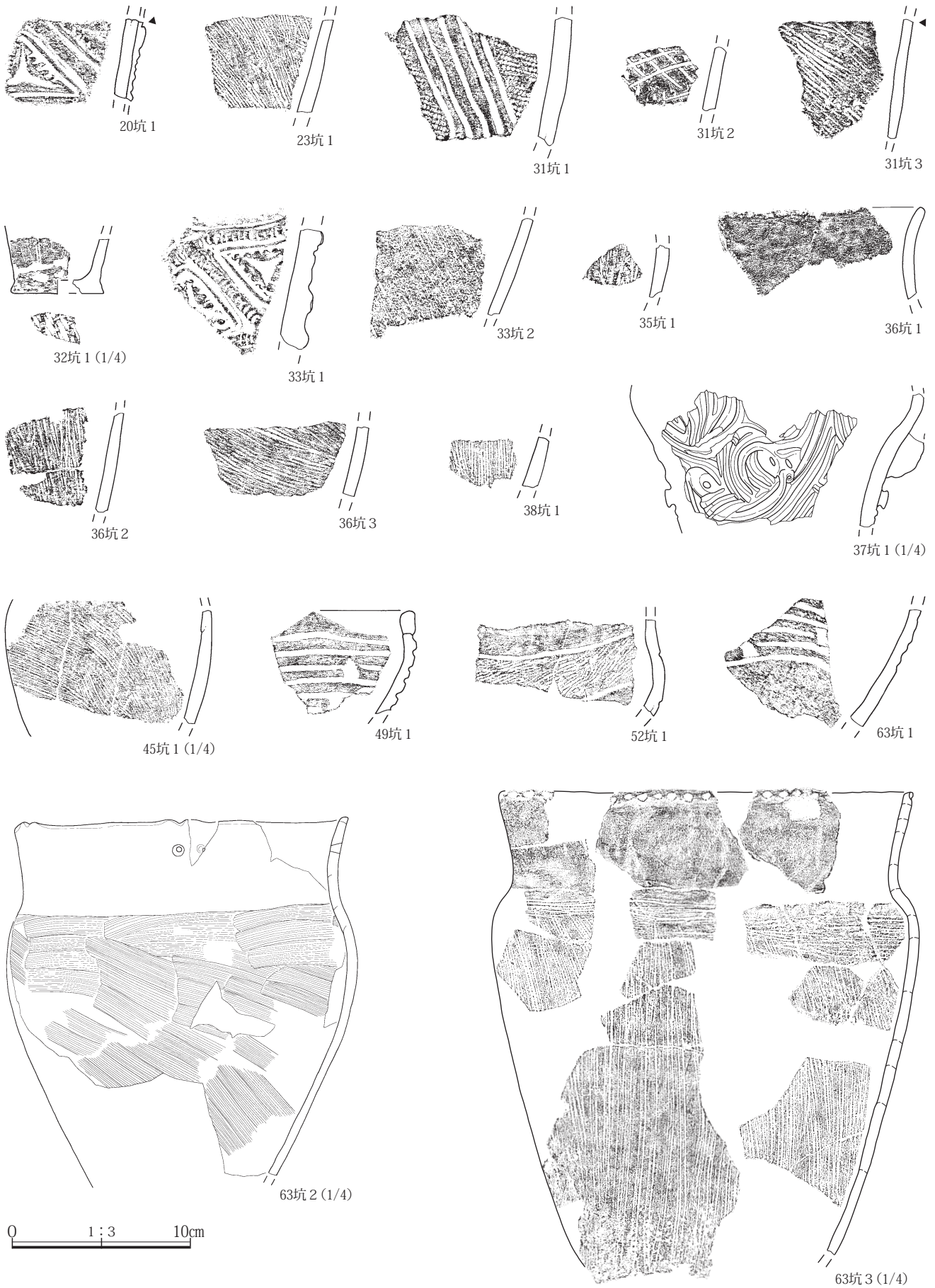
**埋没土** 埋没土の状況では、黒褐色土や暗褐色土を主体として1～2層で埋没するものが17基と全体の74%を占めるが、8・12・23・25・28・64号の6基は3～5層で埋没している。これらの中で、20～30%のロームブロックを含む暗褐色土を主体にして埋没するものに、8・12・17・23・25・31・36・38・45・52・61・64号の12基があり、これらは人為的な埋填状況を示す可能性が高い。

**方位** 34・35・38・64号などの楕円形状土坑の主軸方位を見ると、34・35号はN-48°-Eであるが、これに対して38・64号は約90度西方にずれたN-29～32°-Wの方位をとっている。このような様態は、縄文遺跡での墓坑群に多見される現象であり、基本的に埋葬遺体の頭位方向の「双方向性」として認識されている。従って、この4基についてもそうした関係性が存在していた可能性があるだろう。

**遺物** 各土坑の出土遺物は、第34表に一括したように土器破片を主体とするが、その大半は埋没土中からの出



第127図 土坑出土遺物 1 (1・8・12・14・17・25号土坑)



第128図 土坑出土遺物 2 (20・23・31～33・35～38・45・49・52・63号土坑)

土である。土器では完形品は無く、いずれも小～大形の破片類であり、5点以下の出土が12基と全体の過半数を占め、10点以上を出土するものに17・25・63・64号がある。石器では、38号から削器類1点が出土するのみで、他は63・64号で黒曜石剥片を各々3・4点出土する程度である。また、底面付近より直径30～60cm前後の大形河床礫や垂角礫を出土するものに、17・25・36・37号がある。

これら遺物の出土状況を観察すると、先ず底面付近から土器の大形破片を多出する8・25・63号の3基が注目される。8号では、口唇部上面に指頭圧痕状の刻みを施した、口径約30cmの粗製深鉢土器の大形破片(第127図8坑4)や口径20cmの浅鉢(第127図8坑1)が底面から10～20cm前後浮遊して出土している。25号もこれに近似するが、底面から約10cm前後浮遊して長径30～50cmの2点の垂角礫と共に大形破片に分割された3点の深鉢や壺形土器(第127図25坑1～3)が、南側の壁際に内面側を上に向けて積み重ねられた状況で出土している。いずれの個体も50%前後の破片が欠落して完形には復元できないことや、細密条痕文を施す2の土器は大形破片に分割される前段階に口頸部を割り取り、破断面部を疑似口縁状に調整加工しているなどの点で注意を要する。また63号の場合は、58点の土器破片を出土しているが、その代表的なものが第128・129図の10点(63坑1～10)である。いずれも半完形品や破片であり、土坑底面より60cm以上浮遊した埋没土の中～上位層内に密集していたことから、土坑自体がある程度自然埋没した段階でほぼ同時に投棄されたと考えられる。なお、48点の土器破片を出土する64号も、63号とほぼ同様の状況である。

他方、底面付近より直径30～60cm前後の河床礫や垂角礫を出土する、17・25・36・37号の事例にも注意する必要がある。17・25・37号の3基は、直径30～50cmの楕円形状の河床礫や垂角礫を2～3点出土し、いずれも円形状の形態を呈する点で共通している。また、これらとは出土状況が異なるが、36号では底面から5cm浮遊して長径65cm×短径25cmの長方形扁平河床礫が斜位に出土しており、標石的に立っていた可能性もある。

なお、63・64号の埋没土中から出土した黒曜石剥片7点については、蛍光X線分析による産地同定を行ったが、それらの全てが星ヶ台産という結果を得ている。その詳

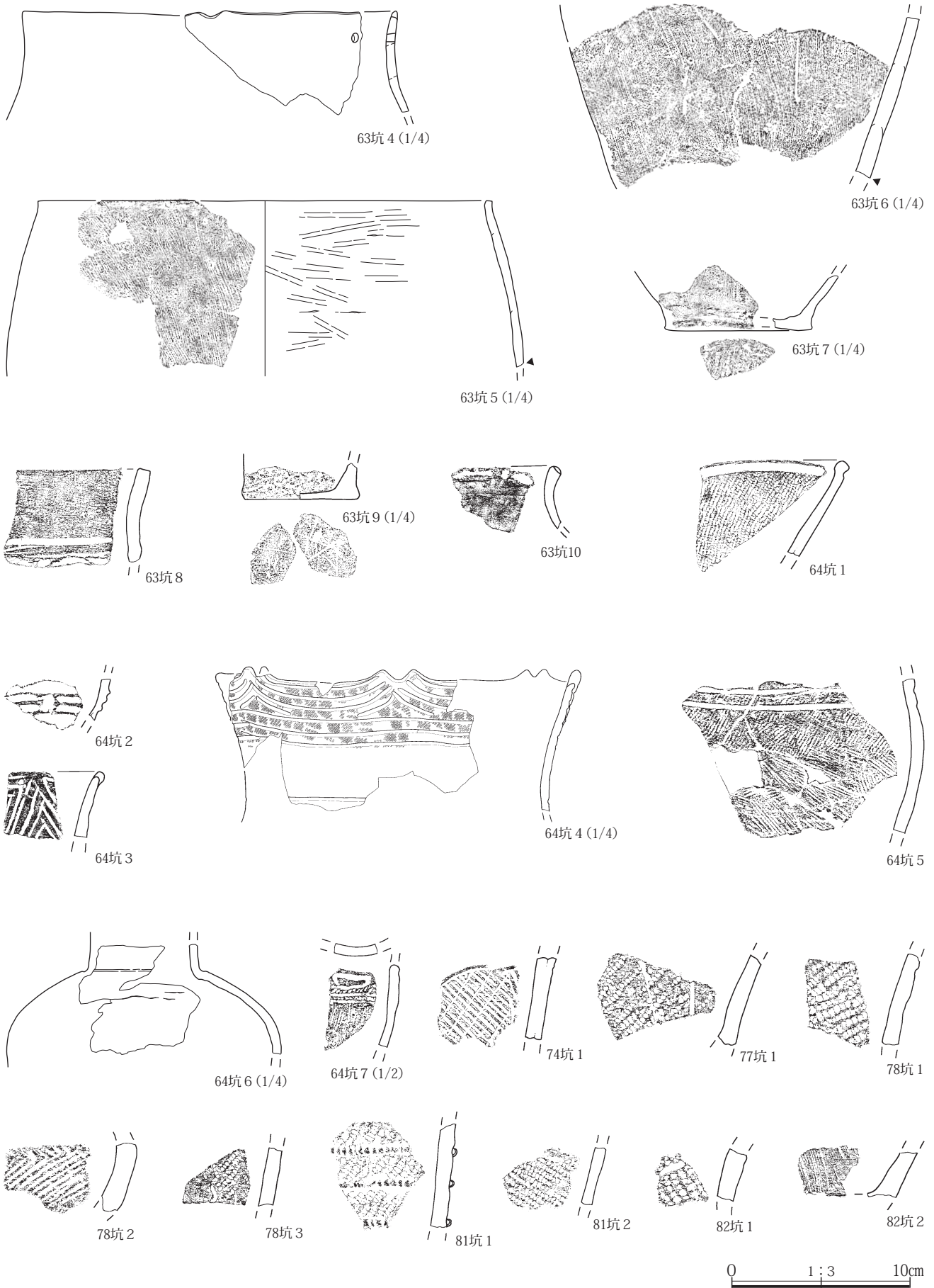
細については、148頁以下の「黒曜石製石器の原産地同定」を参照されたい。

**時期** 各土坑の帰属時期については、出土土器から判断できるものは少ないが、その主なものを上げれば次のようになる。先ず、低平化した浮線文ながら隆線手法を基調とした匹字文や工字文を構成する第127図の8坑1の浅鉢や肩部の張りが強い25坑2の壺は、大洞A'式併行かそれ以降に比定されよう。また、三角連繫文+条痕文を施す同図17坑2～4の深鉢や無文口頸部+胴部細密条痕文の第128図63坑2・3の甕と、口縁部に弧線文・横線文+LR縄文充填の第129図64坑4の深鉢などは、弥生時代前期の沖Ⅱ式段階に比定されると思われる。他土坑の出土土器については、僅少量の小破片のために判然としないが、上記と類似した条痕文土器を伴出する12・23・31～33・35～38・45・49・52・68号や、これらを切って構築されている34・61・62号は、およそ晩期末葉～弥生時代前期に帰属すると考えられる。

**所見** 各土坑の性格・用途については、明確に判断できるだけの材料に乏しいが、かなり多量のロームブロックを含む埋没土の状況から人為的な埋填が想定される8・12・17・23・25・31・36・38・45・52・61・64号の12基は、墓としての可能性がある。また、平面形状を重視すれば楕円形状の34・35・38・64・68号の5基も、同様に墓としての用途が推定される。

一方、土坑底面付近に複数の大形礫を出土する17・25・37号の3基は、縄文時代前～後期の事例に照らせば「抱石葬」の墓坑としての用途が推定され、特に17・25号については上述の人為的埋填状況も加味すれば、その可能性はより強まる。ただし、当該期では藤岡市沖Ⅱ遺跡に代表されるように、土器棺を土坑内に埋設した再葬墓としての「土器棺墓」と一次埋葬施設の「土坑墓」が見られ、こうした動向との関連性も無視できない。当遺跡では、沖Ⅱ遺跡のような整然とした完形土器の出土状況は確認できず、大形土器破片が土坑底面付近や埋没土上層から出土する25号や63・64号などの事例にとどまる。こうした状況を考慮しつつ上記の土坑群を墓として認定した場合は、遺体を直接埋葬するような土坑墓か、あるいは再葬墓の「土器棺墓」が欠落する、一次埋葬施設としての「土坑墓」群と考えることもできよう。

こうした墓としての機能・用途が想定し得る土坑を再



第129図 土坑出土遺物 3 (63・64・74・78・81・82号土坑)

度まとめれば、帰属時期の明瞭な8・12・17・25・34～38・52・64・68号の12基を数える。その分布域は、38-X～Y-17～20グリッドの範囲に全体の8割強に当たる10基が密集しており、集団墓的な様相を看取することも可能だろう。

E. 時期不明

土器等の伴出遺物が存在しないことや、時期判定可能な土坑との重複関係が認められないために、明確な時期同定ができない土坑が50基存在する。この中には不整形な形態や埋没土の状況などから、風倒木痕や小動物による土壌攪乱を含めた自然的要因で形成されたと想定される11・29・43・44・51・54・84・87号などの8基も含まれる。これらの土坑を除外した42基の形態別内訳は、円形が34基、楕円形が6基、隅丸方形が2基となる。形態別に見た詳細は、円形状については直径が1m未満の小形土坑が5・7・18・21・42・46・47・50・53・58・72・73・75・93号の14基、150cm未満の中形が9・13・15・16・19・26・27・30・40・56・70・79・88・89・90号の15基、150cm以上の大形が10・24・48・83・86号の5基であり、小・中形が主体を占める。楕円形状では1m未満の小形は存在せず、長軸が長径100～149cmの中形が

57・71号の2基、同150cm以上の大形は22・39・41・81号の4基であり、大形の41号は200cmを超える。

各土坑の機能・用途については不明確なものが多数を占めるが、埋没土中に20～30%のロームブロックを含む40～42・71～73号の6基は、人為的な埋填が想定される。また、坑内に大・中形礫を出土するものとして43・70・71・79・89号の5基があり、この内の71・79・89号は長径20～40cmの棒状礫が土坑上位に樹立されていた可能性がある。こうした様相を考慮すれば、上記の10基については墓としての機能・用途を想定することもできよう。また、楕円形や隅丸方形の形態を持つ土坑の中で、その主軸方位がN53～65度Eの41・57・60号と、これらとは約90度西方にずれるN27～29度Wの方位を持つ39・80・95号の両グループには、注意を要する。こうした長軸方位に関わる2グループの存在は、上述の縄文時代晩期末葉～弥生時代前期の墓坑に確認された方位数値を含めた「双方向性」とほぼ同一であり、これを重視すれば共に晩期末葉～弥生時代前期の墓坑に比定される可能性が高い。なお、39号では黒曜石剥片1点が出土している。

第25表 土坑出土遺物観察表1

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置	残存率	計測値			胎土	成形・整形の特徴	
					口径 器高	底径				
第127図 PL.51	1坑1	縄文土器 深鉢	1坑1 +21cm	口縁部破片	口径 器高	- -	底径	-	D12	RL縄文を横位・多段に施文。内面横位磨き、外面一部に煤状炭化物付着。
第127図 PL.51	8坑1	縄文土器 浅鉢	8坑 +11cm	口縁部～底部 1/3	口径 器高	(20.5) 8.7	底径	6.0	D3	口縁部の横線文に陽刻技法を施して隆線化し、抉り状の刺突を加えて推定4単位の四字文と工字文を構成。体部～底部に細密なLR縄文を横位・多段に施文。口縁部の沈線文内と体部下位～底部の幅2～3cmに赤色塗彩。内面丁寧な横位磨き。外面全面に煤状炭化物付着し、黒色光沢を帯びる。
第127図 PL.51	8坑2	縄文土器 浅鉢	8坑 +32cm	口縁部1/5	口径 器高	(12) -	底径	-	B4	丸棒状の口唇部直下に一条の横線文を施す。内外面共に横位磨き後に、赤色塗彩すると想定される。
第127図 PL.51	8坑3	縄文土器 浅鉢	8坑 +32cm	口縁部1/4	口径 器高	(12) -	底径	-	B1	棒状具のやや深い横線文を複数条施し、陽刻的な研磨手法により隆線文化。一部に同具の縦位刻みを施し、四字文を構成。角頭状の口唇部直下にLR縄文を充填縄文。内面横位磨き。
第127図 PL.51	8坑4	縄文土器 深鉢	8坑 +17cm	口縁部～胴部中 位1/4	口径 器高	(30.5) -	底径	-	E6	口唇部に棒状具により指頭圧痕状の刻みを施す。内外面共に指頭圧痕の整形痕を残す粗い横位磨き。内外面共に胴部下被熱風化・一部剥落。無文粗製深鉢土器。
第127図 PL.51	12坑 1	縄文土器 深鉢	12坑 埋土中	胴部破片	口径 器高	- -	底径	-	B11	細密条痕文を縦位に施文。内面やや粗い縦・斜位磨き。半精製深鉢か。
第127図 PL.51	14坑 1	縄文土器 深鉢	14坑 +60cm	口縁部～胴部上 位1/4	口径 器高	(29.2) -	底径	-	B10	内面側へ折返し状にやや肥厚する口唇部。主にネガ化したJ字文外縁の沈線区画内に、細密なLR縄文を充填施文。内面丁寧な横位磨き、口縁部と胴括れ部下位に煤状炭化物付着。
第127図 PL.51	17坑 4	縄文土器 深鉢	17坑 +1cm	胴部中位1/5	口径 器高	- -	底径	-	B10	櫛歯状具の細密条痕文を斜位施文し、胴部上位に凹線状の浅い沈線文で三角形の意匠を構成か。内面やや粗い横位磨き。半精製深鉢土器。
第127図 PL.51	17坑 1	縄文土器 深鉢	17坑 +7cm	胴部破片	口径 器高	- -	底径	-	B7	口唇部に山形の小突起を付す角頭状の波状縁。口縁部にLR縄文を横位・带状に施文し、下位に浅い凹線状の横位沈線文を施す。内面丁寧な横位磨き。半精製深鉢土器。
第127図 PL.51	17坑 2	縄文土器 深鉢	17坑 +2cm	胴部破片	口径 器高	- -	底径	-	A15	細密条痕文を斜位施文し、胴部上位に凹線状の浅い沈線文で三角形の意匠を構成か。内面横位磨き。17号土坑3と同一個体。半精製深鉢土器。



第26表 土坑出土遺物観察表2

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置	残存率	計測値				胎土	成形・整形の特徴
					口径	器高	底径			
第127図 PL.51	17坑 3	縄文土器 深鉢	17坑 底面直上	胴部破片	口径	-	底径	-	A17	細密条痕文を斜位に施文。内面やや粗い撫で状の横・斜位 磨き。17号土坑2と同一個体。半精製深鉢土器。
第128図 PL.52	20坑 1	縄文土器 深鉢	20坑 埋土中	胴部破片	口径	-	底径	-	E7	隆帯文の両側に半截竹管状具の平行沈線文を施し、それら の区画内に同具の刺突文や三叉状陰刻文を施文。
第128図 PL.52	23坑 1	縄文土器 深鉢	23坑 埋土中	胴部破片	口径	-	底径	-	B11	細密条痕文を斜位に施文。内面磨撫で状のやや粗い斜位磨 磨き。内外面共にやや被熱風化。粗製深鉢土器か。
第127図 PL.52	25坑 1	縄文土器 深鉢	25坑 +1cm	胴部中位1/4	口径	-	底径	-	D6	櫛状具のやや粗い条痕文を縦位に施文。内外面共に被熱風 化・剥落、一部に煤状炭化物付着。粗製深鉢か。
第127図 PL.52	25坑 2	縄文土器 壺?	25坑 +10cm	肩部～胴部下位 3/4	口径	-	底径	-	D6	肩部から胴部にかけて細密条痕文を斜位に施文。内面やや 粗い横位磨き。壺または甕的な半精製土器。
第127図 PL.52	25坑 3	縄文土器 深鉢	25坑 +2cm	胴部中位～下位 2/3	口径	-	底径	-	D2	櫛状具の条痕文を縦・斜位に施文。内面横位磨き、内外 面共にやや被熱風化・荒れ。
第128図 PL.52	31坑 1	縄文土器 深鉢	31坑 埋土中	胴部破片	口径	-	底径	-	B12	複数状の単沈線文を斜位に施し、LR縄文を充填的に縦位施 文する。外面煤状炭化物付着、内面横位磨き。
第128図 PL.52	31坑 2	縄文土器 深鉢	31坑 埋土中	頸部破片	口径	-	底径	-	E3	頸部に単沈線文を斜格子状に施す。内面横位磨き。
第128図 PL.52	31坑 3	縄文土器 深鉢	31坑 埋土中	胴部破片	口径	-	底径	-	E3	櫛状具のやや粗い条痕文を斜位に施文。内面やや粗い斜 位撫で。粗製深鉢土器。
第128図 PL.52	32坑 1	縄文土器 深鉢	32坑 埋土中	底部1/5	口径	-	底径	(7.0)	D3	胴部に細密条痕文を縦位に施文。底外端部が突出し、外底 面に網代痕が存在。内面撫で状の横位磨き、内外面共に被 熱風化・一部剥落。粗製深鉢土器。
第128図 PL.52	33坑 1	縄文土器 深鉢	33坑 埋土中	胴部破片	口径	-	底径	-	A18	連続爪形文を施した隆帯による三角形区画内に半截竹管 状具の刺突文や三叉状の陰刻文を施文。内面やや被熱風化・ 一部剥落。
第128図 PL.52	33坑 2	縄文土器 深鉢	33坑 埋土中	胴部破片	口径	-	底径	-	B9	細密条痕文を斜位に施文。内面やや粗い斜位磨撫で、外面 一部に煤状炭化物付着。粗製深鉢土器。
第128図 PL.52	35坑 1	縄文土器 深鉢	35坑 埋土中	胴部破片	口径	-	底径	-	A5	細密条痕文を縦位に施文。内面やや粗い横位磨撫で、外面 煤状炭化物付着。
第128図 PL.52	36坑 1	縄文土器 深鉢	36坑 埋土中	口縁部破片	口径	-	底径	-	E1	無文の半精製深鉢土器か。内外面共に横位磨き、やや被熱 風化。
第128図 PL.52	36坑 2	縄文土器 深鉢	36坑 埋土中	胴部破片	口径	-	底径	-	B6	櫛状具のやや粗い条痕文を縦位に施文。内面横位磨き、内 外面共に煤状炭化物付着。半精製深鉢か。
第128図 PL.52	36坑 3	縄文土器 深鉢	36坑 埋土中	胴部破片	口径	-	底径	-	A6	やや粗い条痕文を斜位に施文。内面やや粗い横位磨き、外 面一部に煤状炭化物付着。半精製深鉢土器。
第128図 PL.52	37坑 1	縄文土器 深鉢	37坑 埋土中	胴部上位～中位 1/5	口径	-	底径	-	A1	両末端に眼鏡状突起を配した曲隆線文の両側に沿って、棒 状具の深い単沈線で半肉彫的な曲線文を施す。外面に煤状 炭化物付着、内面やや被熱風化。
第128図 PL.52	38坑 1	縄文土器 深鉢	38坑 埋土中	胴部破片	口径	-	底径	-	E2	細密条痕文を縦位に施文。内面やや粗い横撫で。内外面共 に一部に煤状炭化物付着。粗製深鉢か。
第128図 PL.52	45坑 1	縄文土器 深鉢	45坑 埋土中	胴部中位1/4	口径	-	底径	-	E4	細密条痕文を斜位に施文。内面やや粗い横・斜位撫で。内 外面共にやや被熱風化。粗製深鉢か。
第128図 PL.52	49坑 1	縄文土器 浅鉢	49坑 埋土中	口縁部破片	口径	-	底径	-	A16	口唇部に山形状の小突起を付す波状縁。尖頭状の棒状具に より深目の横位沈線文を施し、沈線間は丁寧に研磨されて 準隆線文的な効果を出し、また、上下に三角形の挟り込 みを加えて対向する卍字文を構成。内面横位磨き。
第128図 PL.52	52坑 1	縄文土器 鉢	52坑 埋土中	胴部破片	口径	-	底径	-	D12	2条の横線文を施し、その区画内にやや細密なL縄文を横・ 斜位に充填施文。内面やや粗い横位磨き。
第128図 PL.52	63坑 1	縄文土器 浅鉢	63坑 +72cm	胴部破片	口径	-	底径	-	A18	棒状具のやや深い横線文を複数条施して陽刻的な研磨手法 により隆線文化し、挟り込みを加えて上下に対向する卍字 文を構成か。内外面共に丁寧な横位磨き。
第128図 PL.52	63坑 2	縄文土器 深鉢	63坑 +59cm	口縁部～胴部下 位1/2	口径	(25)	底径	-	A13	口唇部に浅い切込みを入れた起伏の少ない双頭状突起を推 定5単位に施す。括れ部から胴部にかけて細密条痕文を横・ 斜位に施文。外面口頸部と内面全体は、かなり丁寧な横位 磨き。外面胴部被熱風化・荒れ、内面胴部下位の一部分に煤 状炭化物付着。口縁部に外面→内面への直径7～3mmの焼 成後穿孔。半精製深鉢。
第128図 PL.53	63坑 3	縄文土器 深鉢	63坑 +67cm	口縁部～胴部下 位1/3	口径	-	底径	-	C2	口唇部外端に笠状具の挟り取り的な刻み目を施す。口頸部 は無文であり、櫛状具により括れ部に横位、胴部には縦位 の条痕文を施す。内面輪積み痕や指頭圧痕を残した粗い 横撫で。内外面共に被熱風化・剥落、煤状炭化物付着。粗 製深鉢土器。
第129図 PL.53	63坑 4	縄文土器 深鉢	63坑 +60cm	口縁部1/5	口径	(28)	底径	-	A13	口唇部に浅い切込みを入れた起伏の少ない双頭状の波状 縁。内外面共に横位磨き、やや被熱風化。口縁部に直径5 mmの焼成後穿孔。半精製深鉢。

第2章 調査された遺構と遺物

第27表 土坑出土遺物観察表3

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置	残存率	計測値				胎土	成形・整形の特徴
					口径 器高	(34) -	底径	-		
第129図 PL.53	63坑 5	縄文土器 深鉢	63坑 +69cm	口縁部1/4	口径 器高	(34) -	底径	-	B8	口唇部は角頭状整形時の粘土が外面側にはみ出す。外面に刷毛目状の条痕文を斜位に施文、煤状炭化物付着。内面は整形時の砂粒移動痕を残すやや粗い横位磨き。粗製深鉢。
第129図 PL.53	63坑 6	縄文土器 深鉢	63坑 +67cm	胴部中位1/4	口径 器高	- -	底径	-	A1	細密条痕文を縦位に施文。内面撫で状のやや粗い横位磨き。内外面共に被熱風化・剥落、一部に煤状炭化物付着。粗製深鉢。
第129図 PL.53	63坑 7	縄文土器 深鉢	63坑 +64cm	底部1/4	口径 器高	- -	底径	(11)	D10	細密条痕文を縦位に施文。底外端部が外側にやや突出する。内面粗い横撫で、一部に被熱風化・剥落、煤状炭化物付着。
第129図 PL.53	63坑 8	縄文土器 深鉢	63坑 +62cm	口縁部破片	口径 器高	- -	底径	-	A2	角頭状の口唇部。括れ部に2条の横線文を施す。内面刷毛目状の横・斜位磨き。内外面共に被熱風化・荒れ。
第129図 PL.53	63坑 9	縄文土器 深鉢	63坑 +59cm	底部1/2	口径 器高	- -	底径	8.5	D9	底外端部がやや突出し、底外面に木葉痕が存在。内外面共に著しい被熱風化・荒れ。粗製深鉢土器か。
第129図 PL.53	63坑 10	縄文土器 壺	63坑 +61cm	口縁部破片	口径 器高	- -	底径	-	A16	口端部に棒状具のやや深い1条の横線文や刺突文を施し、陽刻的な研磨手法により隆線文化する。外面横位磨き、内面風化・荒れ。
第129図 PL.53	64坑 1	縄文土器 浅鉢	64坑 +24cm	口縁部破片	口径 器高	- -	底径	-	A9	細密なLR縄文を横位施文し、口唇下に1条の横線文を施す。内外面および左側破断面部に赤色塗彩。内面丁寧な横位磨き、内外面共に煤状炭化物付着。
第129図 PL.53	64坑 2	縄文土器 浅鉢	64坑 埋土中	胴部破片	口径 器高	- -	底径	-	B6	3本の横位隆線を研磨して浮線文化し、抉り取るような刺突を施す。外面施文部位に赤色塗彩、内面丁寧な横位磨き。
第129図 PL.53	64坑 3	縄文土器 壺	64坑 埋土中	口縁部破片	口径 器高	- -	底径	-	A11	口唇部に瘤状の小突起を付す。口縁部に単沈線による重層的な山形文または弧線文を施文か。外面赤色塗彩、一部に煤状炭化物付着。内面横位磨き、やや風化。
第129図 PL.53	64坑 4	縄文土器 深鉢	64坑 埋土中	口縁部～胴部破片	口径 器高	- -	底径	-	A8	推定5単位の双頭状の波状口縁。口縁部と括れ部に棒状具の弧線文や横線文を施し、各沈線文間に細密なLR縄文を充填的に施文。一部の沈線文をなぞり返す。内面やや粗い横位磨き、外面口縁部の一部に煤状炭化物付着。断面および外面は燻べ焼きによる黒灰色。半精製深鉢土器。
第129図 PL.53	64坑 5	縄文土器 深鉢	64坑 埋土中	括れ部～胴部上位1/5	口径 器高	- -	底径	-	D1	胴部上位に細密LR縄文を横位、下位に細密条痕文を斜位に施文し、括れ部付近に横線文を施す。内面やや粗い横位磨き、一部に煤状炭化物付着。半精製深鉢土器。
第129図 PL.53	64坑 6	縄文土器 壺	64坑 埋土中	頸部～胴部中位1/4	口径 器高	- -	底径	-	F2	無文の精製壺形土器。内外面共にやや粗い横位磨き。
第129図 PL.53	64坑 7	縄文土器 土偶?	64坑 埋土中	胴部破片?	口径 器高	- -	底径	-	B4	細密条痕文を縦位に施文し、上半部に沈線の陽刻技法による隆線文と笠状具の羽状刻みを付加した横位細沈線文を施す。外面赤色塗彩、内面輪積み痕を残した粗い横位磨き。土偶の胴部破片の可能性もある。
第129図 PL.53	74坑 1	縄文土器 深鉢	74坑 +9cm	胴部破片	口径 器高	- -	底径	-	C5	半截竹管状具の沈線区画文内に集合沈線文や単沈線文を斜格子状に施す。内面横位磨き。
第129図 PL.53	77坑 1	縄文土器 深鉢	77坑 +9cm	胴部破片	口径 器高	- -	底径	-	E6	RL縄文を縦位施文し、やや細い沈線懸垂文を施す。内面やや被熱風化、煤状炭化物付着。
第129図 PL.53	78坑 1	縄文土器 深鉢	78坑 +96cm	胴部破片	口径 器高	- -	底径	-	E9	やや粗雑なRL縄文を横位施文。内面横位磨き。
第129図 PL.53	78坑 2	縄文土器 深鉢	78坑 +69cm	口縁部破片	口径 器高	- -	底径	-	D7	半截竹管状具の斜行集合沈線文を施す。内外面共にやや被熱風化。
第129図 PL.53	78坑 3	縄文土器 深鉢	78坑 +70cm	胴部破片	口径 器高	- -	底径	-	A10	末端自縄自縛のRL+L結節縄文を相互に間隔を置いて縦位施文。内面横位磨き、外面一部に煤状炭化物付着。
第129図 PL.53	81坑 1	縄文土器 深鉢	81坑 埋土中	胴部破片	口径 器高	- -	底径	-	A14	LR縄文を横位・多段に施文し、横位の結節浮線文を複数本施す。内面横位磨き、内外面共にやや風化。
第129図 PL.53	81坑 2	縄文土器 深鉢	81坑 +5cm	胴部破片	口径 器高	- -	底径	-	A16	RL縄文を横位・多段に施文。
第129図 PL.53	82坑 1	縄文土器 深鉢	82坑 +16cm	胴部破片	口径 器高	- -	底径	-	A11	LRL縄文を縦位施文し、沈線区画文を施す。
第129図 PL.53	82坑 2	縄文土器 深鉢	82坑 +6cm	底部破片	口径 器高	- -	底径	-	A4	細密条痕文を縦位に施文。内面やや粗い磨きで状の横位磨き。半精製深鉢か。

## 第4項 遺構外の出土遺物

当遺跡では、調査工程の都合上、便宜的に1～4区の調査区を設定して遺構や包含層の調査を実施した。以下で扱う遺物は、各調査区の遺物包含層である厚さ約35～40cmのVI層内から出土した土器・石器類であり、若干の弥生時代遺物が混在するものの、その大半は縄文時代および晩末葉～弥生時代前期に比定される。

出土遺物の内容や数量に関しては、土器は147頁第35表に各調査区・型式別の数量を、また石器については146頁第33表に同じく調査区・器種別の数・重量を掲載した。ちなみに、出土土器は縄文時代前期～後期および晩末葉～弥生時代前期にかけての破片類825点と、弥生時代中期の7点がある。また、石器は縄文時代と想定される未製品1点を含む石鏃3点や削器1点・剥片類34点と、弥生時代の石鏃1点である。出土遺物の中で大多数を占める土器の時期別内訳は、縄文時代前期22点、中期244点、中・後期の分別不能な21点を含む後期158点と、最多を占める晩末葉～弥生時代前期の399点である。

これら土器の分布状況については、各調査区を単位に集計した第35表によりその数量的動向を見ると、1区では合計6点のみであるが、時期的には縄文時代前期と中期中葉ともに各3点で、後・晩期が欠落する。2区では前期が皆無であり、中期189点、後期122点、土偶2点を含む晩末葉～弥生時代前期381点と各区を通じて最多の合計692点を数える。3区では縄文時代前期19点、中期46点、後期27点、晩末葉～弥生時代前期15点の合計107点であり、2区に次いで多数を占める。4区では2区と同様に縄文時代前期が欠落するが、他期も中期1点、後期9点、晩末葉～弥生時代前期5点と合計15点に過ぎない。なお、弥生時代中期の土器は7点の全てが2区から出土している。

一方、石器類に関しては出土点数が僅少であり、全体的傾向を云々できる状況ではないが、主に「打製系列」の石鏃・削器・打製石斧などの石材として多用される黒曜石や黒色頁岩・細粒輝石安山岩の調整剥片が存在している点は、当遺跡内で石器製作が行われたことを示唆しており、活動痕跡の一つとして注目される。

以上のように、遺構外の包含層より出土した土器を主体とした遺物が晩末葉～弥生時代前期を中心として2

区に集中している点に関しては、当遺跡の主体をなす遺構が2区に存在する晩末葉～弥生時代前期の土坑(墓坑)群であることと相関性を有すると考えられる。また、縄文時代中・後期の土器も2区に集中する傾向が明瞭だが、3区にも73点が検出されており、同様に中・後期に比定される14・20・74・76・77号土坑などの存在がその背景にあると想定される。

なお、僅少ではあるが弥生時代中期に比定される土器片や石鏃の存在は、明確な遺構を伴わないものの、当遺跡において何らかの活動を行った結果と考えられる。特に刃部磨耗を伴う石鏃の欠損状況は、農耕作業等で破損した可能性を示唆するものだろう。

これら土器・石器の中で特徴的なものを抽出し、縄文時代～弥生時代前期の土器44点・土偶2点と弥生時代中期の土器7点を第130・131図に、また縄文時代の石鏃2点と弥生時代の石鏃1点を第132図に各々掲載した。以下に、その概要を時代・時期や型式・器種別に記述するが、個々の遺物の詳細は143～145頁の遺物観察表を参照されたい。

### A. 縄文時代～弥生時代前期の土器

#### a. 前期

総数22点が存在し、3区に集中している。細別内訳は諸磯a式6点、同b式併行13点、同c式2点、十三菩提式1点である。ここでは諸磯b式併行1点を掲載した。

**諸磯b式併行**(第130図1・PL.54) 合計13点の破片を数えるが、いずれも同一個体である。篋状具により左斜め方向から連続した爪形文を横位・多段に器面を周回して施文しており、浮島式の貝殻腹縁文を模した施文と考えられる。口縁部を欠損するが、器形は鉢または浅鉢と推定される。胎土は、長石の粗・細砂を多量に含む特徴的なE類である。

#### b. 中期

総数244点が存在し、2区での分布を主体に3区がこれに次ぐ。細別内訳は五領ヶ台式30点、勝坂2式20点、同3式2点、新巻類型9点、焼町土器44点、型式不分別の中期中葉134点、唐草文土器系5点であり、加曽利E式土器は皆無である。ここでは五領ヶ台式と勝坂3式・唐草文土器系を各1点、勝坂2式を3点、焼町土器・中期中葉を各2点の合計10点を掲載した。

**五領ヶ台式**(第130図2、PL.54) 内削ぎ状の口唇部上

面や口縁部に、細い半截竹管状具の横位沈線文と斜格子状の集合沈線文を施す。胎土は、多量の雲母粗・細砂を含む特徴的なA類である。

**勝坂2式**(第130図3～5、PL.54) 共に低平な曲隆線文の区画に沿って連続爪形文や半截竹管状具の接続した刺突文を施す。胎土は、共に多量の円磨度の進んだ結晶片岩の礫・粗砂や雲母細砂を含有するB類である。

**勝坂3式**(第130図6、PL.54) 半截竹管状具の平行沈線によるパネル状の区画文内に、同具の平行沈線文を充填的に施文する。胎土は多量の軽石礫・粗砂を含むF類であり、結晶片岩を含む勝坂2式のB類とは異なる。

**焼町土器**(第130図7・8、PL.54) 共に眼鏡状突起を配した曲隆線文の両側に沿って、尖頭状の篋状具または棒状具の深い単沈線で半肉彫的な曲線文を施す。胎土は多量の長石粗・細砂を含むE類である。

**中期中葉**(第130図9・10、PL.54) やや雑然としているが、9はL縄文を10は0段多条のRL縄文を縦位方向に施す。10の胎土は、雲母の粗・細砂を含むB類である。

**唐草文土器系**(第130図11、PL.54) 胴部にL縄文を縦位施文し、頸部に横位隆帯文を、口縁部に縦位の単沈線文を充填的に施す。胎土は灰白色岩片・長石・輝石の粗・細砂を含むD類である。

### c. 後期

型式判別の不能な中期中葉～後期前半の21点を含めて、総数158点が存在する。分布状況は、中期と同様に2区を主体に3区がこれに次いで多く、1・4区では皆無またはそれに近似した状況を呈する。細別内訳は、堀之内1式が128点と最多を占め、同2式4点、加曾利B2式7点、高井東式1点、後期中葉1点であり、断続的ながら前葉～中葉段階の土器で構成され、後半段階以降が欠落する。ここでは、堀之内1式6点、同2式2点、加曾利B2式2点、高井東式1点の合計11点を掲載した。

**堀之内1式**(第130図12～18、PL.54) 口頸部が無文で頸部が強く括れる12・16・18等の口縁部破片と、単沈線のS字状渦巻文や懸垂文を施してLR縄文を充填施文する14・15等の胴部破片が目立つ。これらは「小仙塚類型」や「矢太神沼類型」に比定される一群と考えられる。胎土には、灰白色・赤色岩片や輝石・長石・角閃石等の礫および粗・細砂を含むD類が主体を占めるが、13のように雲母の粗・細砂を含有するA類も僅少ながら認められる。

**堀之内2式**(第130図19、PL.54) 口唇部が「く字状」に短く内折し、口縁部に沈線の横帯文を施してLR縄文を充填施文する。胎土は雲母の粗・細砂を含むA類である。

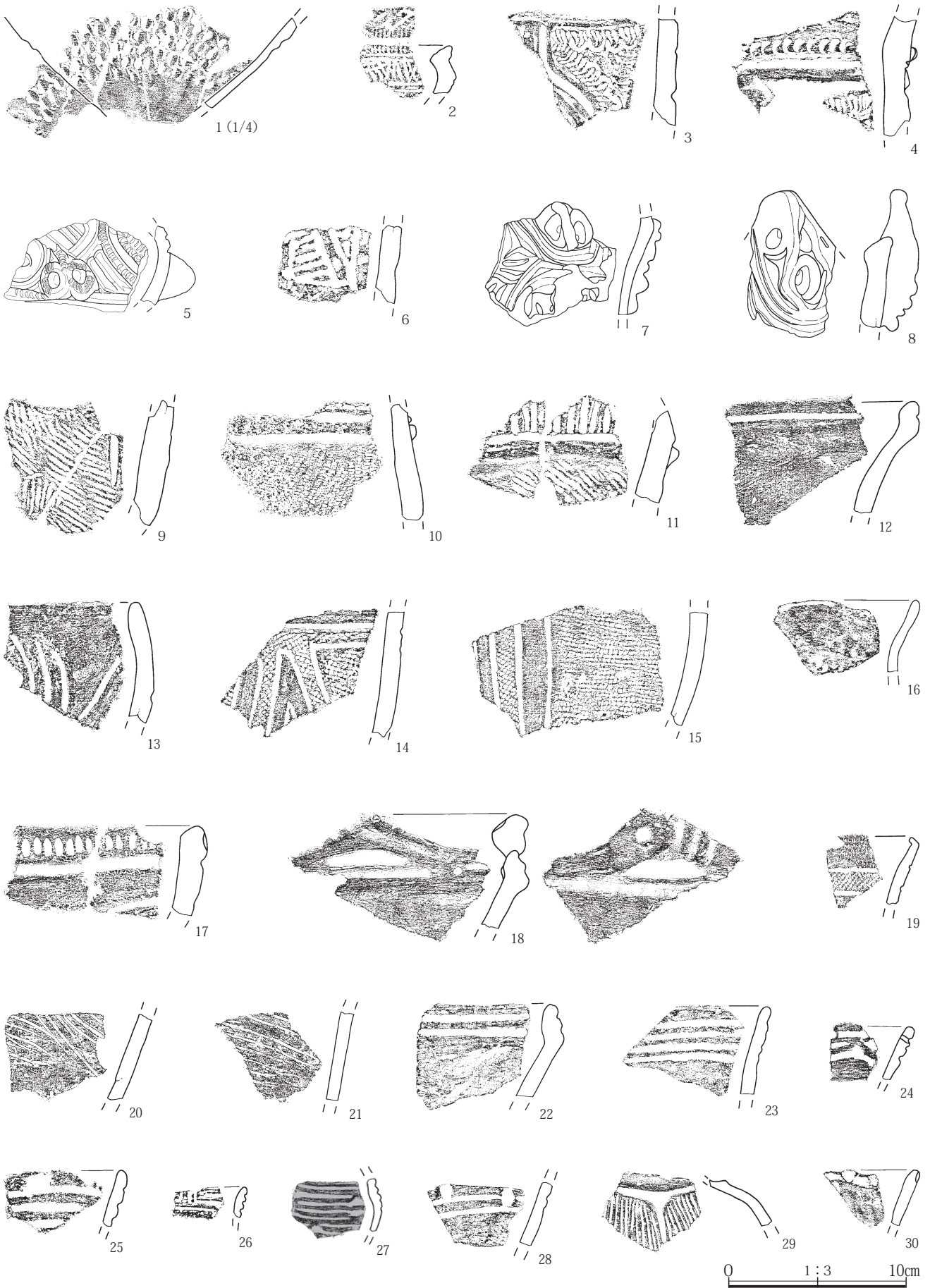
**加曾利B2式**(第130図20・21、PL.54) 20・21は同一個体であり、頸部に半截竹管状具のやや密集した斜線文を施す。胎土は雲母の粗・細砂を含むA類であり、上述の堀之内2式を含めて後期中葉段階にも一定量が確認できる点は注目される。

**高井東式**(第130図22、PL.54) く字状に内折する口縁部に2条の横位沈線文を施す。

### d. 晩期末葉～弥生時代前期

土偶2点を含めて総数399点が存在するが、その内の95%に相当する381点が2区に集中し、他区は皆無に近い状況となる。こうした状況の背景については前述したが、当該期の土坑(墓坑)群が2区に集中立地することに関連性を持つと考えられる。第34表に示したように、文様を基準に分類すれば沈線文9点、浮線文13点、条痕文211点、無文166点となる。浮線文は基本的に鉢や浅鉢土器と関連し、同様に条痕文は深鉢土器との関連性が強いと考えられるが、沈線文については鉢・浅鉢と共に深鉢との関連性もあり、明確には区分できない。また、無文についても明確な区分はできないが、粗製の破片が多数を占めることから、深鉢土器との関連性が強いと思われる。各土器とも小破片であり明確な型式比定は困難であり、ここでは土坑出土土器との関連性を加味して、便宜的に晩期末葉～弥生時代前期段階の土器群として扱うと共に、各文様を中心にして特徴的な土器を掲載した。ちなみに、浮線文土器は6点、沈線文7点、条痕文5点、無文4点である。以下、文様を中心にして記述する。

**浮線文**(第130図23～28、PL.54) いずれも口縁部に複数条の横線文を施し、陽刻技法により隆線化した断面形がやや低平な蒲鉾状の浮線文であり、三角形状を呈するものは認められない。個別の文様では、24・27が匹字文を構成するが、27は上下に対向して配置される。25・26・28は、浮線文に抉り状の刺突を加えて工字文を構成する。27は口縁部に横帯状の浮線文を施す。23の深鉢を除いて、他は浅鉢である。胎土については、23・24が花崗岩起源と推定される雲母の粗・細砂を含むA類、25・26・28が結晶片岩の礫・粗砂や雲母細砂を含むB類であり、先述の後期土器に比べてA・B類の占める比率が高



第130図 遺構外出土遺物 1

い点は注目される。

**沈線文**(第130・131図29～35、PL.54・55) 口縁部や頸部に横位の沈線文を施すものを一括した。30は口唇部直下に凹線状の浅い沈線文を横位施文し、同部外端に挟り状の刺突を加える。31は双頭状の波状口縁を持ち、細密条痕文を斜位に施文する。また、波頂下に棒状具の短沈線状の刻みを加え、以下に篋状具の横線文を5条施す。32は口頸部が無文で、くびれ部に横線文を1条施す。34・35は、口縁部に1条の横線文を施し、LR縄文を充墳的に施文する。複合口縁の33もこれに類するが、横線文を欠く。壺の可能性のある29を除いて、他は半精製または粗製の深鉢土器と想定される。胎土は29・31・32が雲母の粗・細砂を含むA類で、34が結晶片岩の礫・粗砂や雲母細砂を含むB類である。

**条痕文**(第131図37～41、PL.55) 胴部から底部にかけて条痕文を縦・斜位に施すものを一括した。やや粗い櫛歯状具を用いる39を除いて、他は細密な条痕文を施す。器面調整状態は、40が半精製のなかなり整った磨きであるが、他は撫でに近似した粗い磨きであり、粗製深鉢土器と考えられる。器面の内外には、顕著な被熱風化・剥落や煤状炭化物付着が見られる。胎土は、37が雲母の粗・細砂を含むA類、41が結晶片岩の礫・粗砂や雲母細砂を含むB類であるが、主体となるのは灰白色・赤色岩片と長石・輝石等を含むD類である。

**無文**(第131図36・42～44、PL.55) 器面の内外を含めて文様の確認できないものを一括した。36は口唇部に小突起を付した半精製のな壺、42・43は半精製のな鉢か小型深鉢、44は粗製の深鉢と考えられ、43・44は外底面に木葉痕を持つ。胎土は、42が雲母の粗・細砂を含むA類、36・43が結晶片岩の礫・粗砂や雲母細砂を含むB類であり、粗製深鉢の44はD類となる。

**土偶**(第131図52・53、PL.55) 2点を検出した。いずれも中空土偶であるが、体部破片のみのために全体形状は不明である。52は、外面に丁寧な磨きを施して肩部に2条の沈線を巡らせ、腕部の装着部近縁のみに細密な刺突文を充墳施文する。内面は横位の撫で整形。頭部を欠くが、当初から作出されなかった可能性もある。53は、外面に丁寧な磨きを施して沈線文を縦・横位に施し、内面は指頭圧痕を残す粗い横位篋撫でとなる。胎土は、52が長石の粗・細砂を主体に含むE類、53が雲母の粗・細

砂を含むB類である。

## B. 縄文時代の石器

縄文時代に帰属する石器類に関しては、未製品1点を含む石鏃3点と削器1点の打製系列石器の他に、第33表に掲示した剥片類34点がある。前者の石器の出土位置は、石鏃が2区1点と3区2点であり、削器1点が2区となる。後者の剥片類では、2区からの出土が21点と全体の62%を占め、3区の9点、4区の4点がこれに次ぐ。両者ともに出土数量は僅少であるが、前述した土器の分布傾向と軌を一にしていると言えよう。

以下、石鏃の製品・未製品各1点を図化・掲示してその特徴を記述するが、詳細については145頁の石器観察表を参照されたい。

**石鏃**(第132図54・55、PL.55) 54は2区出土の黒曜石製の凹基無茎鏃で、表裏面共に押圧剥離により作出される。55は3区出土の裏面に打瘤を残す赤碧玉の縦長剥片を使用した未製品であり、右側縁部にはやや粗い加工痕が認められる。第33表のように、黒曜石の調整剥片類は2区でも11点確認できることから、54は遺跡内に石核または素材剥片を持ち込んで加工された可能性が高い。55の赤碧玉の剥片類は検出されていないが、五領ヶ台式期の78号土坑内から1点検出されており、同様に遺跡内での加工が想定される。

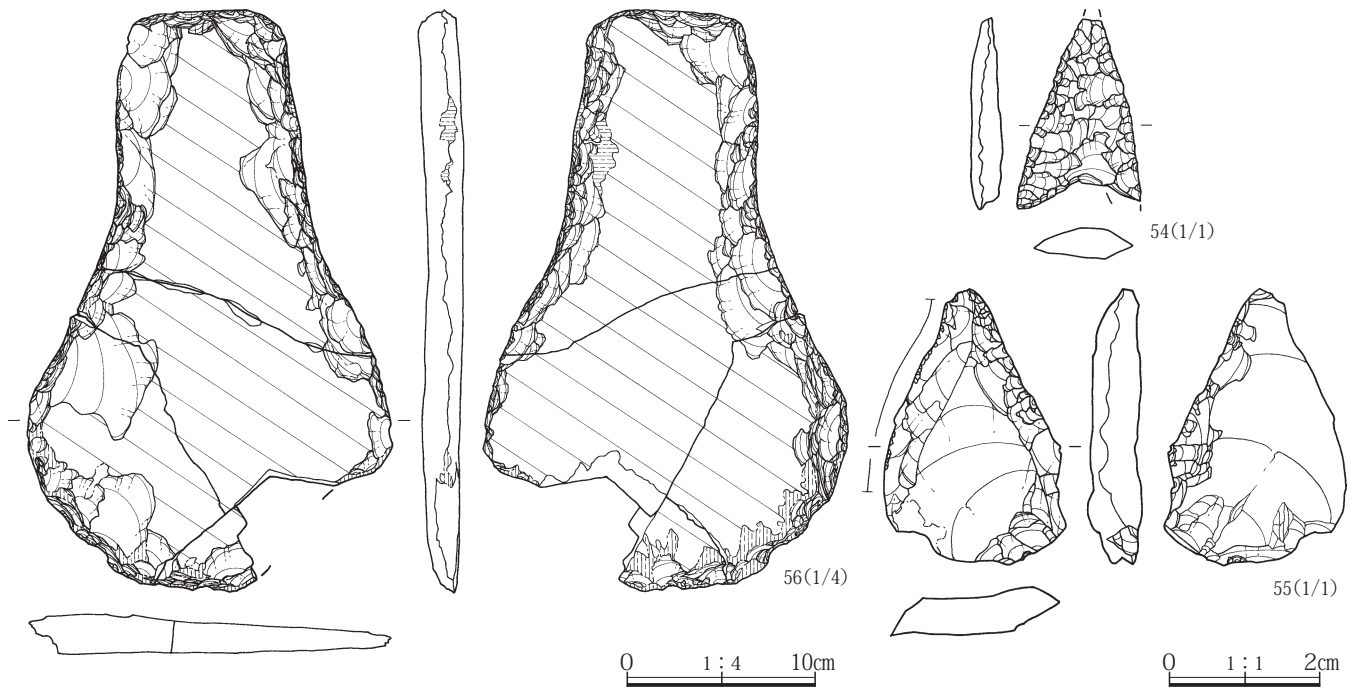
**剥片類** 図としては資料化していないが、第33表に掲示したように2～4区において、34点が検出されている。量的には2区を中心として3区→4区の順となるが、石材別では黒曜石19点、流紋岩9点、黒色頁岩3点、細粒・粗粒輝石安山岩・ガラス質安山岩が各1点となる。この黒曜石は石鏃に多用される石材であるが、0.2～5.9gまでの素材・調整剥片類が認められる。この他に、黒色頁岩や流紋岩・細粒輝石安山岩も、石鏃・削器・打製石斧などの石器類に多用される石材であり、当該調査では検出できなかったが、調査区域外での存在も想定される。また、粗粒輝石安山岩は後述する弥生時代の石鏃に多用される石材であり、縄文時代に帰属しない可能性もある。

## C. 弥生時代の土器(第131図45～51、PL.55)

弥生時代中期に帰属すると推定される土器は、2区から出土した7点のみであり、その全てを第131図45～51に掲載した。45～48は浅鉢と推定されるものであり、横線文やU字状・楕円状の沈線区画文を施し、LR縄文を



第131図 遺構外出土遺物2



第132図 遺構外出土遺物 3

充填施文すると共に、沈線文や縄文施文部に赤色塗彩を施すなど共通した要素が認められる。また、47は左端上部に補修孔と思われる焼成後の穿孔が存在する。49は、壺の肩部に3本単位の横位沈線文を施し、沈線間に浅い抉り状刺突を加えた工字文を構成する。下位では連携三角文あるいは菱形文を構成すると推定される。沈線文間には、やや細密なLR縄文を充填施文する。50は初現的な筒形土器であり、2～3本単位の横線文を多段に施して、その間隙を陽刻技法により隆線化している。また、文様間にはやや細密なLR縄文を横位に施文する。51は、壺の肩部に縦位の羽状沈線文を施し、外面全体に赤色塗彩する。胎土は、46・47・51が雲母の粗・細砂を含むA類、48～50が結晶片岩の礫・粗砂や雲母細砂を含むB類であり、縄文時代晩期末葉～弥生時代前期の土器群と同様にA・B類の占める比率が高い点は注目される。

#### D. 弥生時代の石器(第132図56、PL.55)

第132図に掲載した2区出土の56の石鍬1点が存在するのみである。粗粒輝石安山岩を用材とした長さ31cm×幅19cm×厚さ2.3cm×重さ1.4kgの大型品であり、側辺部全体に両面加工を施している。また、刃部先端には使用に伴う磨耗痕が、左右両側辺の上方及び裏面の左側上方には着柄痕と推定される摩滅痕が認めらる。刃部から体

部にかけて欠損や割れが存在するが、使用時における垂直方向の衝撃に起因すると考えられる。なお、表裏面は転石や水流等による円滑面や磨耗痕が皆無の節理面で構成されており、厚さ20mm前後の板状節理で構成された粗粒輝石安山岩の露頭から石材を採取している可能性が高い。この原産地については特定できないが、長野原町の吾妻川右岸域でもその露頭を確認している。

時期については、県内の弥生時代中期以前を中心とする多数の遺跡からの出土例があり、当該期に帰属することはほぼ確実である。また、前述の2区から出土している土器片7点が弥生中期に比定されるとすれば、当石鍬も同期となる可能性がある。



第28表 遺構外出土遺物観察表1

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置	残存率	計測値			胎土	成形・整形の特徴	
					口径	器高	底径			
第130図 PL.54	1	縄文土器 浅鉢?	遺構外	体部下位2/3	口径	-	底径	-	A7	篋状具により左斜め方向から連続した爪形文を横位・多段に器面を周回して施文。浮島式の貝殻腹縁文を横した施文・文様構成か。
第130図 PL.54	2	縄文土器 深鉢	遺構外	口縁部破片	口径	-	底径	-	B12	内削ぎ状の口唇部上面や口縁部に、細い半截竹管状具の横位沈線文や斜格子状の集合沈線文を施す。内外面共にやや被熱風化・荒れ。
第130図 PL.54	3	縄文土器 深鉢	遺構外	胴部破片	口径	-	底径	-	B8	低平な曲隆線文の区画内に沿って連続爪形文や半截竹管状具の接続した刺突文を施す。内面やや被熱風化。
第130図 PL.54	4	縄文土器 深鉢	遺構外	胴部破片	口径	-	底径	-	E8	隆帯文上やその区画内に半截竹管状具の爪形文を施す。内面横位磨き。
第130図 PL.54	5	縄文土器 深鉢	遺構外	胴部破片	口径	-	底径	-	E1	半截竹管状具の平行沈線によるパネル状の区画内に、同具の平行沈線文を充填的に施文。内外面共に被熱風化・荒れ。
第130図 PL.54	6	縄文土器 深鉢	遺構外	口縁部破片	口径	-	底径	-	A19	連続爪形文を施した眼鏡状突起や曲線文に沿って半截竹管状具の半肉彫的な沈線文を重畳施文。内面横位磨き。
第130図 PL.54	7	縄文土器 深鉢	遺構外	胴部破片	口径	-	底径	-	C6	眼鏡状突起を配した曲隆線文の両側に沿って、尖頭状の篋状具または棒状具の深い単沈線で半肉彫的な曲線文を施す。内面一部に被熱剥落。
第130図 PL.54	8	縄文土器 深鉢	遺構外	口縁部破片	口径	-	底径	-	D13	口縁部の突起部分。やや捻転した眼鏡状突起や曲隆線文に沿って単沈線の曲線文を施す。内外面共にやや被熱風化・荒れ。
第130図 PL.54	9	縄文土器 深鉢	遺構外	胴部破片	口径	-	底径	-	D8	L縄文を縦・横位に施し、単沈線文を縦位に施文。内面横位磨き。
第130図 PL.54	10	縄文土器 深鉢	遺構外	胴部破片	口径	-	底径	-	D8	O段多条R縄文を斜位に施文し、横位の隆帯文を施す。内外面共に被熱風化、内面荒れ・剥落。
第130図 PL.54	11	縄文土器 深鉢	遺構外	胴部破片	口径	-	底径	-	A18	L縄文を縦位施文し、頸部に隆帯文を、口縁部に縦位の単沈線文を充填的に施す。内外面共にやや被熱風化、内面一部被熱剥落。
第130図 PL.54	12	縄文土器 深鉢	遺構外	口縁部破片	口径	-	底径	-	D1	く字状に内折する口端部に横線文を施す。内外面共に丁寧な横位磨き。
第130図 PL.54	13	縄文土器 鉢?	遺構外	口縁部破片	口径	-	底径	-	D5	口縁部に単沈線の重畳した弧線文を施す。内外面共にやや被熱風化。
第130図 PL.54	14	縄文土器 深鉢	遺構外	胴部破片	口径	-	底径	-	A14	胴部に沈線区画文を施し、LR縄文を充填施文。内面やや粗い横位磨き。
第130図 PL.54	15	縄文土器 深鉢	遺構外	胴部破片	口径	-	底径	-	D7	沈線懸垂文を施し、LR縄文を縦・斜位に充填施文。内面横位磨き、外面一部に煤状炭化物付着。
第130図 PL.54	16	縄文土器 深鉢	遺構外	口縁部破片	口径	-	底径	-	D11	口唇端部に外面側への短い折返し状の整形痕を残す。口頸部は無文で、括れ部に僅かな沈線文が見られる。外面やや風化、内面横位磨き。
第130図 PL.54	17	縄文土器 深鉢	遺構外	口縁部破片	口径	-	底径	-	A3	口唇部がく字状に短く内折する。沈線の横帯区画内にLR縄文を充填施文。内外面共にやや風化・荒れ。
第130図 PL.54	18	縄文土器 深鉢	遺構外	口縁部破片	口径	-	底径	-	B6	口端部がく字状に内折する波状口縁。口端部に浅い円形刺突文や凹線状の横線文を施す。内面にも同様の刺突文や沈線文を施文。内外面共に丁寧な横位磨き。
第130図 PL.54	19	縄文土器 深鉢	遺構外	胴部破片	口径	-	底径	-	B5	半截竹管状具の斜線文を施す。内面一部に煤状炭化物付着。内外面共に燻べ焼きによる暗灰色を呈する。20と同一個体。
第130図 PL.54	20	縄文土器 深鉢	遺構外	胴部破片	口径	-	底径	-	A2	半截竹管状具の斜線文を施す。内面に煤状炭化物付着。内外面共に燻べ焼きによる暗灰色を呈する。19と同一個体。
第130図 PL.54	21	縄文土器 深鉢	遺構外	口縁部破片	口径	-	底径	-	C3	口縁部に棒状具による刻み目状の縦位短沈線や、幅広の横線文を施す。内外面共に被熱風化・荒れ。
第130図 PL.54	22	縄文土器 深鉢	遺構外	口縁部破片	口径	-	底径	-	B2	波状口縁。く字状に内折する口縁部に2条の横位沈線文を施す。内外面共に横位磨き、やや被熱風化。
第130図 PL.54	23	縄文土器 深鉢	遺構外	口縁部破片	口径	-	底径	-	D10	口縁部に4条の横線文を施し、陽刻技法により隆線化。内面横位磨き、外面被熱風化。半精製深鉢土器。
第130図 PL.54	24	縄文土器 浅鉢	遺構外	口縁部破片	口径	-	底径	-	D10	口縁部の横線文に陽刻技法を施して隆線化し、一部に挟り状の刺突を加えて卍字文を構成。左側の破断面に直径4mmの焼成前穿孔。内外面共に横位磨き。
第130図 PL.54	25	縄文土器 浅鉢	遺構外	口縁部破片	口径	-	底径	-	A16	口唇下に浅い挟り状の刺突や口縁部に3条の横線文を施す。内面横位磨き、内外面共にやや被熱風化・荒れ。
第130図 PL.54	26	縄文土器 浅鉢	遺構外	口縁部破片	口径	-	底径	-	A16	口縁部の横線文に陽刻技法を施して隆線化し、工字文を構成。部分的にLR縄文が残存。器厚5mmと薄い。内面横位磨き。
第130図 PL.54	27	縄文土器 浅鉢	遺構外	胴部破片	口径	-	底径	-	B1	口縁部の横線文に陽刻技法を施して隆線化し、挟り状の刺突を加えて上下に対向する卍字文を構成。外面赤色塗彩、内面やや粗い横位撫で。
第130図 PL.54	28	縄文土器 浅鉢	遺構外	胴部破片	口径	-	底径	-	B1	体部に数条の横線文を施し、挟り状の刺突を加えて工字文を構成か。内外面共に横位磨き。
第130図 PL.54	29	縄文土器 壺?	遺構外	肩部破片	口径	-	底径	-	B4	櫛歯状具のやや粗い条痕文を縦位に施文。浅い凹線によりT字状の意匠を構成し、その上位には陽刻技法的に微隆起線文を作出。内面横位磨き、外面一部に煤状炭化物付着。

第2章 調査された遺構と遺物

第29表 遺構外出土遺物観察表2

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置	残存率	計測値			胎土	成形・整形の特徴	
					口径	器高	底径			
第130図 PL.54	30	縄文土器 深鉢	遺構外	口縁部破片	口径	-	底径	-	B4	口唇部直下に凹線状の浅い沈線文を横位施文し、当部外端に抉り状の刺突を加える。内外面共に横位撫で。粗製深鉢土器か。
第131図 PL.55	31	縄文土器 深鉢	遺構外	口縁部破片	口径	-	底径	-	D1	双頭状の波状口縁。細密条痕文を斜位に施文。波頂下に棒状具の短沈線状の刻みを加え、以下に篋状具の横線文を5条施す。内面やや粗い横位磨き、内外面共にやや被熱風化。半精製深鉢土器か。
第131図 PL.55	32	縄文土器 深鉢	遺構外	口縁部破片	口径	-	底径	-	A2	括れ部に横位の細沈線文を1条施す。内外面共に横位磨き。
第131図 PL.55	33	縄文土器 深鉢	遺構外	口縁部破片	口径	-	底径	-	A2	口縁部がやや肥厚する複合口縁。口縁部にLR縄文を横位施文。内面横位磨き、やや被熱風化。半精製深鉢土器。
第131図 PL.55	34	縄文土器 深鉢	遺構外	口縁部破片	口径	-	底径	-	B10	口縁部にLR縄文を横位施文し、下位に横線文を施す。内面横位磨き。半精製深鉢土器。
第131図 PL.55	35	縄文土器 深鉢	遺構外	口縁部破片	口径	-	底径	-	E2	小波状口縁か。口縁部にやや細密なLR縄文を横位施文し、下位に横線文を施す。内面横位磨き、外面やや被熱風化。半精製深鉢土器。
第131図 PL.55	36	縄文土器 壺?	遺構外	口縁部破片	口径	-	底径	-	A11	山形状の小突起を付す波状口縁。口頸部は無文。内外面共に横位磨き。半精製の壺か。
第131図 PL.55	37	縄文土器 深鉢	遺構外	胴部破片	口径	-	底径	-	D7	細密条痕文を斜位に施文。内面やや粗い横位磨き、被熱風化・一部剥落。粗製深鉢土器か。
第131図 PL.55	38	縄文土器 深鉢	遺構外	胴部破片	口径	-	底径	-	B3	細密条痕文を縦位に施文。内外面共に被熱風化・一部剥落、内面下位に煤状炭化物付着。
第131図 PL.55	39	縄文土器 深鉢	遺構外	胴部破片	口径	-	底径	-	E2	櫛歯状具のやや粗い条痕文を縦位に施文。内面撫で状の粗い横位磨き。内外面共にやや被熱風化。
第131図 PL.55	40	縄文土器 深鉢	遺構外	胴部破片	口径	-	底径	-	A11	細密条痕文を縦位に施文。内面横位磨き、外面被熱風化・一部剥落。
第131図 PL.55	41	縄文土器 深鉢	遺構外	底部1/4	口径	-	底径	(9)	D12	細密条痕文を縦・斜位に施文。底外端部が外側にやや突出。内外面共に被熱風化・荒れ。粗製深鉢土器か。
第131図 PL.55	42	縄文土器 深鉢	遺構外	底部1/2	口径	-	底径	5.7	A20	外面横位磨き、内面撫で状の横位磨き。内外面共にやや被熱風化。
第131図 PL.55	43	縄文土器 深鉢	遺構外	底部1/2	口径	-	底径	(6.0)	D4	外周面に接合痕残る。外底面に木葉痕。内面横位磨き。
第131図 PL.55	44	縄文土器 深鉢	遺構外	底部1/4	口径	-	底径	(10)	E5	底外端部が外側にやや突出。内外面共に被熱風化・荒れ。外底面に木葉痕。無文の粗製深鉢土器か。外面粗い縦・斜位磨き、内面やや粗い縦・横位磨き。
第131図 PL.55	45	弥生土器 浅鉢	遺構外	口縁部破片	口径	-	底径	-	F1	細密なLR縄文を横位・多段に施文し、口縁部に凹線状の浅い沈線文を縦・横位に施して工字文的な意匠を構成。沈線文部分に赤色塗彩。内外面共に燻べ焼きによる黒灰色を呈する。内面やや丁寧な横位磨き。
第131図 PL.55	46	弥生土器 浅鉢	遺構外	胴部破片	口径	-	底径	-	A12	やや細密なLR縄文を横・斜位に施文し、口縁部に横線文を複数条施す。沈線内や体部下位の縄文施文部に赤色塗彩。内面丁寧な横位磨き。
第131図 PL.55	47	弥生土器 浅鉢?	遺構外	口縁部破片	口径	-	底径	-	A21	口縁部から体部にかけて沈線の横線文やU字文・曲線文を施し、LR縄文を充填施文後に沈線をなぞり返す。縄文と沈線文の施文部位に赤色塗彩。内外面共に燻べ焼きと丁寧な磨きにより黒灰色の光沢を帯び、一部に煤状炭化物付着。左側の破断面際に直径5mmの焼成後穿孔あり。
第131図 PL.55	48	弥生土器 浅鉢	遺構外	胴部破片	口径	-	底径	-	C4	弧線文や横線文を施し、LR縄文を充填施文。沈線文を含む縄文施文部に赤色塗彩。内面横位磨き、内外面共に一部に煤状炭化物付着。
第131図 PL.55	49	弥生土器 壺	遺構外	肩部破片	口径	-	底径	-	B6	3本単位の横位沈線文を施し、上位の沈線間に浅い抉り状刺突を加えて変形工字文の意匠を構成。下位では連携三角文あるいは菱形文を構成か。沈線文間にやや細密なLR縄文を充填施文し、沈線文をなぞり返す。内面横位磨き。
第131図 PL.55	50	弥生土器 筒形土器	遺構外	胴部上位~中位 1/4	口径	-	底径	-	E10	胴部に横線文を施し、陽刻技法により隆線化。沈線区画間にやや細密なLR縄文を横位施文。内面丁寧な横位磨き、外面一部に煤状炭化物。初現的な筒形土器か。
第131図 PL.55	51	弥生土器 壺?	遺構外	肩部破片	口径	-	底径	-	A8	肩部に棒状具による縦位の羽状沈線文を施し、全面に赤色塗彩する。内面風化・剥離。
第131図 PL.55	52	縄文土器 土偶	遺構外	頸部~肩部2/3	口径	-	底径	-	C1	頭部や胴部以下が欠落するが、頭部については作出されなかった可能性もある。肩部に2条の沈線を巡らせ、腕部の装着部近縁のみに細密な刺突文を充填施文。外面丁寧な磨き、内面横位撫で。
第131図 PL.55	53	縄文土器 土偶	遺構外	胴部破片	口径	-	底径	-	A16	縦・横位の沈線文を施す。外面丁寧な磨き、内面指頭圧痕を残す粗い横位磨き。土偶の胴部破片か。

第30表 遺構外出土遺物観察表3

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				石材	成形・整形の特徴	備考
				長 幅	厚 重	厚 重	厚 重			
第132図 PL.55	56	打製石器 石鏃	38-X-20 4/5	長 幅	30.6 19.2	厚 重	2.3 1396.0	粗粒輝石安山岩	側辺部全体に両面加工が認められる。表裏面の先端刃部付近に摩滅痕が認められ使用痕の可能性はある。左右両側辺の上方及び裏面の左側上方には摩滅痕が認められ着柄痕の可能性はある。表裏面には節理面が広範囲に認められ板状節理の露頭から石材を採取していると考えられる。	
第132図 PL.55	54	剥片石器 石鏃	38-Y-20 4/5	長 幅	(2.5) (1.6)	厚 重	0.4 1.3	黒曜石	面的な二次加工が表裏面の全体に認められる。	
第132図 PL.55	55	剥片石器 石鏃未成 品	3区 完形	長 幅	3.7 2.4	厚 重	0.8 5.0	赤碧玉	右側辺の全体に両面加工が認められ形態の特徴から石鏃未成品と判断した。素材剥片の主要剥離面が大きく認められるが背面側の左側辺には微細剥離痕が集中する。	

第31表 縄文・弥生土器の胎土分類1

分類	特 徴		備 考
A 類	A1	少量の円磨度の進んだ珪質乳白色・灰白色・赤色・黒色岩片や石英と微量の雲母・長石・角閃石の粗・細砂を含む緻密な胎土。	主として雲母を含有するグループ
	A2	少量の円磨度の進んだ珪質乳白色・黒色岩片や長石・角閃石・石英・灰白色岩片と微量の雲母の粗・細砂を含む緻密な胎土。	
	A3	少量の円磨度の進んだ珪質乳白色・灰白色岩片や長石・石英・角閃石の粗・細砂と中量の雲母細砂を含む緻密な胎土。	
	A4	少量の長石・角閃石や円磨度の進んだ赤色岩片と微量の雲母の粗・細砂を含む緻密な胎土。	
	A5	少量の長石・石英・雲母や円磨度の進んだ赤色岩片と微量の輝石の粗・細砂を含む緻密な胎土。	
	A6	中量の円磨度の進んだ石英礫・粗砂と少量の長石・輝石・角閃石・赤色岩片や微量の雲母の粗・細砂を含む緻密な胎土。	
	A7	中量の円磨度の進んだ石英礫・粗砂や長石の粗・細砂と少量の雲母・角閃石・赤色岩片の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。	
	A8	中量の長石や少量の円磨度の進んだ輝石・角閃石・石英および珪質乳白色・灰白色・赤色・黒色岩片と微量の雲母の粗・細砂を含む緻密な胎土。	
	A9	中量の円磨度の進んだ赤色岩片や少量の珪質乳白色・灰白色・黒色岩片および微量の雲母・長石・輝石・石英の粗・細砂を含む緻密な胎土。	
	A10	中量の円磨度の進んだ赤色岩片と少量の珪質乳白色・灰白色・黒色岩片や角閃石・石英の粗・細砂および微量の雲母細砂を含む緻密な胎土。	
	A11	中量の長石や少量の円磨度の進んだ珪質乳白色・赤色・黒色岩片と角閃石・石英および微量の雲母の粗・細砂を含む緻密な胎土。	
	A12	中量の長石・雲母の粗・細砂と少量の円磨度の進んだ花崗岩礫や石英・輝石および珪質乳白色・赤色岩片の粗・細砂を含む緻密な胎土。	
	A13	中量の円磨度の進んだ黒色岩片や少量の珪質乳白色・灰白色岩片の礫・粗砂と少量の長石・輝石・角閃石・石英および微量の雲母の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。	
	A14	中量の円磨度の進んだ珪質乳白色・黒色岩片の礫・粗砂と少量の長石・輝石や灰白色・赤色岩片の粗・細砂および微量の雲母細砂を含む緻密な胎土。	
	A15	多量の長石や中量の角閃石、円磨度の進んだ灰白色・赤色岩片と少量の輝石・石英および微量の雲母の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。	
	A16	多量の長石と少量の角閃石・石英や円磨度の進んだ灰白色・赤色・黒色岩片および微量の雲母の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。	
	A17	多量の長石と少量の輝石・角閃石や円磨度の進んだ珪質乳白色・灰白色岩片および微量の雲母の粗・細砂と中量の赤色岩片礫・粗砂を含むやや粗雑な胎土。	
	A18	多量の長石・雲母と中量の円磨度の進んだ石英や少量の角閃石の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。	
	A19	多量の円磨度の進んだ石英や長石・雲母と中量の角閃石および少量の珪質乳白色・赤色岩片の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。	
	A20	多量の長石や中量の円磨度の進んだ石英・雲母と少量の珪質乳白色・赤色岩片の粗・細砂を含む緻密な胎土。	
	A21	多量の円磨度の進んだ石英礫・粗砂や雲母粗・細砂と中量の長石および少量の輝石の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。	
B 類	B1	少量の円磨度の進んだ結晶片岩・輝石・長石・石英や珪質の黒色・乳白色岩片と灰白色・赤色岩片および微量の雲母の粗・細砂を含む緻密な胎土。	主として結晶片岩を含有するグループ
	B2	少量の円磨度の進んだ結晶片岩の礫・粗砂や雲母・石英および珪質乳白色・赤色岩片の粗・細砂を含む緻密な胎土。	
	B3	少量の円磨度の進んだ結晶片岩の礫・粗砂と長石・石英・輝石や珪質乳白色・赤色・黒色岩片の粗・細砂および微量の雲母細砂を含む緻密な胎土。	
	B4	中量の円磨度の進んだ結晶片岩や珪質の黒色・乳白色岩片と少量の石英・赤色岩片および微量の輝石・角閃石・雲母の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。	
	B5	中量の円磨度の進んだ結晶片岩や珪質の黒色・乳白色岩片の礫・粗砂と少量の灰白色・赤色岩片、輝石・角閃石の粗・細砂および雲母細砂を含む緻密な胎土。	
	B6	中量の円磨度の進んだ結晶片岩や少量の珪質黒色・乳白色岩片の粗・細砂と少量の雲母細砂を含むやや緻密な胎土。	
	B7	中量の円磨度の進んだ結晶片岩・珪質黒色岩片の礫・粗砂と少量の珪質乳白色・赤色岩片や石英の粗・細砂および少量の雲母細砂を含む緻密な胎土。	
	B8	多量の円磨度の進んだ結晶片岩や中量の珪質乳白色岩片の礫・粗砂と少量の灰白色岩片・輝石・雲母の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。	
	B9	多量の円磨度の進んだ珪質の黒色・乳白色岩片と中量の結晶片岩の粗・細砂や少量の雲母細砂を含むやや緻密な胎土。	
	B10	多量の円磨度の進んだ珪質の黒色・乳白色岩片と中量の結晶片岩・赤色岩片の粗・細砂や少量の雲母細砂を含むやや緻密な胎土。	
	B11	多量の円磨度の進んだ珪質の黒色・乳白色岩片と中量の結晶片岩や灰白色・赤色岩片の礫・粗砂および少量の角閃石粗・細砂や雲母細砂を含むやや緻密な胎土。	
	B12	多量の円磨度の進んだ結晶片岩や珪質の黒色・乳白色岩片の礫・粗砂と多量の雲母・長石および少量の輝石、灰白色・赤色岩片の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。	

第2章 調査された遺構と遺物

第32表 縄文・弥生土器の胎土分類2

分類	特 徴	備 考
C 類	C1 少量の円磨度の進んだ珪質乳白色・灰白色岩片や長石・輝石・角閃石・石英の粗・細砂を含む緻密な胎土。	主として灰白色・珪質乳白色岩片や長石・輝石・石英・角閃石等を含有するグループ
	C2 少量の円磨度の進んだ珪質乳白色・灰白色・黒色岩片や微量の長石・角閃石・石英の粗・細砂を含む緻密な胎土。	
	C3 中量の円磨度の進んだ灰白色岩片や少量の珪質乳白色岩片・長石・輝石・石英と微量のチャートの粗・細砂を含む緻密な胎土。	
	C4 中量の円磨度の進んだ灰白色岩片と少量の珪質乳白色・黒色岩片・輝石・角閃石の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。	
	C5 中量の円磨度の進んだ石英・輝石・赤色岩片と少量の珪質乳白色・灰白色岩片や長石の粗・細砂を含む緻密な胎土。	
	C6 多量の円磨度の進んだ輝石や中量の長石・灰白色岩片の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。	
D 類	D1 少量の円磨度の進んだ赤色・灰白色・黒色・珪質乳白色岩片や角閃石・輝石・長石・石英の粗・細砂を含む緻密な胎土。	主としてC類+赤色岩片を含有するグループ
	D2 少量の円磨度の進んだ赤色・灰白色・珪質乳白色岩片や輝石・長石・石英の粗・細砂を含む緻密な胎土。	
	D3 少量の円磨度の進んだ赤色・灰白色岩片や輝石・長石・石英の粗・細砂を含む緻密な胎土。	
	D4 少量の円磨度の進んだ赤色岩片礫・粗砂と珪質乳白色・灰白色岩片や長石・石英・輝石・チャートの粗・細砂を含む緻密な胎土。	
	D5 中量の円磨度の進んだ輝石や少量の赤色・珪質乳白色岩片と長石・石英の粗・細砂および少量の灰白色岩片礫・粗砂を含むやや緻密な胎土。	
	D6 中量の円磨度の進んだ灰白色岩片や輝石と少量の赤色・珪質乳白色岩片および少量の長石・石英の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。	
	D7 中量の円磨度の進んだ灰白色岩片礫・粗砂と少量の赤色・珪質乳白色岩片や角閃石・輝石・長石・石英の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。	
	D8 中量の円磨度の進んだ灰白色岩片礫・粗砂や輝石粗・細砂と少量の赤色・珪質乳白色岩片および長石・石英の粗・細砂を含む緻密な胎土。	
	D9 中量の円磨度の進んだ珪質乳白色岩片・輝石と少量の灰白色・赤色・黒色岩片や石英の粗・細砂を含む緻密な胎土。	
	D10 中量の円磨度の進んだ珪質乳白色岩片や少量の灰白色岩片の礫・粗砂と少量の長石・輝石・石英および赤色・黒色岩片の粗・細砂を含む緻密な胎土。	
	D11 中量の円磨度の進んだ赤色岩片礫・粗砂や少量の灰白色岩片・長石・輝石・石英の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。	
D12 中量の円磨度の進んだ黒色・赤色・灰白色岩片の礫・粗砂と少量の長石・輝石・石英の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。		
D13 多量の円磨度の進んだ輝石や中量の長石・灰白色岩片と少量の赤色岩片の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。		
E 類	E1 中量の円磨度の進んだ長石・輝石や少量の角閃石・石英と灰白色・赤色岩片の粗・細砂を含む緻密な胎土。	主として長石を含有するグループ
	E2 中量の長石と少量の円磨度の進んだ石英・角閃石や珪質乳白色・赤色岩片の粗・細砂を含む緻密な胎土。	
	E3 中量の円磨度の進んだ長石・輝石・灰白色岩片や少量の赤色岩片・石英の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。	
	E4 中量の長石や円磨度の進んだ灰白色岩片と少量の赤色岩片・角閃石・石英の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。	
	E5 中量の長石や円磨度の進んだ珪質乳白色岩片と少量の輝石・角閃石・灰白色岩片の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。	
	E6 中量の長石や円磨度の進んだ珪質乳白色・灰白色・黒色岩片および少量の角閃石・赤色岩片の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。	
	E7 多量の長石や円磨度の進んだ輝石・灰白色岩片と少量の赤色岩片・角閃石・石英の粗・細砂を含む緻密な胎土。	
	E8 多量の長石や中量の円磨度の進んだ輝石および少量の珪質乳白色・灰白色・赤色岩片の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。	
	E9 多量の長石・角閃石と少量の円磨度の進んだ珪質乳白色・灰白色・赤色岩片の粗・細砂を含む緻密な胎土。	
	E10 多量の円磨度の進んだ長石・輝石や少量の珪質乳白色・灰白色岩片および石英の粗・細砂と少量の赤色岩片の礫・粗砂を含むやや緻密な胎土。	
F 類	F1 多量の円磨度の進んだ軽石礫・粗砂や長石粗・細砂と少量の赤色岩片礫・粗砂および角閃石粗・細砂を含むやや粗雑な胎土。	主として軽石を含有するグループ
	F2 多量の円磨度の進んだ軽石(角閃石安山岩)や中量の長石と少量の赤色岩片の粗・細砂を含むやや粗雑な胎土。	

凡 例

※各分類はルーペ等を使用した肉眼観察による相対的なものである。  
 ※夾雑物の粒径分類については「新版 標準土色帳」の「土壌調査用チャート」に準拠した。

第33表 遺構外出土剥片石材別数・重量一覧

調査区	黒色頁岩		黒曜石		細粒輝石安山岩		粗粒輝石安山岩		流紋岩		ガラス質安山岩		合 計	
	点数	重量g	点数	重量g	点数	重量g	点数	重量g	点数	重量g	点数	重量g	点数	重量g
2	2	38.4	11	5.6	1	27.6	0	0	7	41.2	0	0	21	112.8
3	1	9.2	5	7.7	0	0	0	0	2	18.5	1	1.2	9	36.6
4	0	0	3	2.7	0	0	1	112.8	0	0	0	0	4	115.5
合 計	3	47.6	19	16.0	1	27.6	1	112.8	9	59.7	1	1.2	34	264.9

第34表 土坑出土土器数量一覧(縄文時代)

区	番号	前期			中期				後期				晩期末葉					合計										
		諸磯a	諸磯b	十三菩提	五領ヶ台	勝坂2	勝坂3	焼町	加曾利E2	加曾利E3	加曾利E3	加曾利E3	後期	称名寺I	堀之内I	加曾利B2	後期中葉		縄文	沈線文	浮線文	条痕文	無文	土偶				
1	1	土坑	1																						1			
2	2	土坑																							1			
2	8	土坑																							6			
2	12	土坑																							2			
2	14	土坑																							1			
2	17	土坑																							16			
2	20	土坑																							3			
2	23	土坑																							1			
2	25	土坑																							27			
2	28	土坑																							2			
2	31	土坑																							8			
2	32	土坑																							1			
2	33	土坑																							3			
2	35	土坑																							1			
2	36	土坑																							6			
2	37	土坑																							3			
2	38	土坑																							6			
2	45	土坑																							2			
2	49	土坑																							2			
2	52	土坑																							2			
2	63	土坑																							58			
2	64	土坑																							48			
2	68	土坑																							5			
3	74	土坑																							1			
3	76	土坑																							1			
3	77	土坑																							1			
3	78	土坑																							7			
3	81	土坑																							3			
3	82	土坑																							2			
合計			1	5	3	6	4	1	1	1	1	2	1	1	1	2	2	5	1	1	2	8	25	4	127	17	2	220

第35表 遺構外出土土器数量一覧(縄文時代)

区	前期			中期				後期				晩期末葉					合計										
	諸磯a	諸磯b	諸磯c	十三菩提	五領ヶ台	勝坂2	勝坂3	新巻	焼町	加曾利E2	加曾利E3	加曾利E3	後期	堀之内I	堀之内I	加曾利B2		高井東	後期中葉	沈線文	浮線文	条痕文	無文	土偶			
1	3																									6	
2																											2
3	3	13	2	1	29	1	19	9	41	119	5	5	14	5	1	5	1	1	1	1	1	13	166	2	697	107	
4																											15
合計	6	13	2	1	30	20	2	9	44	134	5	21	7	124	4	7	1	1	9	13	211	166	2	825	2	825	

## 第7節 自然科学分析報告

### 第1項 自然科学分析の概要

当遺跡では、縄文時代晩期大洞A式並行期の遺物を出土する8・63・64号土坑から、黒曜石剥片計8点が出土した。当該期の遺構は周辺地域を含め発見例が少なく、黒曜石に関しても分析事例が極めて乏しい。このことから、当遺跡のみならず、群馬県域における黒曜石の供給・流通実態を解明する上で必要なものとして、以下の6項目の方法及び条件の下、株式会社パレオ・ラボへの委託業務として黒曜石の産地同定分析を実施した。分析担当者は、同社竹原弘展氏である。

(1) 産地分析に係る各元素の測定は、エネルギー分散型蛍光X線分析（非破壊法）による。

(2) 分析試料は精製水で洗浄後、蛍光X線分析計で測定する。尚、表面の風化が著しい資料については、サンドブラスト（研磨剤を吹き付ける道具）を用いて新鮮な部分を作成する。

(3) 測定元素は鉄(Fe)、カリウム(K)、マンガン(Mn)、ストロンチウム(Sr)、ルビジウム(Rb)、イットリウム(Y)、ジルコニウム(Zr)の7元素とする。

(4) X線照射範囲(分析範囲)については、CCDカメラ等の画像観察により原礫面を避けて平滑かつ新鮮な面を対象とし、真空雰囲気で行うものとする。

(5) 産地分析の基準資料として、最低限以下の産地黒曜石を使用する。

北海道白滝・置戸・十勝三股、青森県出来島・深浦、岩手県折居、秋田県金ヶ崎・脇本、宮城県湯ノ倉・色麻・秋保、山形県月山、新潟県板山、栃木県高原山、長野県小深沢・男女倉・星ヶ塔・麦草峠、神奈川県畑宿、静岡県上多賀・柏峠、東京都神津島（恩馳島）、島根県隠岐（久見）

(6) 産地分析・同定は、7元素の測定結果をもとにした産地資料群の判別図により行う。

### 第2項 西ノ上遺跡出土黒曜石製石器の 原産地同定

#### 1. はじめに

吾妻郡長野原町川原湯地内に所在する西ノ上遺跡から出土した縄文時代晩期の黒曜石製石器について、エネルギー分散型蛍光X線分析装置による元素分析を行い、産地を推定した。

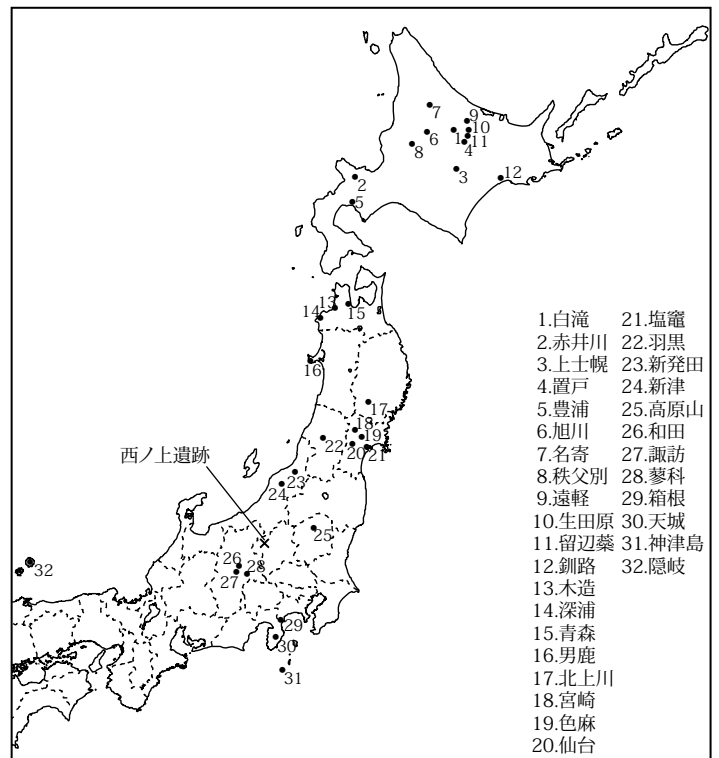
#### 2. 試料と方法

分析対象試料は、西ノ上遺跡より出土した黒曜石製石器8点である(第36表)。時期は、晩期末葉とみられている。試料は、測定前にメラミンフォーム製スポンジと精製水を用いて、測定面の表面の洗浄を行った。

分析装置は、エスアイアイ・ナノテクノロジー株式会社

第36表 分析対象の黒曜石製剥片類一覧

番号	出土遺構	器種	長さ(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	時期
1	2区	剥片	22	13	6	1.2	晩期末葉
2	63号土坑	剥片	25	9	7	1.1	晩期末葉
3		剥片	16	11	7	1.0	晩期末葉
4		剥片	21	15	4	1.4	晩期末葉
5	2区	剥片	19	14	7	2.0	晩期末葉
6	64号土坑	剥片	26	16	8	2.4	晩期末葉
7		剥片	26	15	9	2.7	晩期末葉
8	3区 81号土坑	剥片	21	14	5	1.3	晩期末葉



第133図 黒曜石産地分布図(東日本)

社製のエネルギー分散型蛍光X線分析計SEA1200VXを使用した。装置の仕様は、X線管ターゲットはロジウム(Rh)、X線検出器はSDD検出器である。測定条件は、測定時間100sec、照射径8mm、電圧50kV、電流1000 $\mu$ A、試料室内雰囲気は真空中に設定し、一次フィルタにPb測定用を用いた。

黒曜石の産地推定には、蛍光X線分析によるX線強度を用いた黒曜石産地推定法である判別図法を用いた(望月, 1999など)。本方法では、まず各試料を蛍光X線分析装置で測定し、その測定結果のうち、カリウム(K)、マンガン(Mn)、鉄(Fe)、ルビジウム(Rb)、ストロンチウム(Sr)、イットリウム(Y)、ジルコニウム(Zr)の合計7元素のX線強度(cps; count per second)について、以下に示す指標値を計算する。

- 1) Rb分率=Rb強度 $\times$ 100/(Rb強度+Sr強度+Y強度+Zr強度)
- 2) Sr分率=Sr強度 $\times$ 100/(Rb強度+Sr強度+Y強度+Zr強度)
- 3) Mn強度 $\times$ 100/Fe強度
- 4) log(Fe強度/K強度)

次に、これらの指標値を用いた2つの判別図(横軸Rb分率-縦軸Mn強度 $\times$ 100/Fe強度の判別図と横軸Sr分率-縦軸log(Fe強度/K強度)の判別図)を作成し、各地の原石データと遺跡出土遺物のデータを照合して、産地を推定する。この方法は、できる限り蛍光X線のエネルギー差が小さい元素同士を組み合わせて指標値を算出するため、形状、厚み等の影響を比較的受けにくく、原則として非破壊分析が望ましい考古遺物の測定に対して、非常に有効な方法であるといえる。ただし、風化試料の場合は、log(Fe強度/K強度)の値が減少する点に注意が必要である(望月, 1999)。試料の測定面には、なるべく平滑な面を選んだ。

原石試料は、採取原石を割って新鮮な面を露出させた上で、産地推定対象試料と同様の条件で測定した。第37表に判別群一覧とそれぞれの原石の採取地点および点数を、第133図に各原石の採取地の分布図を示す。

### 3. 分析結果

第38表に石器の測定値および算出した指標値を、第134図と第135図には黒曜石原石の判別図に石器の指標値をプロットした図を示す。視覚的にわかりやすくするため、図では各判別群を楕円で取り囲んである。

分析の結果、8点すべてが星ヶ台群(長野県、諏訪エ

第37表 東日本黒曜石産地の判別群

都道府県	エリア	判別群名	原石採取地
北海道	白滝	白滝1	赤石山山頂(43), 八号沢露頭(15)
		白滝2	7の沢川支流(2), IK露頭(10), 十勝石沢露頭直下河床(11), アジサイの滝露頭(10)
	赤井川	赤井川	曲川・土木川(24)
	上士幌	上士幌	十勝三股(4), タウシュベツ川右岸(42), タウシュベツ川左岸(10), 十三ノ沢(32)
	置戸	置戸山	置戸山(5)
		所山	所山(5)
	豊浦	豊浦	豊泉(10)
	旭川	旭川	近文台(8), 雨紛台(2)
	名寄	名寄	忠烈布川(19)
	秩父別	秩父別1	中山(65)
		秩父別2	
		秩父別3	
	遠軽	遠軽	社名淵川河床(2)
	生田原	生田原	仁田布川河床(10)
留辺蘂	留辺蘂1	ケショマツ川河床(9)	
	留辺蘂2		
釧路	釧路	釧路市営スキー場(9), 阿寒川右岸(2), 阿寒川左岸(6)	
青森	木造	出来島	出来島海岸(15), 鶴ヶ坂(10)
	深浦	八森山	岡崎浜(7), 八森山公園(8)
	青森	青森	天内川(6)
秋田	男鹿	金ヶ崎	金ヶ崎温泉(10)
		脇本	脇本海岸(4)
岩手	北上川	北上折居1	北上川(9), 真城(33)
		北上折居2	
		北上折居3	
宮城	宮崎	湯ノ倉	湯ノ倉(40)
	色麻	根岸	根岸(40)
	仙台	秋保1	土蔵(18)
		秋保2	
	塩竈	塩竈	塩竈(10)
山形	羽黒	月山	月山荘前(24), 大越沢(10)
		櫛引	たらのき代(19)
新潟	新発田	板山	板山牧場(10)
	新津	金津	金津(7)
栃木	高原山	甘湯沢	甘湯沢(22)
		七尋沢	七尋沢(3), 宮川(3), 枝持沢(3)
		西餅屋	芙蓉パーライト土砂集積場(30)
		鷹山	鷹山(14), 東餅屋(54)
		小深沢	小深沢(42)
		土屋橋1	土屋橋西(10)
		土屋橋2	新和田トンネル北(20), 土屋橋北西(58), 土屋橋西(1)
		古峠	和田峠トンネル上(28), 古峠(38), 和田峠スキー場(28)
		ブドウ沢	ブドウ沢(20)
		牧ヶ沢	牧ヶ沢下(20)
高松沢	高松沢(19)		
諏訪	星ヶ台	星ヶ台(35), 星ヶ塔(20)	
蓼科	冷山	冷山(20), 麦草峠(20), 麦草峠東(20)	
神奈川	箱根	芦ノ湯	芦ノ湯(20)
		畑宿	畑宿(51)
		鍛冶屋	鍛冶屋(20)
静岡	天城	上多賀	上多賀(20)
		柏峠	柏峠(20)
東京	神津島	恩馳島	恩馳島(27)
		砂糠崎	砂糠崎(20)
島根	隠岐	久見	久見パーライト中(6), 久見採掘現場(5)
		箕浦	箕浦海岸(3), 加茂(4), 岸浜(3)

第2章 調査された遺構と遺物

リア)の範囲にプロットされた。第38表に、判別図法により推定された判別群名とエリア名を示す。

4. おわりに

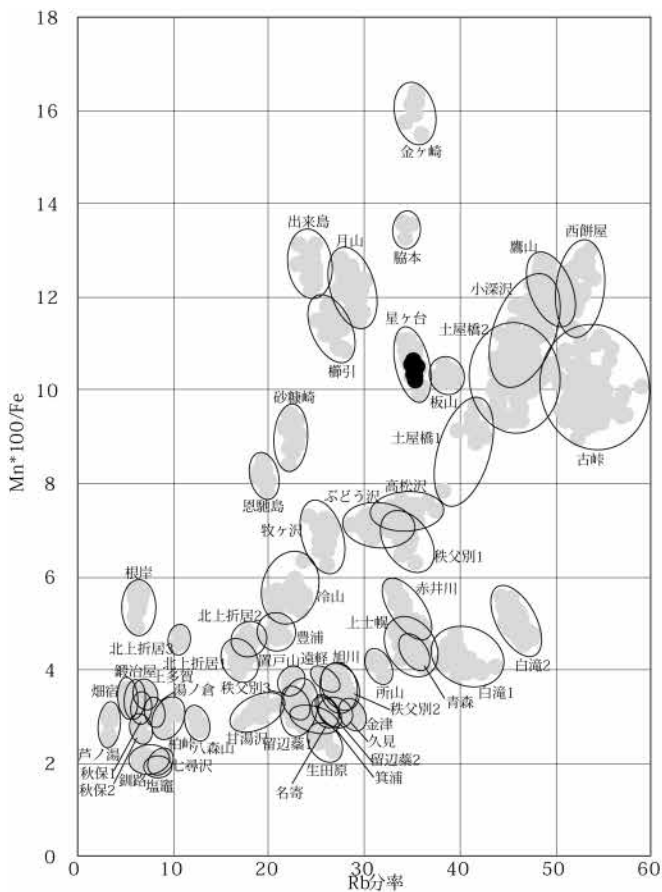
西ノ上遺跡より出土した縄文時代晩期の黒曜石製石器8点について、蛍光X線分析による産地推定を行った結果、8点いずれも諏訪エリア産の黒曜石と推定された。

引用文献

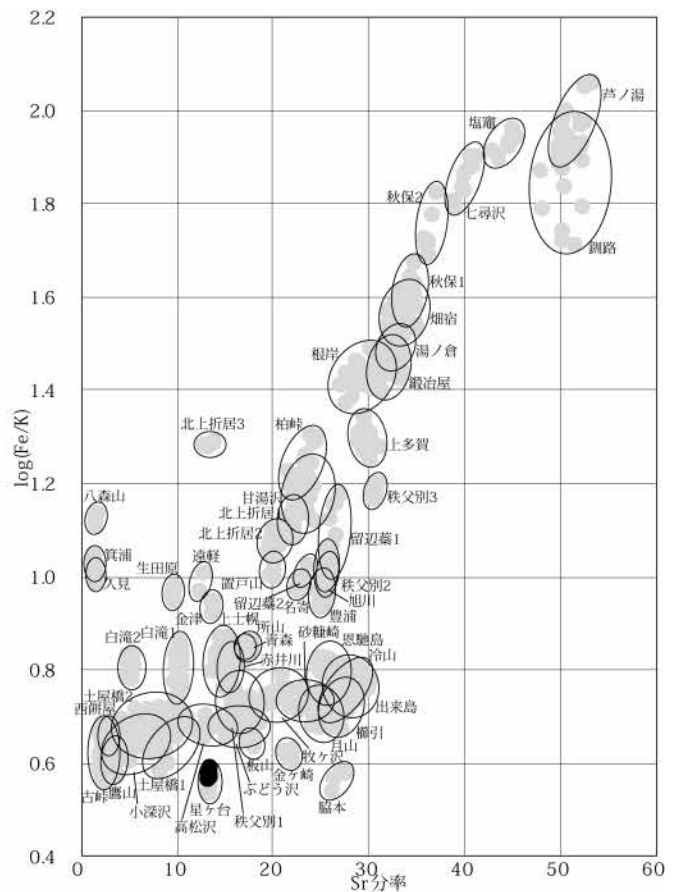
望月明彦(1999)上和田城山遺跡出土の黒曜石産地推定。大和市教育委員会編「埋蔵文化財の保管と活用のための基礎的整理報告書2—上和田城山遺跡篇—」:172-179,大和市教育委員会。

第38表 測定値および産地推定結果

分析No.	K強度 (cps)	Mn強度 (cps)	Fe強度 (cps)	Rb強度 (cps)	Sr強度 (cps)	Y強度 (cps)	Zr強度 (cps)	Rb分率	Mn*100 Fe	Sr分率	log Fe/K	判別群	エリア	分析No.
1	226.7	87.6	834.2	578.9	214.2	288.1	558.1	35.31	10.50	13.07	0.57	星ヶ台	諏訪	1
2	224.1	89.6	875.9	556.0	208.9	273.7	535.0	35.33	10.23	13.28	0.59	星ヶ台	諏訪	2
3	281.6	113.4	1066.5	727.2	272.2	364.2	706.1	35.13	10.64	13.15	0.58	星ヶ台	諏訪	3
4	290.5	113.8	1101.8	764.2	286.4	380.2	745.9	35.11	10.33	13.16	0.58	星ヶ台	諏訪	4
5	310.6	123.8	1188.8	798.1	299.0	394.9	770.8	35.27	10.41	13.22	0.58	星ヶ台	諏訪	5
6	223.4	86.4	840.4	542.9	203.7	272.8	520.0	35.27	10.28	13.23	0.58	星ヶ台	諏訪	6
7	304.4	123.9	1179.2	763.1	285.8	378.0	727.1	35.43	10.51	13.27	0.59	星ヶ台	諏訪	7
8	269.6	105.7	1002.3	662.4	253.5	330.6	651.1	34.91	10.54	13.36	0.57	星ヶ台	諏訪	8



第134図 黒曜石産地推定判別図(1)



第135図 黒曜石産地推定判別図(2)



## 第3章 調査のまとめ

### 第1節 天明泥流下畑の調査

#### 西ノ上遺跡天明泥流下畑の様相

八ッ場ダム地域の遺跡の特徴の一つが天明3年浅間山噴火に伴う軽石や泥流に覆われた畑や集落などの遺構群である。畑遺構の調査では、畝・畝間溝の形状や耕作具痕跡等によって耕作方法や作物などを追求し、これに併せて地形や道、溝などに区切られた一団の畝・畝間溝群を抽出することにより、耕作単位や土地所有の単位を追求しようとする。厚い泥流とAs-A降下軽石に覆われた畑面は非常に保存が良いと共に、As-A軽石降下と泥流到達の時間差がこの間に行われた作業、行動の痕跡をも保存している。

本遺跡の調査でも、特に平成14年度調査に於いては詳細な地表面観察により畝・畝間溝の形状による畑面分類や作物の追求がなされた<sup>(1)</sup>。前報告では、

- 1 畝・畝間溝の状態
  - ①畝・畝間溝の間隔が90～120cmの広い畑
  - ②畝・畝間溝の間隔50～60cm内外の狭い畑
  - ③畝・畝間溝が不明瞭な畑
- 2 As-A軽石降下後、泥流到達までの間の耕作行動
  - ①畝の片側に土寄せを行っている畑
    - a 畝の南側に土寄せ
    - b 畝の北側に土寄せ
  - ②畝の両側に土寄せを行っている畑
  - ③畝が潰されている畑
  - ④なにもしていない畑
  - ⑤As-A降下前から耕作されていない畑
- 3 畝上面の形状
  - ①畝上に1条の作物痕跡を持つ畑
  - ②畝上に2条の作物痕跡を持つ畑
  - ③作物痕は不明瞭だが畝上の凹凸が激しい畑
  - ④作物痕は不明瞭だが畝上に凹凸が少ない畑

という観察視点により、1,430㎡ほどのさほど広くはない調査面積の中で、12区画18面の畑が記載された。さらに、平坦面や植物痕跡、畝構成土壌内の旧暦6月25日降下かとされる火山灰の存在についても注意されている。

今次発掘でも天明泥流下の畑が調査区のほぼ全面で見つかった。残念ながら残された図面、写真等からは、上記1以外の項目を読み取ることは困難であり、さらに上段の発掘区では被災後の耕地復旧にかかる復旧坑が掘削されていて泥流下の畑面が残されていない部分も多い。しかし下段の発掘区は泥流堆積が厚かったためであろう、復旧坑掘削が行われていないため旧地表面の攪乱が少なく、かつ平成14年度調査所見からの類推によって、畑面の状況の復元的な想定が可能である。

#### 壬申絵図から見る西ノ上地区の畑

天明泥流下遺構のもう一つの特徴が、民俗資料や文献資料との直接的ともいえる対比が可能にある点にある。浅間山天明噴火は大災害であったため、これにかかわる公私の文書が多く残されている。このため、噴火の経過や人々の行動を読み取ることができる。また、発掘された遺跡の状態と文書が対比されることによって、各地域で災害発生から復興にかかる対応が、更に詳細に明らかにされつつある<sup>(2)</sup>。畑遺構の検討に当たっては、伝統的な耕作法の聞き取り調査が作物の推定やヤックラ、土寄せなどの理解を進めた<sup>(3)</sup>。文書資料として直接的に天明3年の畑耕作の状況を示す資料は少ないものの、被災状況の報告文書や検地帳、明治初年の絵図を、発掘された遺構の状況と対比する試みも行われている<sup>(4)</sup>。

明治5年に壬申地券発行の達が出され、壬申地券地引絵図(以下壬申絵図)が作成される。群馬県立文書館蔵の壬申絵図吾妻郡川原湯村西ノ上・西ノ下部分を図に示した。本遺跡は遺跡名に採った字西ノ上地区の大部分を占めるが、ここは東を打越沢、西を大沢、北を吾妻川に画され、南も急傾斜地が背後に迫っていて、四囲が明確に区切られている。絵図は上が南を示していて、下端に带状に吾妻川が描かれる。吾妻川対岸の見通しの良い地点から見下ろすような視点で描かれたのであろう。図の右下部分3筆は字「西ノ下」にあたる。東西の沢が示され、南には蛇行する道があつて、これは発掘前の道路形状と良く対応する。泥流災害後のこの地域の復旧・復興が被災前の地割りをトレースするように復元したことが示されている。番付けは西南隅の275番から北に進んで字西



第136図 壬申地券地引絵図 西ノ上・西ノ下部分抜粋(上が南)

下の277番から279番を経て下段西から東に進み、北東隅の285番からは南に上り、上段287番からは西に戻って291番に至る。292番と293番は蛇行する道より南にある。

畑の地割りは中央近くで大きく南北に二分される。発掘区中央の傾斜部分がこの境界に当たると思われるが、傾斜部分も含めて畑として表現される。それぞれの畑の形状が南北に長い短冊状を呈する点、川寄りの下段が長く、上段が短く描かれる点なども発掘された畑遺構の様相との共通点を感じられる。ただし西ノ上地区全体の形状は、実際とかなり異なっている。現状の大沢・打越沢間が約200m、吾妻川岸から蛇行する道路の北端部までが約110mほどであるので、東西2、南北1の比率で横長の形状が描かれてしかるべきと思われるが、壬申絵図では東西1に対して南北1.5ほどと縦長の形状に描かれる。

### 貞享検地帳から見る西ノ上地区の畑

壬申絵図にはそれぞれ畑の所有者、等級、面積が記入されている。表に示したとおり、275・276番及び280番から293番までの16筆が西ノ上分として示されている。このうち275番と280番を除く14筆の面積、等級は長野原町保管の貞享3年検地水帳写(以下貞享検地帳)記載のそれと等しい。貞享の検地は、沼田藩領における真田信利による寛文検地時の無道な石盛からの更正を図る「お助け検地」として知られるが、川原湯村ではその域外であって、寛文検地の石高60石1斗1升に対し貞享検地では73石7斗5合とされる。そしてこの貞享検地の石高は、元禄14年、天保5年の郷帳を見てもそのまま踏襲されている。従って天明3年の川原湯村の石高も73石7斗5合とされていたとみて良い。ひいては西ノ上の畑が、天明3年時点にあっても貞享検地帳に示されたそれと等しい



第137図 西ノ上遺跡天明泥流下畑と壬申絵図番付けの対比想定

ものとされていて、これが壬申絵図作成時にも(275番と280番を除いて)引き継がれていると考えることができる。

貞享検地帳の西ノ上・西ノ下にかかる畑面積7反9畝29分(約7,930㎡)、壬申絵図の畑面積8反8畝3分(約8,737㎡)に対して、平成14年度調査と今次発掘された畑の面積を足し上げると9,941.22㎡、1町8分相当となる。西ノ上地区の畑全域を発掘したわけではない発掘面積が、貞享検地帳記載面積の1.25倍にもなる。壬申絵図の292番と293番は発掘区外に当たるため、この分は更に減算されるべきであるから、その差は更に大きくなる。山林や荒地ならともあれ、畑地の「縄延び」の範囲は越えるもののように思われる。

壬申絵図作成に際しては、明治5年3月に群馬県による廻状が出されていて、検地帳・名寄帳を取りそろえ、調べておく等の指示があるが、現地の測量に関しては触れられない。おおよその形状と検地帳との対応が確認できればよしとしたのだろうか。先に挙げたように青木は玉村町大字福島における天明3年の災害復旧状況を考察

する中で発掘遺跡と壬申絵図が比較的良く一致することを確認している。西ノ上ではこれとは様相が異なるようである。平野部の集落近傍の耕地と、人家から離れて孤立的にある、それも下畑、下々畑のみで構成される耕地との差が現れているかもしれない。

#### 貞享検地帳記載畑と壬申絵図記載畑の比較検討

貞享検地帳と壬申絵図を比較すると、上記の通り壬申絵図275番下々畑5畝6歩と280番下々畑2畝28歩に相当する面積が貞享検地帳には見当たらない。275番は西ノ上の南東隅にあたり、また280番は西下との地境に当たるので、この部分は貞享以後の新開畑であろうか。これ以外の筆については同面積の畑が見つかる。

壬申絵図記載281番下々畑8畝8歩は、貞享検地帳記載惣兵衛所有下々畑8畝8歩、282番下畑6畝歩は、同じく惣兵衛所有下畑6畝歩、283番下々畑4畝20歩は同じく与兵衛所有下々畑4畝20分に相当するとみる。貞享検地帳によると281番相当は幅15.5間×長16間(長短比1.03)、282番は幅12間×長15間(長短比1.25)、283番は

第3章 調査のまとめ

長10間×幅14間(長短比1.4)とある。3筆共に壬申絵図の吾妻川に近い北側列、すなわち発掘現場に合わせると発掘区の下段に相当する畑であるが、貞享検地帳では長短比の比較的近い長方形の畑として記載されている。ところが壬申絵図ではこの3筆が機械的に描いたかのように相似した南北に細長い形状で描かれる。長短比は281番8.13、282番7.63、283番9.38を示す。284番下畑8畝24歩は同与兵衛所有下畑8畝24歩に対応する。これは貞享検地帳でも12間×22間(長短比1.83)と比較的細長い形状が示されているが、絵図では長短比7.18で描かれていて、長短比の差は著しい。

上段の壬申絵図288番から291番についても、貞享検地帳記載値の長短比1.2～1.75に対して壬申絵図長短比2.2～4.24と差が認められるものの、かなり縮まっている。現地上下段間の傾斜面が、壬申絵図では下段の畑に即するものとして表現されていることが理解できる。

西ノ上遺跡畑から見た貞享検地帳・壬申絵図記載畑

壬申絵図における上下段の畑形状表現の差違は上記のように理解できるとすると、貞享検地帳記載畑の長幅は中段傾斜地を含まない畑面規模を反映しているものと考えられる。しかし発掘された天明泥流下畑と検地帳記載畑を比較すると、先述の通り泥流下で想定される畑面積が検地帳記載面積を大きく上回る。

この差の発生因として、一つには壬申絵図280番や275番相当が天明3年時点で既に耕作されていた可能性が

あげられる。貞享検地帳記載畑のうち、下段に相当すると思われる畑(壬申絵図の281番から285番)の短辺長を総計すると57間、103.6mとなるが、平成14年度調査1号畑から今次調査12区画西端までは156mに及ぶ。西側への耕地拡大は既になされていたのだろう。また、各筆においても、川縁や傾斜地を切り開く南北方向への拡張がなされていたであろう。壬申絵図284番は貞享検地帳での長が22間(約40m)とあり、記載された畑中最も長いのだが、発掘された畑を見ると、下段西部の畑はそろって、中間傾斜下端から発掘区北端まで40mを越えている。壬申絵図に近い状態までの耕地拡大が、貞享検地から天明3年までの間に成し遂げられていたと考えても良さそうである。

貞享検地帳・壬申絵図記載畑から見た西ノ上遺跡畑

再び壬申絵図281～284番を見ると、貞享検地帳記載の短辺長はそれぞれ15間半(28.18m)、12間(21.82m)、10間(18.18m)、12間(21.82m)とある。これらの筆は平成14年度調査4～12号畑、今次調査の第2～5区画のどこかに相当するものと考えられるが、3-2号畑が東西17.2mあるものの、単独の単位畑では各筆の幅にとっても及ばない。いくつかの単位畑が集まって一つの筆を形成する、逆に言えば一筆の畑は発掘調査で見られるいくつかの単位畑を包含することになる。ところが、今次調査第3区画では、内部を区分する明確な境界を見いだせない。今次調査第2区画畑から第3区画1号畑及び平成

第39表 壬申絵図と貞享検地帳の畑記載対比  
壬申絵図

番地	字	等級	畝	歩
275	西ノ上	下々	5	6
276	西ノ上	下々	1	10
277	西ノ上	下々	2	6
278	西ノ下	下々		28
279	西ノ下	下々	1	
280	西ノ上	下々	2	28
281	西ノ上	下々	8	8
282	西ノ上	下	6	
283	西ノ上	下々	4	20
284	西ノ上	下	8	24
285	西ノ上	下	4	22
286	西ノ上	下	8	12
287	西ノ上	下々		22
288	西ノ上	下	4	
289	西ノ上	下々	6	27
290	西ノ上	下々	9	16
291	西ノ上	下	8	12
292	西ノ上	下々	1	26
293	西ノ上	下々	2	6

貞享検地帳

記載順	字	地主	等級	畝	歩	長(間)	幅(間)	面積(m <sup>2</sup> )
								515.70
97	西ノ上	惣兵衛	下々	1	10	16	2.5	132.23
153	西ノ下	源右衛門	下々	2	6	5.5	12	218.18
154	西ノ下	惣兵衛	下々		28	7	4	92.56
155	西ノ下	惣兵衛	下々	1		10	3	99.17
								290.91
152	西ノ上	惣兵衛	下々	8	8	15.5	16	819.83
151	西ノ上	惣兵衛	下	6		12	15	595.04
149	西ノ上	与兵衛	下々	4	20	10	14	462.81
150	西ノ上	与兵衛	下	8	24	12	22	872.73
147	西ノ上	惣兵衛	下	4	22	19	7.5	469.42
148	西ノ上	惣兵衛	下	8	12	18	14	833.06
96	西ノ上	久兵衛	下々		22	9	2.5	72.73
146	西ノ上	久兵衛	下	4		12	10	396.69
145	西ノ上	源右衛門	下々	6	27	18	11.5	684.30
144	西ノ上	源右衛門	下々	9	16	22	13	945.45
143	西ノ上	源右衛門	下	8	12	21	12	945.45
98	西ノ上	権右衛門	下々	1	26	14	4	185.12
99	西ノ上	権右衛門	下々	2	6	11	6	218.18

14年度調査4号・5号畑部分は壬申絵図の281番に、今次調査第3区画2号・3号畑及び平成14年度調査6・7号畑は壬申絵図282番相当かと思われるのだが、この両者を分かつのは今次調査第3区画1号畑と2号・3号畑間の畝・畝間溝端部の境界であって、溝や道ではない。第3区画1号畑と2号畑では畝幅も異なり、差違が明確に現れるが、1号畑と3号畑では、畑の畝・畝間溝は端部を突き合わせ、あるいは入り組むような部分さえある。以東の畑についても同様で、発掘された単位畑から筆や所有関係を導き出すのはなかなか困難である。

さらに、この4筆の畑は南北に長く続いていて、285番、286番のように途中で分割されていない。従って、南北に並ぶ単位畑で様相が異なっていたとしても、あるいは東西に並ぶ単位畑で様相が異なっていたとしても、同一筆内で

の変化ということになる。

先に281番相当とした部分には、第2区画の畝幅の狭い畑とその東のAs-A軽石降下後に畝を潰した畑の両者があり、3号道を挟んでまた畝幅の狭い第3区画1号畑がある。さらに3号道東西走部を挟んで南側の第8・第9区画畑もここに含まれる。平成14年度調査5-1・5-2号畑は畝幅の狭い畑でそれぞれ円形平坦面がある。282番相当とした部分にも、畝幅の狭い畑、広い畑、As-A軽石降下後に畝を潰した畑の三者がある。同一筆内でも様々な耕作行動が行われていることが理解できる。

281・282番は同姓ながら異なる人物の所有地であるが、貞享検地帳では同じ惣兵衛所有地とされている。283番と284番は壬申絵図でも検地帳でも同所有者とされている。発掘時に設定された畑の単位は、所有を基礎とした畑区分としての筆とは独立した関係にあることが理解できる。平成14年度調査時に設定されたように、各種耕作行動の単位としての単位畑という観察視点が妥当であろう。

西ノ上遺跡の天明泥流到達時に、同じ筆の中でも様々な耕作行動が採られている状態であったことを確認した。耕作行動の差は耕作者の差、作物の差などを示すものであろう。これは現在の畑でもしばしば見られる事象であって、さほど異とするものではない。しかし、八ッ場ダム関連で調査され、大麻の大規模栽培が想定された東吾妻町上郷岡の原遺跡や長野原町石川原遺跡等で見られる、広大な面積で同形状の畑が連続する場面での耕作行動とは様相が異なるだろう。西ノ上遺跡では平成14年度調査で畑の詳細な観察を行っている。また、十分な記載には至らなかったものの、大麻ではない作物と思われる植物痕跡を確認している。これらを含め、八ッ場ダム地域各遺跡の調査成果を総合することによって、畑遺構の理解や当時の農業経に関する課題解決の道が開けることを期待したい。

注

- (1) 『久々戸遺跡(2)・中棚Ⅱ遺跡(2)・西ノ上遺跡・上郷A遺跡』公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2004
- (2) 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団編『自然災害と考古学』148-202 上毛新聞社 2013 など
- (3) 関俊明『浅間山大噴火の爪痕-天明三年浅間山災害遺跡-』新泉社 2010など
- (4) 『下湯原遺跡(1)』公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2018  
青木利文「玉村町大字福島における天明三年の災害復旧」『群馬文化』332 47-64 群馬地域文化研究協議会 2018

第40表 壬申絵図記載畑と天明泥流下畑の面積対比

壬申絵図 番地/面積a(m <sup>2</sup> )	天明泥流下畑		a/b	
	畑番号	面積b(m <sup>2</sup> )		
280 番 290.91 m <sup>2</sup>	H14-1	30.7	263.76	1.10
	H14-2	120.1		
	H14-3	76.9		
	1	36.06		
281 番 819.83 m <sup>2</sup>	H14-4	221.8	974.92	0.84
	H14-5a	72.5		
	H14-5b	112.9		
	H14-5c	20.4		
	H14-5d	26.5		
	2	149.07		
	2-2	99.17		
	3-1	247.06		
282 番 595.04 m <sup>2</sup>	8	25.52	728.41	0.82
	H14-6	76.3		
	H14-7a	30.3		
	H14-7b	14.6		
	3-2	74.42		
	3-3	252.47		
	3-3-2	124.91		
283 番 462.81 m <sup>2</sup>	9-1	85.08	476.97	0.97
	9-2	70.33		
	H14-8a	80		
	H14-8b	38.6		
284 番 872.73 m <sup>2</sup>	3-4	320.97	1106.86	0.79
	9-3	37.4		
	H14-9	80.7		
	H14-10a	9.9		
	H14-10b	39.9		
	H14-11	112.7		
	3-5	404.97		
	3-6	265.57		
285 番 469.42 m <sup>2</sup>	3-6-2	152.85	544.93	0.861
	9-4	40.27		
	H14-12	61.5		
	4	126.24		
286 番 833.06 m <sup>2</sup>	5	103.6	2039.14	0.409
	6	253.59		
	3-7	470.28		
	3-8	1442.41		
	3-9	86.18		
	9-5	40.27		

## 第2節 縄文時代末葉～弥生時代 前期の土坑群について

当該期に帰属する土坑については、第6節の129頁にて既述したように23基が存在し、その大半が墓と想定されることと、その主軸方位の「双方向性」やかなり密集した構築状況が認められること等から、集団墓を構成していた可能性を指摘した。ただし、これら土坑内の出土遺物の主体は、条痕文を施文した半精製・粗製土器の破片類であり、言うまでもなく人骨を検出できなかった点で墓としての機能・用途は確定的ではない。こうした点に留意しつつ、大形の深鉢土器や甕などの大形破片複数点を出土した25号や63号について、当遺跡と時期的に近似する墓坑群を調査した藤岡市沖Ⅱ遺跡<sup>(1)</sup>の事例を参考に、若干の分析を試みたい。

当遺跡から南東に約45km離れた沖Ⅱ遺跡では、弥生時代前期の土坑内に「完形またはそれに近い土器」を埋置した「土器埋設土壙」27基と、こうした土器埋設を伴わない「土壙」57基が確認されている。「土器埋設土壙」の土器は、2個体の合口や蓋を意識したもの、頸部や胴部上位を打割した壺・甕等その出土状況はやや多様であるが、それらの分布状況から相互に近接したA・Bの2群に分別されている。「土器埋設土壙」の中でAU-18号の1基は、構築状況に他との大差は見られないものの、土器内から人骨片が検出されている。他方、「土壙」の中で21基は「土器埋設土壙」と同一地点に形成され、相互に重複関係を持つものも存在することや、他の「土壙」も「土器埋設土壙」と近接しており、立地的にも密接な関係が窺える。また、これらの「土壙」の中で注目されるのは、複数個体の人歯出土や複数回の掘り返し痕跡が確認されたAD-25号と、底面付近から甕の大形破片を出土するAD-20～22・25・29・39号であり、前者は遺体を埋葬した「一次葬」の場と想定されている。

こうしたAU-18号やAD-25号等の埋葬行為を明示する状態は、他の同種土坑に確認されていないが、構築状況の類似性から「土壙」を一次埋葬施設に、「土器埋設土壙」を「再葬墓」として位置付けられている。

上述した西ノ上遺跡における土器の大形破片を伴う25・63号土坑の様相は、この一次埋葬施設のAD-20～

22・25・29・39号「土壙」に近似していると考えられる。その中で、25号出土の壺(第127図2)に見られる、口辺～肩部を打割して胴部の破断面を整形加工した行為は、沖Ⅱ遺跡の「土器埋設土壙」に埋置した、口辺～頸部を欠失する壺棺との共通性を看取することができる。ただし、土器の残存部位は全形の50%程度であり、南壁際に積み上げた状況も加味すれば、土器棺として土坑内に埋置された可能性は極めて低いだらう。こうした土器上半部の意図的欠損行為は、一次葬後の改葬人骨収納と関連性を持つと考えられるが、25号の壺も再葬墓に用いられた後に更に打割され、何らかの理由で当土坑内に埋置された履歴を想定することもできよう。

一方、当遺跡では再葬墓の「土器埋設土壙」の存在を含め、2分割されるような墓群の分布傾向は認められない。しかし、34・35・38・64号などの楕円形状土坑の主軸方位を見ると、34・35号のN48度Eに対して38・64号は約90度西方にずれたN29～32度Wの方位をとっている。このような様態差を埋葬遺体の頭位方向の「双方向性」と措定するならば、様相的には異なるものの共に類似した葬送観念の存在や双分的社会組織の一端を表象したものと理解することも可能だろう。

以上の諸点を勘案すれば、当遺跡では一次埋葬施設あるいは直葬墓のみで構成され、沖Ⅱ遺跡に顕著な再葬墓等の二次埋葬施設は形成されなかったか、あるいは場所を違えて調査区域外に存在したということが想定できよう。いずれにしても、八ッ場ダム建設に伴い調査された他の当該期遺跡の報告を待って、再検討を要する。

尚、弥生時代前期段階の63・64号土坑の埋没土中から出土した7点の黒曜石剥片の原産地同定については、先述したようにその全てが星ヶ台産という分析結果を得ている。群馬県内における黒曜石の時期別産地動向に関しては、大工原豊を中心とした研究者により、後期から晩期にかけて吾妻川ルートを通じた星ヶ塔系黒曜石の流通が活発であったことが論じられているが<sup>(2)</sup>、弥生時代前期においてもそうした流通動向が継続していたことを示唆するものとして注目しておきたい。

### 注・参考文献

- (1) 荒巻実・若狭徹・他 1986『C11 沖Ⅱ遺跡』藤岡市教育委員会
- (2) 大工原豊 2011「縄文時代における黒曜石の利用と展開—北関東の様相を中心として—」『日本考古学協会2011年度栃木大会 研究発表資料集』日本考古学協会2011年度栃木大会実行委員会

# 写真図版







1 遺跡遠景 平成27年度調査(5～9号復旧坑群) 北から



2 遺跡遠景 平成27年度調査 北から



3 遺跡遠景 平成27年度調査 南から



4 基本的な土壌堆積 南から



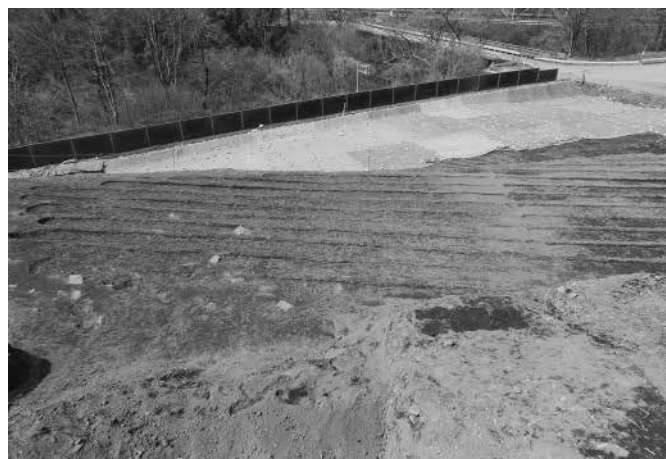
1 1号～4号復旧坑群 西から



2 1号～4号復旧坑群 上が南



1 1号・2号復旧坑群 東から



2 1号復旧坑群北部 南から



3 1号復旧坑群北部 西から



4 1号復旧坑群南部断ち割り状況 北から



5 1号復旧坑群南部断面 西から

# PL.4



1 2号・3号復旧坑群北部 南西から



2 2号・3号復旧坑群北部 西から



3 2号・3号復旧坑群南部 西から



4 3号復旧坑群北部 南から



5 2号～4号復旧坑群南部 南東から



6 2号～4号復旧坑群南部 東から



7 4号復旧坑群 東から



8 5号・6号復旧坑群 南から



1 7号～9号復旧坑群と第3区画畑南部 上が東



2 5号・8号復旧坑群 東から



3 5号復旧坑群と畑 東から



4 5号・6号復旧坑群と畑 西から



5 5号～8号復旧坑群 南から



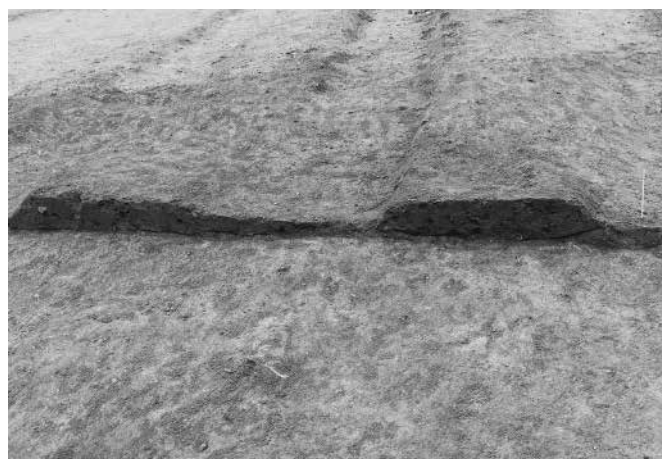
1 8号復旧坑群と畑 西から



2 7号復旧坑群東端部断面 北から



3 7号復旧坑群断面 西から



4 8号復旧坑群断面 西から



5 1号炭窯 東から



6 1号炭窯 西から



7 1号炭窯煙道部 東から



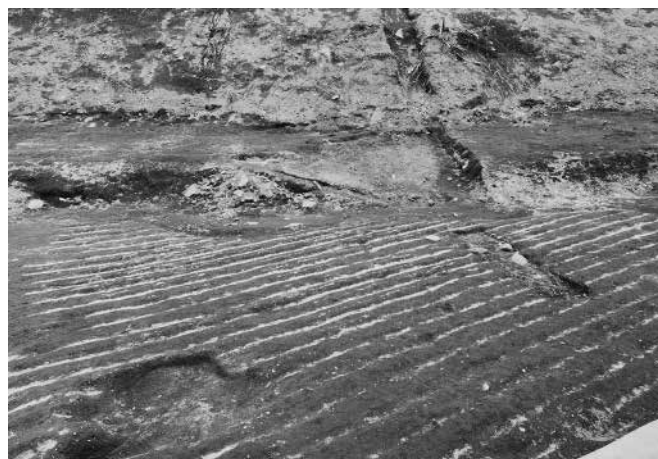
8 1号炭窯底部 西から



1 第2面 平成29年度調査 上が北



2 第1～3・8・9区画畑 西から



3 第1・2区画畑 2号道 北から



4 第2区画畑東部 南東から



5 第3区画1号～3号畑 北東から



1 第3区画4号畑以西 北東から



2 第3区画4号畑以西 東から



3 第3区画5号畑以东・第4・5区画 西から



4 第3区画6号・7号畑 北から



5 第3区画4号～6号畑・第9区画畑 東から



6 第3区画7号畑 北から

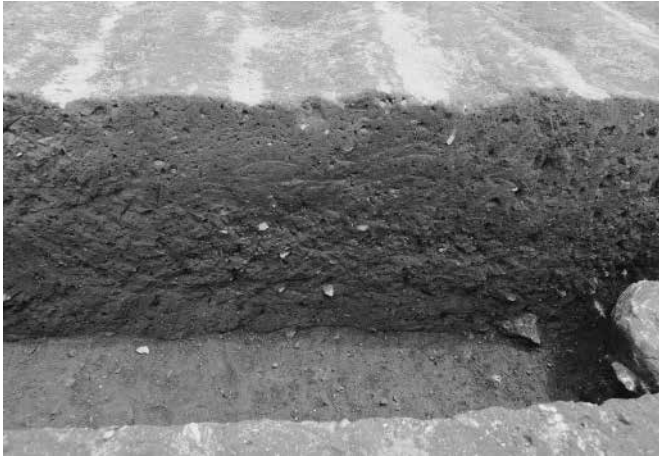


7 第3区画7号・8号畑・第9区画 北から

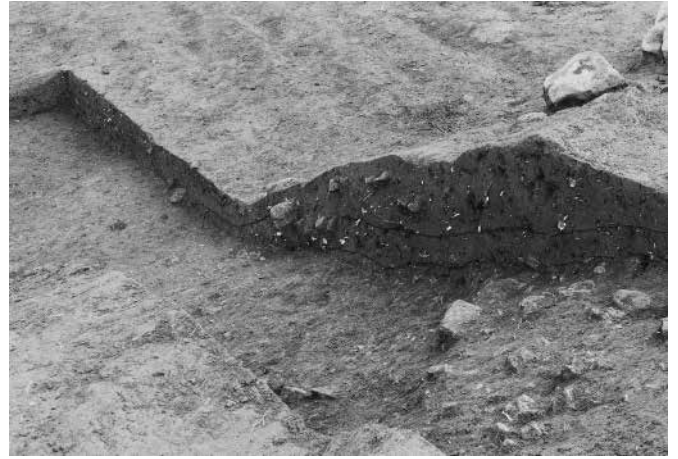


8 第3区画3号畑断面 西から





1 第3区画4号畑断面 東から



2 第3-第10区画間断面 北から



3 第3区画8号畑断面 北から



4 第3区画8号畑断面Aライン 東から



5 第3区画8号畑断面B 東から



6 第3区画8号畑断面C 東から



7 第3区画8号畑断面D 東から



8 第3区画8号畑断面E 西から



1 第3区画8号畑F・G断面調査状況 北から



2 第3区画8号畑断面F 西から



3 第3区画8号畑断面G 西から



4 第3～第7区画畑 北から



5 第3～第7区画畑 南から



6 第4区画畑 北から



1 第4区画畑・第5区画畑西部 上が北



2 第5区画畑東部 1号石垣・1号溝



1 第5区画畑東部 北東から



2 第5区画畑東部 東から



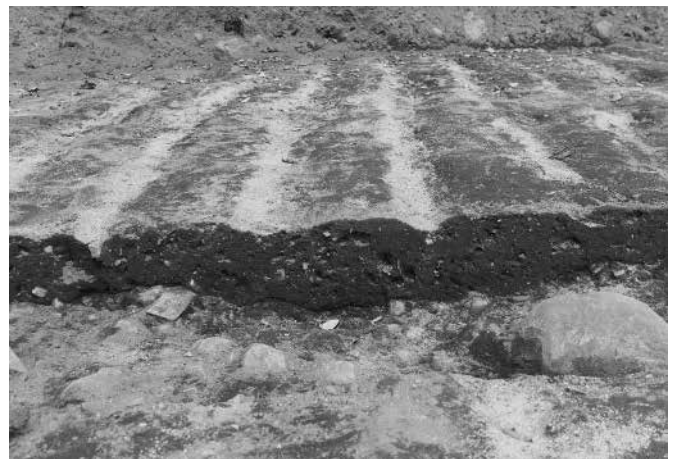
3 第5区画畑断面A 東から



4 第6区画畑断面A 西から



5 第6区画畑断面B 西から



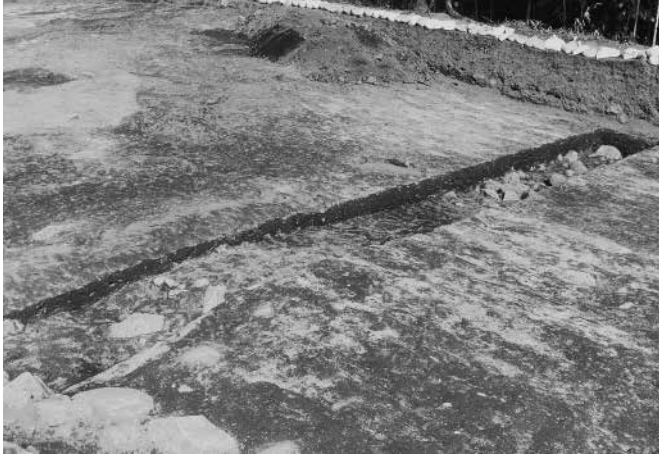
6 第6区画畑断面C 西から



7 第6区画畑断面D 西から



8 第7区画畑北部 南東から



1 第7区画1号畑 南西から



2 第7区画1号畑断面 南西から



3 第7区画2号畑 北から



4 第7区画2号畑 南西から



5 第7区画2号畑断面 南から



6 第7区画3号・4号畑 北から



7 第8・9区画畑 東から



8 第9区画畑と第3区画畑 北から



1 第9区画3号畑 北東から



2 第9区画4号畑 北西から



3 第10区画1～3号畑 上が南



4 第10区画1号畑 北から



5 第10区画1～3号畑 南東から



6 第10区画3号畑 南東から



7 第10区画3号畑 南から



1 第10区画5号畑 南東から



2 第10区画5号畑 南から



3 第10区画5号畑 南東から



4 第10区画1号畑断面 西から



5 第10区画2号畑断面 西から



1 第10区画5号畑断面 西から



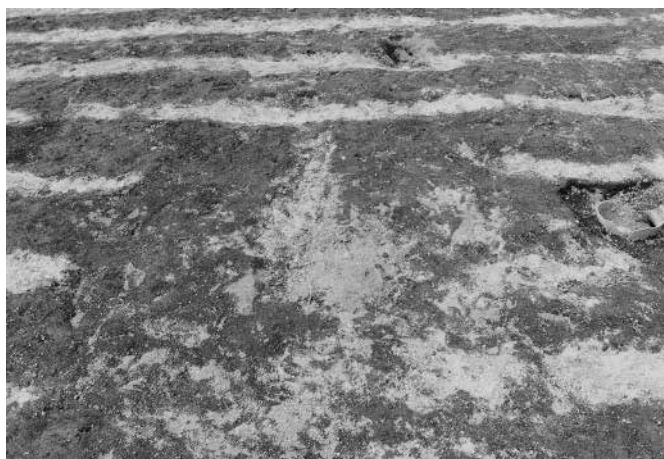
2 第11区画畑 西から



3 第11区画畑断面 西から



4 第12区画畑 東から



5 5号平坦面 南から



6 6号平坦面 南から



7 8号平坦面 南から



8 9号平坦面 南から





1 10号平坦面 北東から



2 10号平坦面 北西から



3 12号平坦面 北から



4 1号ヤックラ 北から



5 1号ヤックラ断面 西から



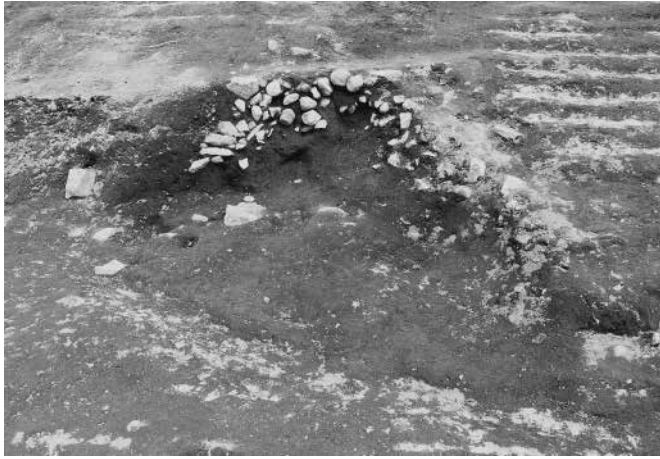
6 3号・4号ヤックラ 西から



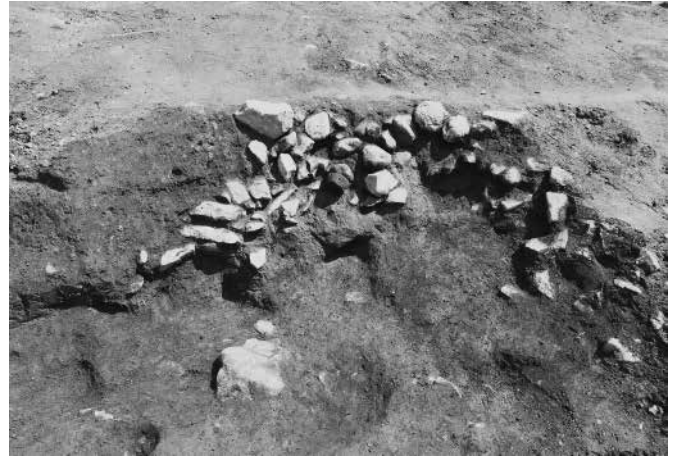
7 3号ヤックラ 西から



8 4号ヤックラ 西から



1 7号ヤックラ上面 北から



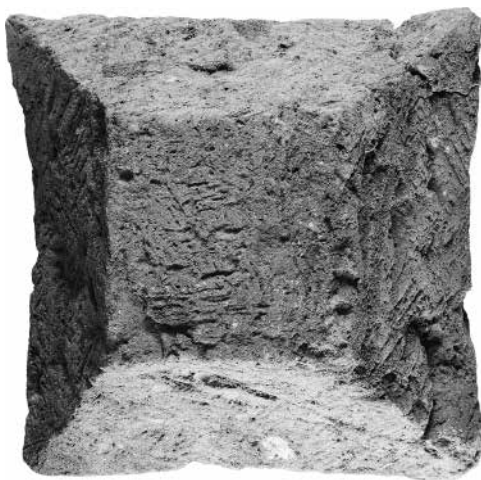
2 7号ヤックラ下面 北から



3 7号ヤックラ断面調査状況 北から



4 7号ヤックラ断面 西から



1



2



3

5 7号ヤックラ出土遺物



1 1号道 東から



2 1号道 北から



3 2号道 東から



4 1号~3号道 西から



5 4号道 北から



7 5号道 南から



6 5号道 北東から



1 5号道断面A 北から



2 5号道断面B 北から



3 6号道・3号石垣 北から



4 6号道・3号石垣 東から



5 3号石垣 北から



6 7号道 北から



7 8号道 北から



8 8号道 南から



1 10号道 西から



2 11号道 北から



3 12号道 東から



4 12号道断面 西から



5 1号溝・1号石垣 南西から



6 1号溝・1号石垣 南西から



7 1号溝・1号石垣 西から



1 2号炭窯 北から



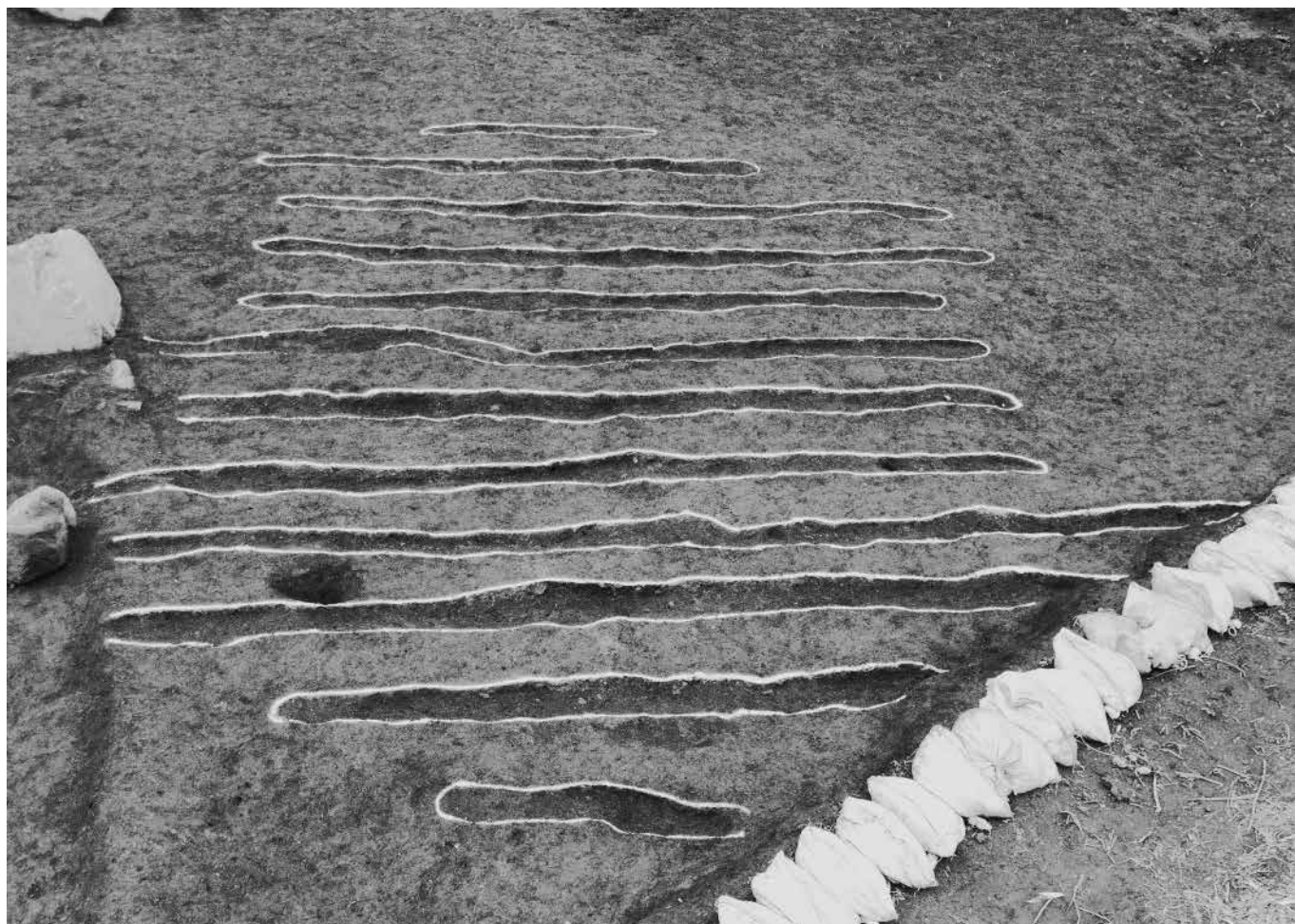
2 2号炭窯上部 西から



3 2号炭窯煙道部拡大 西から



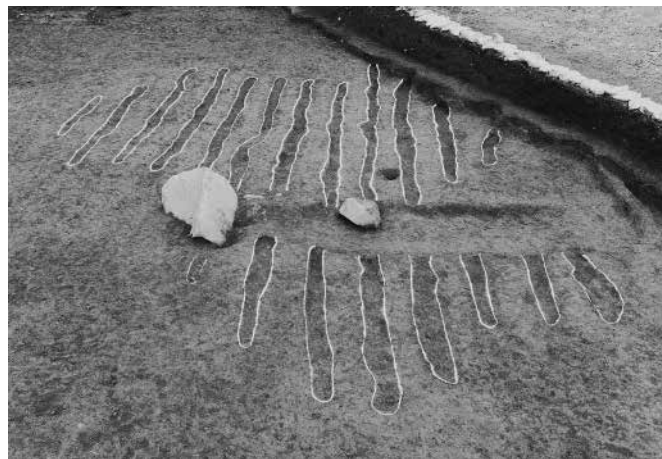
4 2号炭窯 北から



5 第3面畑 北から



1 第3面畑 北から



2 第3面畑 南東から



3 第3面畑 東から



4 第3面畑断面 南東から



5 3号土坑 南から



6 3号土坑断面 南から



7 4号土坑 南から



8 4号土坑断面 南から



1 6号土坑 南から



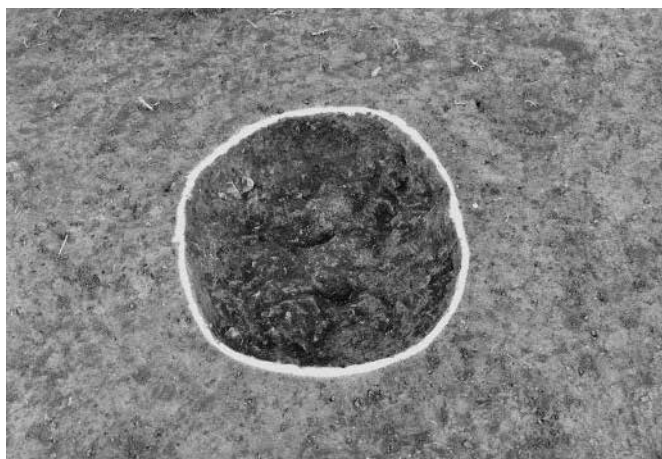
2 6号土坑断面 南から



3 55号土坑 北から



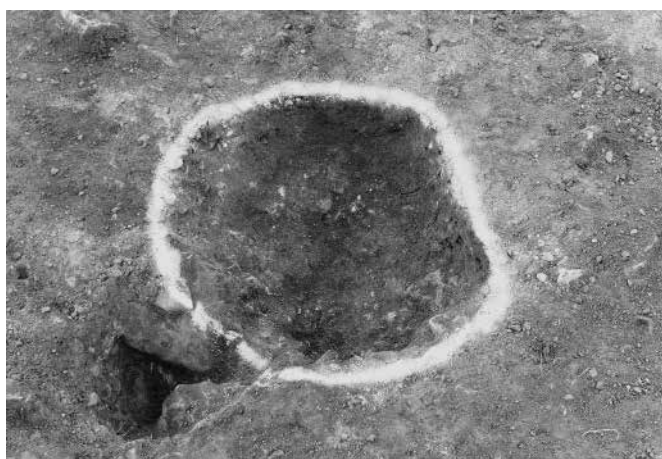
4 55号土坑断面 東から



5 59号土坑 北から



6 59号土坑断面 南から



7 65号土坑 南から



8 65号土坑断面 北から





1 66号土坑 南東から



2 66号土坑断面 南西から



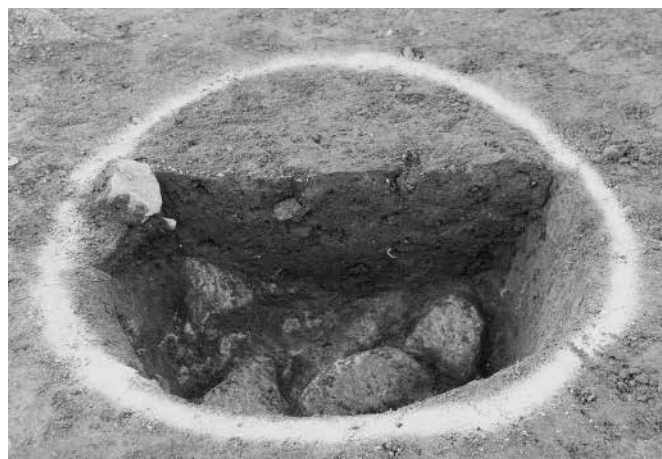
3 67号土坑 北から



4 67号土坑断面 南から



5 69号土坑 北から



6 69号土坑断面 北西から



7 85号土坑 北から



8 85号土坑断面 北から



1 91号土坑 北から



2 91号土坑断面 北から



3 92号土坑 西から



4 92号土坑断面 東から



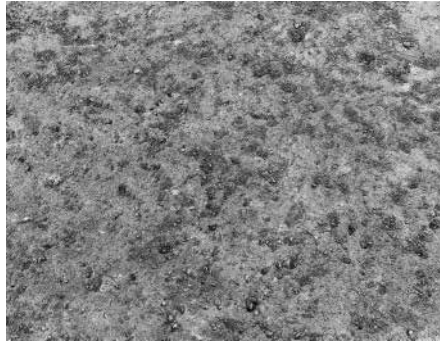
5 94号土坑 西から



6 94号土坑断面 東から



1 1号焼土断面 南から



2 1号焼土除去後 南から



3 2号焼土断面 南から



4 2号焼土除去後 東から



5 3号焼土 北から



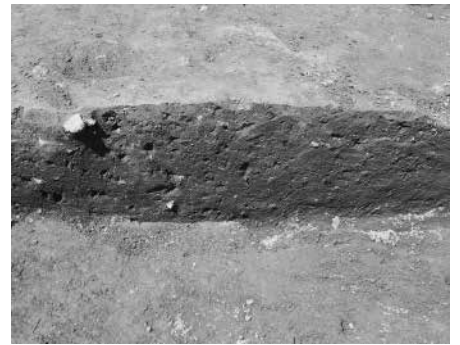
6 3号焼土断面 西から



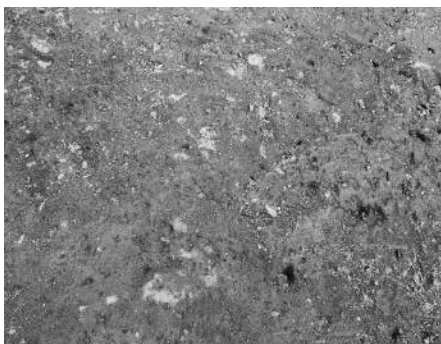
7 4号焼土西部 北から



8 4号焼土東部 西から



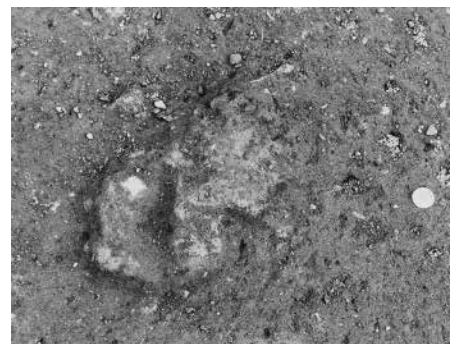
9 4号焼土断面 東から



10 5号焼土 北から



11 5号焼土断面 西から



12 6号焼土 北から



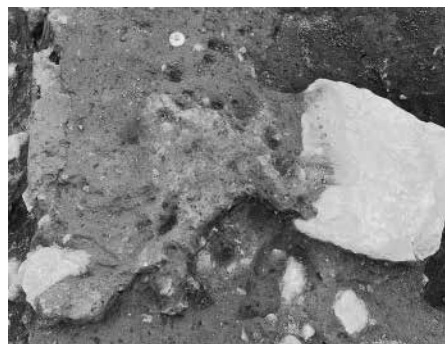
13 6号焼土断面 北から



14 7号焼土 北から



15 7号焼土断面 西から



1 8号焼土 北から



2 8号焼土断面 西から



110図-1



110図-2



110図-3



110図-5



110図-6



110図-9



110図-10



110図-13



110図-15



111図-7



111図-9



111図-10



111図-13



111図-1



111図-8



111図-11



111図-14



111図-12



111図-15



111図-16



111図-17



111図-18



111図-19

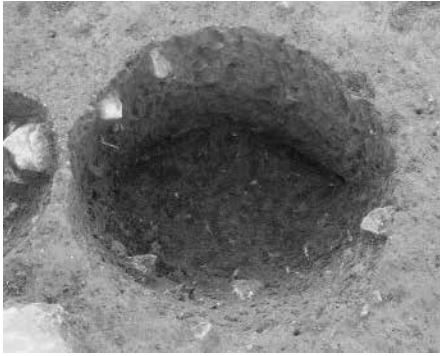


111図-20



111図-21

3 第1～3面出土遺物



1 1号掘立柱建物P 1 東から



2 1号掘立柱建物P 1断面 南西から



3 1号掘立柱建物P 2 東から



4 1号掘立柱建物P 2断面 南西から



5 1号掘立柱建物P 3 南から



6 1号掘立柱建物P 3断面 南から



7 1号掘立柱建物P 4 南から



8 1号掘立柱建物P 4断面 南から



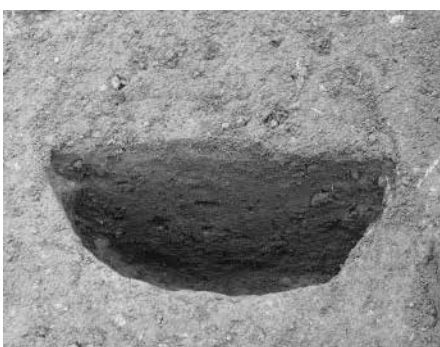
9 1号ピット 東から



10 1号ピット断面 東から



11 6号ピット 西から



12 6号ピット断面 西から



13 7号ピット 東から



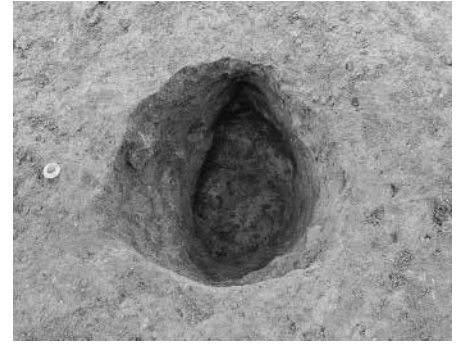
14 7号ピット断面 東から



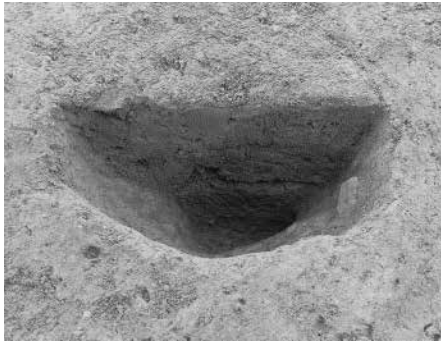
1 8号ピット断面 西から



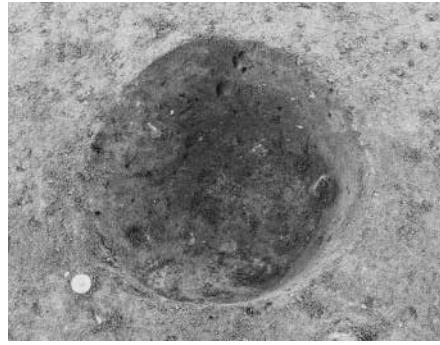
2 9号ピット 南から



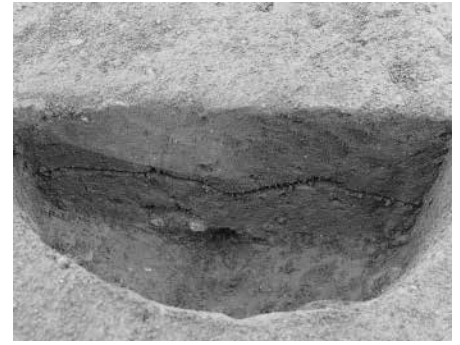
3 10号ピット 南から



4 10号ピット断面 南から



5 11号ピット 南から



6 11号ピット断面 南から



7 33号ピット断面 南西から



8 1区番号不明ピット 南から



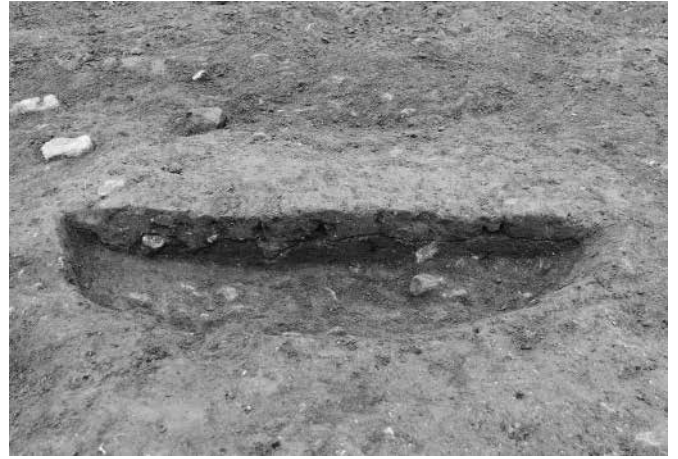
9 1号土坑 南から



10 1号土坑断面 北から



1 2号土坑 南から



2 2号土坑断面 南から



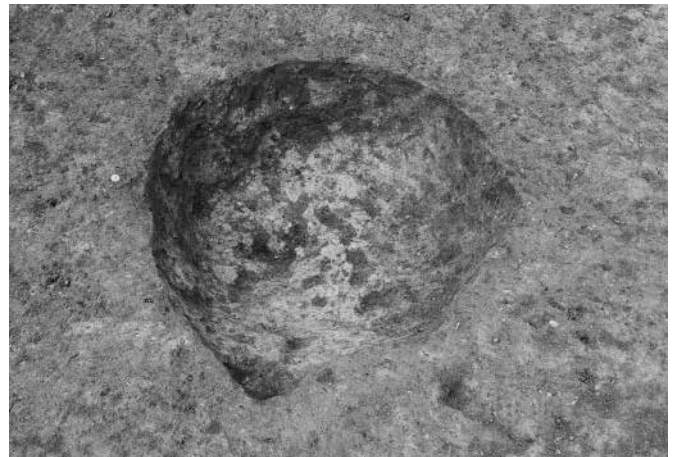
3 5号土坑断面 南から



4 7号土坑 南から



5 7号土坑断面 南から



6 8号土坑 東から



7 8号土坑断面 東から



8 8号土坑遺物出土状況 西から



1 9号土坑 北から



2 9号土坑断面 東から



3 10号土坑 西から



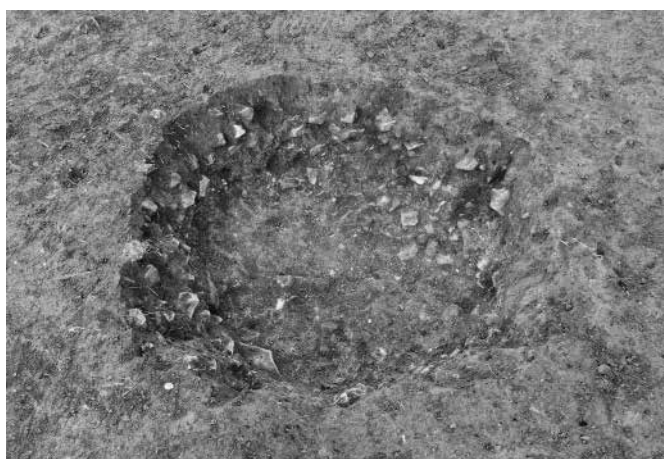
4 10号土坑断面 南から



5 11号土坑 南から



6 11号土坑断面 南から



7 12号土坑 南西から

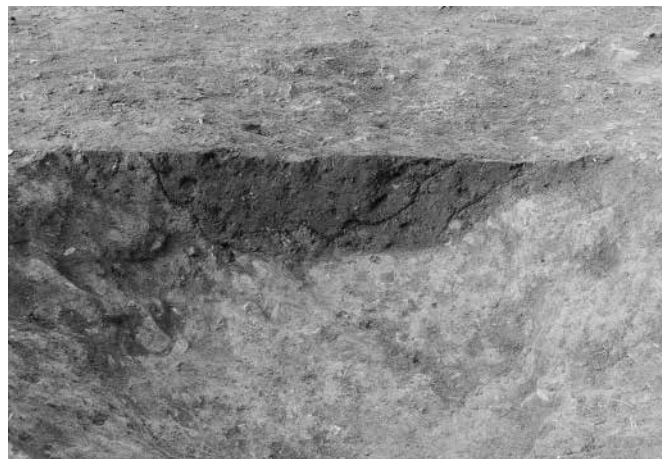


8 12号土坑断面 南西から

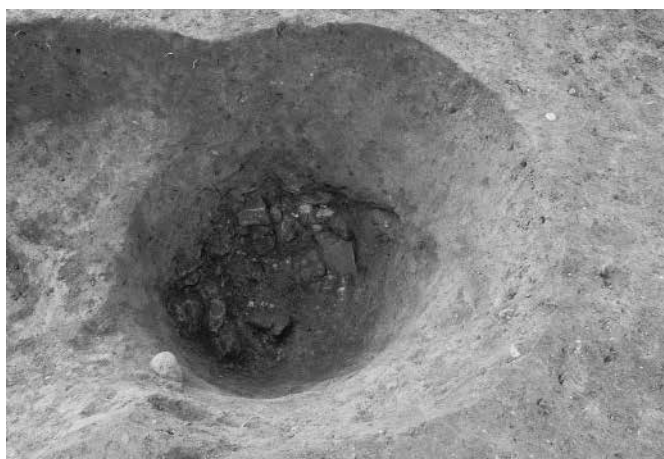




1 13号土坑 東から



2 13号土坑断面 南西から



3 14号土坑 東から



4 14号土坑断面 東から



5 14号土坑遺物出土状況 東から



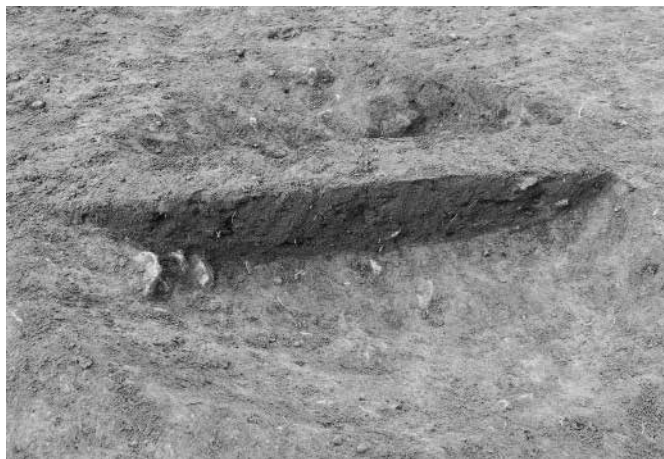
6 15号土坑 南から



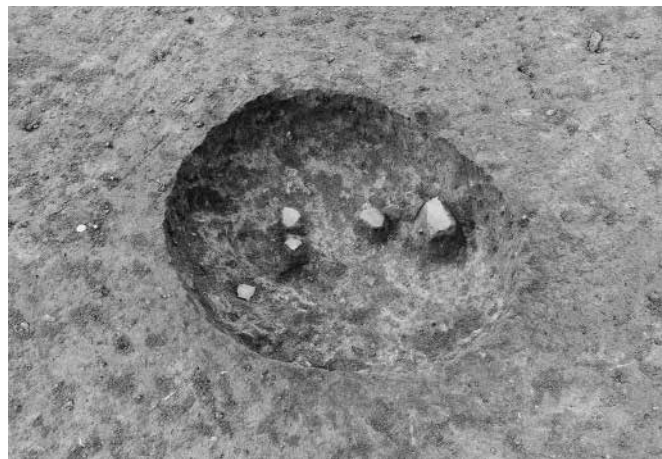
7 15号土坑断面 西から



8 16号土坑 南から



1 16号土坑断面 南西から



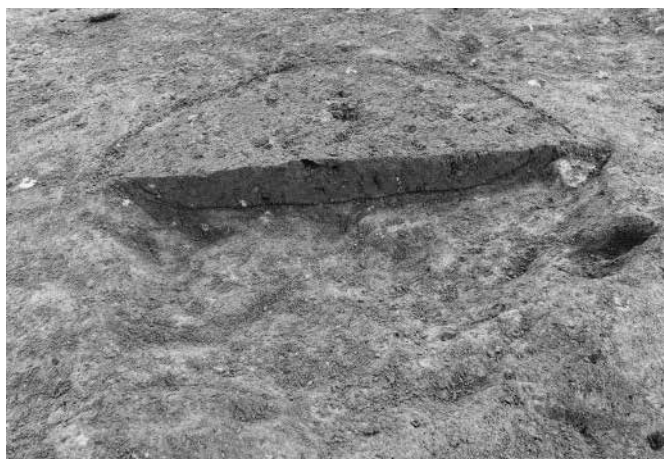
2 17号土坑 南から



3 17号土坑断面 南から



4 18号土坑 西から



5 18号土坑断面 西から



6 19号土坑 南から



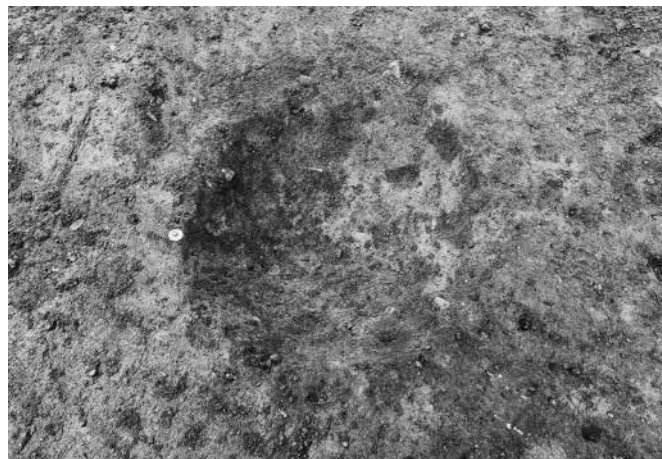
7 19号土坑断面 南から



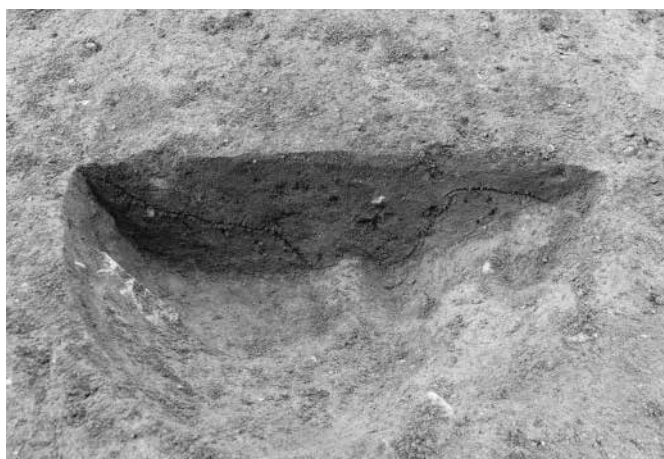
8 20号土坑 西から



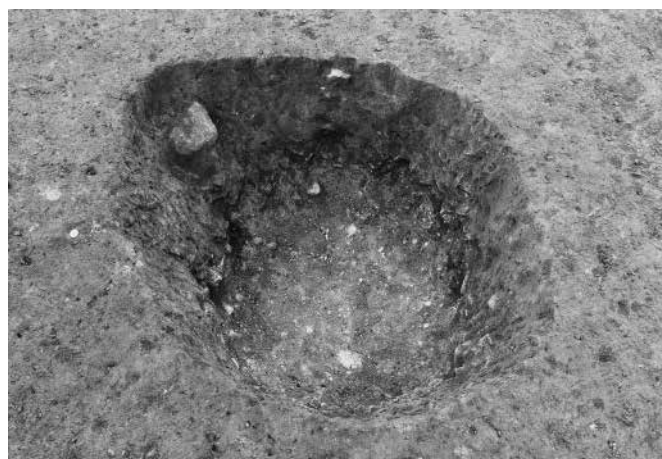
1 20号土坑断面 南から



2 21号土坑 南から



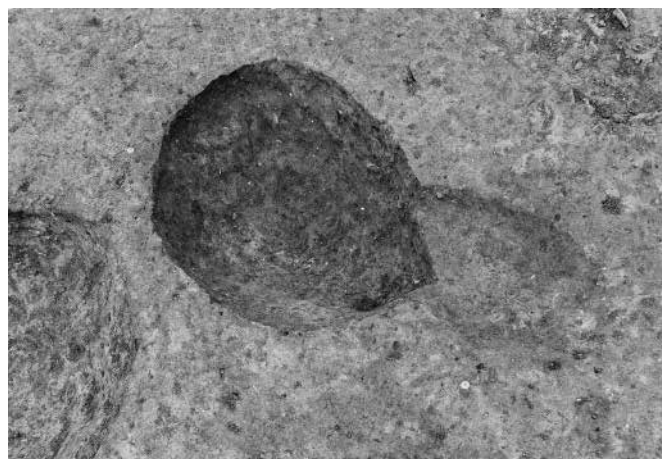
3 21号土坑断面 南から



4 22号土坑 南から



5 22号土坑断面 南から



6 23号土坑 西から



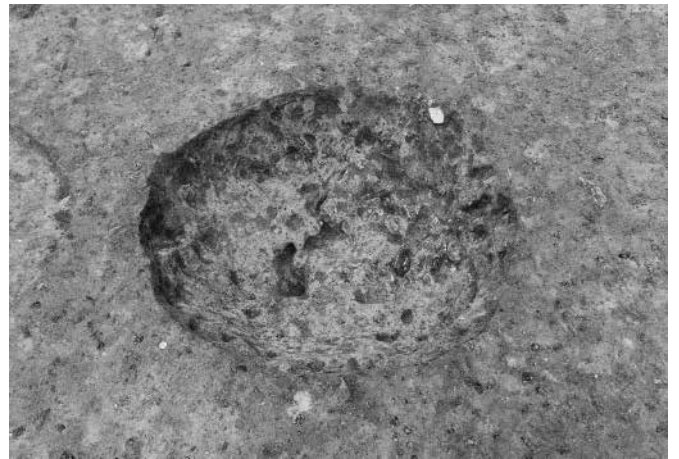
7 23号土坑断面 南から



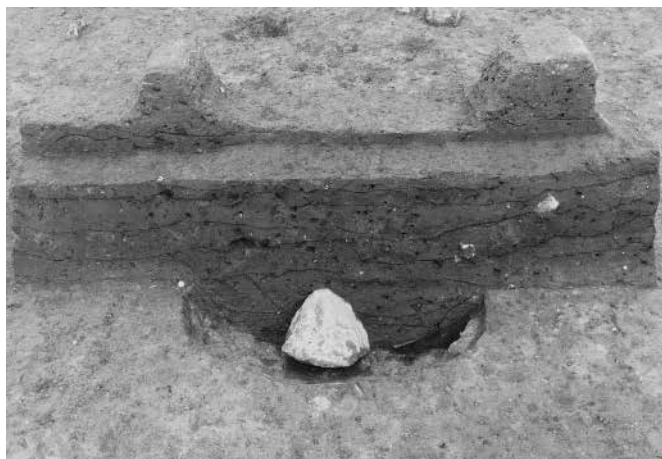
8 24号土坑 南から



1 24号土坑断面 南から



2 25号土坑 西から



3 25号土坑断面 西から



4 25号土坑遺物出土状況 西から



5 26号土坑 西から



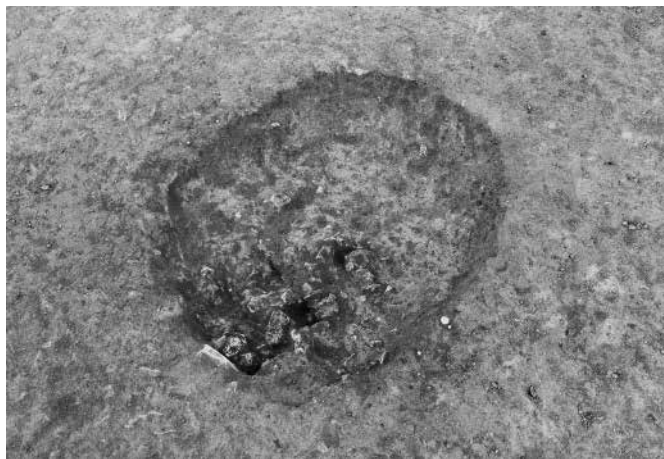
6 26号土坑断面 東から



7 27号土坑 北から



8 27号土坑断面 東から



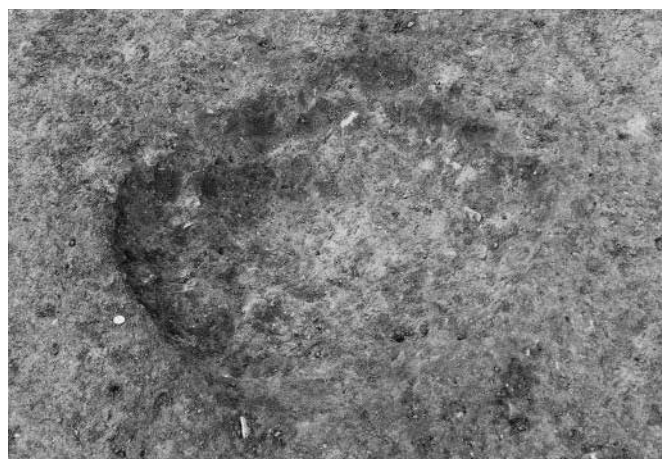
1 28号土坑 北から



2 28号土坑断面 南から



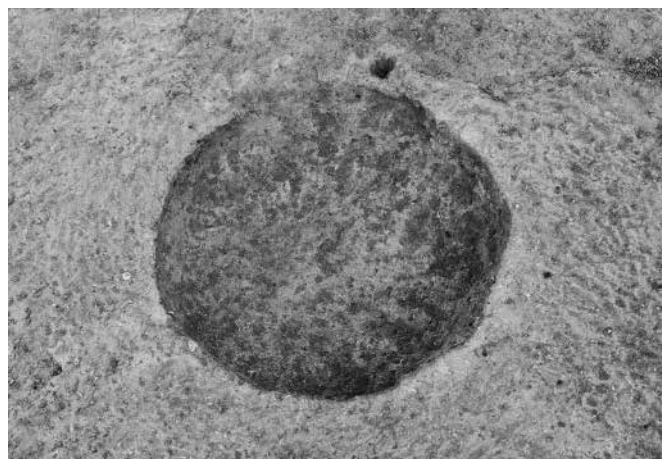
3 29号土坑 西から



4 30号土坑 西から



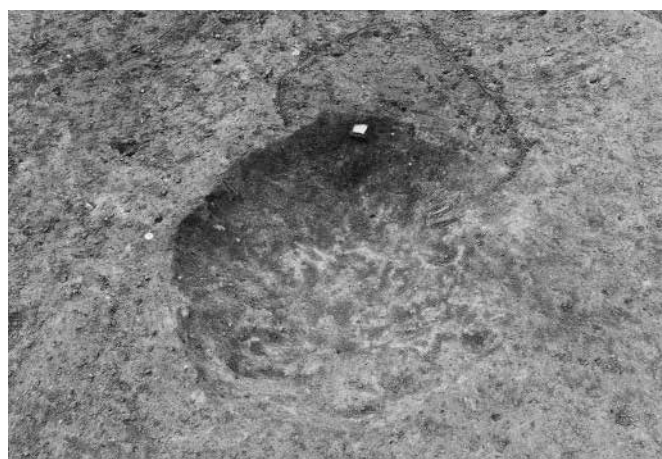
5 30号土坑断面 南から



6 31号土坑 西から



7 31号土坑断面 西から



8 32号土坑 南から



1 33号土坑 西から



2 33号土坑断面 南から



3 33号土坑遺物出土状況 南から



4 34号土坑 西から



5 35号土坑 北から



6 35号土坑断面 北から



7 36号土坑 西から



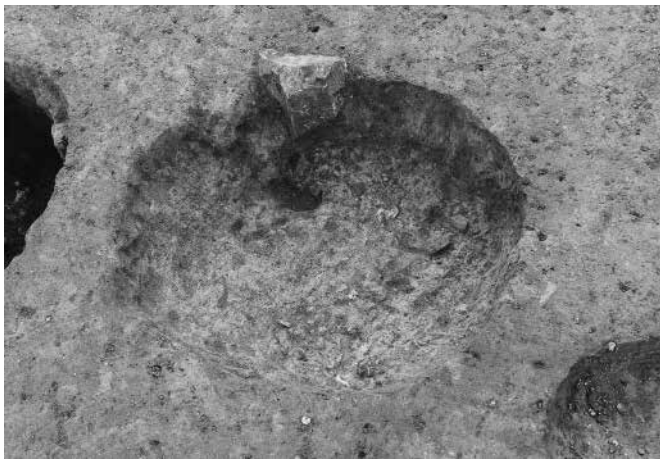
8 36号土坑断面 北から



1 37号土坑 西から



2 37号土坑断面 南から



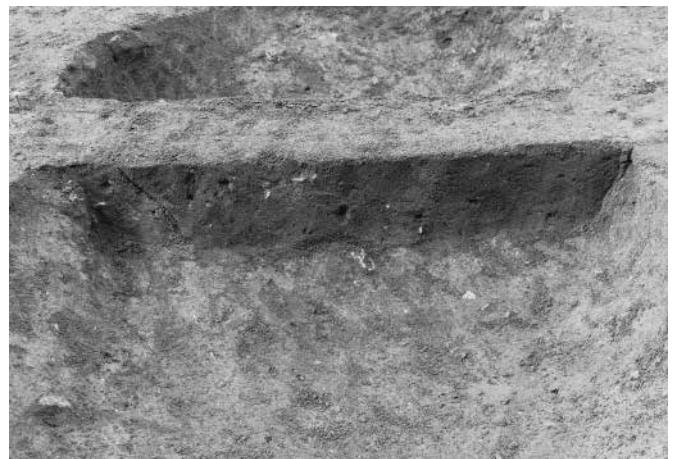
3 38号土坑 西から



4 38号土坑断面 南から



5 39号土坑 西から



6 39号土坑断面 南から



7 40号土坑 東から



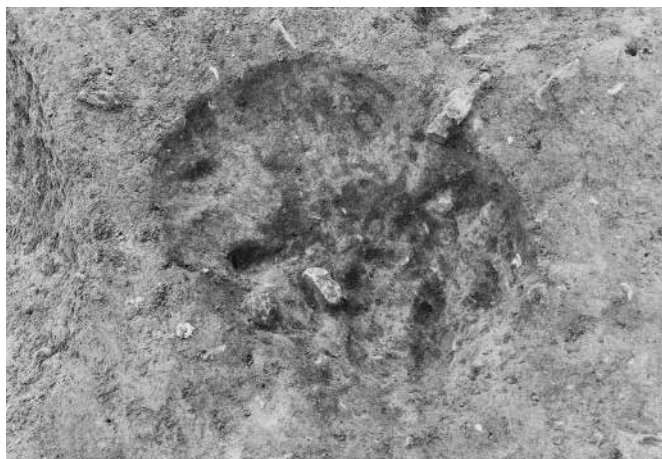
8 40号土坑断面 西から



1 41号土坑 西から



2 41号土坑断面 西から



3 42号土坑 西から



4 42号土坑断面 西から



5 43号土坑 西から



6 43号土坑断面 西から



7 44号土坑 南西から

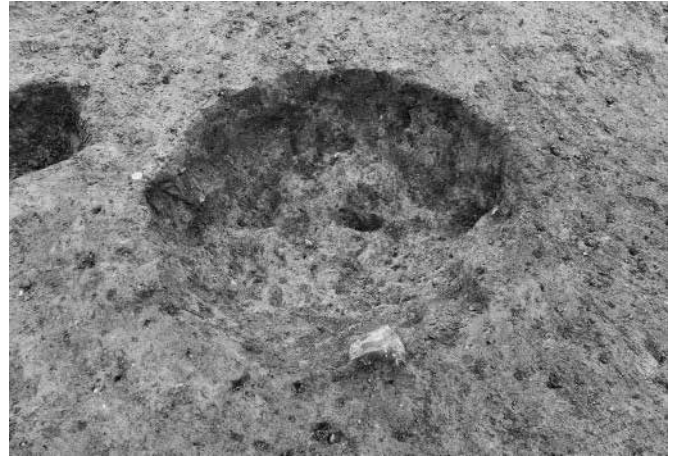


8 45号土坑 南から

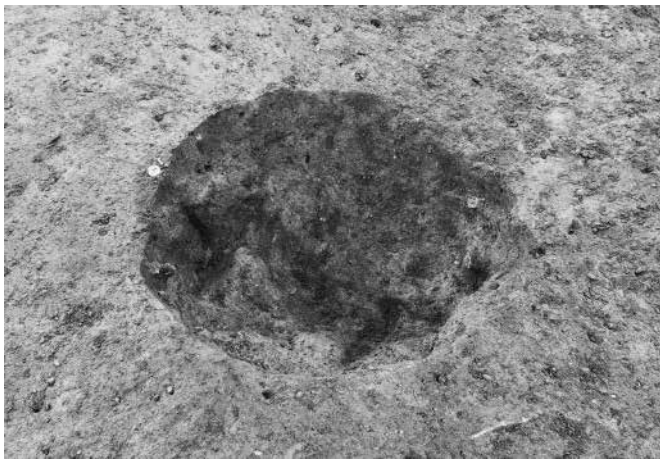




1 45号土坑断面 南西から



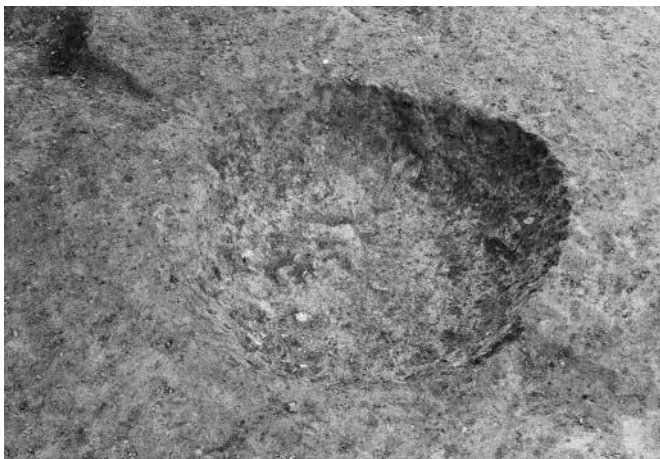
2 46号土坑 南から



3 47号土坑 南から



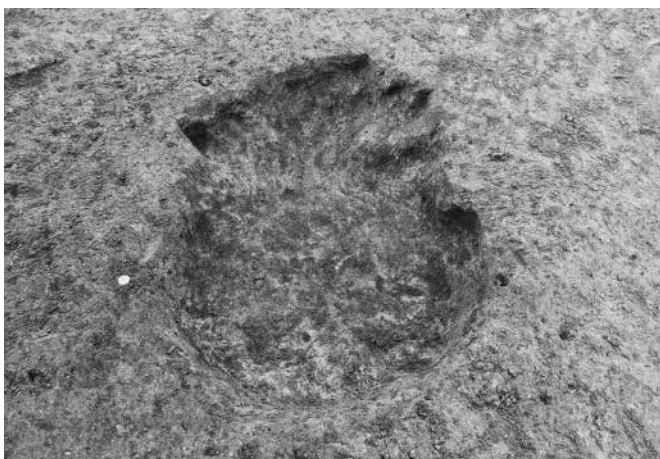
4 47号土坑断面 南西から



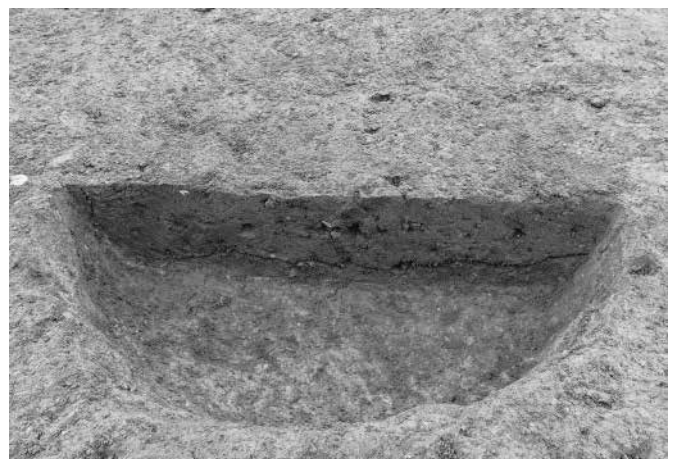
5 48号土坑 東から



6 48号土坑断面 南から



7 49号土坑 南西から



8 49号土坑断面 南から



1 50号土坑 南から



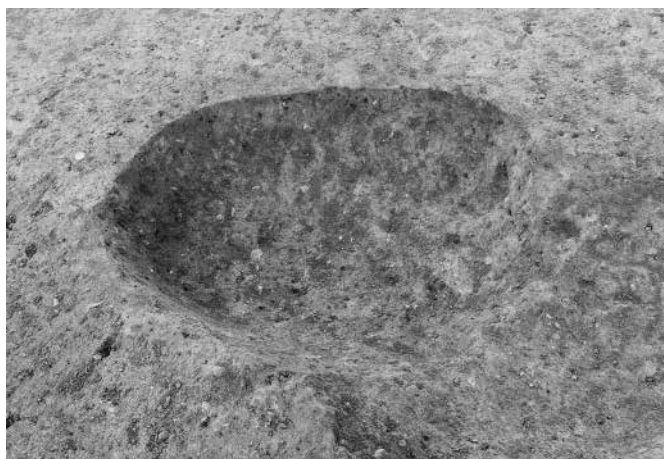
2 50号土坑断面 西から



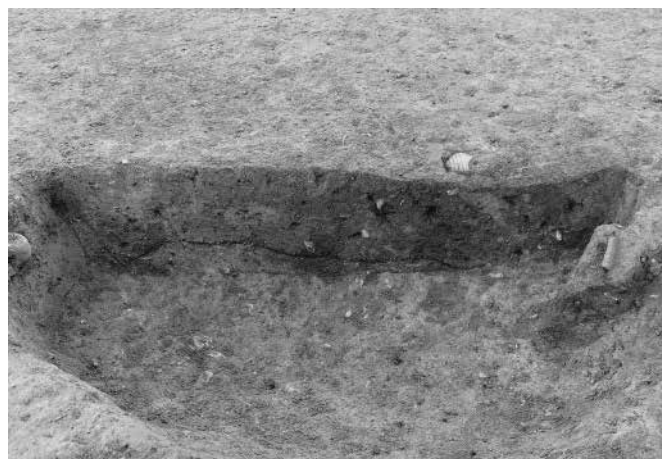
3 51号土坑 西から



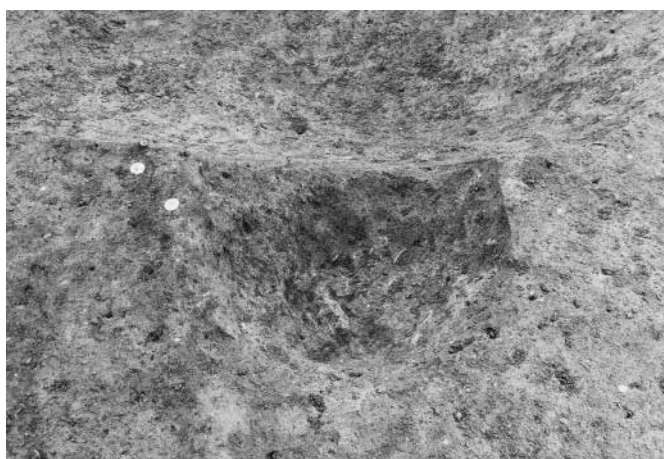
4 51号土坑断面 東から



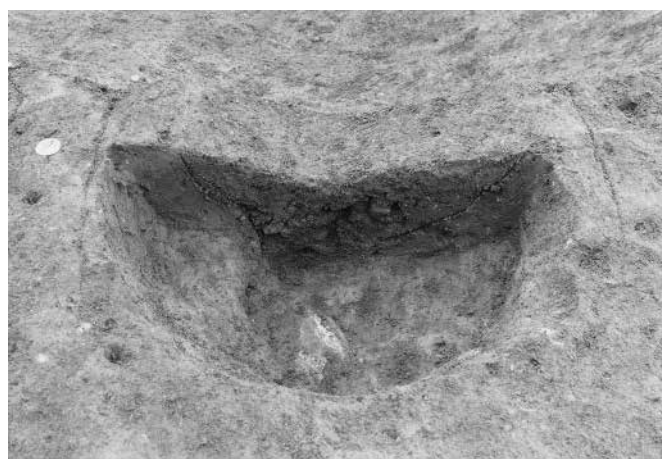
5 52号土坑 南から



6 52号土坑断面 南から



7 53号土坑 南から



8 53号土坑断面 南から



1 54号土坑 南から



2 54号土坑断面 南から



3 56号土坑 東から



4 57号土坑 西から



5 56・57号土坑断面 東から



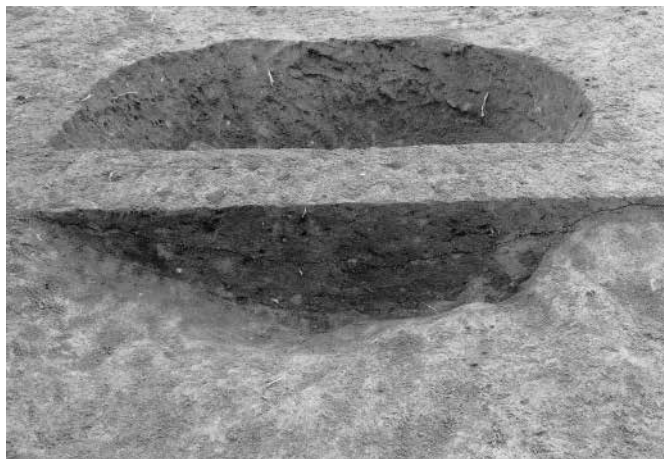
6 58号土坑 西から



7 58号土坑断面 西から



8 60号土坑 南から



1 60号土坑断面 南から



2 61号土坑 北から



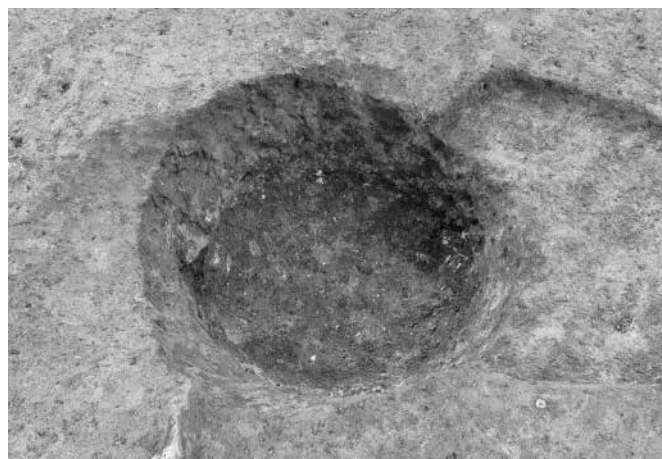
3 61号土坑断面 東北から



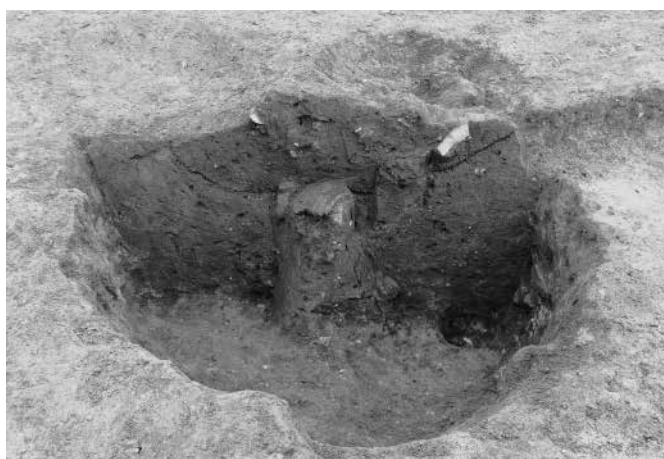
4 62号土坑 北から



5 62号土坑断面 東から



6 63号土坑 南から



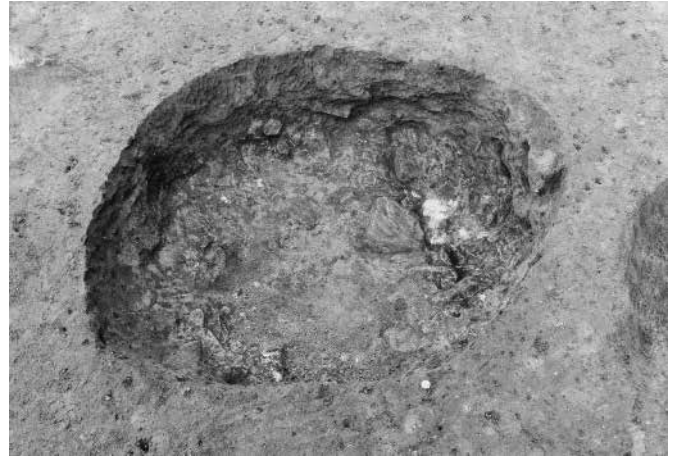
7 63号土坑断面 南東から



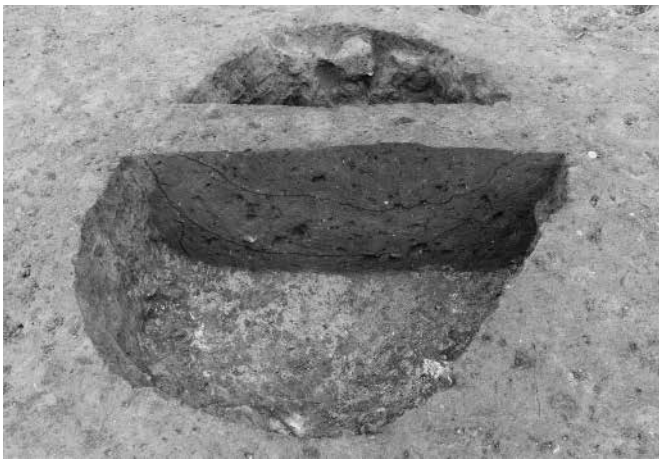
8 63号土坑遺物出土状況 南から



1 63号土坑遺物出土状況 南から



2 64号土坑 西から



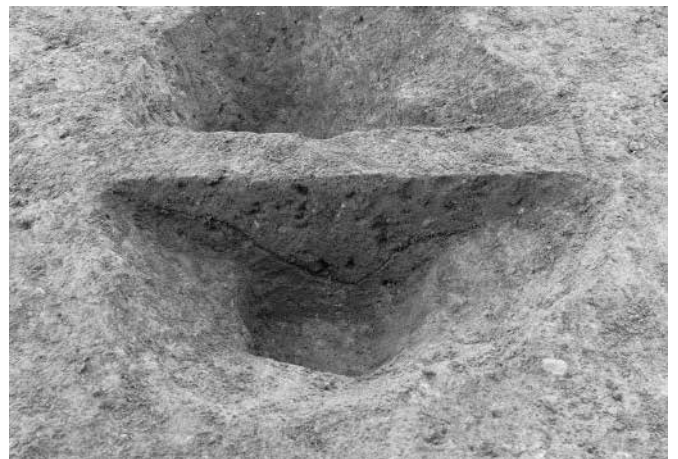
3 64号土坑断面 北から



4 64号土坑遺物出土状況 東から



5 68号土坑 南西から



6 68号土坑断面 南西から



7 70号土坑 南から



8 70号土坑断面 南から



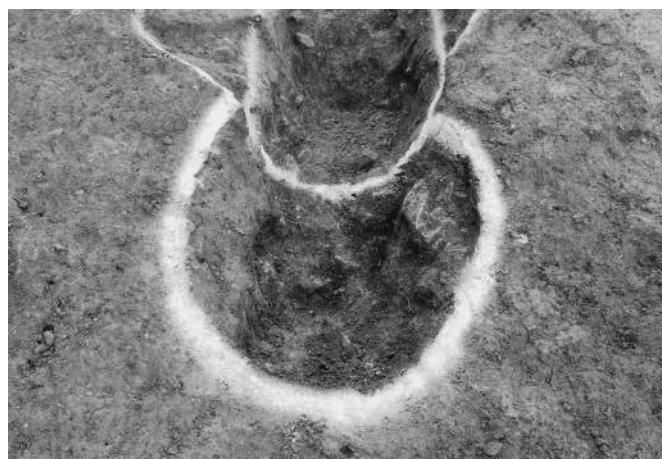
1 71号土坑 北から



2 71号土坑断面 南西から



3 71号土坑礫出土状況 西から



4 72号土坑 東から



5 72号土坑断面 西から



6 73号土坑 南西から



7 73号土坑断面 南から



8 74号土坑 西から



1 74号土坑断面 西から



2 75号土坑 西から



3 75号土坑断面 西から



4 76号土坑 西から



5 76号土坑断面 西から



6 77号土坑 西から



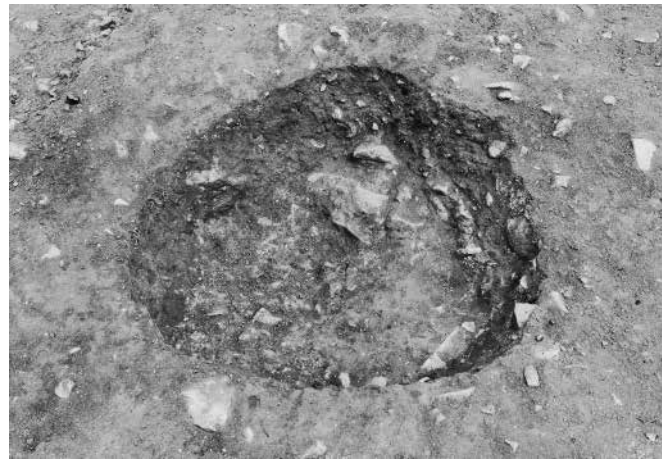
7 77号土坑断面 西から



8 78号土坑 西から



1 78号土坑断面 西から



2 79号土坑 西から



3 79号土坑断面 西から



4 80号土坑 西から



5 80号土坑断面 西から



6 81号土坑 西から



7 81号土坑断面 西から



8 82号土坑 西から





1 82号土坑断面 西から



2 83号土坑 西から



3 83号土坑断面 北から



4 84号土坑 西から



5 84号土坑断面 南から



6 86号土坑 北から



7 86号土坑断面 西から



8 87号土坑 北から



1 87号土坑断面 西から



2 88号土坑 北から



3 88号土坑断面 西から



4 89号土坑 北から



5 89号土坑断面 北から



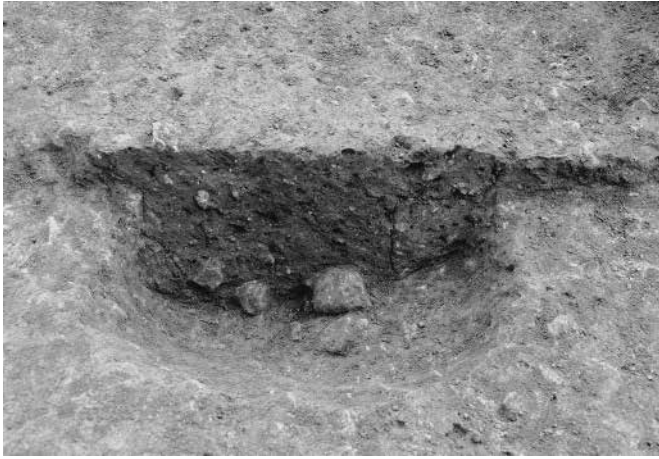
6 90号土坑 北から



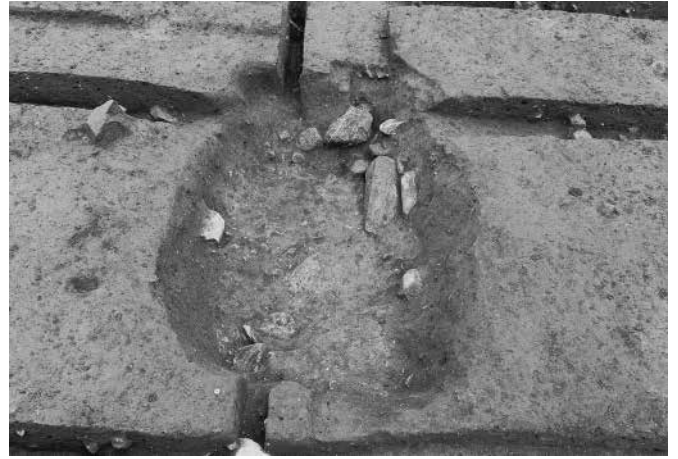
7 90号土坑断面 北から



8 93号土坑 東から



1 93号土坑断面 東から



2 95号土坑 北から



3 95号土坑断面 東から



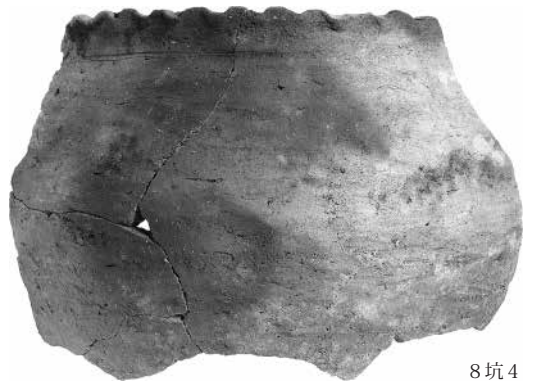
8坑1



8坑2



8坑3



8坑4



1坑1



12坑1



14坑1



17坑1



17坑2



17坑3



17坑4

4 土坑出土遺物 1



25坑1



25坑3



25坑2



20坑1



23坑1



31坑1



31坑2



31坑3



32坑1



33坑1



33坑2



35坑1



36坑1



36坑2



36坑3



37坑1



38坑1



45坑1



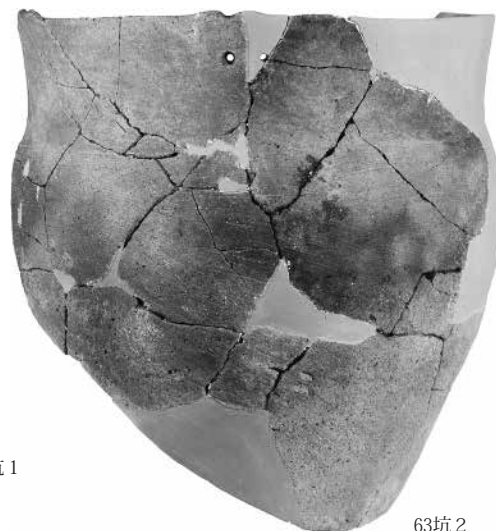
49坑1



52坑1



63坑1



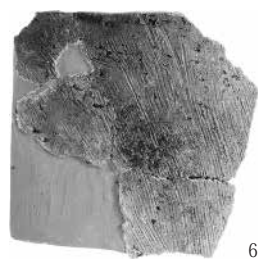
63坑2



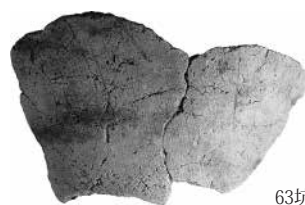
63坑3



63坑4



63坑5



63坑6



63坑7



63坑8



63坑9



63坑10



64坑1



64坑2



64坑3



64坑4



64坑5



64坑6



64坑7



74坑1



77坑1



78坑1



78坑2



78坑3



81坑1



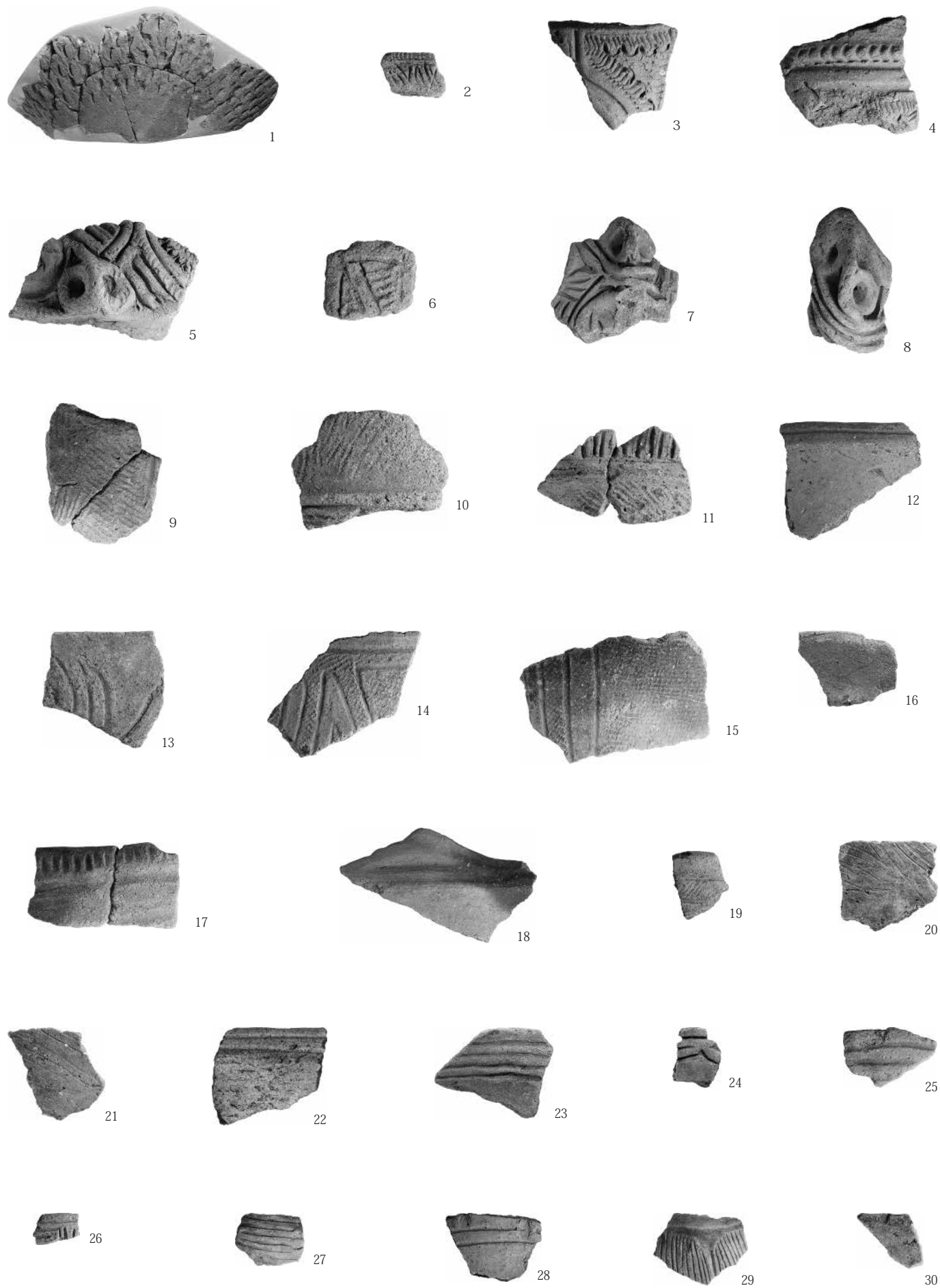
81坑2



82坑1



82坑2





31



32



33



34



35



36



37



38



39



40



41



42



43



44



45



46



47



48



49



50



52



53



54



55



51



56

## 報告書抄録

書名ふりがな	にしのをえいせき2
書名	西ノ上遺跡(2)
副書名	ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	64
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	651
編著者名	洞口正史・津島秀章・板垣泰之・石坂 茂・佐藤元彦・大西雅弘・竹原弘展
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20190215
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橘町下箱田784-2
遺跡名ふりがな	にしのをえいせき
遺跡名	西ノ上遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんあがつまぐんながのはらまちおおあざかわらゆ
遺跡所在地	群馬県吾妻郡長野原町大字川原湯
市町村コード	10424
遺跡番号	0212
北緯(世界測地系)	36.552
東経(世界測地系)	138.703
調査期間	20151001～20151231 20170301～20170331 20170401～20170630 20180109～20180117
調査面積	22,005㎡
調査原因	ダム建設
種別	包蔵地／集落／墓／生産遺跡
主な時代	縄文・中近世
遺跡概要	集落-縄文-掘立柱建物2+土坑82+ピット23／包蔵地-縄文-土器+石器-弥生-土器+石器／生産遺跡-近世-畑33面+復旧坑236+平坦面12+ヤックラ12+道12+溝1+溝状遺構1+石垣3+炭窯2+焼土遺構8+陶磁器+金属器+石製品
要約	縄文時代から弥生時代中期の墓坑を含む土坑群、掘立柱建物、ピット、土器、土偶、石器。天明3(1783)年浅間山噴火に伴う泥流堆積物に覆われた畑、道、水路。中・近世の土坑、焼土遺構、炭窯など。





公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第651集

## 西ノ上遺跡(2)

ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第64集

---

平成31(2019)年2月15日 印刷

平成31(2019)年2月15日 発行

編集・発行／公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2

電話(0279)52-2511(代表)

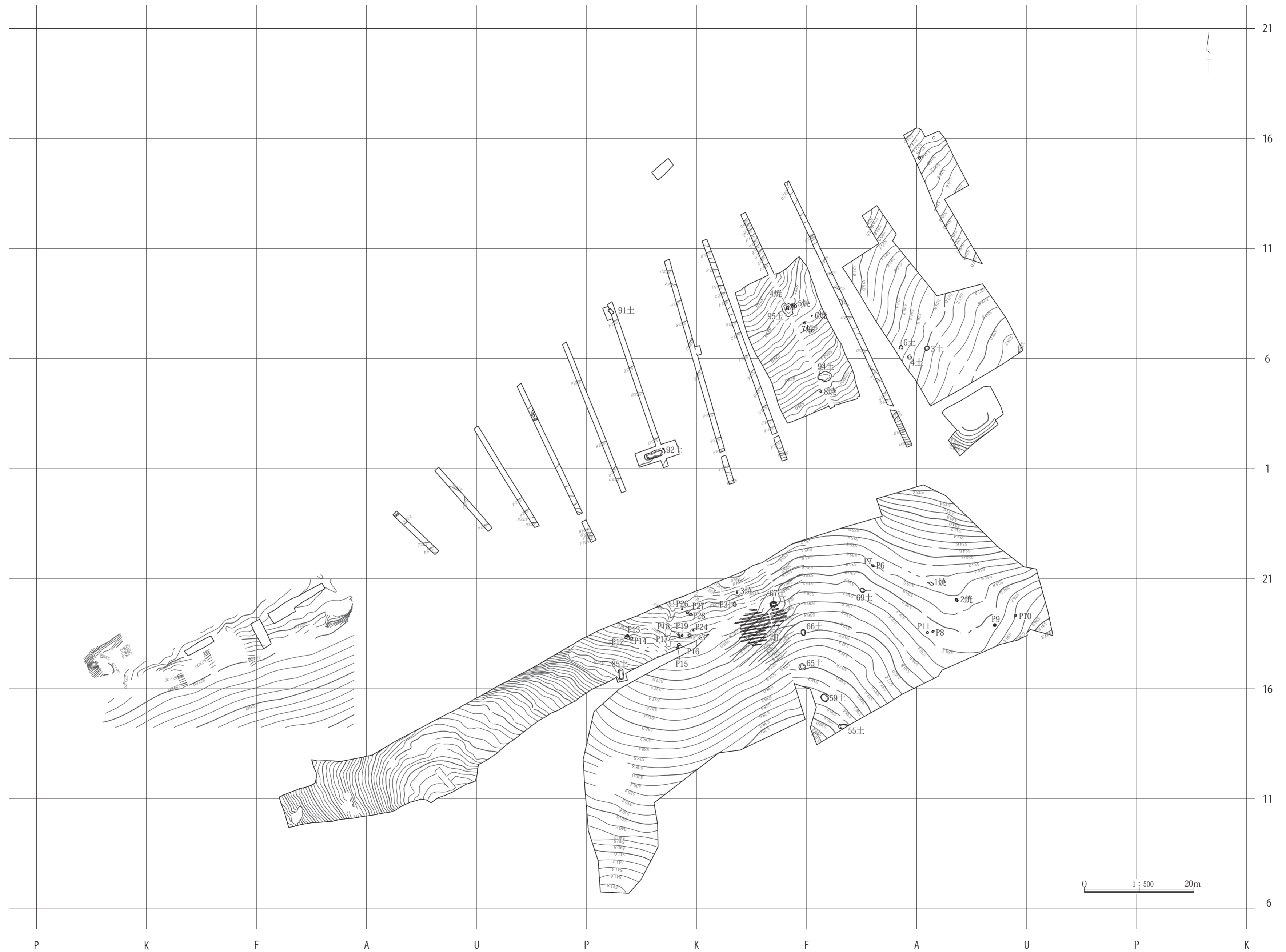
ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／株式会社大塚カラー

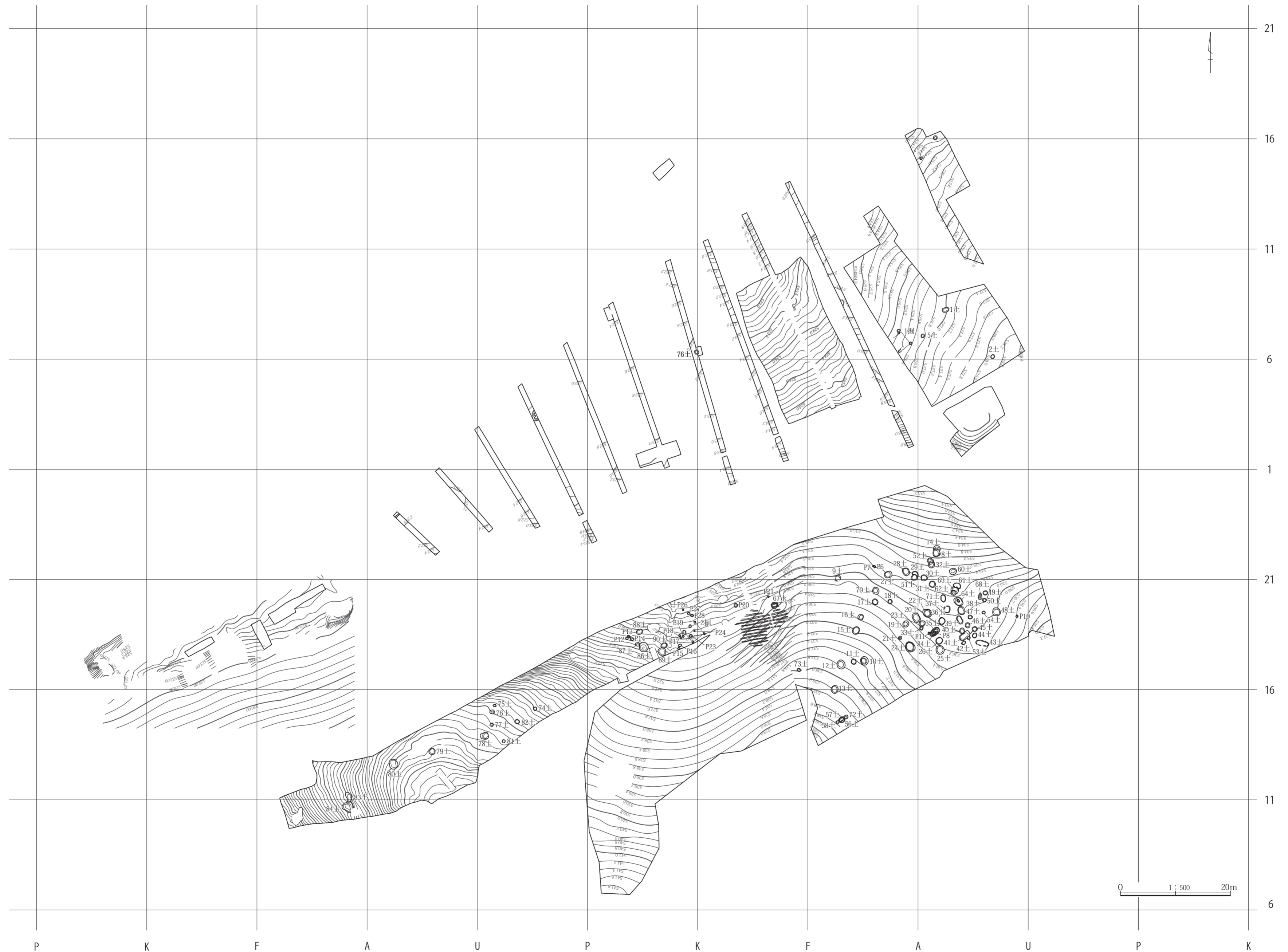
---



付図1 西ノ上遺跡 第1・2面全体図



付図2 西ノ上遺跡 第3面全体図



付図3 西ノ上遺跡 第4面全体図